

S
U
A
C

公立 | 静岡文化芸術大学

文化政策学部・デザイン学部

大学院／文化政策研究科・デザイン研究科

2021 大学案内



QRコードをスマホ・携帯電話で読み込むと
Webサイトをご覧いただけます。



SUAC 2021

CONTENTS

002	学長メッセージ	
003	知と実践の力	
006	巻頭特集	社会で活躍する卒業生 未来の、先へ
013	SUAC Learning Style	6つの学びの特色
015		2学部のコラボレーション
017		アドミッション・ポリシー
018		学部・学科の構成
019	文化政策学部	
021		国際文化学科
027		文化政策学科
033		芸術文化学科
041		文化政策学部教員紹介
043	デザイン学部	
045		デザイン学科
059		デザイン学部教員紹介
061	センター紹介	英語・中国語教育センター、文化・芸術研究センター
062	大学院	文化政策研究科、デザイン研究科
067	キャリアサポート	就職支援
070		取得可能な資格等
071	国際交流	
074	キャンパスガイド	ユニバーサルデザイン
075		施設紹介、工房・特殊機器紹介
079	キャンパスライフ	学生の活動紹介
084		クラブ&サークル活動
085		イベントカレンダー+碧風祭
086	在学生データ	
087	支援制度	学費・学生支援制度
088	カリキュラム一覧	
123	インフォメーション	入試情報、オープンキャンパス
125		Webへのご案内
126		アクセス



文化と デザインの力で

これからは、文化とデザインの時代です。

20世紀には、科学や技術がさまざまな分野で発達し、それぞれに大きな力を人類にもたらしました。

しかし全体として、人間社会を美しく明るくしたでしょうか。遠近の環境にも、次世代の人たちにも

ツケをまわすことのない、日々感動に充ちた社会 —— じつは、そのような理想に近づくのは、

これからのことなのです。

この大きな課題は、地域でも、地球規模でも、さまざまなかたちで噴出しております。

それらに前向きにとり組める人とは、文化の力、デザインの力へのするどい感性を備え、

それらの力を強める知性と技能を発揮できる人です。

このような人をこそ育てたいと、20年前、今世紀の幕開け直前に世界に先駆けて開学したのが

静岡文化芸術大学です。

しだいに国際的にも知られ、国内外から才能豊かな人たちがつどい、学んでいます ——

そう、数々の創造者を生み出した浜松の歴史と風土に思いをめぐらせつつ。

皆さん、まずはこの一冊をご覧ください。

静岡文化芸術大学 学長

横山俊夫



SUAC20

未来へつなく知と実践

知の拠点であり続けることを基礎に
地域へ、世界へ



どんなことを学ぶのか？ 社会でどう役に立つのか？

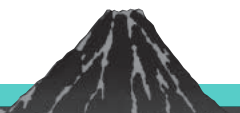
大学の基本理念

実務型の人材を育成する大学

豊かな人間性と的確な時代認識や社会認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材を養成する。

社会に貢献する大学

地域、国際、世代が教育研究の場で幅広く融合する「開かれた大学」として地域社会や国際社会の発展に貢献する。



観光が日本経済を立て直すとは本当か？

フェアトレード
大学に認定！
日本初

世界の縮図としての中国

もっと！図書館の可能性
公共図書館を通して見た地域

経済現象の仕組みを解明する

職業としての
の芸術文化
社会の公益のために

セクシャリティやLGBTとは？

イタリアの文化と世界遺産

未来の日本のあり方を古文書が語りだす

マーケティング
発想で地域と向き合う



世阿弥によると短所も個性だった



文化イベントとしての野外フェス



Global Issues
問題は地球規模で起きている

イスラームと国民国家の相剋

共生文化

現代フランス社会についての移民・外国人とは？



モナ・リザの秘密

文化政策
学部

文化の力で社会を動かす

ドキドキがワクワクに代わるとき
芸術入門



[公立] 静岡文化芸術大学で **鍛える**

知と実践の力

未来社会の
仕組みを
デザインせよ

モノとココロ
の両面からの
アプローチ

地域を
魅せる
パッケージ



すべての人を
受け入れる
UD ユニバーサル
デザイン
の精神

デザインは
景色をつくる

伝統の
技を今に
活かす



調和
& 対比
をデザインする

一級建築士
になるために



ユーザーも
クリエイターで
いてほしい

乗り物とは
運動の延長

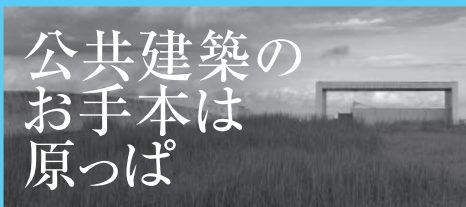


街と
つながる
新しい住空間

誰もが
楽しめる
インタラク
ティブな
仕掛け



公共建築の
お手本は
原っぱ



デザイン
思考
とは?

新しい
楽器を
創造する



その先のモビリティ
を考える



手で感じ
手で考える

コミュニケーション
力を磨いて世界へ
羽ばたけ!



デザイン 学部

デザインので
世界を拓け

[公立] 静岡文化芸術大学は、こんな大学です。

大学名から「文化と芸術」に特化した「芸大」をイメージされたとしたら、実際は違います。いわゆる音楽家や画家を育てる大学ではありません。文化や芸術の学びを活かして、社会やビジネス領域での課題解決のための企画ができ、それを実現できる人を育てる大学です。

この考えのもと、芸術と文化を社会に活かすマネジメントに比重を置くのが「文化政策学部」、デザインに比重を置くのが「デザイン学部」です。

静岡文化芸術大学が教育を進める上で、重きを置いているのが「知と実践の力」です。

課題と向き合い、問いを立てる「知」の力と、リアルな現場の中で課題解決していく「実践」の力。これらを学びの両輪とし、自らを鍛えた多くの卒業生がここから巣立ち、国内外に活躍の場を広げています。

【視野拡張】

知をつなぐ力

幅広くものを捉える視野の広さ、点から線へ、線から面へとつないでいく知識と教養。すべての基礎となっていく力です。

【企画創造】

カタチにする力

課題を発見する力、アイデアを企画に変える力、プレゼンテーションする力。社会のあらゆる場面で必要とされる力です。

SUACで鍛える 知と実践の力

【挑戦行動】

踏み出す力

地域や街、農業や企業とつながる、コンペに参加する、世界に挑む…自分の未来にチャレンジする一歩踏み出す力です。

【協働持続】

魅きつける力

人としての思いやりやマナーはもとより、異なる文化や立場にたつ人々とともに、発展的で継続的な関係を築いていく力です。



社会で活躍する 卒業生



未来の、先へ
GRADUATES
MESSAGE

社会へ羽ばたき、
それぞれの舞台で活躍している
先輩たちの姿は、
私たちにとっての未来図。
学生時代、どんな形で力を鍛えて、
いま、どんなやりがいを感じているのか。
一人ひとりのメッセージから、
自分の学びたいことや、将来やりたいことを
考えるきっかけにしてみませんか？

01

岐阜県教育委員会
〔中学校教諭〕
文化政策学部 国際文化学科卒業
松村明彦 さん



02

ヤマハモーターソリューション株式会社
ビジネスソリューション事業部 生産調達システム部
文化政策学部 文化政策学科卒業
小林茉由 さん



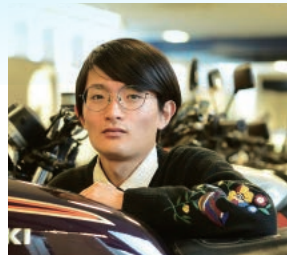
03

スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社
〔伏見ミليون座〕
文化政策学部 芸術文化学科卒業
高橋ゆりの さん



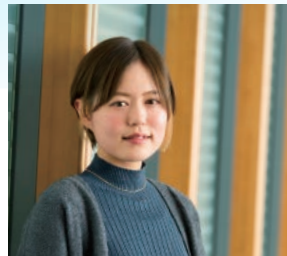
04

スズキ株式会社
二輪カンパニー 企画部 デザイングループ
デザイン学部 生産造形学科卒業
飯干勝士 さん



05

セイコーエプソン株式会社
プリンティングソリューションズ事業部 企画設計部門
デザイン学部 メディア造形学科卒業
西澤椎菜 さん



06

株式会社 TOKAI
建築設備不動産事業部 設計工事業部 設計積算課
デザイン学部 空間造形学科卒業
柴田真理 さん



一人ひとり違う、感じ方や考え方。
多様性を重んじる学びが
教室で活きている。



「わかった!」「できたよ!」
生徒たちの笑顔が日々のやりがい

公立中学校で英語教諭として1年生の学級担任をしています。英語と海外の文化への興味から本学科へ進学した私が、教師を志すようになったのは2年次後半。SUACの特色である多文化共生を学び、外国籍児童への就学支援のボランティア活動をしていく中で、子どもたちの成長に携われる教職に就きたいと思うようになりました。多様性を受け入れる社会の大切さなど、幅広く学べた知識は大きな財産となり、学級という社会においても、その視点を踏まえて生徒に接するように心がけています。ゼミの横田先生にご指導いただいた第二言語習得についての学びを活かし、魅力ある授業づくりを日々実践中。「先生、わかったよ!」「できたよ!」という生徒たちの笑顔を見るたびに、教師としてのやりがいを感じています。社会に出てから直面する課題は、簡単に答えが出せないものばかりです。“自分で考える力”が身につくSUACで有意義な4年間を過ごしてください。

岐阜県教育委員会 [中学校教諭]

松村明彦さん 文化政策学部 国際文化学科 2016年度卒業



横田ゼミのメンバーと。ゼミでは、学びだけでなく、先輩後輩、そして教授も分け隔てなく、卒論に向けて相談したり、就活や日頃の悩みを打ち明けたりしていました。他のゼミ生も遊びにきたりする、とてもラフな雰囲気のゼミでした。

世界を変えるには

人間は、赤ちゃんの頃から、自分の周りの世界を切り取り、それを縮小・拡張したり反転したりしながら認識していきます。言い換えれば、世界は本人の認識の仕方ではいかようにも変わります。松村さんは、大学生の頃から様々な視点から事物を考えることができ、学問の洞察力があるだけでなく、ゼミの雰囲気までも良いものにしてくれました。世界はなぜ変わらないのかと嘆くのではなく、自分自身の見方を変えてみることで世界は大きく変わることを、教師としても生徒さんに伝えてくれていると思います。



国際文化学科 横田秀樹 教授 心理言語学 / 英語教育

ゼミで鍛えた「わかりやすく伝える力」 が仕事の現場で活かしている

バイクを作るときに必要な部品調達業務のサポートをするシステムの開発をしています。入社1年目の研修でSEとしての基礎を学び、配属後初の開発プロジェクトでは、海外のユーザーの方が実際に使っている姿を見ることができ、やりがいを感じました。システム開発の仕事はチームメンバーやユーザーの方との打ち合わせが多く、意見を“人にわかりやすく伝える”力が必要なので、ゼミでのディスカッションが役に立っています。SUACは少人数教育で先生との距離も近いのが特徴ですが、ゼミの加藤先生には卒業論文はもちろん就職活動でもアドバイスをいただきました。「チームでものを作り上げる仕事に携わりたい」との思いから飛び込んだ今の世界では、デザイン学部との交流授業や産学協同プロジェクトなど、仲間と共に学んだ経験が糧になっていると思います。皆さんも“なんでもやってみること”で興味の幅を広げ、様々なことに挑戦してみてください。

「なんでもやってみる」
の精神で想像もしなかった
世界に飛び込めた。



ヤマハモーターソリューション株式会社 ビジネスソリューション事業部 生産調達システム部

小林菜由さん 文化政策学部 文化政策学科 2017年度卒業



卒業式の最後にゼミのみんなで思い出にと撮影しました。一週間に一回、加藤先生の研究室に集まる時間が楽しく、もう定期的に会えないととても寂しく感じたのを覚えています。

他者の声に耳を傾け、自由に論じ合い、
自分自身も成長する。
それが大学のゼミの魅力です。

大学のゼミは専門分野の勉強や研究にとどまらず、ディスカッションを通じて友人らの思わぬ考えや洞察に驚き、自分自身の“できなさ”にも気づく場です。それゆえに、自分の研究を高め、意見を理解してもらおうと力が湧いてきます。小林さんともたくさんディスカッションし、そのたびに研究内容がわかりやすく深いものになったことを思い出します。仕事にもこのゼミの力が活かされているようで、大変嬉しく思います。



文化政策学科 加藤裕治 教授 文化社会学 / メディア論

02

映画館に何ができるか。
”非日常”を体験できる場として
チャレンジしていきたい。



深掘りしたい分野を学びつつ、 新たな興味にも出会えた4年間

名古屋の映画館・伏見ミリオン座の副支配人として、通常の映画上映だけでなく、イベント興行の実施や販促企画、アルバイトスタッフの業務管理など、映画館業務全般に携わっています。高校生の頃から好きだった映画の分野を学ぼうと芸術文化学科に進学。映画や経営、音楽、美術、アートマネジメントなど、様々な分野を学ぶことで、新たな興味が生まれたことはSUACならではの貴重な経験でした。卒業論文を執筆することで映画業界についての基礎知識が身につき、さらに就職活動でも活かすことができたので、お世話になった高島先生に感謝しています。映画館とは“気軽に体験できる非日常”を、知らない人たちと、同じ空間で共有できる場でもあります。新たな試みとして、作品の内容に合わせて酒店とコラボし、ワインを楽しんだ企画はお客様に大好評でした。この特別な空間に一人でも多くの方が足を運んでくださるよう、アプローチしていきたいと思っています。



スターキャット・ケーブルネットワーク株式会社 [伏見ミリオン座]

高橋ゆりのさん 文化政策学部 芸術文化学科 2016年度卒業

高島ゼミでは長野県飯田市の人形浄瑠璃の文化を調査研究するため、現地の民宿に滞在し、地元の方々からお話をお伺いしました。地域の文化を大切にしている人たちの生の声を聞くことができ、貴重な経験になりました。

幅広い関心を行動に移し、さまざまな現場を知ることが物事を客観的に見る力につながる。

高橋さんは、出会った時から一貫して、映画を研究対象にしたいと話していました。卒業論文はミニシアターの長期的経営をテーマにしたものでした。ゼミの2年間では、多くの映画作品を見て、活発な活動を行う映画館に足を運び、「映画が好きの人」から「映画館のこれからを冷静に考える人」に変わっていったように思います。高橋さんのように、研究テーマが仕事に直結するケースばかりではありません。しかし、大学での多様な活動や学びを通して養われる客観性は、どのような職業でも求められることと思います。



芸術文化学科 高島知佐子 准教授 アートマネジメント

03

プロのデザイナーである教授陣から 実践的に学べるのはSUACの魅力

海外を市場とした二輪のスタイリングデザインを担当しています。車体全体のフォルムから各部品まで、デザインの対象は目に見えるものすべて。たとえばフェンダーなど自分がスケッチしたデザインを設計者と練り上げ、それをモデラーが立体化していく…チームが一丸となって良い物に作り込んでいく、その過程にやりがいを感じています。SUACへは、絵を描く仕事に就きたいとの思いで進学。デザインにまったく触れたことがない状態でデザインの基礎から学び、実践的なデザイン実習やトルコの大学との産学共同事業などで様々な経験を積みながら、デザイナーになるための軸を作ることができました。ゼミでお世話になった服部先生は、企業で自動車の開発デザインに携わっていた方でもあり、プロ目線で指摘をいただけたのは大きかったです。表現力とアイデア展開力、製品化へのノウハウに磨きをかけ、アンテナを高く保ち、新しい物を提案していきたいです。



「何が美しいのか」
考え抜いた経験がデザインに
活かされる。

スズキ株式会社 二輪カンパニー 企画部 デザイングループ
飯干勝士さん デザイン学部 生産造形学科 2017年度卒業



服部教授も参加していたトルコのイズミル経済大学との連携プロジェクトでの写真です。初めて本格的に乗り物のデザインに触れる機会となりました。服部教授の紹介でゼミや授業以外でも様々な体験をさせていただきました。

体験価値をデザインする。

プロダクトデザインの世界も、これまでのように製品のデザインそのものを考えるだけではなく、「それを使うとユーザーにとって何が嬉しく、どんな新しい体験ができるのか？」という体験価値まで含めての提案が求められています。昨今、デザイナーの守備範囲はどんどん拡大し、要求されるハードルは高くなる一方ですが、それもこれも「デザインは人々を幸せにする力を持っている」からです。そんな気づきのできるデザイナーが一人でも多く育ってくれることを願います。



デザイン学科 服部守悦 教授 トランスポーテーションデザイン

04

気持ちよく使ってもらいたいことを
デザインを考えるベースに。
エプソンらしさを出していきたい。



UIデザインと出会い、 恩師から学んだ、考え抜く楽しみ

プリンター関連のGUI(グラフィカル・ユーザー・インターフェイス)デザインを行う部署で、スマートデバイス向けのアプリ・ソフト等のGUIデザインを担当しています。使い手の思考や操作性を考え、デザインに落とし込むのが仕事です。自分が携わったアプリがストアに並び、レビュー欄に共感の投稿を見つけた時は嬉しく、自信にもなりました。大学の(インターフェイスの)授業でUIデザインと出会い、論理的にデザインを組み上げていくための「考え方」を宮田先生のもとで学び、今の職にたどり着くことができました。SUACはいわゆる美大と違い、手を動かすだけでなく、考える力の土台を身につけられるのが特徴。設計者との打ち合わせなど、相手に納得してもらうために論理的に説明する力も鍛えられたと思います。目下の目標は、一人前のUIデザイナーになること。ユーザーの方に気持ちよく使ってもらえる“エプソンらしさ”を提案できるよう、日々取り組んでいます。

セイコーエプソン株式会社 プリンティングソリューションズ事業部 企画設計部門
西澤椎菜さん デザイン学部 メディア造形学科 2017年度卒業



合同のゼミ合宿での一枚。宮田ゼミはイベントなどを通じて学生と関わる機会もあり、とても楽しい時間を過ごせました。ゼミの時間はリラックスして意見交換ができる雰囲気、居心地もよく、同期と一緒に頑張って制作に取り組むことができました。

普通の高校生がトップデザイナーになる近道

直感的に操作できるスマートフォンのアプリやソフトを制作するには、使いやすさを考え抜く力とユーザーを深く観察する力のあるインターフェイスデザイナーが求められます。この分野は歴史が浅いために一流のデザイナーが少なく、若手が活躍しています。基礎学力のあるSUACの学生に向けた仕事ですので、西澤さんを含めて多くの卒業生がこのデザイン職に就いています。



デザイン学科 宮田圭介 教授 ヒューマンインターフェイス

05

学び得た知識は仕事を支える力になる。よりよい提案ができるよう成長し続けたい

小学生の頃から住宅に興味があり、建築が学べるSUACへ。一級建築士の受験資格に必要な単位が取れる点が魅力でした。入社して5年目、念願の資格も取得し、リフォーム部門を経て、現在は主に戸建住宅の建築確認や住宅性能評価の申請業務を担当しています。授業でエコハウスの見学に行ったことがきっかけで、建築とエネルギー問題を紐づけて考えられる中野先生のゼミを専攻。授業だけでなく就活に関して的確なご指導をいただき、とても感謝しています。仕事にやりがいを感じるのは、自分が描いた図面が、実際に施工されている現場を見られた時。とても嬉しく感じました。エネルギー事業を基盤とするTOKAIは、住宅部門でも省エネに積極的に取り組んでいるので、大学での基礎知識を活かし、今後の動向や仕様の流行について勉強し続けたいと思います。一つひとつの住まいに対して丁寧に向き合い、よりよい提案をしていきたい。考えることが尽きません。

「二級建築士」になりたい。
目標を明確にして
歩んできたから、
今がある。



株式会社TOKAI 建築設備不動産事業部 設計工事部 設計積算課
柴田真理さん デザイン学部 空間造形学科 2014年度卒業



企画展のメンバーで卒業旅行にフィンランドに行った時の写真です。授業で見た建物や美術、北欧家具に触れることができました。

デザインの知識・技術を磨くことは大事。
それ以上に大事なものは「人間力」を磨くこと。

私のゼミでは、デザインの知識・技術を身につけるだけでなく、他人の意見に謙虚に耳を傾け、思いやりと感謝の気持ちを忘れず、人間力を高めてほしいと願っています。柴田さんは、悩み迷い掛けそうになりながらも自ら考え抜き努力して、地元藤枝の社会問題の解決に向けた設計を提案し、人としてひと回り成長して卒業していきました。これからは、培った「人間力」で、家族に寄り添う家を皆さんに届けてくれると思います。



デザイン学科 中野民雄 准教授 スマートデザイン / 建築環境・設備

06

6つの学びの特色

「教養と感性」「知識と能力」を身につける。

文化の力、デザインの力で社会貢献し、実務型の人材を養成することを目指しています。すべての学生が学部・学科の枠を超え、幅広い教養と独創的な感性を育むカリキュラムを学びの基礎としています。



1

SUAC生としての基礎づくり

導入教育

本学ならではの体験科目と専門教育につながるリテラシー科目で学びの基礎を身につけます。

■ 文化芸術体験演習／少人数編成で、日本の伝統文化などの体験を通して、知性と感性を養います。授業内容／茶道：4回、狂言：4回、写真：3回、俳句：2回

■ 学芸の基礎／学びの基礎となるリテラシー（読み、書き、情報活用能力）を身につけ、論文作成やプレゼンテーション等、社会で役立つ実践的スキルを磨きます。

2

バランスのとれた知識を

教養教育

幅広くものごとを捉える視野の広さを身につけます。先人たちの世界観や方法論に加え、最先端の研究事例を学び、実社会とのつながりを踏まえた授業を展開します。

伝統的な学問分野「人文科学・社会科学・自然科学」に、本学の特性である「芸術・デザイン」を加え、特色のある教養教育を実現します。専門分野との関連性を踏まえた俯瞰的な教育を行うこと。これが本学独自の専門教養です。



3

充実した学びの中で
専門性を深める

専門教育

文化政策学部では、学部学生が共通して履修できる「学部科目」をさらに充実。文化・芸術、政策・マネジメント、情報・リテラシー、観光分野をより幅広く学ぶことができます。デザイン学部では、6つの専門領域を設け、広い視野でデザインの世界を理解した上で、より深く専門性を追求していきます。

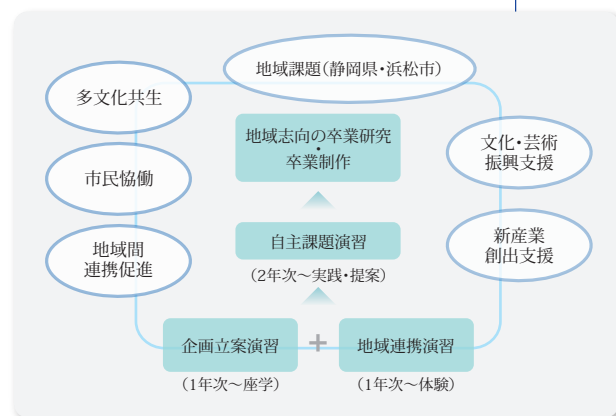


4

社会の中で役立つ力を

実践教育

卒業後の進路開拓にもつながる実践的なカリキュラム。実社会の課題を見つけ解決する方法を学ぶ「企画立案演習」、現場に飛び込み、体験を通して地域課題への理解を深める「地域連携演習」、リサーチを踏まえた自らのテーマを持って現場で主体的に実践・提案する「自主課題演習」の科目があります。

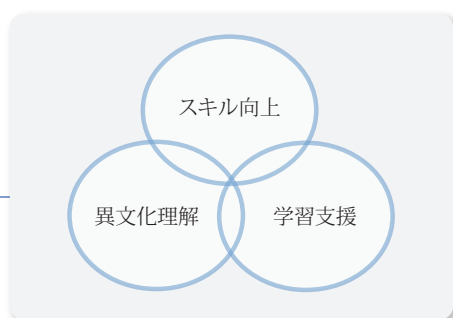


5

国際的に活躍するために

外国語教育

国際社会で力を発揮するためには実践的な語学能力と幅広い文化的知識が必要です。英語と中国語の特任講師が常駐する「英語・中国語教育センター」と連携して外国語教育を強化し、各種検定・語学留学が単位認定の対象となるほか、フランス語、イタリア語、ドイツ語、インドネシア語、ポルトガル語、韓国語などが学べます。



語学や情報処理など、多くの科目で少人数のクラス編成による教員と学生の対話、コミュニケーションを重視した環境を用意しています。一人ひとりの学生を尊重し、個々の自由な発想を導き出す、きめ細かな指導を行っています。このような少人数教育により学生は学びを深め、専門性を高めることができます。

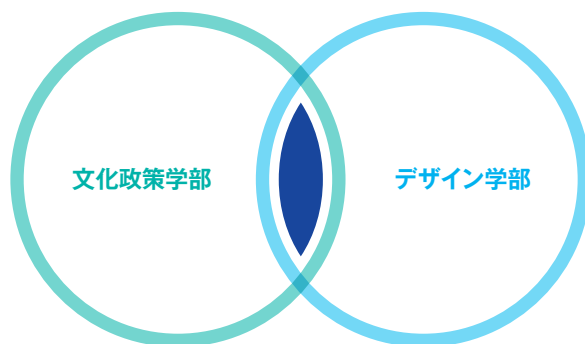
6

一人ひとりに目の行き届いた4年間

少人数教育

文化政策 × デザイン

学部・学科・学年を超えて社会とつながる。



静岡文化芸術大学の学生たちは、専門分野を深めていく学びだけではなく、学部や学科、学年の枠を超えて、様々な企画やプロジェクトに取り組んでいます。実践演習のような授業としてのプログラムはもちろん、学生たちが自主的に活動するユニットが多いのも本学の特長です。様々なコラボレーションを通して、自分とは違う感性に触れ、今まで知らなかった考え方に出会う。お互いを刺激し合う創造的な学びが、たくさん待っています。

1

トルコ・イズミル経済大学との産学共同事業

国際デザインワークショップ

企業×SUAC×イズミル経済大学(トルコ)

デザイン学部生と文化政策学部生が、トルコ・イズミル経済大学のデザイン学部生とともにそれぞれの視点や専門性を活かしながら、トルコ・ボドルム地域の新しい価値を創出するボートチャータービジネスのデザイン提案を行いました。1週間のワークショップでは言葉だけでなくスケッチやアクションを使った熱い意見交換が繰り広げられ、エーゲ海クルーズ体験とともに忘れられない思い出となり、両学学生の間に深い絆が生まれました。このワークショップは、開始前からトルコの全国メディアで取り上げられ、ワークショップの様子もテレビや新聞などで報じられました。

文化的背景、専門性、性格、身体能力、あらゆる個性を融合した国際デザインチーム



2 ホスピタルアートプロジェクトしずおか (HAPS)

少しでも患者さんの療養環境を良くしたい

病院×アーティスト×企業×SUAC

病院での文化・芸術活動を意味する「ホスピタルアート」。患者さんの療養環境をより良くすることを目的に日本全国でさまざまな活動が展開されています。2014年から始まったHAPSの活動では、患者さんが毎日を過ごす「日常」としての病院のあるべき姿を考えながら、患者さんやご家族、病院職員と一緒に参加できるものづくりワークショップや院内展覧会などの活動を行っています。学生だからこそできる活動、ひとときでも病気のことを忘れ、医療以外のつながり、コミュニケーションを持てるような取り組みを進めています。これらの活動は県内外の複数の企業からの寄付に支えられています。

両学部の学生がそれぞれの得意分野を活かしてアーティストと一緒に活動を企画



3 知的財産活用ビジネスアイデア大会

大手企業の開放特許を活用した
斬新な商品アイデアを創出

学生有志×産学官金の地域支援機関

静岡県等が主催する「知財活用アイデアプレゼン大会」は、大手企業や静岡県工業技術研究所の保有する未活用特許を題材にビジネスプランを提案し、中小企業の新商品・サービス開発につなげる取り組みです。SUACからは、文化政策・デザイン両学部生による混合チームが出場。2017年度から2年連続で「最優秀賞」を受賞しました。考案されたアイデアは、大学の教員や社会人聴講生、また地元企業や金融機関の職員から経験則に基づいた実践的なご意見をいただきさらにブラッシュアップ。最終提案としてまとめていきました。



デザイン学部生が制作した美しい資料で、文化政策学部生が発表



理念への共鳴、学びへの強い意欲。社会を動かす人材を育てます。

本学は、豊かな人間性と的確な時代認識を持ち、国際社会の様々な分野で活躍できる人材を養成するために、教養教育と専門教育が調和したカリキュラムを通して、知性と感性を磨き、新しい価値や文化を創造する力の育成に努めています。

このような理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする皆さんの入学を期待します。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

文化政策学部 アドミッション・ポリシー

文化政策学部は、芸術および文化全般を歴史の深みと世界的な広がりにおいて認識するとともに、豊かな感受性、人間や文化の多様性に対する寛容さ、文化を創造し発展させるための的確な知識をもとに、文化の新たな地平を切り拓く意欲に富み、国際的に活躍できる人材を育成します。

この教育方針のもと、国際文化学科、文化政策学科、芸術文化学科の3学科を設置し、以下のような関心と意欲を持つ人を、積極的に受け入れます。

国際文化学科

日本と世界の多様な文化に関心があり、それらを深く学びたい人
外国語を使い、世界の人々と交流し相互理解を深めたい人
ビジネスや国際協力、地域貢献を通して、グローバル社会で活躍したい人

文化政策学科

社会と文化について総合的に学び、その問題を発見・解決したい人
社会調査の方法、政策立案の手法を身につけたい人
行政や企業、NPOなどで活躍し、地域社会と産業に貢献したい人

芸術文化学科

文化・芸術とそれをとりまく社会について研究したい人
芸術やアートマネジメントに関する実践的知識を身につけたい人
文化・芸術を通じて地域を活性化し、創造性を持って社会に貢献したい人

デザイン学部 アドミッション・ポリシー

デザイン学部は、時代とともに変化する人や価値観、文化の多様性を視野に入れ、さまざまな人の立場に立ったユニバーサルな視点で考えるデザインを基本に、快適に暮らせる生活空間や環境を提案し、国際社会の発展や文化の向上に貢献できる人材を育成します。

この教育方針のもと、デザイン学科を設置し、以下のような関心と意欲を持つ人を、積極的に受け入れます。

デザイン学科

デザイン分野に強い関心を持ち、幅広くデザインを学びたい人
論理的な思考に基づき、新しい価値の創出を目指す人
直観力や審美眼をみがき、自らの発想を的確に表現したい人
地球環境および社会や地域に関心を持ち、現状を分析して対応策を考えようとする人

学部・学科の構成

文化政策学部

→P.019

| 国際文化学科

定員100名

→P.021

| 文化政策学科

定員55名

→P.027

| 芸術文化学科

定員55名

→P.033

デザイン学部

→P.043

| デザイン学科

定員110名

→P.045

| デザインフィロソフィー領域

→P.047

| プロダクト領域

→P.048

| ビジュアル・サウンド領域

→P.049

| 建築・環境領域

→P.050

| インタラクション領域

→P.051

| 匠領域

→P.052

大学院

→P.062

| 文化政策研究科

定員10名

→P.063

| デザイン研究科

定員10名

→P.065

既成の枠を超えて、文化の新たな地平を切り拓く人材を。

現在につながる歴史の深みと、世界的な社会の広がりや踏まえた視点から、多角的に文化および芸術を認識し、豊かな感受性と、文化の創造・発展に必要な知識を身につけ、国際的な視野を持って新たな時代を切り拓く人材を育成しています。文化政策学部は、人々が「豊か」だと感じる社会の実現を目指し、いきいきとした社会生活を送るための理念や政策を見つけ出していく力を持つ人材を輩出することで、社会に貢献していきます。

文化政策学部

国際文化学科 文化政策学科 芸術文化学科

基礎をつくる5つの科目群

「文化政策とは何か」を理解するために、文化政策学部では学部共通科目として、〈文化・芸術〉、〈政策・マネジメント〉、〈情報・リテラシー〉、〈観光〉、〈多様な言語〉の5つの分野の科目群を設置しています。学生は、これらの中からバランスよく科目を選び学んでいきます。これらは、3つの特色ある学科での学習に共通する土台となります。

文化・芸術

各学科の専門分野を学ぶ上で必要な、文化や芸術表現の多様性や歴史などを概観するとともに、異なる文化への理解や多様な社会システム、芸術表現等に関する幅広い知識を養います。

政策・マネジメント

企業に加え、政府、自治体、NPO／NGOといった非営利組織も含めた、幅広い経営体における政策の企画立案や評価、経営体のマネジメントの基本を学びます。これらを通じて、人と人、人と社会のより良いあり方に資するための実践的な能力を発揮できるようになることを目指します。

情報・リテラシー

社会の課題に対する構想力、企画力、問題解決能力を養うとともに、専門的な研究やその成果を、広く社会に向けて発表・表現することや、多様な市民社会の中での合意形成を促進するための実践的なスキルを身につけます。加えて、多様化する情報社会の中で、慎重にこれらに対処するための法的・制度的知識や自身の情報・リテラシーの素養を身につけます。

観光

欧州から西アジア、東アジアに至る、そして日本国内における観光交流の歴史的潮流を俯瞰し、また産業革命以降、近現代の観光産業の発展にも目を向け、地域の伝統文化や地場産業を活かした観光の基礎知識を学修します。

多様な言語

必修科目である英語・中国語以外の多様な外国語を学ぶことにより、国内外の社会や市民の多様性、各地の歴史や地理に根ざした社会・経済・文化・芸術などの理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の拡充を目指します。

文化政策学部で学べること。

3学科での関連ワード

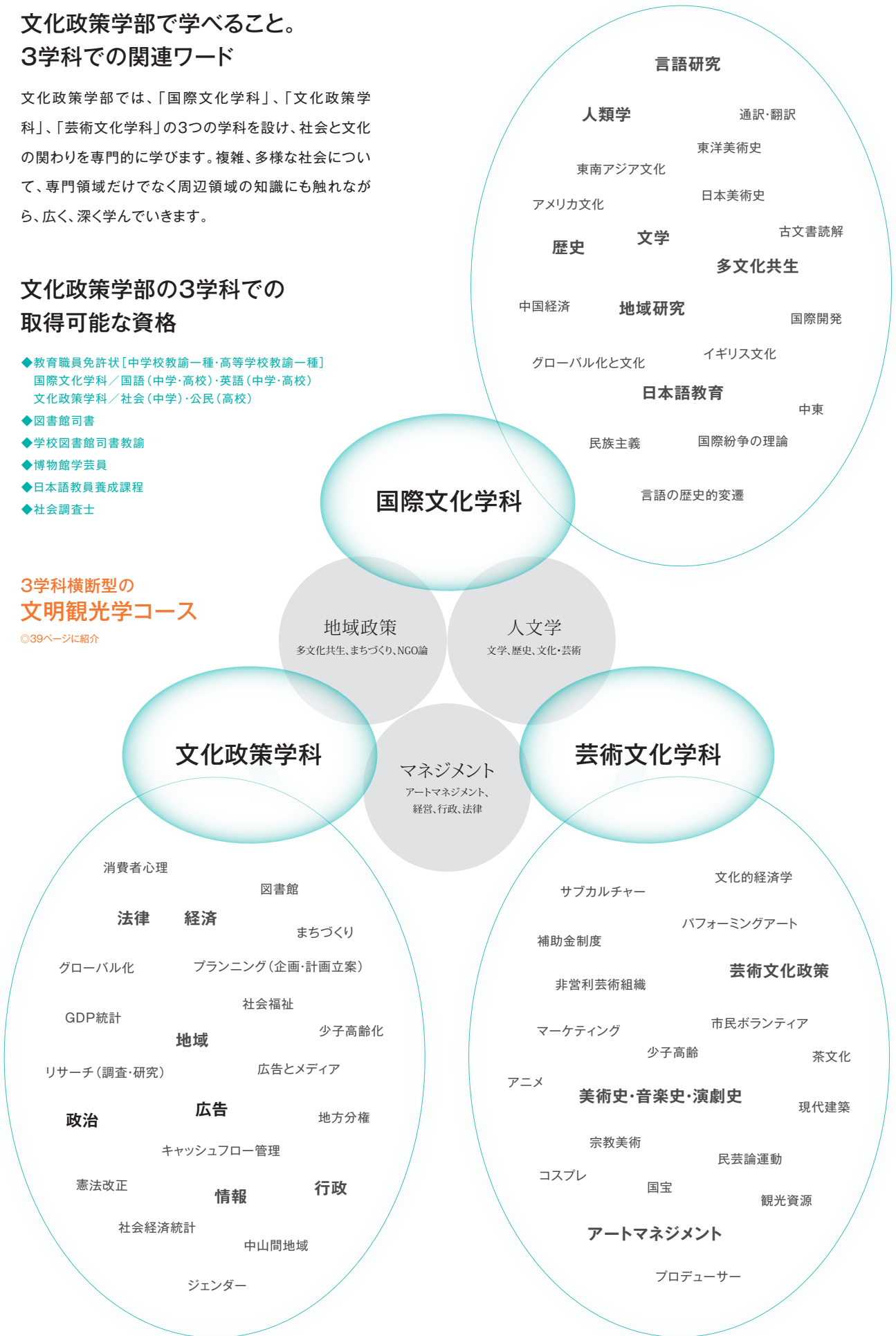
文化政策学部では、「国際文化学科」、「文化政策学科」、「芸術文化学科」の3つの学科を設け、社会と文化の関わりを専門的に学びます。複雑、多様な社会について、専門領域だけでなく周辺領域の知識にも触れながら、広く、深く学んでいきます。

文化政策学部の3学科での取得可能な資格

- ◆教育職員免許状[中学校教諭一種・高等学校教諭一種]
国際文化学科/国語(中学・高校)・英語(中学・高校)
文化政策学科/社会(中学)・公民(高校)
- ◆図書館司書
- ◆学校図書館司書教諭
- ◆博物館学芸員
- ◆日本語教員養成課程
- ◆社会調査士

3学科横断型の文明観光学コース

◎39ページで紹介



文化政策学部

国際文化学科

定員100名

異文化を理解し、国際的にコミュニケーションできる
知性と感性にあふれた人材を養成します。

今、世界は、大きく変わろうとしています。

国を越える経済や人の交流は信じられないほどの速さで進んでいます。

そして宗教、伝統文化も大きく変わろうとしています。

国際文化学科は、こうしたグローバルな社会を冷静に見極め、積極的な価値を発見する力、
なによりも人間共存のための創造力、行動力を生み出す学びを進めています。

外国語コミュニケーション能力アップにとどまらず、学生が多様な文化の構造や発展を学ぶ
豊富な科目群、そして学びを具体的な行動に置きかえていくための場を多様に設定しています。

経験豊かな教員がチームワークで学生と向き合い、常に多様なニーズに対応しています。

そして、毎年多数の積極的な学生が留学や海外でのインターンシップを実現しています。



今まで知らなかった世界の先に、 やりたいことが広がっている

日本という国を超えて、いろいろな人と話をしてみたいと思い、言語だけでなくその国の文化も学べるSUACへ進学しました。多文化共生の授業では、外国籍を持つ子どもや大人が、日本の文化に馴染めずに様々な問題を抱えていることなど、初めて知ることが多く衝撃を受けました。インドに興味を持ち、東南アジアへ一人旅に出た際に、行く先々で人々の生活を目の当たりにし、深く考えるようになりました。高校生の時は漠然と海外に興味があった私が、今は世界的な問題に目が向くようになり、児童労働や女性の社会進出、ジェンダーなどについて研究しています。将来は語学力や海外での経験を活かし、世界の人々に貢献できるような仕事に就きたいと考えています。ヒッチハイクや一人旅をすると心配されて驚かれることが多いのですが、「女性だから」とやりたいことを制限されるのではなく、いろいろなことに挑戦していける人になりたいと思っています。

高3のとき 外国の人とずっと話をしたいと思う。海外に興味を持つ。家庭でホームステイを受け入れる

1年次 多文化共生の学びに力を入れる。外国籍の子どもたちを支援する学生団体に入る

2年次 東南アジアへ一人旅に出る。国際協力に興味を持つ

3年次 旅で感じたこと、児童労働や女性問題を追究、研究したいと思う。トルコの国際デザインワークショップに参加。4年次には県の国際交流プロジェクトの一員としてブラジル派遣の予定

羽賀詩生吏 HAGA Shiori

国際文化学科 3年 静岡学園高校出身



この学科だからこそ異文化も学べ、 英語の力を磨き続けられた

中学生の頃から英語に興味があり「将来は得意な英語を使ってグローバルに活躍したい」と考えていました。大学入学後は、語学力の向上や異文化の理解に力を注ぎ、国際社会に必要な知識やスキルを身につけることを目指した4年間でした。学内にある「英語・中国語教育センター」に通い、ネイティブの先生方との日常会話で生きた英語を習得。TOEICの学習にも力を入れ、SUACで行われる試験を毎年受験しスコア向上に努めました。留学はしませんでした。英語関連のボランティアやイベントに積極的に参加し、海外の方との交流を通してコミュニケーションの重要性や自分の意見を伝えることの大切さを学び、自ら行動を起こす積極性も身についたと思います。卒業後は、念願が叶い、英語を使う機会が多い企業へ。英語力をさらに養い、何事にも積極的に挑戦していきたいです。

角田和樹 TSUNODA Kazuki

国際文化学科 4年 福島県立白河高校出身

高3のとき 英語や海外の文化について興味があった

1年次 大学での新しい学びと同時に新しい友達も増え、自分の世界が広がった

2年次 英語関連のボランティア活動に参加するなど自分から行動していった

3年次 就職活動を見据えながらTOEICなど英語の学習に力を入れた

進路 卒業後は、浜松ホトニクス(株)

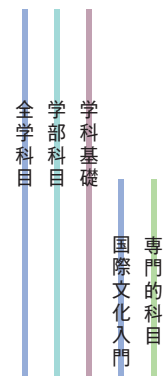
複眼的な視点から世界の文化を捉え、 多角的に取り組むことで、 国際文化をダイナミックに学ぶ。

世界のさまざまな事件や状況について考えるには、表面にあらわれた物事だけでなく、背景まで掘り下げて根源から理解することが欠かせません。自ら問題意識を持ってテーマを見つけ考察する力を養うことが、「学び」の基本です。問題意識を持ち、発見した問題を深め、そして、新たな一歩を踏み出してみましょう。

国際文化学科で 学ぶ4年間

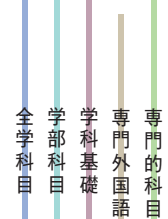
1年次

学科の「国際文化概論」「国際文化基礎論」等を通じて基礎を学び、専門分野への足がかりをつくります。



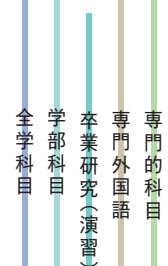
2年次

専門科目が本格的に始動。「専門外国語」を通じて高度な言語力を習得。後期には所属ゼミが決定します。



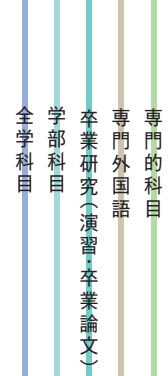
3年次

学科専門の講義では、学びたい分野の科目を積極的に履修するとともに、演習(ゼミ)で専門テーマを深く掘り下げていきます。



4年次

大学での研究の集大成として、卒業論文をまとめます。ゼミの中で執筆計画を立てて着実に実行。併せて卒業後の進路決定を進めていきます。



卒業研究

●日本・東アジア

日本文化史／地域の民俗・芸能・文化／メディア表現分析／日中文化比較／韓国の文化と社会／東南アジアの民族と文化／漢字文化研究／現代ベトナム社会／など

●地中海・西欧・北米

ヨーロッパ・モード史／フランス文学／イタリアの都市の歴史／イギリス口承文芸／アメリカ教育事情／アメリカ映画論／英語の習得と学習／中東地域論／など

●多文化共生

静岡県の多文化共生／在日ブラジル人に関する研究／グローバル化の光と影／イスラーム政治思想／など

専門的科目群

- 日本・東アジア
- 地中海・西欧・北米
- 多文化共生

専門外国語

- 英語表現法
- 英語上級
- 中国語上級
- フランス語上級・応用
- ポルトガル語上級・応用
- 韓国語上級

学科基礎

- 国際文化概論
- グローバル・キャリア・デザイン概論
- 比較文化論
- 国際関係論
- ナショナリズム論
- 国際文化基礎論
- 文章表現技法

国際文化学科の学びの体系

「国際文化概論」「国際文化基礎論」といった学科基礎、そして専門外国語を学ぶことで多様な文化のあり方や価値を学びます。その後3つの専門的な科目群である「日本・東アジア」「地中海・西欧・北米」「多文化共生」から選択的に学ぶことで、文化を創造的、能動的に学び卒業研究の準備をしていきます。また新しい科目「グローバル・キャリア・デザイン概論」によって将来のキャリアを早期に構築するサポートをします。

開講科目例

学問の探究方法の基礎を身につける

「国際文化基礎論」【1~4年次 / 学科基礎】



研究の基礎となる方法を会得するための科目です。学生は、自分が設定したテーマに関する文献を集め、グループ内でその内容の報告とディスカッションを行います。そこからテーマに関する考察を展開し、注と文献リストを備えた論文形式のレポートを作成します。

Global Culture: Thinking Independently Together

「Culture & Society A」【1~4年次 / 専門的科目】



Global Culture and Society courses offer all English lectures and discussions that foster enhanced cultural awareness and an appreciation of differing viewpoints, through an understanding of how historical events affect the development of cultural phenomena. Students attending these courses will learn to think critically, debate issues that affect all members of global society, and reflect on how the past is represented in the present.

異文化理解の基本を確認する

「比較文化論」【2~4年次 / 専門的科目】



異文化とは何か、異文化とどう向き合うべきかについて、日本と欧米の文化比較を例に考えていきます。異文化を知ることは楽しいだけでなく、誤解を生じたり、時に対立抗争にもつながったりします。先人たちの著書を参考にしながら、文化の違いを冷静に論理的に説明する手がかりを探しましょう。

現場の視点から考える国際協力

「フェアトレード論」【2~4年次 / 専門的科目】



「ビジネスを通じた国際協力」をフェアトレードから学ぶ授業です。フェアトレードは、地域の課題解決のための手段であるわけですから、単にフェアトレードの制度や歴史などの知識を学ぶだけでなく、実践活動を意識した企画・立案・評価手法についても学びます。

中国を経済の視点から読み解く

「中国経済論」【2~4年次 / 専門的科目】



中国は複雑さを伴いながらも経済成長を続けていることが特徴です。本授業は経済の基本的な仕組みを理解する上で、産業構造、格差と貧困、グローバル化など幅広い視点から中国経済について学び、「経済」というキーワードを通して中国理解を深めていきます。

関心領域の学びを深める場

「国際文化演習」【3~4年次 / 卒業研究(演習)】



関心を持った研究領域の教員のゼミに所属し、担当教員の研究領域の基本的な知識や研究方法を学びます。学生は自身の研究領域を定め、その研究について教員が指導を行います。卒業論文を作成するための必要な能力や関心領域の学びを深めます。

Communicating Effectively in Business Situations

「英語上級 会議英語」【3~4年次 / 専門外国語】



Meeting English is a specialized course designed to help students learn to effectively communicate their ideas in English by giving individual and group presentations on business related topics. An important component of this course is receiving detailed peer and teacher feedback in order to help students reflect on their presentation performance and improve.

専門分野の研究成果をまとめる

「卒業論文」【4年次 / 卒業研究(演習・卒業論文)】



これまで国際文化演習をはじめとする様々な科目で学んだ多様な事実と研究方法に基づいて卒業論文をまとめます。研究に必要な文献の特定と検索、論理的な構成方法など卒業論文に必要な事項を担当教員が指導します。

ゼミ紹介



ゼミ生の声

グローバル化の活動を通じて、
多様な国・企業・人をつなげる

中国文化社会、東アジア国際関係、言語社会学 | 崔 学松 准教授

多様な「国・企業・人をつなげる」ことを大事にしながら、グローバル化を率いるリーダーを輩出することをゼミのビジョンとしています。グローバル・リーダーズ・プログラムと知的財産活用ビジネスアイデアプレゼン大会プログラムを同時に進めながら、グローバル化社会の現場感覚を養い、世界の縮図ともいわれる中国語圏の変化や世界の様々な問題の解決策を考える力と幅広い調査分析能力、および日本語・中国語・英語による研究発表能力を身につけて、卒業研究と就職活動に臨みます。

先生の励ましとサポートで
最後までやり抜く力が鍛えられた

飯田 梨央奈 | 国際文化学科 4年
静岡県立清水南高校出身

中国交換留学から帰国後に本ゼミへ。英語・中国語・日本語文献の講読と国内外調査を通じて、中国語圏の変化や持続可能なグローバル化社会について幅広く研究できる上、様々な企業や団体との交流の機会が多いのも本ゼミの魅力です。私は進む道を先生に応援してもらいながら、航空業界に就職できました。

卒業研究演習一覧

未知の関心を深く掘り起こそう

担当教員：下澤 嶺 教授
専門領域：国際協力・NGO・NPO

東南アジアの文化と多文化共生

担当教員：池上重弘 教授
専門領域：文化人類学・多文化共生論

自分だけの韓国を知る

担当教員：林 在圭 教授
専門領域：韓国文化・韓国語

Applied Linguistics and Global Culture

担当教員：Edward Pearse SARICH 教授
専門領域：英語教育

東南アジアの歴史・文化・社会

担当教員：岡田建志 教授
専門領域：東南アジア史

English Education and Global Issues

担当教員：Jack RYAN 教授
専門領域：英語教育

英米の文学文化研究を土台に世界に羽ばたく

担当教員：鈴木元子 教授
専門領域：英米文学・アメリカ文化

イタリアを知り、世界の文化を読み解く

担当教員：武田 好 教授
専門領域：イタリア語・イタリア文化

ヨーロッパの歴史と文化の研究

担当教員：永井敦子 教授
専門領域：西洋史

古文書から地域の歴史を掘りおこす

担当教員：西田かほる 教授
専門領域：日本文学・文化史

文学×民俗学＝伝承文学

担当教員：二本松康宏 教授
専門領域：日本文学・伝承文化

イギリス伝承文化と児童文学

担当教員：美濃部京子 教授
専門領域：イギリス口承文芸

言語習得メカニズムの探究

担当教員：横田秀樹 教授
専門領域：心理言語学・英語教育

グローバル化の活動で国・企業・人を繋げる

担当教員：崔 学松 准教授
専門領域：中国文化社会・東アジア国際関係・言語社会学

中東などの近現代史を扱う

担当教員：徳増克己 准教授
専門領域：中東北部と旧ソ連の境界地域史

「グローバル社会」の仕組みについて学ぶ

担当教員：西脇靖洋 准教授
専門領域：国際関係論

史料との対話から「今」を問い直す

担当教員：水谷 悟 准教授
専門領域：日本近現代史

経済を通して中国とアジアを知る

担当教員：兪 嶸 准教授
専門領域：中国経済・開発経済学

現場の視点から「地域の発展」を考えよう

担当教員：武田 淳 講師
専門領域：開発人類学・環境と開発

フランスを学び、フランスから考える

担当教員：中田健太郎 講師
専門領域：フランス文学・視覚文化論

TOPICS

フードロスの消費を考える授業を実施しました

フードロスの授業を高校で

下澤ゼミの学生が中心となって、地元の高校の社会科の授業で、フードロスに関する授業を実施しました。生活の中でどのようにフードロスが発生するのか、これを減らすためにどのような行政施策があるのかを紹介しました。最後に、自分たちでもできるフードロスを減らす方法をグループで話し合い、消費者行動が社会を変えることができることを伝えました。



Discuss important global issues in English with people from all over the world!

英語模擬国連 (Japan University English Model United Nations)

The goal of JUEMUN (Japan University English Model United Nations) is to positively affect the lives of university students and motivate them to become better global citizens. JUEMUN encourages an understanding of contemporary international issues and the United Nations. Every year at JUEMUN university students from around the world cooperate in discussing complex global issues, such as climate change in English from the perspective of their assigned country.



取得可能な資格・卒業生の主な進路

卒業生の主な進路 (平成29～令和元年度卒業生)

公務

静岡市役所	福井県庁(小中学校事務)
豊川市役所	静岡県教育委員会(教員)
浜松市役所	愛知県教育委員会(教員)
藤枝市役所	岐阜県教育委員会(教員)
スズキ(株)	浜松市教育委員会(教員)

製造・建設業

永和住宅(株)	はごろもフーズ(株)
エンケイ(株)	浜松ホトニクス(株)
三立電機工業(株)	矢崎総業(株)
新日本無線(株)	ヤマハ発動機(株)
スズキ(株)	(株)ユタカ技研
セキスイハイム東海(株)	

運輸・旅行業

ANAエアポートサービス(株)	鈴与(株)
Agoda Travel Operations Japan(株)	清和海運(株)
朝日自動車(株)	全日本空輸(株)
(株)エイチ・アイ・エス	東日本旅客鉄道(株)
遠州鉄道(株)	(株)フジドリームエアラインズ
鴻池運輸(株)	富士フィルムロジスティクス(株)
静岡鉄道(株)	東京地下鉄(株)
(株)シティアース	名鉄観光サービス(株)
JTB(株)	日本航空(株)
(株)JTB商事	(株)農協観光

卸売・小売業

ウエルシア薬局(株)	(有)春華堂
(株)クスタニ	パナソニックメディコム甲信越(株)
サントリーマーケティング&コマース(株)	(株)ドラッグストアモリ

金融・保険業

岡崎信用金庫	(株)清水銀行
蒲郡信用金庫	JAとびあ浜松
しずおか焼津信用金庫	日本生命保険(相)
豊橋信用金庫	第一生命保険(株)
沼津信用金庫	とびあ浜松農業協同組合
浜松磐田信用金庫	花咲ふくい農業協同組合

サービス業など

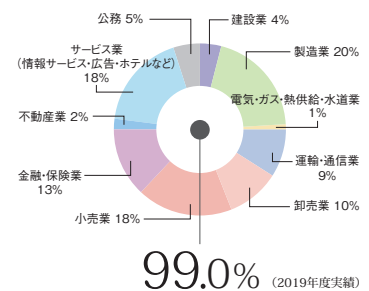
愛知医科大学	総合メディカル(株)
エヌ・ティ・ティシステム開発(株)	中部国際空港旅客サービス(株)
(株)オークラアクティホテル浜松	(株)TOKAIホールディングス
生活協同組合コープさっぽろ	中部ガス(株)
生活協同組合コープひろしま	

大学院進学

埼玉大学

就職率

公立大学
トップレベルの就職率



99.0% (2019年度実績)

取得可能な資格

詳しくは70ページをご覧ください。▶▶▶

- 教育職員免許状:中学校教諭一種 [国語・英語]
- 教育職員免許状:高等学校教諭一種 [国語・英語]
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭
- 日本語教員養成課程
- 社会調査士

文化政策学部

文化政策学科

定員55名

生活の質や生きがいの向上を目標に、
21世紀型の地域社会と産業の活性化について、
学際的・実践的なカリキュラムを通じて、
構想力と実行力を培う。

「文化政策」とは、21世紀に適したより良い社会のあり方を探求し、これを実現するための
方策を意味します。そして、その方策について、本学科では、主として
社会科学の視点から学びます。特に「政策」「経営」「情報」という3つの分野を、
総合的かつ集中的に学ぶ特色あるカリキュラムを用意しています。
地域社会や企業の様々な課題や問題を俯瞰的に捉え、現状に適した、
行政施策や企業経営戦略、市民が参画する活動などを構想・立案し、
それを有効に実行・実現することができる人材を養成します。



幅広く学び、知識を広げながら 公務員を目指して取り組む日々

オープンキャンパスの際、目にしたのが、ゼミ学生による模擬投票のイベント。ここなら地方自治や行政について学べると直感し、選んだのが文化政策学科でした。経済学や政治学はもちろん、芸術系の授業まで幅広い分野を学べることがSUACの特徴です。その中で「社会学」は現実社会に起きている物事や事象が学びの対象となるので、興味が持ちやすく、自分がやりたいことが見つからない人にもおすすめです。将来は公務員になりたいと思っているので、2年次、3年次と公務員講座を受講。試験に必要な実践的な知識を、学内で身につけられるのは大きいです。高校と大学の違いと言えば「自分の決まった席がない」ということ。自分で自分の時間を決め、自由に動く。そうやって自分の居場所をつくっていく感覚はとても新鮮でした。デザイン学部の人たちとの交流も含め、いろいろな価値観と出会い、刺激を受けながら成長できる毎日が待っています。

高3のとき 赤本で受験対策。オープンキャンパスに参加

1年次 興味関心のある分野を中心に履修。司書課程も履修

2年次 必修の研究&プランニングで調査立案能力を鍛える。公務員講座(教養)を受講

3年次 ゼミ活動を中心に学びを深める。公務員講座(専門)を受講

本門楓彪 MOTOKADO Futo

文化政策学科 3年 静岡県立浜松西高校出身



フィールドワークで培った学びと経験は 社会に出てからも力になる

ゼミで中山間地域の住民から聞き取り調査をした経験から、人々との関係性から社会を研究する「農村社会学」に興味を持つようになった、それが大学4年間の原点です。引佐耕作隊の活動に参加し、棚田を耕し、栽培、収穫、販売まで関わりながら、農村での生活、歴史、農業技術など様々な知識を学ぶことができました。密度の濃い関係を築けたことで、物事の見方や考え方が広がり、学生として、人間として、成長できたと思っています。SUACは座学による理論を中心とした学びと、演習を中心に考察・実践する学びの双方があるのが特徴です。理論だけではなく、実践だけでもない、その循環を繰り返すことで得られた深い学びと経験は自分の力になりました。フィールドワークで磨けたのは「相手の話を徹底的に聞く」力。卒業後、社会人として様々な立場の人と接する際、まずは相手の話を聞き、相手と共に解決策を探る職員になりたいと思います。

鈴木晴香 SUZUKI Haruka

文化政策学科 4年 静岡県立浜名高校出身

高3のとき デザインのコンセプトを「考える」過程から、政策・戦略など「コト」のデザインに興味を持つ

1年次 ゼミ合宿に参加し中山間地域の調査を経験。人々との関係性から社会を研究する「農村社会学」に興味を持ち総合ゼミに入る

2年次 米の栽培・収穫・販売を行う「引佐耕作隊」の活動に参加。ビジネスコンテストや懸賞論文に応募し成果を得る

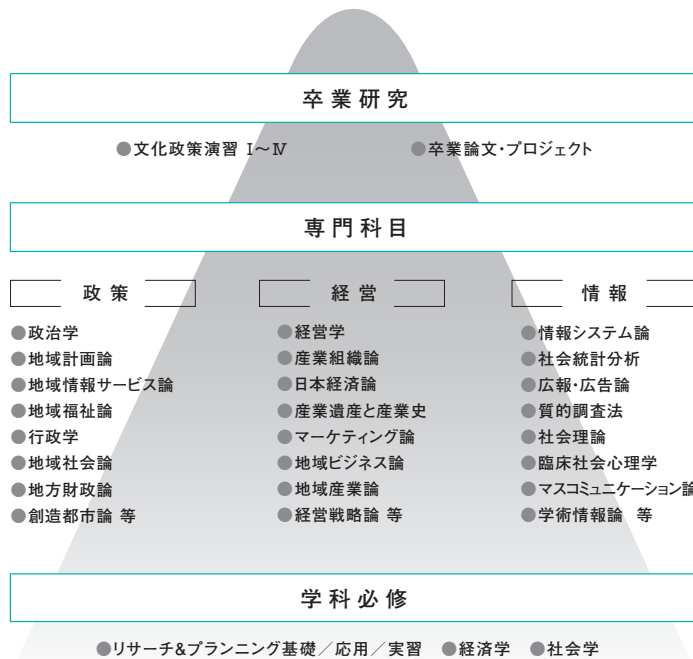
3年次 中山間地域の住民や他出子の意思を調査するため様々な取り組みを行い、一連の調査結果は学会にて発表した。公務員試験の勉強開始

進路 静岡労働局に内定。ハローワークの職員として勤務する予定

文化政策学科の多角的な学び

文化政策学科には、政策や行政、経済や経営、文化や情報、社会や心理、法律など多岐にわたる専門分野の教員がいます（42ページをご覧ください）。

したがって、2年間、多様な学科科目を履修しながらじっくりと学びたい分野やテーマを選択し、3年次からのゼミや4年次の卒業論文・プロジェクトでは、納得ゆく分野やテーマについて、専門知識を持つ教員の指導の下で学ぶことができます。



文化政策学科の学びの体系

知識に加え、調査研究やプレゼンテーション手法を学び実践的なスキルを身につける

学科必修では、文化政策の基礎となる知識と共に、実践的な調査研究や企画立案、プレゼンテーション手法を学びます。また政策、経営、情報の3つの視点から現代社会の様々な課題を理解し、実社会での問題の解決に貢献できる知識と実践力を養っていきます。また55名の入学定員に対し、14名の専任教員を擁し、きめ細かな少人数クラスでの教育を行います。

地域社会の豊かさと充実に向けて

地域社会の都市や村落、組織や集団を調査研究対象として、そこに住み、働く人々の生活や考え方を、観察やインタビューを通じて調べます。そして、多様な学科科目から学んだ知識を、調査で得られた情報の分析に応用しながら理解を深め、問題点を明らかにしたり、解決策の提言をしたりします。こうして、現実的で実現可能性の高い、実践的な政策や事業計画を作成する力を習得します。

産業社会のあるべき形を考える

地域における製造業、サービス業、農林水産業の実態や、様々な種類や規模の企業や公共団体の経営・運営について、統計的なデータはもちろんのこと、現場の経営者や労働者、そして消費者の体験や視点を踏まえながら学びます。さらに、企業や公共団体の経営戦略や運営形態を調査して、評価方法などを習得します。企業の社会的責任など企業と地域社会の関係などについても学びます。

文化政策学科で学ぶ4年間

1年次

社会をみつめる視座と能力の開拓

幅広い教養科目と土台となるいくつかの専門科目の履修を通じて、文化政策を学ぶことの意義や、自らの目指す分野について考えます。同時に、情報リテラシー、データ検索、レポート作成、プレゼンテーションなどの基礎能力を身につけます。

2年次

多様な専門知識の習得

多様な学科専門科目の履修を通じて自らの専門領域の確立を目指します。また、企画立案や社会調査士資格に関する科目の履修を通して調査研究能力を高めます。2年次の終わり頃には卒業後の進路選択も視野に入れつつ、3年次から始まる演習（ゼミ）を決定します。

3年次

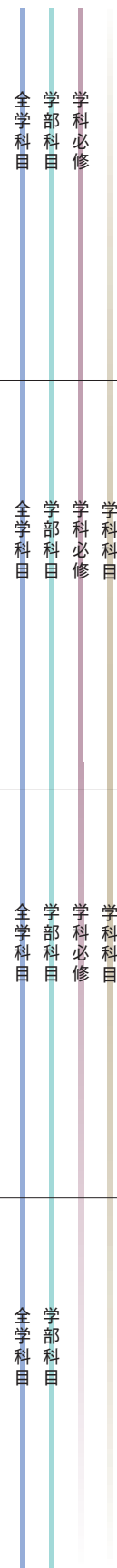
演習（ゼミ）を通じた専門の深化

いよいよ演習（ゼミ）が始まります。担当教員の指導のもと、少人数で学習に取り組むことにより、専門知識を深化させるとともに、自ら課題を発見・分析・解決していく能力に磨きをかけます。学科主催のプレゼンテーションイベントも開催されます。

4年次

「大学での学び」の集大成

大学生の総仕上げの学年です。これまでの3年間の学習成果の集大成として、ゼミ担当教員のもとで卒業論文やプロジェクトの作成に取り組みます。こうして培われた幅広い知識と実践力を活かして、就職や大学院進学などの進路を決定します。



開講科目例

多様な社会のテーマをどのように考えるか

「社会学」 [1~4年次/学科必修]



社会学が対象とする様々なテーマについて解説する授業です。社会学の理論、社会調査法、地域社会と文化、社会階層と格差、人種とエスニシティ、ジェンダーとセクシュアリティ、家族とライフコース、教育と学校制度、職業と労働、宗教と社会など、具体的に身近な事例から考えていきます。

社会調査とデータ分析の基礎を学ぶ

「リサーチ&プランニング基礎」 [1~4年次/学科必修]



この授業はリサーチ&プランニング実習に向け、社会調査やデータ分析の基礎を学びます。統計資料から有用な情報を取り出し、問題や課題を解決するための統計技法の考え方や手法について統計ツールの等を使って学習し、体験的に統計学の基礎を身につけることを目指します。

経営戦略の基本的なメカニズムの理解と活用

「経営戦略論」 [2~4年次/学科科目]



「レコード業界におけるCDからダウンロードへの対応」「デジタル対応テレビ市場における家電各社の競争」。企業が生き残るためには、競争相手との競争にうち勝っていかなければなりません。その経営戦略の主要な議論の流れと概念への理解を深め、経営計画へと落とし込むことを目指します。

課題解決策を立案するプロセスの実践

「リサーチ&プランニング実習」 [2~4年次/学科必修]



公共政策・企業経営に関する課題を設定し、その解決策を立案（プランニング）するためのプロセスを実践します。課題設定から調査の実施、結果分析・とりまとめと成果報告書作成、プレゼンテーションまで、社会調査の全過程を体験し、ファクトに基づいた立案ができる能力を身につけます。

地域の課題解決のために必要な法的知識

「行政法」 [3~4年次/学科科目]



行政法はあらゆる行政の活動の領域に関係しています。ここでの行政の活動には、社会の秩序維持や免許証の交付、店舗や飲食店の営業許可のほか、インフラ、ライフラインの規制、年金、社会保険、住居の建築規制など様々なものがあります。そうした場面にどのように「法」が関係しているのかを学びます。

各専門のゼミに所属し、自らの研究を進める

「文化政策演習」 [3~4年次/演習(ゼミ)・卒業論文・プロジェクト]



通称「ゼミ」と呼ばれる演習では、文化政策の視点から社会における問題を発見し、その解決のための調査を計画・実施し、自身の研究を進めます。グループ作業やディスカッション、自身の研究に対する効果的なプレゼンテーションなどを行うことで、自らが主体的に研究する力を身につけます。

地方財政を分析する力を身につける

「地方財政論」 [3~4年次/学科科目]



地域政策や自治体行政において、財政の重要性はますます高まっています。この授業では、地方財政の制度や現状について理解を深め、自治体の財政状況を分析する知識・能力を身につけることを目指しています。またその学びから受講者が実際に財政分析を行う力を養います。

大学における学びの総仕上げ

「卒業論文・プロジェクト」 [4年次/演習(ゼミ)・卒業論文・プロジェクト]



大学における学習・研究・実践活動の総仕上げとして、担当教員の指導を受けながら、各人が関心を持って設定したテーマに関する調査・研究・実践活動を行い、その成果をまとめます。成果をまとめる形式は、学術論文としてだけでなく、実践活動の提案書等の形で可能です。

ゼミ紹介



ゼミ生の声

地域の課題を解決するために
図書館に何ができるかを考える

図書館情報学 | 林 左和子 教授

ゼミ生全員で取り組んでいるのが、浜松市立湖東中学校での「UD絵本講座」です。「UD絵本とは皆が楽しむことのできる絵本」ということを、どう中学生に説明するかを皆で考えます。先輩学生の説明資料はあるのですが、それはあくまで参考資料で、毎年自分たちで説明資料を作成しています。この経験は、卒業論文にも活かしています。卒業論文のテーマは、図書館に関するものですが、経営や政策などの文化政策学科での学びを反映させたものとなっています。

将来の夢は図書館の仕事に関わることに
役に立つ情報を発信していきたい鈴木莉菜 | 文化政策学科 3年
三重県立宇治山田商業高校出身

デジタル化が進む中で「公共図書館の担うべき役割とは何か」について学んでいます。ユニバーサルデザインについても理解を深めながら、その意義を広めるために中学生向けの講座を開くなど学外に出てアウトプットする機会も多いです。情報を出す側に必要な力やわかりやすく伝える力がつきました。

卒業研究演習一覧

公共政策の分析と評価

担当教員：田中 啓 教授

ゼミ生は2年間をかけて行政や政策に関する専門的知識と政策分析・評価の理論や技法を学びます。また公共政策におけるNPOや社会起業家の役割にも注目しており、その具体例や運営手法も取り上げています。

情報技術を活用した社会の研究

担当教員：野村卓志 教授

生活の質を向上させるための社会システムを考えるのが文化政策です。そこで、情報技術を活かした社会をつくるにはどうするかをテーマとして、各学生は研究を進めています。

公共図書館を通して地域を見る

担当教員：林 左和子 教授

公共図書館を研究するにはその地域についても知る必要があります。図書館を通して地域にアプローチし、地域のために図書館は何ができるかを考えることを目標としています。

都市・地域計画、まちづくりの研究

担当教員：藤井康幸 教授

都市・地域の計画、まちづくりは間口が広く、幅広いトピックの学習、分析から入り、卒業論文に向けて関心分野を絞り込んでいきます。事例研究とフィールドワークを重視します。

中山間地域についての社会学的研究

担当教員：船戸修一 教授

ゼミでは、まずフィールドワークを通して中山間地域(農山村社会)の現状や課題を社会学的に把握することを学びます。そして各自で研究テーマを設定し、入念な現地調査をしたうえで、中山間地域を社会学的に分析します。

社会問題、社会変動に関する研究

担当教員：森 俊太 教授

社会問題や社会変化の原因、プロセス、影響などを、制度や文化を比較しながら研究します。綿密な調査と論理的な発表の繰り返しにより、学生の能力を向上させます。

経済史・産業史から現代を見る

担当教員：四方田雅史 教授

経済学・経営学の基本的な考え方を学ぶとともに、これまで経済・産業・企業がどのような変遷をたどったか、その背景にある経済・経営的要因について分析し、討論します。

経営戦略論、組織論を切り口に企業を研究

担当教員：曾根秀一 准教授

経営学、とりわけ経営戦略論、組織論、経営史の視点から現代社会において重要な位置を占める大小様々な「企業(会社)」について、理論およびフィールドワークも交えながら、研究を進めていきます。

社会の諸問題に関する公法学的研究

担当教員：村中洋介 講師

公法学(憲法、行政法)を中心に研究を行います。人権や憲法改正といった広いテーマから、地方自治、災害・防災法制や路上喫煙防止条例といった身近な課題まで、研究対象として扱います。

マーケティング視点で社会と向き合う

担当教員：森山一郎 教授

経営やマーケティング分野の研究を行います。常に消費者の立場で発想し、それを具体的な行動につなげていく。このような姿勢を養うために、講義等で身につけた知識を現実社会の様々な課題に対して活用していきます。

メディア・消費文化から社会を見る

担当教員：加藤裕治 教授

メディアや消費の文化と日常文化が分かちがたく結びついている現代社会の状況を理解し、その課題を明らかにしていきます。ゼミでは社会学を中心とした方法や研究をもとに、各自の研究テーマに取り組むことになります。

社会の中の人間の心に関する研究

担当教員：小杉大輔 教授

まず、心理学の研究法について、グループで体験的に学びます。そして、社会心理学を中心とした最新の研究動向を参考に、各自で研究テーマを決定し、調査を実践していきます。

行動や政策についての経済学的研究

担当教員：鈴木浩孝 教授

消費者や企業にとっての合理的行動をベースに、社会にとって望ましい状態を実現するためのルールや産業政策について、経済学の見地から客観的に考えていきます。

TOPICS

経営学の視点から地域経済や社会問題を考える

日本学生経済ゼミナール大会 (通称:インター大会)

曾根ゼミでは、「日本学生経済ゼミナール大会」に出場し、日頃のゼミでの研究成果の報告、他大学の学生とのディスカッションを通じて交流を深めています。同大会は、全国の経済・経営の学生を中心に65年以上続く国内最大規模(1500人参加)の学術大会として知られます。各学生の興味関心に沿って、「経営」、「地域経済」等の分野にエントリーし、2016年に経営分野で優勝および全国4位、2017年には経営および地域経済分野で優勝、2018年には3チームすべてが各分野で準優勝(優秀賞)を果たすなどSUAC生が躍動しています。発表に至るまでの理論研究、フィールド調査、資料作成、プレゼンテーションとこれまでの努力と貴重な経験を今後活かしてほしいと思います。



浜松の中山間地域で活動しています

農山村の集落を維持するための地域づくり

昨今、人口減少によって中山間地域の集落が消滅するような主張が見られます。しかし、集落に住む人たちの高齢化率が高くなるうとも、そこから転出した子ども・孫が足繁く実家に通い、その家の手伝いをしたり、集落の行事にも参加したりしている限り、そう簡単に集落は消滅しません。船戸ゼミでは、浜松の中山間地域における集落を訪ね歩き、農作業や集落の共同作業に参加しつつ、転出した子ども・孫と実家・集落との関係についての調査を行っています。その結果に基づく地域づくりの方策を調査報告会で発表し、地域住民の方々とともに中山間地域の集落を維持していくための実践活動を行っています。



取得可能な資格・卒業生の主な進路

卒業生の主な進路 (抜粋)

公務

愛知県庁	静岡市役所
岐阜県庁	島田市役所
群馬県庁	新城市役所
静岡県庁	豊橋市役所
鳥根県庁	福井市役所
山梨県庁	袋井市役所
静岡県警察本部	富士市役所
伊東市役所	沼津市役所
磐田市役所	浜松市役所
御前崎市役所	森町役場
掛川市役所	焼津市役所
刈谷市役所	静岡県教育委員会(教員)
蒲郡市役所	浜松市教育委員会(教員)
菊川市役所	金沢国税局

金融・保険業

愛知県中央信用組合	静岡信用金庫
遠州信用金庫	島田掛川信用金庫
JA静岡経済連	住友生命保険(相)
JAとびあ浜松	損保ジャパン日本興亜(株)
蒲郡信用金庫	第一生命保険(株)
静岡県労働金庫	豊橋信用金庫
静銀ビジネススクリエイト(株)	沼津信用金庫
(株)静岡銀行	碧海信用金庫
静岡県信用保証協会	日本銀行静岡支店
静岡東海証券(株)	日本生命保険(相)
静銀ティーエム証券(株)	浜松磐田信用金庫
(株)清水銀行	焼津信用金庫
(株)商工組合中央金庫	

製造業

(株)河合楽器製作所	スズキ(株)
------------	--------

はごろもフーズ(株)	ヤマハ発動機(株)
浜松ホトニクス(株)	ヤマハモーターソリューション(株)
(株)ヤタロー	ローランド(株)

サービス業(教育・広告・ホテルなど)・医療福祉

(株)SBSプロモーション	(福)天竜厚生会
(株)しずおかオンライン	長島観光開発(株)
静岡県農業団体健康保険組合	名古屋鉄道(株)
(株)静岡新聞社	日本郵便(株)
(株)静岡博報堂	日本情報産業(株)
静岡放送(株)	浜松商工会議所
(株)ジェイアール東海高島屋	富士ソフト(株)
(福)聖隷福祉事業団	(株)マイナビ

卸売・小売業

(株)遠鉄百貨店	ユニー(株)
鈴与商事(株)	(株)ロフト
ネットヨタ浜松(株)	

運輸・旅行業

遠州鉄道(株)	静岡鉄道(株)
(株)ジェイアール東海ツアーズ	富士山静岡空港(株)

建設業

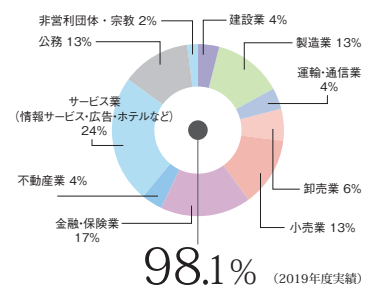
大和ハウス工業(株)	ミサワホーム(株)
------------	-----------

大学院進学

東京学芸大学	筑波大学
静岡文化芸術大学	名古屋大学

就職率

公立大学
トップレベルの就職率



取得可能な資格

詳しくは70ページをご覧ください。▶▶▶

教育職員免許状:中学校教諭一種 [社会]
教育職員免許状:高等学校教諭一種 [公民]
社会調査士
図書館司書
学校図書館司書教諭
日本語教員養成課程

※学生の学年表記は取材時(2019年度)のものです。※分類は本学の区分によるものです。

文化政策学部

芸術文化学科

定員55名

今日の社会における芸術の可能性を求めて。

複数形のArtsで表記される今日の芸術。

音楽、演劇、絵画、映像など単体で表現することもあれば、複数のジャンルがコラボレートして、新しい芸術ジャンルを生み出すこともあります。

芸術が社会でその力を発揮するためには、芸術が市民に受け入れられなくてはなりません。

芸術を生み出す芸術家のほかにも、芸術を学問的に研究する人、美術館や劇場など芸術組織の運営に携わる人や、より広い視点から政治や経済の仕組みを考える人などが必要となります。

芸術文化学科では、多角的な視野に立って芸術と芸術を支える社会システムの両面を理解し、多様な分野で芸術の持つ力を社会に活かすことのできる人材を養成します。



興味あるものへの扉を用意してくれる。 一歩足を踏み出せるのがSUAC

もともと芸術、特に音楽に興味を持っていましたが、演奏者の立場ではなく、音響や照明などの裏側がどうなっているかが気になるタイプの人間でした。地域を盛り上げるイベントにも関心があったので、芸術も地域政策もどちらも学べる本学科へ。今はアートマネジメントについて社会的な観点から興味深く学んでいます。SUACは地域との連携が強く、「地域連携実践演習」は地元と密接したカリキュラムで、学生の興味関心の実践をサポートしてくれる最高の場だと思います。自分はこの演習で、浜松の地元有志が運営する音楽フェスティバルに関わり以来毎年、新たな経験と発見を積み重ね、今後も活動を継続していく予定。イベント制作界の扉の中へ足を踏み出せたような気がします。音楽のまち・浜松で学んだノウハウを、いつか自分の地元を持ち帰り、イベントの企画運営に活かせたら嬉しいです。高校までとは違う学びにチャレンジしてみてください。

高3のとき 地域活性化に興味を持ち、「政治経済」の科目に力を入れる

1年次 「地域連携実践演習」を通して「やらまいかミュージックフェスティバル」と出会い、実行委員としてイベント制作の行われ方を学ぶ

2年次 「やらフェス」運営委員として、1年次よりも深くかかわることで学びを深める。音響照明技術研究会では部長として活動

3年次 「第13回やらフェス」でディレクターを務め、イベント制作における中核の大変さ、面白さを発見し、イベントの課題や問題点を知る

杉村公脩 SUGIMURA Kosuke

芸術文化学科 3年 愛知県立江南高校出身



興味のある分野を思う存分極められる。 それが学ぶ醍醐味だと思います

「舞台に関わる仕事がしたい」という思いで本学科を志望しました。高校時代にクラスで人形浄瑠璃の上演を行った経験から、舞台を「創る側」と「観る側」の間に立ち、つなぐ存在が必要だと感じたことが、私の学びの原点になりました。本学科では、芸術を支える制度やアートマネジメントが学べるだけでなく、演劇等の舞台芸術そのものについても理解を深めることができ、実践演習等では実際に一つのイベントが実現していくプロセスを知ることができるのが魅力です。私の場合は、サークルもプライベートも舞台に関わる活動につながり、様々な角度からアプローチできた4年間でした。就職活動でもこれらの学びや経験が活かせたと思います。春から勤める日本芸術文化振興会は、文化芸術活動への援助、伝統芸能や現代舞台芸術の振興などに取り組む国の外郭団体です。「東京五輪・パラリンピック」の日本博にも関わっているので、日本の文化芸術を国内外にどう発信していくのか…今からとても楽しみです。

日下怜子 KUSAKA Reiko

芸術文化学科 4年 奈良県立高田高校出身

高3のとき 高1で取り組んだ人形浄瑠璃の上演を思い出し、漠然と「舞台に関わる仕事」に興味を持つ

1年次 文化政策概論を受講し、舞台の経営やアートマネジメントにも関心が広がる。劇団で役者に、サークルで音響に、SUACの新能公演の企画運営に取り組む

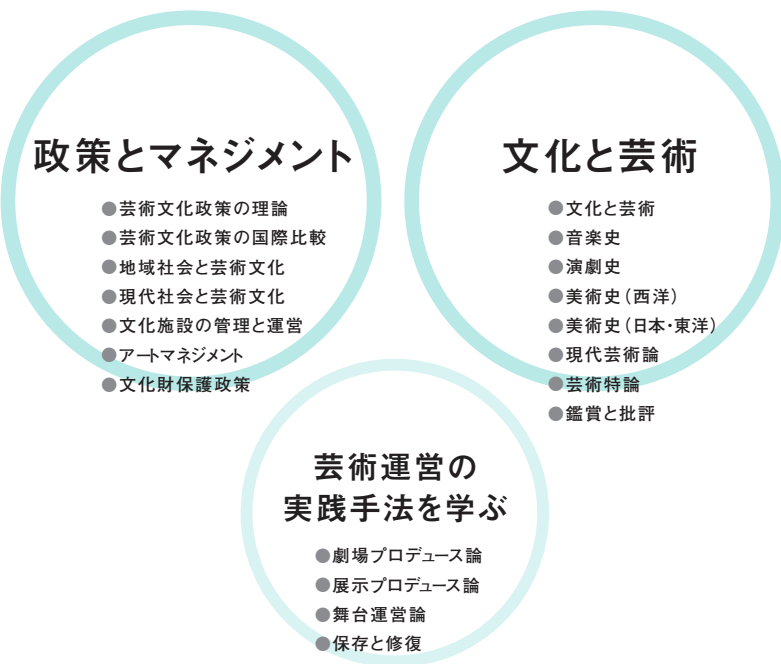
2年次 コンテンポラリーダンス公演に制作補助として参加。セミプロやプロと一緒に舞台をつくる

3年次 インターンシップでSPACや穂の国とよはし芸術劇場PLATで舞台に関わる仕事を体験する

進路 卒業後は、独立行政法人日本芸術文化振興会

人文科学と社会科学を多角的に 学ぶ充実したカリキュラム

芸術文化学科は芸術や文化について多角的に学ぶことができる学科です。芸術を主専攻としながらも政治・経済・経営・法律等についても十分な理解を持つとする学生、芸術について深い知識を持ちつつ社会科学の専門知識を駆使できるアートマネージャーや官民の政策プランナー等を志望する学生などを求めています。芸術文化学科のプログラムは2010年には芸術経営教育者協会 (Association of Arts Administration Educators, AAAE) に正会員として加盟し、グローバルな視点からも通用するよう教育のさらなる充実をはかっています。



- 芸術文化学科での学びの基礎は、高等学校の「地歴・公民」です。
- 「地理」で学ぶ地域文化と「日本史」、「世界史」で学ぶ文化史を深めるのが、美術史、音楽史、演劇史等の科目です。
- 「倫理」で学ぶ思想や哲学が美学につながり、「現代社会」、「政治経済」の学びが「政策とマネジメント」の科目群の基礎となります。

芸術、文化を理解する

多様な芸術、文化のありようについて学び、その諸相を探究します。歴史的認識の醸成と、最新の知識の取得によって、豊かな芸術、文化の内容を理解し、それらが現代に生きる私たちの感覚、意識をどのように形づくっているかを考えます。

芸術を社会科学の視点から学ぶ

人間の芸術活動を理解するためには、芸術作品や芸術家について理解するだけでは不十分です。芸術文化学科では、文化経済学等を基礎として、様々な制度・政策や国・自治体・企業等による支援、そして芸術組織等の経営について学びます。

芸術文化学科2つの側面から多角的に学ぶカリキュラム

芸術文化学科では「文化と芸術」「政策とマネジメント」というカリキュラムにおける2つの柱を設け、芸術や文化について人文科学と社会科学の両面から学びます。加えて、実践にも対応できる科目も開講し、理論と実践とのバランスのとれたカリキュラムを用意しています。

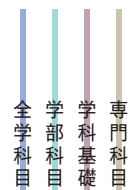
入学定員55名に対し14名の専任教員を擁し、きめ細かい少人数教育を行います。

芸術文化学科で 学ぶ4年間

1年次

新しい視点の開拓

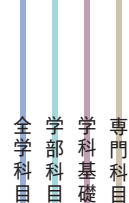
◆芸術文化を多様な側面から捉え、アカデミックな見方の可能性を体感する。◆1年次から多くの専門科目を開拓。◆興味のある分野から、自分なりの新しい視点を開拓する、大学生としての学習をスタート。



2年次

芸術を多角的に捉える

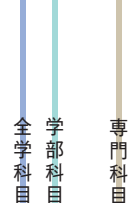
◆諸芸術に関する基礎理論の充実。◆芸術を支える様々な条件や環境を、人文科学的な観点からだけでなく、社会科学的な視点からも捉える力を養う。◆「芸術文化基礎」で、自分がこれから関心を深めていく領域と濃密に向き合い、確信を持ってアプローチする力を養う。



3年次

知識と実践力を身につける

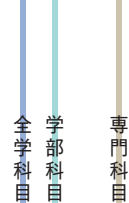
◆各自ゼミに所属し、自分が深めようとする研究領域の手がかりを見つけ、身につけた基礎知識と研究方法を活用し、独自の課題に取り組む。◆「芸術特論」などで、より専門的な知識や思考法を学びつつ、「芸術運営の実践」の科目群を積極的に活用しながら、知識と実践を結びつける。



4年次

テーマを深化させる

◆卒業論文のテーマを決め、論文の完成を目指す。◆ゼミを通して培ってきた専門領域の知識を深め、これまでに学んだことを総動員して、大学生生活の集大成とする。



開講科目例

芸術作品およびそれを成立させる社会との関わりを学ぶ
「視覚芸術論」【1~4年次/学部科目】



視覚芸術の意味とその可能性を探るために、主として西洋における視覚芸術の発展を振り返り分析的に考察します。幅広い観点から見渡して、歴史や社会、文化の脈絡の中で理解し、貴重な文化遺産の継承と、これからの日本さらに世界の文化発展の一端を担うための基礎知識を身につけます。

演劇が置かれている社会的環境や果たす役割を考察する
「演劇文化論」【1~4年次/学部科目】



舞台芸術の尽きない魅力とその本質を解き明かすために、日本および世界各国の劇場において上演されている舞台芸術作品を取り上げ、演劇が置かれている社会的環境や劇場が社会において果たしている役割、現状と今後の展望を、映像資料等を見ながら考察します。

近代日本の音楽文化を振り返り、未来を創造する
「音楽史Ⅱ」【1~4年次/専門科目】



私たちは、当たり前のようにピアノやギター音楽を楽しんでいます。それはどのような道筋をたどってきたのでしょうか。音楽史Ⅱは、これからの音楽文化を構想・創造するために、幕末・明治維新以降150年間を丁寧に振り返り、再考することを目的としています。

アートを運営する組織の取り巻く環境を学ぶ
「アートマネジメントA・B」【2~4年次/専門科目】



公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論を学びます。非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につけます。

文化施設のマネジメントを学び官民協働の運営を考える
「文化施設の管理と運営」【2~4年次/専門科目】



文化会館・博物館・図書館等の文化施設がいかに管理運営されているのか、を学びます。どんな人材が勤務しているのか、運営資金はどのように調達されているのか、いかなる場の管理が行われているのか、に関心を深めつつ、文化施設の将来像を見つめ直します。

議論を繰り返し各自の研鑽の助けをする
「芸術文化演習」【3~4年次/演習(ゼミ)・卒業論文】



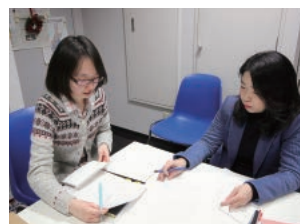
教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門テーマによる研究を演習形式で行います。文献講読、発表、報告を繰り返すことで学生同士の議論を重ねます。また、卒業論文執筆に向けてそれぞれの研究を進めます。

研究対象としての美術作品の見方を実地に学ぶ
「鑑賞と批評Ⅰ・Ⅱ」【3~4年次/専門科目】



実際に様々なジャンルの展覧会等に行き作品を観察することで、作品についての基本的知識を学ぶとともに、どのように作品を見るか実体験を通して習得します。その作品観察をもとに思考し記述する力を身につけるため、見学後は毎回テーマを設定しレポートを作成します。

自らの考えを論理的な文章にまとめる
「卒業論文」【4年次/演習(ゼミ)・卒業論文】



芸術文化演習によって獲得した知識、情報の活用方法を駆使し、自らの考えを論理的にまとめます。文献資料収集、読解、分析をし、これに基づいて理論を立てる作業を担当教員の指導とともに繰り返して卒業論文を作成させます。

ゼミ紹介



ゼミ生の声

日本美術は面白い。
作品をじっくり見て、調べ、考える

日本美術史 | 片桐弥生 教授

日本美術史を研究しています。まず美術作品をじっくり見、史料や先行研究を読み解いてわかることを、独りよがりではなく人に伝わるように説明できるようになることを目指します。ゼミ生の卒業論文のテーマは、各自の興味によって時代は古代から近代まで、ジャンルも絵画が主ですが、仏像や工芸を扱う学生もいて様々です。ゼミの発表のなかで、多様な作品や見方に触れることで世界を広げ、かつ論理的な思考ができるようになってほしいと思います。

一つの作品を紐解いていく
多様なアプローチが面白い

鈴木朋代 | 芸術文化学科 3年
新潟県立新発田高校出身

前期のゼミでは「一遍聖絵」の絵巻について、ゼミ生全員で文献や研究をもとに学びました。文献の探し方、読み方、研究の捉え方が身につく、作品を鑑賞する時に制作背景や制作過程についても考えるようになりました。各自が発表したり意見を述べ合ったり、とても有意義な時間になっています。

卒業研究演習一覧

過去の音楽文化から「現代社会」を考える

担当教員：奥中康人 教授

地方創生の掛け声の下で「B級グルメ」や「ゆるキャラ」のように音楽を利用するのはもうウンザリ。身近な音楽に目を配り、文化や芸術の枠組み自体を再考してゆくことを目的としています。

現地調査を通じて音楽と社会に向き合う

担当教員：梅田英春 教授

世界中の音楽は社会と深く関わっています。ゼミ生は民族音楽学の基礎を学んだ後、国内外で音楽に関するフィールドワークを一人で行い、その成果をもとに音楽と社会のつながりについて考えます。

劇空間の「見えにくい」構造の研究

担当教員：梅若猶彦 教授

能はそもそも「見えにくい」構造で成り立っており、学科基礎「芸術表現」の授業で講じたものの発展形や能の型などの研究をします。その他、ゼミ生は新作狂言を書き下ろしたりします。

残された美術作品に向き合う

担当教員：片桐弥生 教授

日本美術史の基本的な研究方法を、実際に作品をじっくり見、研究論文などを読むことで身につけます。残された美術作品が制作当時、何を意図して作られ享受されていたのか明らかにすることを目指します。

芸術文化で人々を幸せにする政策の研究

担当教員：片山泰輔 教授

芸術文化は単なる趣味や娯楽ではなく、公益であり、人権です。芸術団体や文化施設の課題や、教育や福祉等、社会の様々な課題を芸術文化によって解決するための政策のあり方を研究しています。

文化成立とは？芸術と社会の関係を探る

担当教員：立入正之 教授

「質実剛健」「文武両道」をモットーに、「西洋美術史」「比較美術史」「表象文化論」「芸術政策・産業」「文化財科学・博物館学」をキーワードに、広い視野を持ち学問に励みます。

現代芸術・視覚文化への理論的アプローチ

担当教員：谷川真美 教授

多様な形態をみせる現代の芸術や、日常生活をとりまく様々な視覚文化について、芸術の歴史と思想を手がかりとしながらその本質について考え、私たちの生きる現代とはどういふものか考えます。

演劇・劇場の学問は現場から生まれる

担当教員：永井聡子 教授

演出理念、空間、運営のメカニズムを分析する力を養います。帝国劇場、築地小劇場、東京宝塚劇場が海外の演劇史と作品を革命的に変えたように、観客が仕上げる演劇の本質を理論と実践から探究します。

公共政策の視点から文化振興を考える

担当教員：松本茂章 教授

学生たちの研究は、野外音楽堂の活用策、木造駅舎の保存活動、文化資源を活かす観光振興……などと実に多彩ながら、公共政策研究の視点で地域を見つめています。現場を歩き回って調査する日々です。

演劇の本質と可能性を探る

担当教員：井上由里子 准教授

古代ギリシャ悲劇から現代演劇まで幅広い戯曲・演出の分析手法を学び、作品世界の理解を深めます。同時に、型破りな演劇(前衛演劇や応用演劇)の研究を通して演劇とは何か、演劇に何ができるのかを考えています。

西洋の音楽文化・音楽と社会の関係を探る

担当教員：上山典子 准教授

西洋を中心とする音楽文化や、音楽と社会、音楽と政治、音楽と戦争などをテーマに、基本文献から最新の論文までを読み、議論を重ねることで、知識と視野を広げていきます。

文化・芸術活動を担う人々や団体を見る

担当教員：高島知佐子 准教授

文化・芸術活動を経営の視点から見ます。フィールドワーク(現地調査)を通して、活動内容や活動の背景をひもときます。また、社会に関する文献を多く読み、理論と現場から思考力・分析力を養います。

博物館・美術館の機能と役割を考える

担当教員：田中裕二 准教授

社会のニーズが多様化し、博物館に求められることも変わり、運営には学芸員だけではなく多彩な人材が必要とされています。博物館が直面する現状と課題を認識し、博物館の最適な運営手法や社会的な役割を考えていきます。

法・制度を踏まえて文化政策を考える

担当教員：中村美帆 准教授

芸術や文化に関わる法・制度の知識を学びつつ、過去から現代に至る様々な文化政策を検証し、社会における文化の位置づけに関する課題と可能性を考える研究に取り組んでいます。

TOPICS 専門家の現場から学ぶ実践的な学習

<学科基礎> ■担当教員…梅若篤彦 教授

芸術表現

単調で退屈に思われるであろう、能の姿勢(カマエ)と摺足歩行(ハコビ)を稽古してもらっているところです。しかしこれが能の身体的中心思想で、重要なものであることが次第に理解できるでしょう。仮面をつけるとより良い勉強になります。



<芸術運営の実践> ■担当教員…永井聡子 教授

劇場プロデュース論

アートマネジメントの根幹をなす劇場(ホール)プロデュースを、劇場見学や企画・制作の実践を通して学び、劇場における諸問題を考察していきます。



卒業論文発表会

卒業研究の成果を発表するため、毎年論文の発表会を開催しています。2018年度は10本の発表が行われました。卒業生も、新年度入学予定の生徒も集まって、「ゲイブン」での学びの集大成に接する機会です。



取得可能な資格・卒業生の主な進路

卒業生の主な進路 (抜粋)

文化財団・文化施設など

- | | |
|---------------------|----------------|
| (株)エスピーエスタくみ | (公財)静岡市文化振興財団 |
| (株)ケイミックスパブリックビジネス | (公財)しまね文化振興財団 |
| サントリー・パブリシティサービス(株) | (公財)豊橋文化振興財団 |
| (株)宝塚舞台 | (公財)浜松市文化振興財団 |
| (株)若尾総合舞台 | (公財)横浜芸術文化振興財団 |
| 磐田市香りの博物館 | 人形劇団むすび座 |
| (独)日本芸術文化振興会 | (有)劇団かかし座 |
| (公財)静岡県文化財団 | |

マスコミ・広告

- | | |
|----------------|--------------|
| (株)エイエイピー | 静岡放送(株) |
| (株)キョードー東京 | (株)テレビ山梨 |
| (株)SBSプロモーション | 浜松ケーブルテレビ(株) |
| (株)SBSメディアビジョン | (株)ピーエーシー |
| (株)静岡新聞社 | |

公務

- | | |
|------------|--------|
| 厚生労働省静岡労働局 | 岐阜市役所 |
| 静岡県庁(警察行政) | 福知山市役所 |
| 静岡市役所 | 三島市役所 |
| 浜松市役所 | 松本市役所 |
| 掛川市役所 | 江南市役所 |

製造業

- | | |
|-------------|----------|
| (株)アブライズ | (株)デンソー |
| (株)おいもや | 浜名湖電装(株) |
| オオセキ写真印刷(株) | ピアス(株) |
| スズキ(株) | 矢崎総業(株) |
| (株)石舟庵 | (株)ヤタロー |
| チャコット(株) | |

金融・保険業

- | | |
|----------------|-----------|
| あいち中央農業協同組合 | (株)清水銀行 |
| 遠州中央農業協同組合 | 第一生命保険(株) |
| 静岡ティーエム証券(株) | 日本生命保険(相) |
| 静岡県信用保証協会 | 浜松磐田信用金庫 |
| 静岡ビジネスクリエイト(株) | 山梨信用金庫 |

ガス・運輸・旅行業

- | | |
|-----------------|------------------|
| 遠州鉄道(株) | 鈴与(株) |
| 近畿日本鉄道(株) | (株)TOKAIホールディングス |
| 中部国際空港旅客サービス(株) | 中部ガス(株) |

卸売・小売業

- | | |
|----------|----------------|
| 天方産業(株) | (株)東急ハンズ |
| (株)安心堂 | ネットヨタ静浜(株) |
| 資生堂販売(株) | (株)ヤマハミュージック東海 |

サービス業・その他

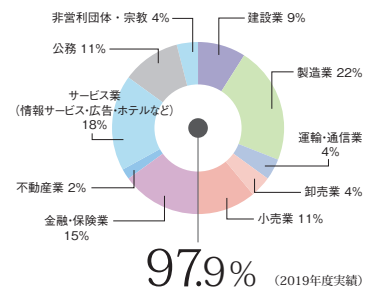
- | | |
|-------------------|-------------------|
| (株)アントレ・サン・フラッペ | デジタルハリウッド(株) |
| エヌ・ティ・ティシステム開発(株) | テレビ静岡システムクリエイト(株) |
| (一財)静岡県建築住宅 | (株)ドリームプラザ |
| まちづくりセンター | 日本郵政(株) |
| (株)秀英予備校 | LEGOLAND Japan(株) |
| (株)全国商店街支援センター | (福)天竜厚生会 |
| (株)スペース | |

大学院進学

- | | |
|--------|-------|
| 静岡大学 | 成城大学 |
| 上越教育大学 | 立命館大学 |

就職率

公立大学
トップレベルの就職率



取得可能な資格

詳しくは70ページをご覧ください。▶▶▶

- 図書館司書
- 博物館学芸員
- 日本語教員養成課程
- 社会調査士

世界と日本をつなぎ、観光立国を目指す時代へ。 新しい学問領域から、次世代の人材を育成します。

世界中の人々が、魅力的な出会いを求めて旅をする観光のグローバル化が進む中、観光は日本や地域の経済を活性化させる重要な成長分野になっています。そのような社会に求められているのは、文明という広い視野から観光というもののもつ創造力を捉えようとする新しい学問領域です。本コースは、その知見に基づいて、新たな観光資源の発掘や文化・芸術を活用した観光事業の開発に携わる人材の育成を目指します。

文明観光学コース

Civilizations and Tourism Studies Course

文化政策学部 3学科共通：国際文化学科／文化政策学科／芸術文化学科

目指す人材像

新しい観光資源の発掘

◎名所・旧跡や食・温泉などの観光資源に加え、文化遺産や産業遺産、芸術文化活動など、新しい観光資源の発掘を担える人材を育成します。

観光分野における地域活性化

◎静岡県内を中心に行うフィールドワークの体験を活かし、地場産業や伝統文化を踏まえて、観光分野における地域活性化を推進できる人材を育成します。

グローバルな視野による貢献

◎実践的な外国語能力と文化・芸術分野の実務能力を備え、グローバルな視野から地域の観光産業に貢献できる人材を育成します。

コースの仕組みと履修の流れ

本コースは、文化政策学部の3学科すべての学生が履修することができます。

◎1年次のガイダンスで、カリキュラム(必修・選択科目、ゼミ選択など)についての説明を受け、該当する科目を1～2年次の間に履修します。

◎2年次に、ゼミ説明会や面談などを経た上で、文明観光学ゼミを選択します。(一定の定員があります)

◎3年次から、文明観光学コース専任教員によるゼミに所属し、卒業研究の指導を受けます。

◎文明観光学コースを履修した学生は、文化政策学部各学科の卒業証書に加え、文明観光学コースの修了証を取得します。

国際文化学科

文化政策学科

芸術文化学科

文明観光学コース



写真：静岡県観光協会

開講科目例

文明と観光

■担当教員…横山俊夫 学長 他 ■開講年次…1年前期
文明観光学コースの基礎となる必修科目です。まず「文明」と「観光」の概念が多様であることを示して、その上で、現代の世界や日本の諸地域に望ましい「文明」を考えつつ、「観光」について考えます。

観光学概論

■担当教員…石本東生 教授 ■開講年次…1年前期
世界と日本における観光の発祥から、団体旅行などのマストゥリズムへの発展と課題、その後のオルタナティブ・ツーリズムやサステイナブル・ツーリズムへの展開など、観光の歴史的潮流を広い視野から学びます。

観光地理学

■担当教員…青木 健 教授 ■開講年次…2年後期
自然環境と社会の関係を解く地理学の視点から、観光について考えます。特に、異なる文化圏の人々が交流し交易した、日本の東海道、ユーラシアのシルクロードなどの街道を取り上げ、観光資源としての魅力を探ります。

履修モデル

このモデルは例を示したものであり、個々の学生の関心により、実際の入学時から2年次頃までの選択科目(全学、学部、学科)、卒業研究のテーマは異なります。

※1 地域連携演習の中から、文明観光学コース指定の実習を含むプログラムを履修します。
※2 明朝体文字は、文明観光学コースで指定された選択科目ではありませんが、関心や卒業研究のテーマに関係する、本学で学べる科目の例示です。



文化政策学部 教員紹介

国際文化学科

下澤 嶽 SHIMOSAWA Takashi

教授 / 学科長
国際協力 /
NGO・NPO

国際協力、NGOやNPOの未来社会における役割、可能性について一緒に考えていきたいと思っています。

池上 重弘 IKEGAMI Shigehiro

教授 / 英語・中国語教育センター長
文化人類学 /
多文化共生論

日本や諸外国における多文化状況をめぐる政策や東南アジアの文化事象について研究しています。

イシカワエウニセアケミ ISHIKAWA Eunice Akemi

教授
社会学 / 移民研究

越境して移動する人々(移民)の移住先における異文化体験とエスニシティについて研究しています。

林 在圭 LIM Jaegyung

教授 / 教務部長
韓国文化 / 韓国語

専門は韓国文化・韓国語で、特に日本や韓国の村落社会を対象とした伝統的・基層的な生活文化を研究しています。

Edward Pearse SARICH

教授
英語教育

学生が使える英語を修得できるような支援体制を整えていきます。学生自らの「やりたい」という気持ちを大切にしています。

岡田 建志 OKADA Takeshi

教授
東南アジア史

専門はベトナム史です。20世紀初めのベトナムの民族運動を中心に研究しています。授業では、広く東南アジアの歴史や社会を考察します。

Jack RYAN

教授
英語教育

英語への好奇心を引き出し、国際社会で活躍できるよう育成するとともにコミュニケーション能力、読み書き能力の向上も支援します。

鈴木 元子 SUZUKI Motoko

教授 / キャリアセンター長
英米文学 /
アメリカ文化

アメリカ文学作品の中に文化の諸相を読み取ることに、特に人種と階級の観点からの読みを研究しています。

瀬戸 知也 SETO Tomoya

教授
教育学

教育問題(いじめや不登校等)や学校文化について、特に子どもの社会化や物語性の観点から研究しています。

高木 邦子 TAKAGI Kuniko

教授
教育心理学 /
発達心理学

青年期の有能感の特徴と形成要因についての研究と、青年期の対人関係や職業選択要因についての研究をしています。

武田 好 TAKEDA Yoshimi

教授
イタリア語 /
イタリア文化

専門はイタリア語・イタリア文化研究です。ルネサンス期から現代につながる文化を個人と国との関わりから考えていきます。

永井 敦子 NAGAI Atsuko

教授
西洋史

近世フランスの都市文化を研究し、講義では西洋近代文明にもふれます。ゼミでは外国語文献を使って西洋の歴史と文化を考察します。

西田 かほる NISHIDA Kaoru

教授
日本史 / 文化史

日本近世史、特に宗教史・文化史が専門です。ゼミでは近世以降の史料読解を中心に、身近な歴史・文化・地域を考察していきます。

二本松 康宏 NIHONMATSU Yasuhiro

教授
日本文学 / 伝承文化

物語や伝説・信仰などが生まれる環境や風土の研究をしています。こだわりたいのはフィールドワークによる感動と実証です。

美濃部 京子 MINOBE Kyoko

教授
イギリス口承文芸

英語で伝承された昔話や伝説などを研究しています。世界の類話の比較もしています。

横田 秀樹 YOKOTA Hideki

教授
心理言語学 / 英語教育

第二言語(外国語)習得のメカニズムを、理論言語学に基づいて調べています。また、外国語の学習方法についても研究しています。

崔 学松 CUI Xuesong

准教授
中国文化社会 / 東アジア国際関係 / 言語社会学

東アジア国際関係が円滑でない今日、多民族社会の中国など周辺地域とともに運んで生きる知恵について一緒に考えていきたいです。

徳増 克己 TOKUMASU Katsumi

准教授
中東北部と旧ソ連の境界地域史

主に「アゼルバイジャン人」等の民族形成の過程を研究しています。ゼミでは内外の文献を通して近代以降の中東について考えます。

西脇 靖洋 NISHIWAKI Yasuhiro

准教授
国際関係論

主としてEU(欧州連合)を事例とした地域統合や、ボルトガルを中心とした南欧諸国の政治外交について研究しています。

水谷 悟 MIZUTANI Satoru

准教授
日本近現代史

専門は日本近現代史です。明治～大正期の雑誌による思想運動を、政治・メディア・地域等に注目して研究しています。

俞 嶸 YU Rong

准教授
中国経済 /
開発経済学

中国の格差問題、財政制度について研究しています。特に、経済成長と格差の関係に関心があります。

武田 淳 TAKEDA Jun

講師
開発人類学 /
環境と開発

フェアトレードや観光を切り口に、開発途上国の貧困や環境問題を研究しています。現場の視点から「地域の発展」を考えましよう。

中田 健太郎 NAKATA Kentaro

講師
フランス文学 /
視覚文化論

フランスではじまったシュルレアリスム運動について、またシュルレアリスム以降の視覚文化について研究をしています。

文化政策学科

森山 一郎 MORIYAMA Ichiro



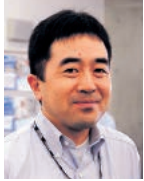
教授/学科長
経営学/
マーケティング論
製造業や小売業のマーケティング戦略について研究しています。これからの市場創造のあり方をともに学んでいきましょう。

小杉 大輔 KOSUGI Daisuke



教授
心理学
人間が社会の中で、何をどのように感じ、考え、行動し、発達するのかについて、心理学的に研究しています。

田中 啓 TANAKA Hiraki



教授
行政学/
政策評価・行政評価
行政学、地域政策、公共サービスなどの領域から、特に地方行政や行政評価などの研究をしています。

林 左和子 HAYASHI Sawako



教授/入学試験・高校大学連携センター長
図書館情報学
公共図書館はなぜ無料なのかを考えるために、外国の図書館史や児童サービス、特にユニバーサルデザイン・絵本を研究テーマとしています。

船戸 修一 FUNATO Shuichi



教授
社会学/地域社会学
農村は人口減少や高齢化が進んでいます。このような地域の存続可能性を「社会学」の立場から研究しています。

四方田 雅史 YOMODA Masafumi



教授
社会経済学/
産業史
日本やアジアに存在する産業やその産地が現在の状況に至った過程や原因について、戦前まで歴史を遡って研究しています。

村中 洋介 MURANAKA Yosuke



講師
憲法/行政法/
災害法制
地方自治に関する研究を、憲法、行政法の観点から行っています。近時は、災害法制に関する研究にも注目しています。

加藤 裕治 KATO Yuji



教授/大学院文化政策研究科長
文化社会学/メディア論
メディアを通して形成される文化が社会に与える影響について、マスメディアの歴史的研究の立場から考察しています。

鈴木 浩孝 SUZUKI Hirotaka



教授
応用ミクロ経済学/
産業組織論
複占・寡占市場での企業間の競争や取引について、その仕組みを数理的に解明する研究をしています。

野村 卓志 NOMURA Takashi



教授
情報アーキテクチャ
情報技術の面から文化政策を考え、より良い生活を達成する社会システムについて研究しています。

藤井 康幸 FUJII Yasuyuki



教授
都市・地域計画/
まちづくり/創造都市
都市・地域の計画や経営、まちづくりについて、個性的な魅力ある都市、持続可能な都市を意欲しつつ、研究しています。

森 俊太 MORI Shunta



教授/副学長
社会理論/
社会包摂
社会的排除や包摂のテーマについて、理論を踏まえ、歴史と比較社会の視点を重視しつつ研究しています。

曾根 秀一 SONE Hidekazu



准教授
経営学/経営戦略論/
経営組織論
経営戦略、組織論、経営的視点から、特に老舗企業や地場産業の存続と衰退について、国際比較も含め研究しています。

芸術文化学科

奥中 康人 OKUNAKA Yasuto



教授/学科長
音楽学
専門は近現代日本の音楽史。特に日本に外国音楽が流入することによって生じる文化変容や土着化現象について研究しています。

梅若 猶彦 UMEWAKA Naohiko



教授
古典芸能史/
身体性の研究(身体哲学)
専門は身体文化、能楽。ゼミでは現代劇の脚本・演出・演技の指導をしています。

片山 泰輔 KATAYAMA Taisuke



教授
芸術文化政策/
財政・公共経済
人々が芸術を楽しみ、創造的で活力ある社会をつくるために、行政の役割や、社会の仕組みを研究しています。

谷川 真美 TANIGAWA Mami



教授
現代美術/
芸術学
現代の芸術現象を手がかりに、私たちが生きているこの時代に関わる思想や世界のありようを研究しています。

松本 茂章 MATSUMOTO Shigeaki



教授
自治体文化政策/
まちづくり政策
官民協働や地域ガバナンス(共治)の視点から自治体文化政策を研究しており、全国の文化施設を訪ね歩いています。

上山 典子 KAMIYAMA Noriko



准教授
西洋音楽史
専門は西洋の音楽史や文化研究で、音楽が社会の中でどのように生み出され、受容されていくのに関心があります。

田中 裕二 TANAKA Yuji



准教授
博物館学/
日本近代史
博物館の運営や近現代の企業による芸術支援について研究しています。博物館学委員の資格取得にかかわる指導も行います。

梅田 英春 UMEDA Hideharu



教授/学部長
音楽学
アジア各地の音楽を研究しています。授業では、普段聞き慣れない音楽を通して、音楽と社会の関係について考えます。

片桐 弥生 KATAGIRI Yayoi



教授
日本美術史
私たちの祖先が創り出した美術作品には何が求められていたのか、その歴史的位置付けを明らかにしつつ、探っています。

立入 正之 TACHIIRI Masayuki



教授
西洋美術史
ミレー、バルビゾン派などのフランス近代絵画と、歴史や社会における美術の役割を研究しています。

永井 聡子 NAGAI Satoko



教授
演劇・ミュージカル研究/
劇場プロデュース論
感動とは何か。西洋と日本の演劇・劇場史と舞台芸術の現場から理論を研究。舞台と観客の可能性を探ります。

井上 由里子 INOUE Yuriko



准教授
演劇学/
西洋演劇史
専門はフランスの現代演劇です。演劇の本質を掘り下げると同時に、演劇の持つ豊かな可能性をきり拓くことを目指しています。

高島 知佐子 TAKASHIMA Chisako



准教授
アートマネジメント
文化芸術団体はどのように活動を継続、発展させているのか。活動を担う人々、それを支える組織や産業に着目し研究をしています。

中村 美帆 NAKAMURA Miho



准教授
文化政策と法・制度/
文化資源学/文化経営学
多様な文化の豊かさを尊重し、社会の中で活かしていくための法・制度のあり方について、研究しています。

ユニバーサルデザインを基本に、使う人の立場に立った提案を。

時代とともに変化する人間や文化の多様性を視野に入れながら、ユニバーサルデザインの理念のもと、デザインによって誰もが快適に生活できる環境を提案し、社会の発展と文化の向上に貢献するために、国際的に活躍できる能力を養い、生活文化と技術、環境との調和のとれた関係を、美的感覚を持ってつくりあげていくことのできる人材を育てます。また、デザインを通して、人と人、人と技術、人と環境、人と情報とのより良い関係を考え、これからの人間社会に必要な生活文化を創造していくためのデザイン活動に必要な素養を磨いていきます。

デザイン学部

デザイン学科

デザイン学科での学び

社会でのデザインの役割を考える

デザイナーとしての基礎となる色彩やデッサン、デザインを取りまく文化や歴史、社会でのデザインが果たす役割を学び、「デザインする」ことを多角的に理解した上で、より良いデザインの提案やそのためのスキルを習得していきます。

造形基礎力 → 応用的造形技法の修得というステップを重視

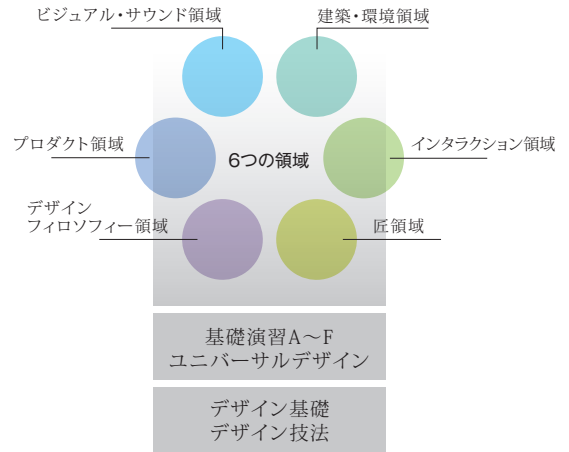
デザイン共通科目として、専門の学びの前に様々な素材、加工法など、技術の基本を広く学びます。これらの実践的な知識があつてこそ、新しく機能的な提案を生み出すことができます。「表現技法I・II」、「立体造形I・II」では、デザイナーの創造を支える、モノを見る力、成り立ちを理解する力を養います。

充実した工房群で自由な創作活動

自動車のデザインを体系的に学べるクレイモデル室、塗装乾燥室、撮影スタジオや木材・金属・プラスチック・ガラス等各種素材を学べる一般工房。またはCG制作、デジタル合成などを行うグラフィックWS室やマルチメディア室、CAD・CAMを使ったデザインのための3Dプリンターを備えたCAMモデル室など、情報系工房を取り揃えた多彩な工房群とともに過ごす4年間は、創造の力を伸ばすのに絶好の環境です。

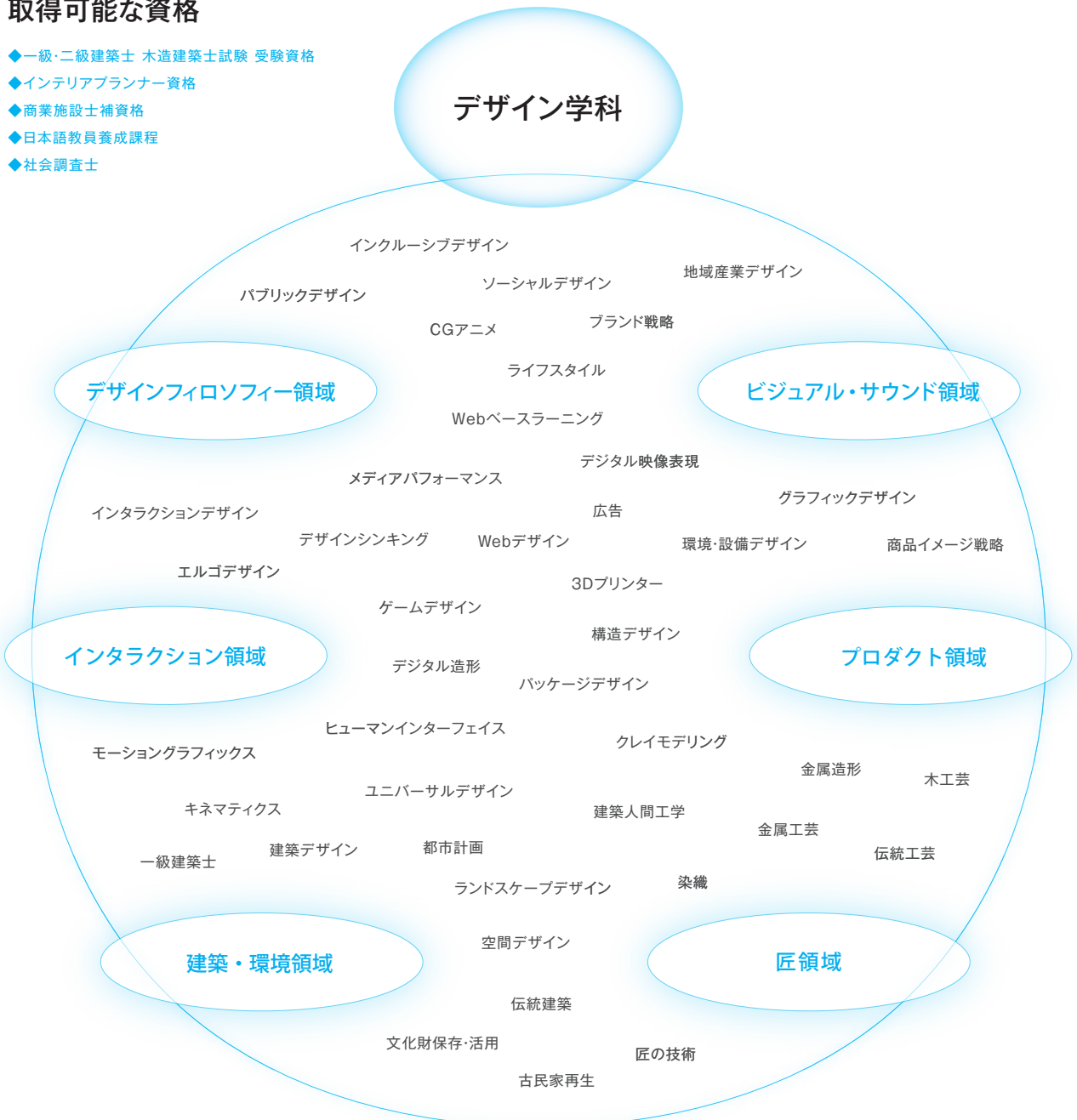
デザイン学部で学べること デザイン6領域での関連ワード

デザイン学科では、1年次から2年次前期までに幅広くデザインの現況、歴史、技法、素材の特性など、全てのデザイナーにとって必要な要素を学びます。その後、6つの領域から専門とする分野を選択して深く学んでいきます。6つの領域は、広いデザイン世界の中の主な柱となる分野を選び出し、設置しています。領域選択後でも、他領域と融合した作品制作や研究なども可能で、思索の範囲は狭まりません。現代社会で生きるデザイン力を身につけることのできる教育体制となっています。



デザイン学科の6領域での 取得可能な資格

- ◆一級・二級建築士 木造建築士試験 受験資格
- ◆インテリアプランナー資格
- ◆商業施設士補資格
- ◆日本語教員養成課程
- ◆社会調査士



デザイン学部

デザイン学科

定員110名

基礎教育から進路までのイメージ

1年次前期

1年次後期

2年次前期

基礎的な学び

デザイン基礎

社会が求める統合的かつ多様なデザイン力を涵養するため、幅広いデザイン領域に共通する概念や理論の修得および現代のデザインへつながる歴史やデザインをとりまく社会等に関する知識の修得、国際的なデザイン活動を支える基礎力の修得を目指す科目群から学びます。

デザイン技法

豊かな感性と想像力を備えたデザイナーとして社会で活躍するために、考えたアイデアを平面や立体に的確に表現することで、デザイナーに必要とされる顧客や社会とのコミュニケーションを図る手法を学ぶとともに、新たなアイデアの創造につながるデザインの基礎から応用にわたる造形技法を修得するための科目群から学びます。

ユニバーサルデザイン

SUACのデザイン教育・デザイン研究の基調となる、文化・能力・年齢・性別等の違いにかかわらず全ての人にやさしいユニバーサルデザイン、あらゆる立場の人を含むインクルーシブデザインの考え方を理解し、社会の中で幅広く実践できる能力を養う科目群から学びます。

学科専門

1年次後期から2年次前期において、複数領域の基礎演習を体験することを通じて専門的な知識や造形技法を修得し、デザインを総合的に捉え、実践できる力を養う科目群から学びます。

■学科専門

基礎演習A=デザインフィロソフィー領域
基礎演習B=プロダクト領域
基礎演習C=ビジュアル・サウンド領域

基礎演習D=建築・環境領域
基礎演習E=インタラクション領域
基礎演習F=匠領域

左記の基礎演習A～Fの内3つを選択

希望を提出し、領域を選択

幅広いデザイン知識と技術の修得

1年次から2年次の前期までの期間、デザイン共通科目の3つのカテゴリー ①デザイン基礎 ②デザイン技法 ③ユニバーサルデザインから幅広くデザインについて学びます。さらに、複数領域の基礎演習の体験を通して、社会の変化に対応できる柔軟なデザイン思考力を養います。

希望と適性に基づく領域の選択

デザインの基礎を身につけてデザイン分野の幅広い進路を理解した後、一人ひとりの学生の興味と希望を尊重しつつ、学業成績に基づいた適性判断や卒業後の進路などについて教員と相談しながら、2年次後期に所属するデザイン専門領域を選択していきます。

2年次後期

3年次前期

3年次後期

4年次前期

4年次後期

専門的な学び

デザインフィロソフィー領域

プロダクト領域

ビジュアル・サウンド領域

建築・環境領域

インタラクション領域

匠領域

卒業研究・制作とゼミ
について

3年次後期からそれぞれの領域内でさらに担当教員(ゼミ)を選択し、卒業研究・制作につながる専門分野の知識や技能を深化させます。

進路(例)

- プロダクトデザイナー
- Webデザイナー
- エディトリアルデザイナー
- グラフィックデザイナー
- ゲームデザイナー
- インターフェイスデザイナー
- クラフトデザイナー
- テキスタイルデザイナー
- 商品企画
- デザインディレクター
- パッケージデザイナー
- CGデザイナー
- 家具デザイナー
- インテリアプランナー
- 一級・二級建築士
- 木造建築士
- 商業施設士
- 公務員
- 伝統工芸作家
- 大学院進学

領域にまたがる専門的な学び

各領域の専門的な学びにつながる多様な科目が学科専門として配置されています。学科専門科目は領域ごとの区分が設けられていませんので、選択した領域や領域担当教員の科目だけでなく、多くの専門科目から興味や希望に合った科目を選択して履修ができます。

多様な活躍の場

現代の社会状況にあって、デザインを総合的に捉える力を専門分野での実践で活かす場は大きく広がっています。各分野のデザイナーをはじめ、企業や官公庁など、4年間の学びで培われた力を活かすことのできる、多様な活躍の場が待っています。

デザインフィロソフィー領域

Design Philosophy

歴史・文化・技術等の学術的な知見をもとに、社会の幅広い分野においてデザインの役割を拡張できる人材を養成していきます。

デザインとは何かを考える

デザインの基本は考えることです。デザインフィロソフィー領域では、学部を超えた様々な専門領域と連携し、芸術的感性だけでなく、歴史・文化・科学の知識を活かしながら、身近な暮らしや社会の中に問題を発見し、どのようなモノやコトがあれば解決できるのかを論理的、実証的にトータルに考えます。そして、様々な知恵やアイデアを結び合わせ、解決策の実現を目指します。このプロセスを通して、デザイン論や手法を具体的に理解しながら、主に次のような分野についての研究や制作を進めていきます。

■ デザイン論、デザイン史

デザインの専門性やプロフェッション、デザインの運動性と社会性、近代・現代のデザインの歴史、技術・芸術・産業・文化とデザインなど

■ 社会デザイン、地域デザイン

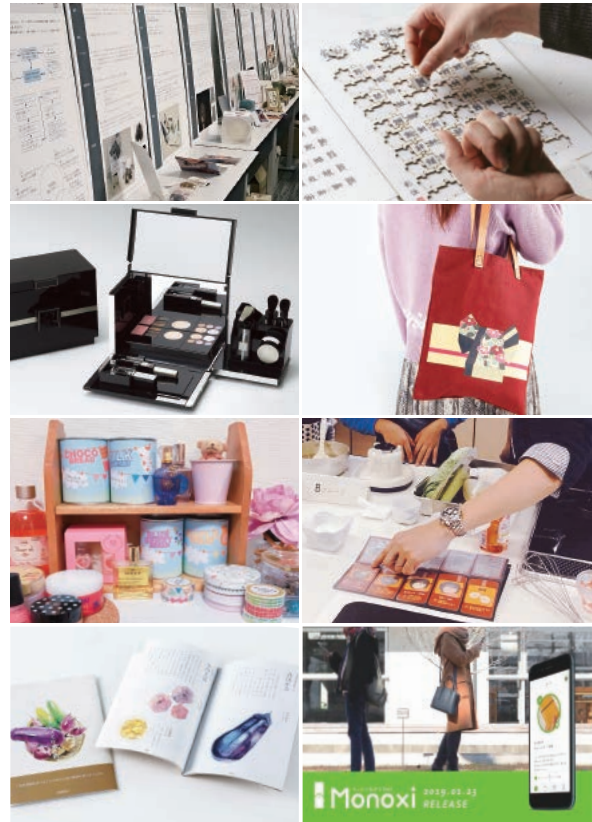
ソーシャルビジネスや社会システム、コミュニティのデザイン、地域の産業活性化やまちづくりのデザイン、地域連携やコミュニケーションのデザイン展開など

■ 人間中心デザイン、デザイン方法論

人間工学に基づくデザイン、ヒューマンインターフェイスやフィッティングのデザイン、ユニバーサルデザイン、デジタルモデリング手法など

■ デザインマネジメント、プロモーション

トータルデザインのプロセスやシステム、企業や商品のブランドデザイン戦略、デザインマーケティング、セールスプロモーションなど



開講科目例

基礎演習A

■担当教員…各教員 ■開講年次…1年次後期

ポスターやコンビニなど身近なモノやサービス・空間を対象に、着目した課題を様々な手法を使って分析し、気づいたことや新しいデザインの方向性などを個々に発表します。様々な視点からのフィードバックを通して、デザインプロセスをより論理的に学びます。



ユニバーサルデザインII

■担当教員…小浜朋子 教授
■開講年次…2年次前期集中

自分と異なる特性を持つ人と共に行動し、観察、分析、ディスカッションを通して日常生活における課題を明確にし、考案した解決策を発表します。3日間集中して、UDを具現化するために必要な一連のノウハウを、机上の授業だけでは得られない体感を通して総合的に学びます。



デザイン史

■担当教員…天内大樹 准教授
■開講年次…1年次前期

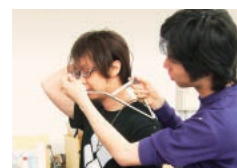
なぜ、「デザイン」という言葉がある時期に求められ、世界中に広まり、専門人以外にも使われるようになったか——答えは物そのものよりも人間の考え方にあるはずです。具体的な物を通じて、その考え方をたどります。



フィッティングデザイン

■担当教員…迫 秀樹 教授 ■開講年次…2年次後期

すべての人に合ったものをデザインすることは難しいことです。それは、使う人の身体的特性や心理的特性が多様だからです。この授業では、使用者の特性に応じた製品や空間をデザインするための考え方や適合度を検討するための手法について習得します。



プロダクト領域

Product Design

生活者の視点を軸に、実作的な方法により、心豊かな暮らしにつながるプロダクトデザインを
探求・提案できる人材を養成していきます。

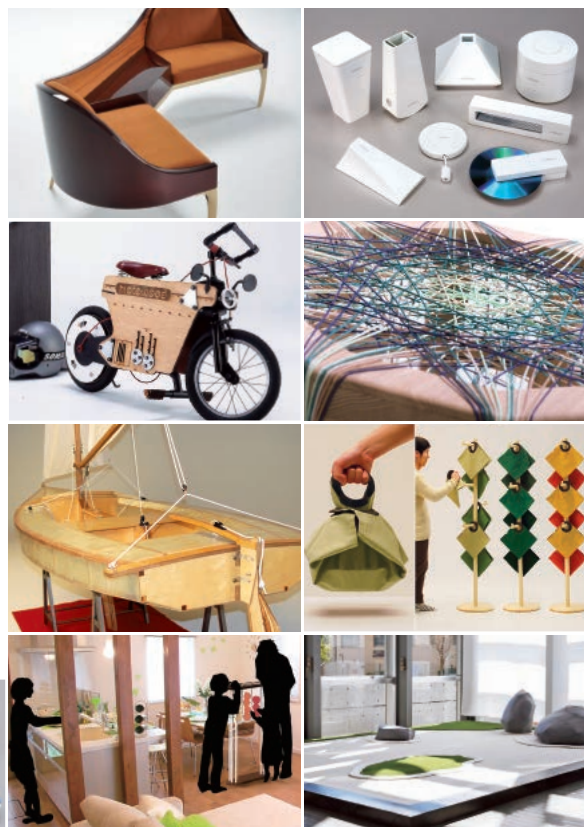
プロダクト領域の教育ポリシー

プロダクトデザインとは、より良い社会・心豊かな暮らしのために人々の生活と環境を見据えて、新しい、魅力ある価値を持ったモノやコトを創出し、産業を通して具現化することです。

環境問題・少子高齢化・技術の進歩など変化の激しい現代社会において、デザインを学ぶ者には、世界を見渡す視野と時代の要請に対する敏感さが求められます。

一方、人とモノの関係性や、社会と生活の基本となる価値観は普遍的なものであり、心の機微を捉える感性を持って、変わることのないデザインの本質を学ぶことが大切です。さらに、これら包括して新たな発見や提案を具現化する表現力と造形力、わかりやすくプレゼンテーションできるコミュニケーション能力も必要です。

プロダクト領域は、学生の皆さんに、各種工房を活用してものづくりができる環境と、ユニバーサルデザイン・人間工学・ライフスタイル・マーケティング・マネジメントなどの視点から、多様な授業・演習や様々な活動を通してデザインを考える機会を提供し、社会・産業界で活躍する人材を輩出します。



開講科目例

ものづくりのシステム

■担当教員…峯 郁郎 教授 ■開講年次…2年次後期

社会生活に欠かせない「もの」の意味、価値を「ものづくり」という視点で、プロセスや取り組み方などを多角的に考察し学習します。大企業のみならず、中小も含めた産業の成り立ち、企業のあり方などを、歴史的にその営みの変遷をたどり、客観的にどのような流れになっているのかという仕組みを知ることと同時に、どのような意思を込めてものづくりをするのか?その意図をいかに一気通貫させて人々に届けるのかなどを考えます。



プロダクトデザイン演習 I・IIa・IIb

■担当教員…高山靖子 教授、羽田隆志 教授 ■開講年次…2年次前期、後期

プロダクトデザインにおけるデザイン開発の基本プロセスについて市場調査、コンセプト開発、アイデア展開、およびモデル製作からプレゼンテーションに至る一連のプロセスと、そのために必要な知識とスキルを体験学習し、コンセプトをデザインに表現する可視化力と表現力を身につけます。演習で取り上げるアイテムとしては、比較的小型の手で持って使用する道具から、人間が乗れるようなサイズや設備的なモノまで取り組みます。



ビジュアル・サウンド領域

Audio and Visual Communications

メディアとしての映像・グラフィック・サウンド等を駆使して、時代に訴える新しい価値を生み出すことができる人材を養成していきます。

グラフィックデザイン

視覚化された情報やメディアは多様であり、私たちの生活に欠かせません。CI・VI・パッケージ・エディトリアルなどグラフィックデザインの技術や表現方法だけでなく、各種のメディアの知識や技術、感性を活かした創造活動やビジュアルコミュニケーションデザインも学びます。



映像デザイン

現代のメディアデザインの中核を成す、映像制作のための様々な手法を体系的に学びます。アニメーションの基礎からコンピュータグラフィックスや実写撮影、画像合成など、多彩な映像作成技法の実習を通して、ユニークで質の高い映像コンテンツを生み出す表現力を養います。



絵本・イラストレーション

「ことばと絵によって物語る生き物」である絵本を通して、イラスト、グラフィック、ストーリーテリング、本の装丁など視覚伝達デザインの基礎を学びます。ゆたかに物語り描く喜びをデザインへと昇華させ、日常や社会のあらゆる局面に活かすことのできる総合力を育みます。



開講科目例

グラフィックデザイン演習C

■担当教員…かわこうせい 教授 ■開講年次…2年次後期

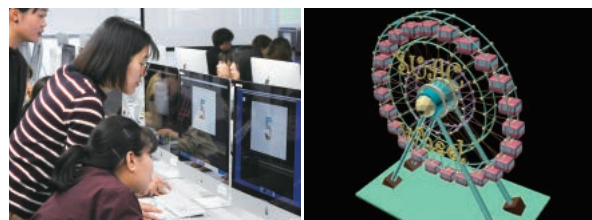
私たちの身のまわりには「本」があふれています。美しい本には、デザインの基本要素が詰まっています。優れたブックデザインから色・かたち・コンテキスト・構造・物語・ユーモアなどを学び、自ら編集およびデザインを行うことで、さまざまな局面に応用できる構成力を養い、調べる→考える→つくる→伝える、というデザインの流れを身につけます。



基礎演習C

■担当教員…日比谷憲彦 教授 他 ■開講年次…1年次後期 / 2年次前期

グラフィックデザイン、映像デザインの入り口として、発想法や表現方法のトレーニングを行い視覚的な造形の基礎力を養うことを目的とします。具体的にはコンピュータの使用をベースとして、各種のグラフィック・アプリケーションや映像ソフトを扱う技術、デザイン全般に通底する美的感覚などを習得することを目指します。様々な専門性を有する複数の教員によるオムニバス形式の授業です。



建築・環境領域

Architecture and Landscape

建築を中心として都市計画や景観計画にも及ぶ設計力をもとに、持続可能な社会を実現できる人材を養成していきます。

領域とデザイン理念

一般的に“建築”という言葉は個々の建物(たてもの)を指すものと思われていますが、本来、“建築”は、人々が安心して生活できる空間をつくり出すための様々な工夫や行為、また、そこから生み出される空間や環境などの全てを含む幅広い概念です。

広い意味での“建築”という概念に基づいた「都市・ランドスケープ空間」、「建築空間」の空間領域を対象として設定し、それに対して、ユニバーサルデザイン、エコデザイン、エンジニアリング・デザインなどのデザイン理念を重ね合わせることにより、社会が求める様々なニーズに対応した空間デザインを追求しています。

建築士受験資格などの各種資格の取得が可能

国の建築士受験資格認定学科として、一級・二級建築士、木造建築士の受験資格に必要な専門科目が用意されています。

これらの科目を履修することにより一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の受験資格が得られます。

またこのほかに商業施設士、色彩検定、カラーコーディネーターなどの資格も毎年多くの学生がチャレンジしています。



開講科目例

都市デザイン論

- 担当教員…亀井暁子 准教授
- 開講年次…2年次後期

集まって住まうこととその環境、そしてこれからの住まい方について考えます。現代の都市課題への空間的取り組みを多面的に学ぶとともに、異なる環境における住まい方への理解を通して自らの住まい方を考えるため、古代から現代に至る世界各地の都市空間について学びます。



建築設計演習Ⅰ・Ⅱ

- 担当教員…花澤信太郎 教授 他
- 開講年次…2年次後期～3年次前期

建築設計演習Ⅰでは、地域の環境や景観を念頭に置きながら、単一の用途の建築物から複合施設まで、多様な形態の建築の設計に取り組みます。設計演習Ⅱでは完成作品について担当教員全員が講評を行うことにより、各分野とは異なる分野からの視点も学びます。



エコロジカルデザイン

- 担当教員…中野民雄 准教授
 - 開講年次…1年次前期
- 建築とは全世界共通で人類の歴史と共に進化を遂げてきたデザインです。現代では海底・空中都市だけでなく宇宙エレベーターの計画もあります。一方、地球環境は深刻化し、危機的状況を迎えている世界遺産も存在します。これからの建築と環境はどうあるべきか、ディスカッションを通じて学んでいきます。



インタラクション領域

Interaction Design

多様化するデザイン諸分野の知識をデザイン思考に基づき融合させることで、人と環境の新たな関係を創り出せる人材を養成していきます。

広がるデザインの世界

近年、デザイン活動がカバーする領域は、新しい製品・サービスの開発や、新たな体験・経験の創出において重要となるインタラクションと言われる分野に広がってきました。インタラクションデザインは、1980年代に、今では当たり前となったマウスで直観的に操作するコンピュータの開発などがきっかけとなり誕生しました。人とモノの関係に加え、コトのデザインとも言える、楽しさや心地よさといった体験について考える新しいデザイン領域として発展してきています。

インタラクションデザインの対象分野

インタラクションデザインでは、以下に例を示す多様なデザイン分野を学ぶことで、課題発見・解決能力を育成します。

- 玩具・遊具：遊びにおける人と遊具や環境の関係
- 楽器：誰もが音楽を楽しめるインターフェイス
- インテリア：家庭におけるコミュニケーション
- 公共空間：人が集まり、活動する場
- 広告：現代における多様な情報空間

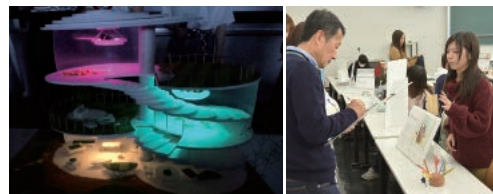
その他に、医療・介護に関するもの、電子機器のインターフェイスやゲームなどもインタラクションデザインの対象分野として、誰もが安心・安全に、そして快適に生活するためのデザインについて考えます。



開講科目例

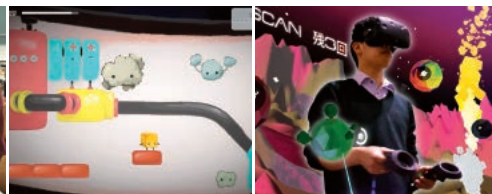
基礎演習E

■担当教員…各教員 ■開講年次…1年次後期、2年次前期
インタラクションデザインの基礎を学ぶことを目的に、人と人とのつながりをテーマとした2つの演習課題に取り組みます。前半のグループワークでは、交流広場のデザイン、後半の個人ワークでは親子の対話を促すデザインを提案します。



エンターテインメントデザイン

■担当教員…和田和美 教授 ■開講年次…3年次前期
五感を刺激するエンターテインメントシステムを題材に、未来のコミュニケーションメディアのあり方を考察します。メディア・アート、映像、ゲーム、Web、広告、マンガ等のデザインの現場で展開する最新の事例を学び、自ら創り出すための方法について学びます。



スペースインタラクション演習

■担当教員…磯村克郎 教授 他 ■開講年次…3年次前期
社会やまちという身近な空間では、インタラクションの多様な芽を発見できます。まちに出てフィールドワークを行い、社会や地域の課題を発見した上で、複数のデザイン領域(空間、メディア、プロダクト、エクスペリエンスなど)が融合した解決案を提案します。



匠領域

Takumi Design

伝統的な建築・工芸についての知識と基本技能を修得し、現代社会と呼应しうる
新たなデザインを生み出す人材を養成していきます。

伝統建築

日本の伝統建築は、歴史、文化を背景に優れた技術・意匠・美術・工芸等から成っています。名建築に直に触れ、日本の木造建築の基本や意匠を理解し、未来に誇れる建築やデザインを提案すると同時に、日本のものづくり文化を継承・発展させます。

※建築士受験資格を得ることができます。(所定の単位を取得した場合)

木漆工芸

緑豊かな日本では、古くから木という身近な素材の恩恵を受けて生活をしてきました。多様な木工芸技術と共に、日本固有の漆芸技術を学ぶことで、新たなデザインと伝統価値を創造します。

金属工芸

古来より人の営みと金属は欠かせない関係にあります。金属を扱うために工夫・研究されてきた多様な技術・技法を学び、その知識と経験をもとに新たな金属造形の方向性を提案します。

染織

日本の伝統工芸でもある“染め”と“織り”の技術をその歴史や文化とともに学ぶことで、ファッションデザインをはじめ、装飾やインテリアデザイン等の要素としても重視される幅広いデザイン分野に通じるテキスタイルデザインを提案します。



開講科目例

日本伝統建築

■担当教員…新妻淳子 准教授 ■開講年次…1年次前期

日本の伝統建築は、歴史や文化を背景に様式を確立し、継承されてきました。建築様式と技術の歴史、建築を構成する材料や道具についても学びます。文化財政策史や保存・活用について理解を深め、静岡県内の文化資産である伝統建築のあり方も考えます。

テキスタイル概論

■担当教員…藤井尚子 教授 ■開講年次…1年次後期

人類は太古の誕生間もないころから自然界にある繊維をまとい、やがて自ら織り、染めることで生活を快適に、美しいものにしてきました。本講義では、そのような人と繊維の関係に関する歴史、文化、技術、産業の変遷を通してテキスタイルに対する理解を深めます。

素材加工演習a・b、匠造形演習

■担当教員…各教員 ■開講年次…2年次前・後期

素材加工演習では、日本の伝統工芸・建築に使用される多様な素材を知り、その特性に合わせた作品の制作を通して造形技法を学びます。

匠造形演習では、さらに専門的な技法や道具の扱い方を学び、造形能力を高めます。



学生たちからのメッセージ

STUDENTS' VOICES

使う人の気持ちを
最優先で考えるさまざまな領域の学びの中で
出会えたUI/UXデザイン

もともと絵を描くことが好きでしたが、普通科で学びながら数学受験ができるSUACを志望しました。入学当初はイラスト関連の領域に関心があり、一方でプログラミングにも興味が湧き、進む方向性に迷いながらインタラクション領域を選びました。2年後期にインターフェイスデザインの授業でUI/UXデザインに出会い、「使いやすい」や「わかりやすさ」を求めることもデザインの重要な一面であることを知りました。「考えること」に軸を置くこの分野に出会えたのは、幅広くデザインに触れることができる本学科だからこそ。3年後期からフィロソフィー領域への移行が叶い学びを深めています。



作品名/
待ち合わせアプリ「varmeets」
時間の価値観の違う人々に対し、位置情報などを利用して快適な待ち合わせをサポートするアプリのプロトタイプを制作しました。

デザインしたいのは“体験”
使う人の楽しさや心地よさ

UI/UXデザインは、どちらも「使いやすい、心地いい」など、人の感じ方を一番に考えます。特にUIはWebサイトやスマホアプリなどの画面を通じてのもの、UXはモノ・コトを通じて人が得られる体験そのものをデザインすることを指します。使う人の気持ちを最優先に考え、機能だけでなく、その先にある楽しさや心地よさを感じるデザインを生み出せるよう試行錯誤中。「UI/UXデザインは頭が大事だ」という宮田教授の言葉通り、デザインは頭で考え抜くことが重要。社会が求めるものを読み取る力、声にならない声を聞く力を磨き、インハウスのUI/UXデザイナーになりたい、それが私の目標です。

持田侑菜 MOCHIDA Yuna

デザインフィロソフィー領域 3年 静岡県立沼津東高校出身

力や勇気を与える
デザインを知れば知るほど学びたくなる
ユニバーサルデザイン

美術系大学への進学を考えていた高2の冬、病気で入院を余儀なくされた時期に、自分を癒し、病気に立ち向かう力を与えてくれたのがキャラクターグッズでした。入院中の生活で感じたデザイン上の改善点からユニバーサルデザインに興味を持ち、ユニバーサルデザインを教育理念に掲げているSUACを知り、迷わず志望しました。現在、静岡県から委嘱されている「ユニバーサルデザイン特派員」として活動中で、玩具メーカーへの取材では商品開発におけるユニバーサルデザインの汎用性の高さを知ると同時に、課題を解決していく難しさを肌で感じる貴重な経験ができました。

「自分だったら、どうできるか」
広がった発想力で新しい提案を

入学当初から専攻領域はプロダクトと決めていましたが、1、2年次にいろいろな領域のデザインを学べたことで視野が広がり、柔軟な考え方ができるようになったと思います。ゼミでは、入院患者の精神状態を安定させる新しい提案に取り組み中。プロダクトの枠にこだわらず、自分がやりたいコト、新しいモノを作ることに挑戦できる環境の中で、一生追い続けられるテーマと出会えたことにやりがいを感じています。将来は、病気や障害を抱える子どもにデザインで力や勇気を与えていく、そんな仕事に携わるのが目標。自分がデザインしたキャラクターで子どもたちが笑顔になってくれたら嬉しいですね。



作品名/
Moment of Healing
時間に追われ疲れている心にココアで一息つくように癒やしの一時を提供し、今日のリズムをリセットして明日のリズムへつなげる時計。

新沼涼哉 NIINUMA Ryoya

プロダクト領域 3年 福島県立いわき光洋高校出身

モーショングラフィックスで デザインに瞬きを



「できること」を増やしなが 興味を湧いた分野を深めていく

パソコンを触るのが好きだったので、この分野で得意なことを見つけたいと思いデザイン学部を志望しました。SUACの魅力は、自分が興味を持ったものを、そこから深めていけること。映像の場合、CG、手描きアニメ、実写などジャンルがいろいろありますが、どれも少しずつ触られるので、一つのこと絞って学ぶより引き出しも増えると思います。1年次から3DCGや簡単なプログラミングを学び、2年次に「モーショングラフィックス」という表現方法の楽しさに出会いました。図形や文字などを、緩急をつけて動かしたり、音と連動させたり…そこから生まれる気持ちよさを追求しています。

作品名 /

「The Three Bears」
童話「3びきのくま」を
もとに、くまたちと小さ
な女の子の行動をコミ
カルに表現した2Dア
ニメーション作品。



得意なものを武器に、拓いた道 夢を実現できた4年間

テレビ番組のタイトルやCMなどで、メインとなるものを支える要素として使われるモーショングラフィックス。目立たないけれど、わずかな調整で動きがすごく良くなる、それが作り手の快感です。課題や自主制作の作業中、ゼミ生同士で進捗状況を見せながら意見交換をするのですが、その時間はとても楽しく有意義でした。人前で話すことが苦手だった私が、作品発表などの場を通して人に伝える力がついたことも大きかったです。自分の武器になるようなものが欲しいと思って飛び込んだSUACで、得意な分野を見つけ、将来につなぐことができました。あなたも夢への第一歩を踏み出してください。

乗松咲那 NORIMATSU Sana

ビジュアル・サウンド領域 4年 静岡県立磐田南高校出身

暮らしに寄り添える 建築を

学んでから選べる専門領域 その魅力は大きい

建築のほかにも気になる分野があったので、デザインを広く学べるSUACに魅力を感じました。大学に入ってから専門領域を選べることや、一つの学科に6領域あることのメリットも大きく、建築の課題に対してプロダクト領域の友人がアドバイスをくれたり、プレゼンボードの制作ではビジュアル領域の人のレイアウトが参考になったり。領域が違う仲間と意見を交わし、お互いに高め合いながら学ぶことができました。ガラスや金工など、ものづくりの土台となる素材について体を動かして学び、作品づくりにも挑戦できました。SUACの工房設備の素晴らしさは、ぜひ体験してほしいです。

作品名 /

廻るハママツ
地域住民のための商
業施設。地産地消の
小さな経済と人々が集
う場所を作り出す。



自分の好きな場所で 自分らしく輝ける大学生生活を

1年次に建築製図の授業で、空間をつくることやプログラムを考えることが好きになり、本領域を専攻。建築系のワークショップへの参加や、実際の建物の解体や塗装などの手伝いを体験するなど、学内外で建築の知識と経験を深めることができました。就職を考えた時、お客様に近いところで仕事があったので、複数の設計事務所のオープンデスクに行き、自分が理想とする建築づくりができる場所を見つめることができました。将来は、人の暮らしに寄り添えるあたたかい建築をつくっていけたらいいなと思っています。自分の好きな場所で、自分らしく輝ける学生生活。SUACならそれが可能です。

鷲見奈都樹 WASHIMI Natsuki

建築・環境領域 4年 飛騨学園高山山高校出身

好きなことに、まっすぐ。 イラストレーター



デジタルを駆使して広がる表現力 その面白さに魅せられた

高校では美術コースを専攻し油絵を描いていましたが、デザイン系まで幅広く学びたいと考えSUACへ。公立大学の中でも工房が素晴らしく、デジタル系の機器も充実しているのは魅力でした。SUACはグラフィック、プロダクト、映像、建築など自由に受講できる学習体系なので、興味のあるものはすべて選択。その中でデジタル系のクリエイションの面白さに出会い、インタラクション領域に進みました。エンターテインメントコンテンツの制作時、リアルタイムに連動させ動かしていく工程は大変な分、でき上がった時の喜びもひとしお。今はアナログゲームを制作中です。やりたいことを自由にやれる最高の環境でした。

最先端の技術や表現を学び 絵を描く楽しさを再認識

入学して印象的だったのは、1、2年次に学んだ2学部交流の授業。文化政策学部という、まったく違う分野の人たちと関わり、思考回路の違いを感じつつ刺激を受けることができました。高校時代は油絵を描いていた私が、デジタルで絵を描く楽しさを再認識できたのは、様々なPCでの制作ツールに触れ、その使い方や技術を学べたからこそ。自分がやりがいを感じるものを見つけ、技術を極めたいと思う日々の中で、卒業までに残された時間を短く感じています。卒業後はゲーム系企業で念願のイラストレーターに。満足のゆく作品を創り出せるよう、腕を磨いていきたいと思っています。



作品名 /

TRIPINGAME とりびげ
めくって遊ぶノベルゲームブ
ック。謎を解き迷路を抜け、キャ
クターとゴールを目指そう!

町田優香 MACHIDA Yuka

インタラクション領域 4年 沖縄県立開邦高校出身

TOPICS

寺島町リノベーション デザインワークショップ

オーナー・管理会社と協力しながら、浜松にある築35年の共同住宅のうち2部屋について、間取りの変更を含んだ大がかりな改装を学生の発想で実施するプロジェクトです。学内外講師陣の指導のもと、大学・専門学校混成の学生5チームから選ばれた2チームの学生が、建材や施工方法を考え、建具から居住希望者向け募集チラシまで制作し、幅広く現場を体験しました。



ラトビア文化ウィークス

開会パーティでは学内料理サークル「SUAC Kitchen」が制作したラトビア料理で、来学なさったラトビア大使夫妻を歓迎しました。両学部生が共同でラトビア文化紹介パネルを制作・展示し、学内教員によるトークイベント、学外の専門家をお招きしたシンポジウムとともに、ラトビア大使館が浜松に巡回させた建築パネル展を盛り立てました。



Next Eco Design展 2017

暮らしを見直し環境に配慮した「未来をつくるデザイン」を目指し創造するJIDA主催のプロジェクト。2017年度はデザイン系大学・専門学校12校36名の学生がプロデザイナーと交流しながら半年がかりで検討を進めて提案を行いました。SUACからはデザイン学科3年の岡田瑞紀さんと松山香帆さんが参加。松山さんの作品は奨励賞に選ばれました。



eえほんプロジェクト

デジタル絵本研究の一環として、企業とデジタル絵本アプリ「えほんダス」を開発するとともに、タブレット端末で楽しむ絵本づくりを行いました。小学校にて、読みきかせ会とワークショップを開催し、子どもたちとの交流を通して、自分たちの描いたデジタル絵本がどのように受容されるのか体感しました。



壁面グラフィックデザイン (静岡県森林組合連合会静岡営業所)

静岡県森林組合連合会(静岡市)の依頼により本学の学生が制作したグラフィックが、組合連合会静岡営業所の入礼会場壁面に設置されました。事務所を見学に来る地域の子供たちが、山から伐採された木が家になり街から都市へと広がることで、人々の生活や地域の文化を支えてきたことを学ぶことで、森林資源の大切さを知ってほしいとの思いから「森と都市を結ぶ」をテーマにデザインしました。



富士山ドラゴンタワー (ふじのくに田子の浦みなと公園交流拠点施設)

ふじのくに田子の浦みなと公園交流拠点施設(静岡県富士市)の設計を、建築系学生有志が担当しました。3回にわたる知事プレゼンテーションを経て基本デザインを作成し、その後も継続してデザイン監修を行いました。八角形で八方位を示し、二重らせん階段と中央螺旋階段を組み合わせた、富士山登山を想起する動きのあるデザインです。



ふじのくに茶の都 ミュージアム

ふじのくに茶の都ミュージアム(静岡県島田市)の基本設計と実施設計監修・工事監理を寒竹研究室(デザイン研究科および建築・環境領域)の学生が担当しました。今までのアプローチを変更し、静岡県産ヒノキを使用した吹き寄せ壁の外観や間道模様の活用など小堀遠州の「綺麗さび」の考え方に基づいたデザインとなっています。2018年3月に開館以降、多くの来館者が訪れています。



心臓マッサージ実習用 教育教材 「Dock-kun(ドックン)」

企業等からの依頼により共同で研究を行う受託研究として、本学デザイン学部(伊豆研究室)が東邦大学医学部、サイカイ産業株式会社(静岡県、島田市)と共同で開発した心臓マッサージ練習キット「Dock-kun」が、第13回キッズデザイン賞を受賞しました。(キッズデザイン賞は、子どもを産み育てやすい社会や生活環境の実現に向け、子どもの安全や健全な成長を目指した製品やサービスの普及・推進を目的としたデザインの顕彰制度です。)



学生受賞・採用作品紹介

第13回メディア・ユニバーサルデザインコンペティション

主催：全日本印刷工業組合連合会

●経済産業大臣賞

「ZOO PIC SIGN」(浜松市動物園)
有志団体「ZOO PIC(ズーピック)」



第4回手づくりしかけ絵本コンクール

主催：新潟県三条市

●入賞 「カオヤ」

松隈洸和



第十七回「主張する『みせ』」学生デザインコンペ

主催：(公社)商業施設技術団体連合会

●入賞 吟味するお店「COPY&ERROR」

水野哲義



第7回がん征圧ポスターデザインコンテスト

主催：(公財)日本対がん協会(東京都)

●優秀賞 「母からの電話」

佐藤里菜

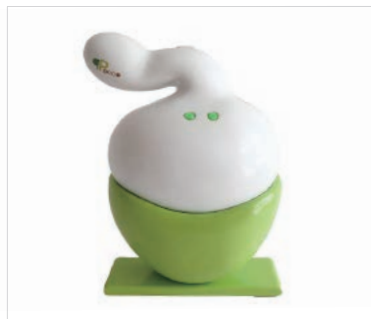


平成30年度デザインパテントコンテスト

主催：文部科学省、特許庁、日本弁理士会(独)工業所有権情報・研修館

●優秀賞 「POCCO(ポッコ)」(意匠登録出願支援対象)

山本菜未



静岡県防災ヘリコプター機体デザイン

採用：静岡県

●採用

近藤涼香



第12回 やらまいかミュージックフェスティバルポスターデザインコンペ

主催：やらまいかミュージックフェスティバル実行委員会

●最優秀賞

木戸あゆ美



第12回 静岡県メディア・ユニバーサルデザインコンテスト

主催：静岡県印刷工業組合

●優秀賞 「UDクッキングカード」

飯田春佳、川崎由季子



ひろしま建築学生チャレンジコンペ 2017

主催：広島県土木建築局営繕課

●入選

藤井邦光、花田裕実、
中井俊宏(大学院デザイン研究科)



取得可能な資格

詳しくは70ページをご覧ください。▶▶▶

建築士 受験資格	商業施設士補資格	インテリアプランナー資格
日本語教員養成課程	社会調査士	

卒業生の主な進路

(抜粋)

製造業

アイシン・エイ・ダブリュ(株)	セイコーエプソン(株)
アイリスオーヤマ(株)	ダイハツ工業(株)
いすゞ自動車(株)	タカスタンダード(株)
(株)イトーキ	中部印刷(株)
エンケイ(株)	デコラテックジャパン(株)
オオセキ写真印刷(株)	東芝テック(株)
大阪シーリング印刷(株)	TOTOバスクリエイト(株)
オカモト(株)	トクラス(株)
(株)オリバー	(株)豊田自動織機
カイインダストリーズ(株)	トヨタ自動車東日本(株)
柏木工(株)	トヨタ車体(株)
(株)河合楽器製作所	(株)日本カラーエンジニアーズ
河淳(株)	日本たばこ産業(株)
キャノン(株)	林テレンプ(株)
共和レザー(株)	(株)日立製作所
起立木工(株)	(株)バンダイ
(株)クボタ	富士ゼロックス(株)
クリナップ(株)	ブラザー工業(株)
(株)ケイ・ウノ	フランスベッド(株)
(株)小糸製作所	プラス(株)
コクヨ(株)	ブリヂストンサイクル(株)
(株)コナミデジタルエンタテインメント	(株)本田技術研究所
コンビ(株)	本多プラス(株)
サンスター文具(株)	(株)マキタ
サンワサプライ(株)	マツダ(株)
(株)システック	三菱自動車工業(株)
(株)シバックス・デスモ	(株)ムーンスター
シマノ(株)	メガロ化工(株)
シャープ(株)	矢崎化工(株)
(株)シャンソン化粧品	(株)ヤタロー
杉山メディアサポート(株)	(株)ヤマニパッケージ
スズキ(株)	ヤマハ(株)
(株)鈴木楽器製作所	ヤマハ発動機(株)
スタンレー電気(株)	レック(株)
(株)SUBARU	ローランド ディー・ジー(株)
セーラー万年筆(株)	

ハウジング・建設業

アサヒハウス工業(株)	住友林業(株)
(株)一栄工務店	(株)須山建設
(株)イリア	セキスイハイム東海(株)
(株)空間工房 匠屋	積水ハウス(株)
(株)クラスト	(株)大成住宅
KONOIKE Co.(株)	(株)大東建託
サーラ住宅(株)	大和ハウス工業(株)
(株)スペース	飛鳥建設(株)

(株)中村組	(株)ミサワホーム静岡
(株)バウハウス丸栄	三井デザインテック(株)
(株)平成建設	三井ホーム(株)
丸西建設(株)	(株)ミルックス

卸売・小売業

榎本(株)	シーラック(株)
エフ・ディ・シー・プロダクツ(株)	シャディ(株)
(株)大塚家具	(株)東京インテリア家具
オルビス(株)	日豊資材(株)
(株)カインズ	マックスバリュ東海(株)
(株)カワシマ・ゴールド	(株)ユナイテッドアローズ
(株)サマンサタバサジャパンリミテド	

金融・保険業

JAとびあ浜松	焼津信用金庫
日本生命保険(相)	

放送・広告業

(株)アマナ	(株)静岡新聞社
(株)朝日メディアブレン	太陽企画(株)
良い広告(株)	(株)テレビ朝日クリエイト
エイエイビー(株)	(株)名古屋テレビ事業
(株)キュー	(株)博報堂プロダクツ
静岡エフエム放送(株)	(株)メディア東京

情報・専門サービス業

青島設計(株)	(株)GKインダストリアルデザイン
(株)アクアプラス	(株)GKダイナミクス
(株)アドウィル	(株)ziba tokyo
(株)アドブレイン	(株)JR西日本コミュニケーションズ
(株)池田建築設計事務所	(株)タカハ都市科学研究所
(株)インテリジェントシステムズ	スズキ教育ソフト(株)
MGS照明設計事務所	(株)STUDIO4C
(株)オープンスマイル	(株)総合設計事務所
(株)オムニバス・ジャパン	(株)大和工芸
(株)カフコン	(株)TBSライメディア
(株)京都アニメーション	(株)テクノサイト
(株)クロスデバイス	(株)DMM.com ラボ
(株)ゲームスタジオ	(合)デザイン・アープ
(株)コーエー	東映アニメーション(株)
テクモホールディングス	トランスコスモス(株)
(株)コガ建築設計室	(株)ナウハウス

(株)日産オートモーティブテクノロジー	(株)ブレックス
日本情報産業(株)	(株)プレミアムエージェンシー
(株)長谷守保建築計画	(株)プロフィット
パナソニックシステムデザイン(株)	ポリゴンマジック(株)
(株)阪急デザインシステムズ	服部安嗣建築設計事務所
(株)ピーエーワークス	ヤマハモーターエンジニアリング(株)
ヒロノアソシエイツ級建築士事務所	(株)ユークス
(株)フィルツ都市建築設計	(株)ランドマック
(株)フジヤマ	(株)類設計室

その他サービス業

磐田商工会議所	(株)丹青社
(株)オリエンタルランド	(株)teable
(株)ジー・コミュニケーション	テクノロジーサーチ(株)
(株)四季	ボラス(株)
(公財)静岡市文化振興財団	

公務

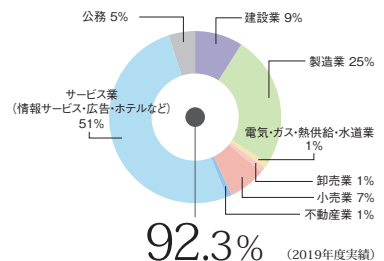
愛知県警察本部	静岡県警察本部
愛知県公立学校教員	静岡市役所
伊東市役所	豊橋市役所
掛川市役所	浜松市役所
神戸市役所	碧南市小学校教員
航空自衛隊	

大学院進学

慶応義塾大学	首都大学東京
京都造形芸術大学	筑波大学
京都工芸繊維大学	東京芸術大学
静岡大学	東京造形大学
静岡文化芸術大学	名古屋市立大学

就職率

デザイン系トップレベルの就職率



※分類は本学の区分によるものです。

デザイン学部 教員紹介

デザイン学科

和田 和美 WADA Kazumi



教授 / 学科長
メディアアート /
Webデザイン

映像を中心に扱った
インスタレーションや
Webサイト等、インタ
ラクティブな空間を制
作・研究しています。

伊豆 裕一 IZU Yuichi



教授 / 図書館・
情報センター長
プロダクトデザイン

イノベーション創造を
身近にするデザイン
思考や、デザイナーの
能力を活かすデザイン
マネジメントをテーマに
研究しています。

磯村 克郎 ISOMURA Katsuro



教授
パブリックデザイン

ストリートファニチャーか
ら街路まで、家具から
建築空間まで、公共の
場のデザインについて
デザインプロセス・造
形・ライフサイクルを研
究します。

岩崎 敏之 IWASAKI Toshiyuki



教授
構造デザイン

アイデアを形にするた
めに構造は不可欠で
す。建築のみならず、
すべてのデザインに通
じる構造の考え方を
伝授します。

迫 秀樹 SAKO Hideki



教授
人間工学

体格や筋力、嗜好など
一人ひとり違う人間の
特性を捉える手法や、
それを活用したものづ
くりを研究しています。

佐藤 聖徳 SATO Kiyonori



教授
プロダクトデザイン

人の五感をテーマに
自然科学を中心とした
作品制作を行い、プロ
ダクトデザインに活か
していく研究を進めて
います。

高山 靖子 TAKAYAMA Yasuko



教授
プロダクトデザイン

プロダクトを中心に、グ
ローバルな視野で人と
社会をデザインで結ぶ
マネジメントの研究を
しています。

長嶋 洋一 NAGASHIMA Yoichi



教授
メディアアート

コンピュータミュージッ
ク、音楽情報科学、ヒ
ューマンインターフェイ
ス、新センサなどを研
究しています。

日比谷 憲彦 HIBIYA Norihiko



教授
グラフィックデザイン

文字やシンボル、色彩
などのエレメントを平
面・立体・空間に展開
し、ブランドや施設の
イメージ形成を図る手
法を研究しています。

藤井 尚子 FUJII Naoko



教授
テキスタイルデザイン

布を用いてQOL(生
活の質)を向上させる
デザインを研究して
います。一枚の布に広
がるデザインの可能
性を、一緒に探求し
ましょう。

的場 ひろし MATOBA Hiroshi



教授 / 大学院デザイン
研究科長 / 文化・芸術
研究センター長
メディアアート /
インタラクションデザイン

新しいテクノロジーを活
かしたアートの制作と、
システムの使いやすさ
や使う楽しさの向上の
研究を進めています。

峯 郁郎 MINE Ikuro



教授
デザインマーケティング

デザインの力を信じて快
適な暮らしに活かす。利
便性のみならず、心の
豊かさや楽しさの視点
で人と物と場の素敵な
共鳴を目指しています。

Jérôme BOULBÈS



准教授
3DCGデザイン / メディア
アート / アートアニメーション

3DCGデザイン、最先
端テクノロジー、バー
チャルリアリティ(VR)
拡張現実(AR)等を用
いた作品制作及び研
究をしています。

中野 民雄 NAKANO Tamio



准教授
スマートデザイン /
建築環境・設備

都市・建築から地球環
境・エネルギー問題を
改善し、エコロジーと
エコノミーを両立させ
たスマートデザインを
追究しています。

新妻 淳子 NIITSUMA Junko



准教授
日本伝統建築

日本の伝統建築と近
世建築普請活動に関
する研究をしています。
伝統建築から直に
日本の意匠や技術を
学び新たな創造を
目指します。

松田 達 MATSUDA Tatsuo



准教授
建築意匠 /
3DCAD / 都市計画

建築と都市を連続的
に捉え、デザイン・研
究活動を行っています。
空間の新しい可能性
について、ともに探
求していきましょう。

小浜 朋子 OBAMA Tomoko



教授 / 学生部長
ユニバーサルデザイン
(UD) / デザインリサーチ
UDの概念をもとに、多様なユーザ・生活環境をあらゆる角度からリサーチし、現実と未来をつなぐデザインアイデアを探求していきます。

かわ こうせい KAWA Cosei



教授
絵本 / イラストレーション
ことばや絵で伝えられる物語を通して、どのように人のところが動かされるのか探究しています。

黒田 宏治 KURODA Kohji



教授
社会・地域デザイン / デザインマネジメント
地域産業や社会システムのデザインについて研究しています。授業ではデザインの社会性に焦点を当てています。

佐井 国夫 SAI Kunio



教授
グラフィックデザイン
グラフィックデザインの役割はビジュアルコミュニケーションであり、新たな視覚表現のための技術と美意識をいかに育てるかを課題として研究しています。

永山 広樹 NAGAYAMA Hiroki



教授
プロダクトデザイン / クラフトデザイン
暮らしの中からデザインを導くことがテーマです。誰もが、豊かで快適に暮らすためのモノづくり・コトづくりデザインを目指しています。

羽田 隆志 HADA Takashi



教授
プロダクトデザイン / 魅力工学
特許V.S.システムを採用した新しい乗り物を研究開発しています。また魅力とは何か、どうやって具現化するかを研究しています。

服部 守悦 HATTORI Moriyoshi



教授
トランスポートデザイン
クルマを中心に移動機器のデザインを研究しています。次世代モビリティの普遍性と革新性について一緒に考えましょう。

花澤 信太郎 HANAZAWA Shintaro



教授
建築設計 / 都市デザイン
建築設計と都市デザインが専門分野です。これからの建築や都市空間について一緒に考えてみませんか。

宮田 圭介 MIYATA Keisuke



教授 / 学部長
ヒューマンインターフェイス
スマートフォンのアプリや電子書籍、電子広告など、各種情報機器の近未来のデザインを共に考えましょう。

山本 一樹 YAMAMOTO Kazuki



教授
造形デザイン
金属を使った造形作品を研究制作しています。造形の基礎力をつけるデッサンや立体構成の授業を担当しています。

天内 大樹 AMANAI Daiki



准教授
美学芸術学 / 建築思想史
近現代日本の建築を中心に、芸術、デザイン、環境の理論や歴史を整理しています。知識に基づき観察と読解を創造につなげましょう。

亀井 暁子 KAMEI Akiko



准教授
建築設計 / サステイナブルデザイン
建築空間を地域・都市、さらには広域的な視点から捉えるアプローチで、周辺環境と持続的に発展するあり方を探求しています。

池田 泰教 IKEDA Yasunori



講師
映像表現
映画・映像作品の制作が専門です。現実を扱う撮影という行為や語りと時間構造が持つ関係について研究制作しています。

小田 伊織 ODA Iori



講師
木工芸 / 漆芸
日本の伝統技法を用いて、木と漆を素材としたアート作品や日常的な器などを幅広く制作し、造形表現を探求しています。

SUACの特徴的な学びを支援する2つのセンター

英語・中国語教育センター

英語・中国語教育センターは、英語および中国語教育の充実・強化を図ることを目的として、設立されました。現在、英語特任講師、中国語特任講師が常駐し、学生に実践的な語学力と幅広い文化的知識と教養を身につけるよう支援を行っています。幅広く国際交流を理解する「異文化理解」、授業の復習や日常会話を習得する「学習支援」、そして学外に出て積極的にスキルを磨く「スキル向上」の3点に重点を置きながら事業を展開しています。各種イベントやプログラムを提供し、より一層、英語・中国語教育の充実を図っていきます。

上村 明英

UEMURA Akie



特任講師
英語教育/
グローバル教育

英語学習を通して学習者が知識や視野を拡げたり、異文化に興味を持ち、理解しようとする過程を支援したいと思っています。

Daniel MORTALI



特任講師
アクティブラーニング

I focus on helping students prepare and learn to appreciate what is possible with English and show them that they can master it.

Nicholas James COOPER



特任講師
英語教授法/
動機付け研究

I aim to help students find motivation for learning English by connecting their language studies to the world around them.

羅 沢宇

LUO Zeyu



特任講師
言語学/言語接触/
言語習得

第二言語が母語に与える影響を研究しています。中国語の学習を通して母語である日本語にも理解と愛情を深めていきましょう。



文化・芸術研究センター

当センターの役割は大きく二つ、文化政策学部とデザイン学部を融合させた本学独自の研究体制を推進させることと、もう一つはその成果を含めた本学の存在意義を地域の方々と共に、さまざまな活動を通して浜松から世界へ提言することです。センターは、2019年度より新たに開講した文明観光学コースの教員(右2名)や兼務教員(右上2名)を擁し、さらに両学部の研究者の連携により以下4課題の研究活動を行っています。

的場 ひろし

MATOBA Hiroshi

センター長/デザイン学部教授

峯 郁郎

MINE Ikuro

センター兼務/デザイン学部教授

青木 健

AOKI Takeshi



教授
宗教学/
西アジア文明

古代オリエントからイスラム期にかけての西アジアの宗教を研究しています。特に、古代ペルシアのゾロアスター教が専門です。

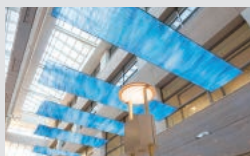
石本 東生

ISHIMOTO Tohsei



教授
観光学/
観光政策・文化観光

南欧ギリシャや日本国内における有形・無形の歴史文化遺産を適切に保存し、かつ観光に活用する政策を研究しています。



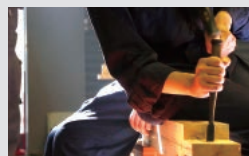
療養環境におけるアートの意義の分類および実践に関する研究



コーヒーの廃棄物を活用したフェアトレード商品開発の研究



歴史、風土、文化から遠州地域の将来をデザインする研究



伝統建築・工芸の技術と文化を匠と協同して未来へつなぐための研究



藤井 尚子
FUJII Naoko

研究代表者
デザイン学部
デザイン学科 教授



武田 淳
TAKEDA Jun

研究代表者
文化政策学部
国際文化学科 講師



藤井 康幸
FUJII Yasuyuki

研究代表者
文化政策学部
文化政策学科 教授



新妻 淳子
NIITSUMA Junko

研究代表者
デザイン学部
デザイン学科 准教授

さらなる2年が拡げる「文化」「デザイン」の未来像

21世紀は「市民」の時代と言われています。それは、これからは「政府」「企業」ではなく「市民」が主体となり、自分たちの望む社会を創造していくことを意味しています。

大学院では、市民社会のリーダーに必要な、様々な価値観を尊重しつつとりまとめていく、課題解決の能力を養成します。

大学院

文化政策研究科 デザイン研究科

大学院の授業は、少人数編成。 先生との議論が中心で、理解の深度は圧倒的

他大学でデザインを専攻していた学部生時代に、アートプロジェクトの運営に携わったことから文化政策という学問領域に関心を持ち、本研究科へ進学。SUACは先生と生徒の距離が近いことが特徴で、授業は予習をもとにした議論が中心となり、講義に対する理解の深度は圧倒的です。多様な領域の先生方がいらっしやることで、学際的な学びができる点も魅力。自分の研究領域を深めるのはもちろん、隣接する領域の先生方からの指導やアドバイスもいただきました。論文執筆のためのサポート体制も充実し、論文執筆の経験がないデザイン学部出身者や社会人にも広く門戸が開かれ、研究に熱中できる環境が整っています。希望通りの就職も実現でき、人生のターニングポイントになった2年間でした。

真野友理子

MANO Yuriko 文化政策研究科 2年
出身大学 / 長岡造形大学
内定就職先 / サントリーパブリシティサービス株式会社



「社会がどうあるべきか」のデザインを探求。 着想から具現化までやり遂げる力がついた

学部時代に生産造形学科でプロダクトを学ぶうちに、デザインに対する捉え方が広がり、課題に対してより多角的にアプローチできる大学院へ。デジタルコミュニケーションに人間らしい価値を融合させ、人とモノ、人と社会との関係がより良くなるような、大きなスケールでのデザインに取り組んでいます。デザイン構想をわかりやすく伝えるためには、試作品（プロトタイプ）を作ることも重要なので、SUACで身につけた幅広い知識と技術で、デバイスのデザインからインターフェイスまで表現できることが自分の強み。着想から具現化までのスピード感が大事なので、その点も活かせていると思います。デジタルテクノロジーの可能性を、心が動く体験や価値として、デザインしていきたいです。

安井健人

YASUI Kento デザイン研究科 2年
出身大学 / 静岡文化芸術大学
内定就職先 / 富士通株式会社



[大学院] 文化政策研究科 定員10名

現場からの学びを重視した実践的なカリキュラム

文化政策研究科では、専門的な文献研究だけでなく、実践の場でのフィールドワークや調査を重視し、文化・芸術の持つ可能性を可視化・具体化できる人材を育成していきます。院生は以下の3つの研究専門領域から1つを選び、領域横断的で学際的な研究を教師の指導のもと展開していきます。

Arts and Cultural Management

アーツアンドカルチュラルマネジメント

楽団、劇団、美術館などの民間および公立の施設運営、行政の文化政策、文化産業、文化イベントなどのあり方や可能性に関する研究を行う。

Regional Policy and Management

地域政策マネジメント

まちづくりや地域活性化、コミュニティ政策、自治体改革、行政評価など、未来の地域に必要な活動や政策のあり方や可能性に関する研究を行う。

Glocal Studies

グローカルスタディーズ

グローバル化の影響で、世界的規範や法、地域社会にどのような変化が生まれているのか、そして未来の持続可能な社会のあり方や可能性に関する研究を行う。



多文化共生のまち浜松での実践的な学びと多彩な活動が今の仕事につながった。

修了生の声

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)
鈴木恵梨香さん
文化政策研究科 2012年度修了

入学の動機 大学進学で一旦浜松を離れたことで、浜松のまちづくりや在住外国人に関心を持つようになったことがきっかけです。企業が雇用する外国人が地域経済を支える一方、外国人住民や児童生徒が増えたことにより地域に生じる様々な事象が「問題」として扱われる雰囲気疑問を感じていました。それらを解消しつつ、地域の発展につながるような仕組みについて研究したいと思い、浜松の特性である「音楽」や「多文化共生」の両方を研究でき、さらにその成果を地域で実践できる機会が多いSUACの環境に大きな魅力を感じました。

大学院で学んで得たこと 主専攻(多文化共生)だけではなく副専攻(アートマネジメント)のゼミ活動や学会発表にも2年間積極的に参加し続けたことで、異なる視点からの知見を得ることができました。研究のほか、「室内楽演奏会」のメンバーとして、学部生の活動の後方支援に携わったことで、地域振興のために意欲と目的を持って活動する人を支える仕事を経験できたことは、今の仕事に活かされています。

就職実績 (抜粋・50音順)

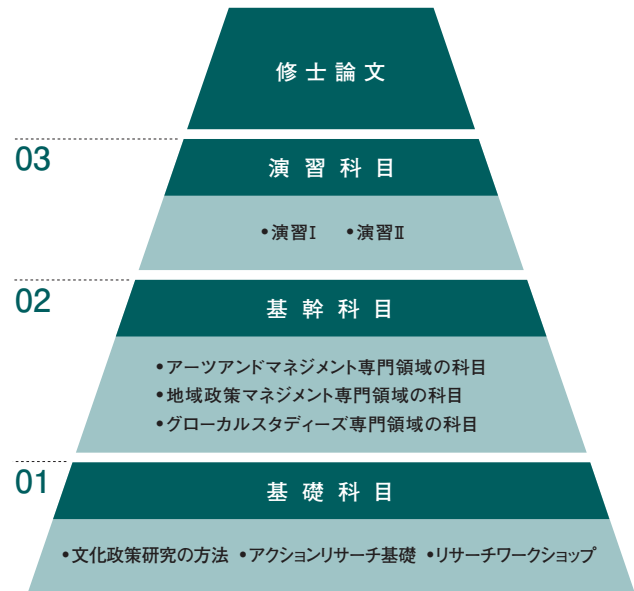
- 公益財団法人掛川市生涯学習振興公社
- 公益財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)
- 公益財団法人豊田市文化振興財団
- 公益財団法人名古屋国際センター
- 公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)
- 公益財団法人浜松市文化振興財団
- サントリーパブリシティサービス(株)
- PARC-国際舞台芸術交流センター
- 株式会社ファミリーマート
- 株式会社北國新聞社
- 蒲郡市農業協同組合
- 浜松磐田信用金庫
- 浜松市役所
- 静岡市役所
- 袋井市役所

カリキュラム構成の特徴

01 基礎科目 修士論文の構想づくりを進めるための「文化政策研究の方法」と、修士論文の仮説をフィールドワークや現場での調査を通して複数の教員とともに考察していく「アクションリサーチ基礎」「リサーチワークショップ」があります。

02 基幹科目 各分野の概念的な知識を学び、学際的な系譜を学ぶための「領域横断科目」と、「アーツ アンド マネジメント」「地域政策マネジメント」「グローバルスタディーズ」に関する専門的な内容を学ぶ「専門科目」があります。

03 演習科目 演習Ⅰ（1年目）と演習Ⅱ（2年目）から構成されています。演習Ⅰは異なる教員による2つを履修し、領域横断的に学びます。演習Ⅱはさらに1名の教員の本格的指導のもと、論文を完成させていきます。また研究科内での発表会の機会もあります。



修士論文テーマ（例）

- 社会的包摂とねむの木学園
－宮城まり子の活動に着目して－
- 高齢者大学からみる社会参加のプラットフォーム
－高齢社会における文化芸術事業の可能性－
- 地方において本屋が「居場所」となる可能性
－八戸ブックセンターを事例として－
- 創造都市推進政策としてのアーティスト・イン・レジデンス事業の評価のあり方
－浜松市鳴江アートセンターにおける思考を踏まえて－
- 外国人滞在者の公共交通機関利用における課題と提案
－浜松市のバス交通に着目して－
- 日本のオーケストラにおける子供たちへの音楽教育プログラムに関する研究
- 公立図書館運営に求められるパートナーシップ
－中津川市の事例分析－
- 浜松市の自治会における規範維持と合意形成
- 日本のホームスクールの現状と課題
－家庭を拠点に学ぶという選択－
- 同性パートナーシップ証明制度設立の経緯と今後の展開
- 失われた風景文化を再現する東海道宿場町の試み
－ケヴィン・リンチの思想から－

※ 修士論文は静岡文化芸術大学学術リポジトリ (<https://suac.repo.nii.ac.jp/>) をご参照ください。

[大学院] デザイン研究科 定員10名

研究分野

高度情報化や高齢化の進展、循環型社会への転換など、大きく変化する時代環境にあつて、デザインへの要請は広がりを見せるとともに、幅広い専門能力が求められるようになっています。

デザイン研究科では、そのような社会的要請に応え、より高度なデザイン人材を養成するために、実践的な学びを提供します。

担当教員は本学学部の所属領域や専門の枠を超えて必要な研究指導にあたります。



地域と関わりながら幅広く
デザインを学び、実践もできた。
本科での2年間は私の誇り。

修了生の声

浜松市役所 財務部 公共建築課
小島永倫美さん
デザイン研究科 2016年度修了

入学の動機 幼少期から海外の街並みや文化にふれる機会があり、歴史的建物などデザインに興味を持つようになりました。地域と関わりながら幅広くデザインを学び、実践することができる本学院に魅力を感じ、入学を決意。主にお茶の郷ミュージアムの空間デザインに携わることができ、SUACで学べたことをとても誇りに思っています。

大学院での学びを現在の仕事へ 市内の公共建築物を対象に、改修、補修、新築工事と幅広く活動しています。施設管理者と現状を確認し、業務を進める中で日常生活空間に支障をきたすことのないよう心がけています。日々の仕事で大切にしていることは、コミュニケーションと現場に足を運ぶこと。自分の目で確認した上で利用者の目線で考え、利用方法を想像し、より快適に過ごせる空間づくりを行っていきます。

就職実績 (抜粋・50音順)

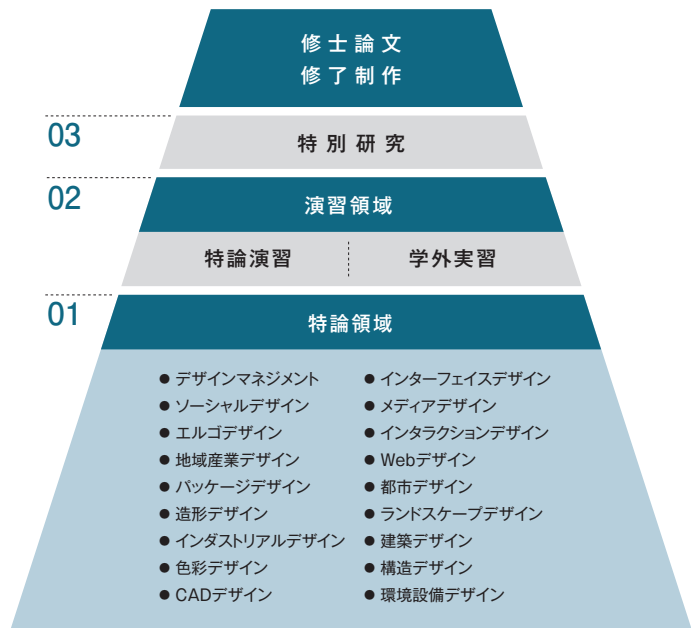
- いすゞ自動車株式会社
- 株式会社一条工務店
- 柏木工株式会社
- 株式会社共同建築設計事務所
- 佐川印刷株式会社
- 株式会社GKテック
- ジェイアール東海建設株式会社
- 株式会社シャンソン化粧品
- スズキ株式会社
- 株式会社駿河生産プラットフォーム
- 株式会社タカハ都市科学研究所
- 株式会社たき工房
- 中央コンサルタンツ株式会社
- 株式会社電通
- 株式会社東畑建築事務所
- 株式会社図書館流通センター
- 豊田合成株式会社
- 浜松市役所
- 企業組合針谷建築事務所
- 富士通株式会社
- プラザー工業株式会社
- 三井デザインテック株式会社
- 三菱地所レジデンス株式会社
- 三菱電機住環境システムズ株式会社
- ヨシコン株式会社
- 株式会社類設計室

カリキュラム構成の特徴

デザイン研究科のカリキュラムは、3つの段階で構成されます。学生は、大学院入学後に指導教員を選び、その指導を得ながら必要な科目履修を行います。

- 01 特論領域** 各デザイン分野に対応した少人数の専門科目により構成されます。学生は、各特論科目の履修を通じ、高度な専門知識の習得を図ります。学際的アプローチ能力が高められるよう専門分野を横断する科目履修を基本とします。
- 02 演習領域** 特論演習と学外実習により構成され、特論領域の内容を深化・発展させるとともに、実践的な能力を身につけます。特論演習は各特論科目に対応して開講され、学生は、各自の研究計画に沿って科目を絞り込み履修を進めます。
- 03 特別研究** 指導教員の指導のもと、大学院在学期間を通して研究活動を推進し、その成果を修士論文または修了制作としてとりまとめ、2年次末に提出します。

デザイン研究科において、所定の単位を修得すれば、一級建築士受験資格に定める実務経験2年として認められ、実務経験が不要となります。



科目名称等は2020年度の情報です。



修士論文・修了制作テーマ (抜粋・2019年度実績)

- 移動体験を楽しむためのUXデザインの研究
ー車内広告デザインの応用ー
- 高齢者向けレクリエーション研究
ー交流を促進するためのゲームの提案ー
- 男性用軽度尿ケア専用品の個包装販売によるユーザー体験の提案
- 静岡県農林環境専門職大学の基本構想及び基本設計
- 中国結びと日本結びを比較し現代に活かす方法の研究
- 吉田町における防潮堤利活用計画
ー地域特性をもつ賑わい公共空間の創出ー
- キャッシュレス社会における次世代インターフェースの提案
ー「デジタルのお金」とハプティクス(触覚技術)を用いたコミュニケーションー

※修士論文・修了制作要旨は静岡文化芸術大学学術リポジトリ(<https://suac.repo.nii.ac.jp/>)に公開される予定です。

キャリアサポート



OGやOBとの出会いが
将来を決定づけてくれた

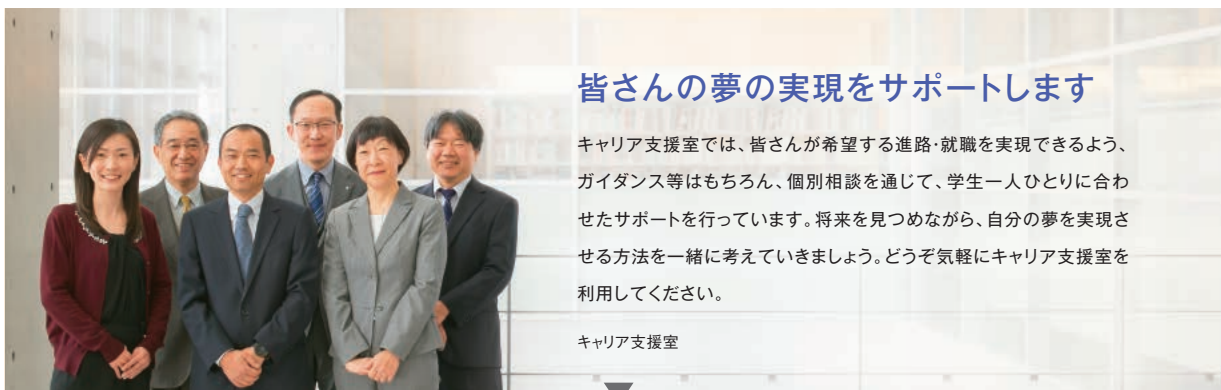
足しげく通ったキャリア支援室
手厚いサポートのおかげで
エントリーシートは全8社、合格!

企業の説明会やインターンシップなどに積極的に参加しました。学内の合同説明会でいらしたOGの方に感銘を受け、ヤマハ発動機に魅力を感じました。会社を訪問し、OBの方からも詳しい話を聞くことができ、海外実習生をサポートする仕事があるとわかり、自分が学んできた英語や中国語が活かせる場があることも、志望の動機になりました。就職活動中は、悩み事や行き詰まったことがあれば、いつもキャリア支援室へ。エントリーシートを書くのが苦手だった私に、一から教えてくださっただけでなく、自分を見つめ直す時間にもつながり、就活に自信が持てるようになりました。おかげでエントリーシートは8社すべて合格。大学生活で経験した様々なこと、充実して過ごした日々そのものも、自分のストロングポイントにつながったと思います。

就職(内定) / ヤマハ発動機 株式会社

高橋葉月 TAKAHASHI Hazuki

国際文化学科 4年 浜松市立高校出身

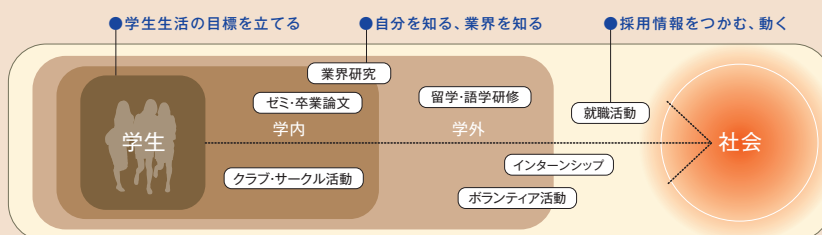


皆さんの夢の実現をサポートします

キャリア支援室では、皆さんが希望する進路・就職を実現できるよう、ガイダンス等はもちろん、個別相談を通じて、学生一人ひとりに合わせたサポートを行っています。将来を見つめながら、自分の夢を実現させる方法を一緒に考えていきましょう。どうぞ気軽にキャリア支援室を利用してください。

キャリア支援室

4年間を通した キャリア支援



就職支援

自分を見つめ、可能性に挑戦、そして夢を現実に

学生生活を通して、将来の夢や希望が実現できるよう、就職ガイダンスやセミナー、資格取得のための講座など、様々な就職支援行事を行っています。

学年	1年次・2年次	3年次	4年次
学生の活動	<p>● 学生生活の目標を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動 ・アルバイト経験 ・インターンシップ ・ボランティア活動 	<p>● 自分を知る、業界を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ ・自己分析 ・業界研究 ・企業研究 ・エントリーシート作成準備 ・面接練習 	<p>● 採用情報をつかむ、動く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同会社説明会等へ参加 ・会社説明会に申込 ・自己PR・志望動機まとめ ・エントリーシート提出 ・採用試験(筆記) ・面接(個人・集団) ・内定(進路を決定する) ・進路決定届の提出
大学の支援行事	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップガイダンス ・デザイン系施設見学バスツアー ・浜松市内企業見学バスツアー ・キャリア支援セミナー ・インターンシップマッチング会 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職ガイダンス(業界研究、自己分析、エントリーシート対策、マナー、面接対策、県外就職) ・デザイン学部就職ガイダンス(デザイン実習、インターンシップ、業界研究) ・インターンシップガイダンス ・インターンシップマッチング会 ・適性検査 ・大学院進学セミナー ・学科別業界説明会 ・個人面談 ・4年生内定者による報告会 ・業界説明会 ・模擬面接・グループディスカッション講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・合同会社説明会 ・就職活動説明会 ・採用情報の提供 ・大都市就職活動拠点の案内(東京・大阪・広島・福岡) ・学内会社説明会 ・就職相談 ・履歴書・エントリーシート助言 ・面接練習
資格取得講座	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験対策講座 ・MOS試験対策講座 ・簿記検定試験対策講座 ・ファイナンシャルプランナー検定試験対策講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・秘書検定試験対策勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験直前演習講座

就職支援

就職ガイダンス



大学受験と異なり、就職試験は採用内容も、選考方法も、各社・各団体様々です。本学では、学外から講師を招き、就職を取り巻く環境や企業選択のポイント、就職活動の進め方などについてガイダンスを実施し、就職活動の意識を高めています。

インターンシップ



インターンシップを実施する企業を招き、プログラム内容を直接学生に説明していただく機会を提供しています。学生は、企業担当者と対話の中で、興味を持ったインターンシップへ参加しています。

学科別業界説明会



国際文化学科では航空や旅行、文化政策学科では金融や行政、芸術文化学科では文化施設、デザイン学科では各種デザイナーなど、学生が多く志望する業界に就職した卒業生を招き、業界の特徴や働きがいなどを生の声で伝えます。

業界説明会



本学学生の就職先として考えられる業界から、第一線で活躍する社員の方々を招き、実際の仕事内容や社会人としての心構えなどについて、具体的なお話を伺います。

合同会社説明会



本学学生が多く応募する会社を中心に採用担当者を招き、会社概要から募集職種、採用方法などについて説明していただきます。本学OB、OGが担当者として来場してくれる機会も増え、参加学生は真剣な表情で説明を聞いたり、疑問点を質問したりしています。

個人面談



キャリア支援室職員が3年後期に学生全員と個人面談を実施。希望する業種、職種、勤務地などを確認することで、学生が希望する進路実現に向けてきめ細やかな就職サポートをしています。また、進路相談やエントリーシートの添削、面接練習なども実施しています。

内定者報告会



内定を得た4年生が、企業選びのポイントや就職活動の心得、面接で聞かれたことなど、体験に基づいた最新情報を報告します。

資格取得講座



公務員など専門的な勉強が必要とされる就職試験に向けたものから、分野を限らず仕事をするにあたって有能と思われる資格など幅広い分野にわたって各種の講座を開講しています。

取得可能な資格等

文化政策学部の取得可能な資格

	国際文化	文化政策	芸術文化
1 中学校教諭一種	国語/英語	社会	—
1 高等学校教諭一種	国語/英語	公民	—
2 図書館司書	○	○	○
3 学校図書館司書教諭	○	○	—
4 博物館学芸員	—	—	○
5 日本語教員養成課程	○	○	○
6 社会調査士	○	○	○

1 教育職員免許状[中学校教諭一種・高等学校教諭一種]

中学校教諭一種・高等学校教諭一種の免許状を取得できる教職課程を設けています。教職課程を履修し、必要な科目の単位を修得するとともに教育実習(2~4週間)、中学校一種はさらに特別支援学校・社会福祉施設などで介護等体験実習(7日間以上)を行うことが必要です。教員として就職するには教員採用試験に合格することが条件となります。

2 図書館司書

図書館で専門的職務に従事する職員に求められる資格です。司書課程を履修し、必要な科目の単位を修得することで資格が得られます。また、課程科目を履修する中で、大学での学習や工作上必要となる、情報・資料・文献の探索方法や組織化などに関する知識や技術を身につけることができます。

3 学校図書館司書教諭

小・中・高等学校の学校図書館で専門的職務(圖書の情報提供、読書指導、情報教育推進を担うメディア専門職などの役割)に携わる司書教諭になるための資格です。教職課程を履修し、教員免許状を取得することが前提です。加えて司書教諭課程を履修し、必要な科目の単位を修得することで資格が得られます。

4 博物館学芸員

博物館で資料の収集・保管・展示・調査研究のほか、これらの関連事業について専門的事項に携わる職員となるための資格です。美術館、資料館、水族館、動物園、植物園などでも専門職として活躍できます。学芸員養成課程を履修し、必要な科目の単位を修得するとともに博物館実習を行うことで資格が得られます。

5 日本語教員養成課程

日本語教員には、一般的な教員のように法に基づく免許制度はありませんが、日本語教員の応募資格の一つになるものです。この課程を修了した学生には、卒業時に本学から「日本語教員養成課程修了証」を発行します。

6 社会調査士

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等を捉えることのできる能力を有する人材に対して、一般社団法人社会調査協会が与える資格です。社会調査士の資格によって、調査報告書を適切に評価したり、自ら調査を企画・実施・分析できる一定の能力を有することを第三者評価で示すことができます。

デザイン学部の取得可能な資格

	デザイン学科
1 建築士受験資格	○ ※1
2 インテリアプランナー資格	○ ※2
3 商業施設士補資格	○
4 日本語教員養成課程	○ ※3
5 社会調査士	○

※1 建築士受験資格は、所定の単位を取得した場合に得られます。

※2 インテリアプランナー登録資格は、所定の単位を取得した場合に得られます。

※3 他学部他学科科目(国際文化学科専門科目)の履修が必要のため、計画的な履修が必要です。

1 一級・二級建築士 木造建築士試験 受験資格

建築士は建築物の設計および工事監理を主業務とし、建設会社や建築設計事務所、官公庁などで活躍できます。定められた科目を修得し卒業することで、建築士資格を得るための試験を受験できます。

※所定の科目の単位を修得した上で本学を卒業後、本学大学院デザイン研究科においても、所定の単位を修得すれば、一級建築士受験資格に定める実務経験年数として認定され、実務経験が不要となります。

2 インテリアプランナー資格

インテリアプランナーは、インテリアプランニングにおける企画・設計・工事監理を行うインテリアに関する知識と技術に習熟した専門家のことです。設計製図試験に合格・登録し、所定の実務経験を経ることにより、インテリアプランナー資格を得られます。本学の所定の単位を取得することで、合格後の実務経験が免除されます。また、20歳以上の人に受験資格があり、在学中でも学科試験を合格・登録すると、アシエイトインテリアプランナーの称号が付与されます。

3 商業施設士補資格

商業施設士補資格とは、商業施設の企画・設計・デザイン・監理等に関する知識を有していることを証した資格制度です。本学の所定の単位を取得し、商業施設士補資格講習会を受講修了することにより資格が取得できます。最短で2年生の段階で商業施設士補を取得することができ、商業施設士補資格取得後は在学中でも商業施設士にチャレンジすることもできます。

4 日本語教員養成課程

日本語教員には、一般的な教員のように法に基づく免許制度はありませんが、日本語教員の応募資格の一つになるものです。この課程を修了した学生には、卒業時に本学から「日本語教員養成課程修了証」を発行します。

5 社会調査士

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等を捉えることのできる能力を有する人材に対して、一般社団法人社会調査協会が与える資格です。社会調査士の資格によって、調査報告書を適切に評価したり、自ら調査を企画・実施・分析できる一定の能力を有することを第三者評価で示すことができます。

国際交流

新しいこと、
知らないことに
挑戦する度胸がついた

世界中から学生が集まるボローニャで 多くの刺激を受け、視野が広がった

日本を離れて生活をする中で、異なる国の文化や習慣を知り見聞を広めたい、と思いイタリアへ留学しました。イタリア語の勉強はもちろん、聴講生として美術や文化、地理などの講義も受け、新たな知見を広げることができたと思います。現地で感じたことは、自分の考えを明確に伝える必要性。日本と違い、多様な人々が暮らす海外では、自分の思っていることをストレートに伝えるのが当たり前。自分も臆せず発言しよう意識するようになりました。異文化を理解した上で、様々な習慣の違いを学べたことで、固定観念を捨てて柔軟に考える、その引き出しが増えたと思います。留学中、寮での会話は英語が中心だったので、英語能力が向上したことは思わぬ収穫でした。



留学先／ボローニャ大学(イタリア)
3年次後期に留学

成岡優輝 NARUOKA Yuki
国際文化学科 4年 静岡県立静岡東高校出身

グローバルな視野を持って社会に貢献する人材の育成を目指して

社会・経済のグローバル化が急速に進む中で、日本、世界各地の地域文化とコミュニティの特色を理解するとともに、地域で、世界で活躍・貢献できる国際的な視野を持ったグローバル人材の育成を目指しています。国際交流協定校との交換留学や語学研修、海外からの留学生との交流等を通じて、学びの可能性は大きく広がります。

本学学生の
留学支援のために

- ◎SUACによる奨学金・奨励金制度
- ◎日本学生支援機構による奨学金制度
- ◎交流協定校で取得した単位の本学卒業認定単位への換算
(4年間での卒業も可能)等

海外からの
留学生支援のために

- ◎単位互換、留学生宿舍の提供等【交換留学生】
- ◎授業料減免制度、奨学金制度(SUAC、日本学生支援機構)等【私費留学生】
- ◎留学生交流会・研修旅行の実施

本学の設置理念である「国際社会に貢献する開かれた大学」の実現に向けて、海外の多様な大学と交流協定を結び、様々な交流事業を展開してグローバルに活躍できる人材の育成を目指しています。

フィンドレー大学

アメリカ合衆国

1882年に開学し、現在は経営学部・教育学部・医療学部・教養学部・薬学部、理学部の6学部から成る総合大学です。オハイオ州に位置し、学生数約4,000人、地域との結びつきが強く、留学生に対するサポート体制も充実しています(留学生は日本、タイ、マレーシア、インド、サウジアラビア、韓国、中国等30カ国から来ています)。



浙江大学城市学院

中華人民共和国

1999年に公設民営の大学として浙江省杭州市に開学。人文学部、外国語学部(日本語学科を含む)、創意(デザイン)学部など9つの学部で構成された学生数13,500人の総合大学です。



アイルランガ大学 人文学部

インドネシア

1954年にインドネシア第2の都市スラバヤに設立された国立総合大学。人文学部には2006年に日本研究学科が開設され、4学年あわせて200人を超える学生が日本文化を学んでいます。本学からの留学生には人文学部の授業のほかに留学生別科BIPAでの語学科目も単位認定されます。



ウェールズ大学 トリニティ・セント・デイビッド イギリス

ウェールズ大学トリニティ・セント・デイビッドのカマーゼンキャンパスは、ヒースロー空港から車で西へ約3時間、南ウェールズに位置します。学生寮はキャンパスの敷地内にあり、教職員も勉強や生活の相談にのってくれるなど留学生の受け入れシステムは充実しています。



湖西大学校

大韓民国

1979年に創立し、1988年以降は総合大学として発展。現在は人文学部、社会科学部、自然科学部、工学部、NewIT工学部、芸術能学部、教養・教職学部などの学部と各種大学院を擁しています。また、外国語教育院「韓国語学堂」を設け、韓国語の語学研修生の受け入れにも積極的に取り組んでいます。



ブルゴーニュ大学 国際フランス語センター フランス

ブルゴーニュ大学は、1722年創立、フランスのブルゴーニュ地方に5つのキャンパスを持つ国立総合大学で、学生数27,000人、教員数4,000人を数えます。国際フランス語センターは、ディジョン市のメインキャンパス内にあり、大学の学部に対応する一機関として毎年1,500人以上の留学生を受け入れています。本学は2011年から語学研修学生の派遣を行いました。



国際交流

ボローニャ大学

イタリア

1088年の創立で「世界最古の大学」とも言われており、建築学部以外はすべての専門を擁する国立の総合大学です。イタリアの Emilia-Romagna 州の州都であるボローニャ市にあり、在籍学生数は8万人を超えています。アートマネジメント研究の分野においては、総合芸術学科(1970年創立)が先進的研究拠点となっています。



イズミル経済大学

トルコ

2014年より産学共同国際ワークショップで交流を深めてきたトルコ・イズミル経済大学と2015年に交流協定を締結しました。イズミル経済大学(2001年創立)は、2大学院、7学部、2専門学校からなる総合大学で、英語で授業、外国籍の教員が多数在籍する国際色豊かな大学です。デザイン学部を有しており、今後もデザインワークショップ開催、留学生受け入れなど交流を行っていきます。



国立台湾師範大学 国際興社会科学学院 台湾

国立台湾師範大学は、1946年に設立された台北市に本拠地を置く国立大学で、国際的に語学教育分野での評価が高い大学です。本学は2016年に語学研修生の派遣を行い、同年に交流協定を締結しました。今後は交換留学、語学研修を中心に交流していく予定です。



サザンクロス大学

オーストラリア

サザンクロス大学は、1994年に設立された公立大学です。州都シドニーを有するニューサウスウェールズ州にあるリズモアのメインキャンパスのほか、ゴールドコースト、コフスハーバーにキャンパスを有しています。広大な敷地と自然に囲まれた同大学では、ビジネスや観光学、ホテルマネジメントを学べるコースが充実しています。



語学研修

実体験を通じて異文化への理解を深めることは、真の国際人としての感性を養う上で、欠くことのできない条件です。本学では世界に通じる人材育成を目指して、世界各国への研修を実施するなど、語学研修の充実に努めています。

2019年度 語学研修先

大学名等	国・地域名
グロスタシャー・カレッジ	イギリス
ヴィクトリア大学	カナダ
サザンクロス大学	オーストラリア
国立台湾師範大学	台湾
フランス政府留学局研修	フランス
アイランガ大学人文学部	インドネシア



留学生トータルサポートプログラム

本学主催の留学・語学研修生には、指定の海外旅行保険を用意しています。これにより、海外での万一の事件・事故への対応力を高め、迅速なサポートを可能にします。備えを万全にして、充実した留学生活にできるような環境を整えています。

キャンパスガイド

施設紹介 工房・特殊機器紹介



国際文化学科

文化政策学科

芸術文化学科

デザイン学科

センター/大学院

キャリアサポート

国際交流

キャンパスガイド

支援制度

カリキュラム・
インフォメーション



音声でも誘導する案内サイン

案内サインは、大学カラーのブルーを基調に、日本語と英語で表示しています。点字案内板も学内11カ所に設置され、音による誘導も行っています。



多機能型トイレとサイン

トイレの種類は、男性、女性、多目的の3種類。各々の違いを点字でも識別できるよう、入口には手をついた時に触れる高さに表示サインを設置しています。



水飲み場・自動販売機

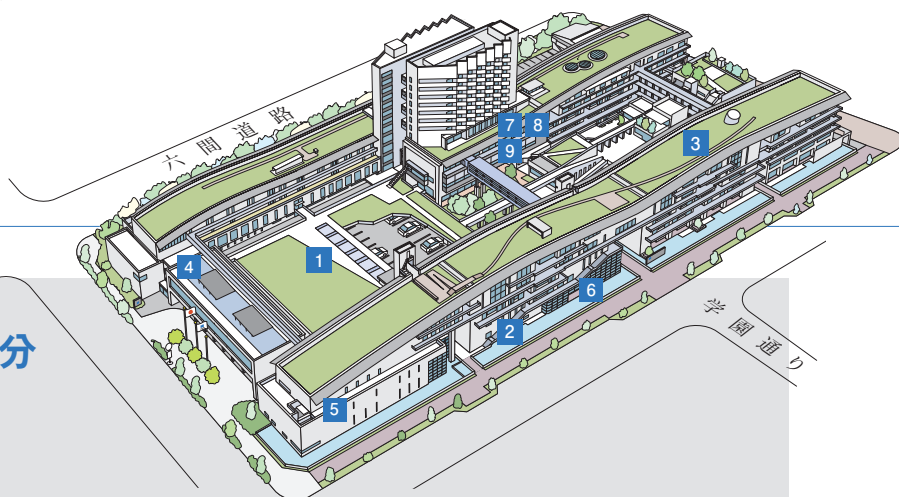
水飲み場は、車椅子の方でも使いやすい形状で、高さも調整されています。また周辺には十分なスペースがあります。自動販売機にも、コイン投入口の形状など様々な工夫があります。

ユニバーサルデザイン すべての人にやさしい、アクセシブルな自由空間

ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、能力の如何にかかわらず、すべての人が利用できるようにモノや空間をデザインするという考え方です。これまでの多くの道具や建築物は、平均的な人が使いやすいようにデザインされており、そうでない人には利用できなかったり、過度の負担を強いたりしていました。これからの道具や建築物には、あらかじめ多様な人々の利用を想定し、アクセスを可能にしておく配慮が必要とされています。古くから「用と美」という言葉があるように、本学では、機能性と審美性を備えた、さりげなく、美しく、できる限り多くの人のアクセスを可能にするユニバーサルデザインを目指しています。

キャンパスガイド

施設紹介



JR浜松駅から徒歩約15分
約10分間隔でバス運行



施設の特徴

ユニバーサルデザインの理念をもとに設計されています。外観デザインには山の尾根や水の流れ、波のうねりを感じさせる緩やかな起伏を取り入れており、市民が利用可能な図書館・情報センター、自由創造工房、緑あふれる中庭「出会いの広場」を設けています。

環境対策

建物の屋上を緑化することで、夏季・冬季の空調負荷の軽減に努めています。また、地下ピットに雨水を貯め、雑用水に利用しているほか、太陽光発電を池の循環ポンプの電源などに利用して省エネルギーを図っています。

1 出会いの広場

2階にありながら人工地盤により緑化された、学生と市民の憩いの広場。学生食堂、学生ラウンジ、講義室、図書館・情報センターなどにつながる、大学の中心的スペースです。



2 大講義室

いわゆる階段教室の講義室で、219名を収容可能。最新のAV機器を完備し、プレゼンテーションの場としても適しています。



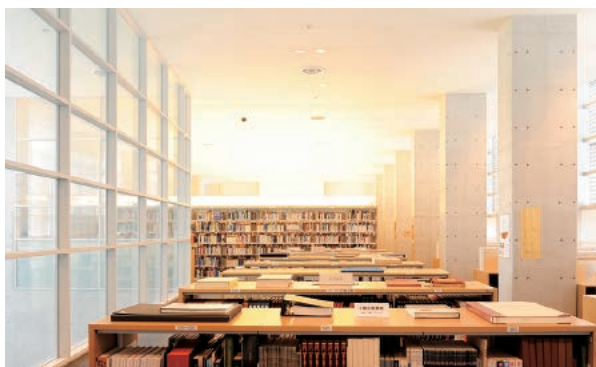
3 創造の丘

浜松市内が一望できる屋上庭園は、まさに都会のオアシス。山の尾根、波のうねりを思わせる緩やかな起伏が印象的です。



4 図書館・情報センター

図書館・情報センターは、大学の北西に位置し、約24万冊の図書、約1,600種類の新聞・雑誌、約7,400点の視聴覚資料(CDやDVD等)を所蔵しています。館内には、大型の個人学習机(キャレルデスク)をはじめとする約230の閲覧席、グループ学習室、視聴覚資料を利用できるAVコーナー等があります。また、館内には100台を超えるパソコンを設置しています。「図書館・情報センター」の名のとおり、図書館の所蔵する資料と、ネットワーク上の情報をもとに、さまざまな学習や教育に活用できる環境が整備されています。蔵書は、文化、芸術、デザインに関するものを中心に、学習や教育に必要な資料を揃えています。特色あるコレクションとしては、「高坂文庫」、「木村文庫」、「和田文庫」、「ラスキン文庫」があります。



所蔵資料は、館内のパソコンのほか、インターネットを利用してどこからでも検索することができます。図書館・情報センターのWebサイトや、図書館・情報センターだより『温故知新』による情報発信も行っています。

図書館の利用は活発で、学生1人あたりの貸出冊数は、全国平均を大きく上回っています。本館は、地域住民の方にも開放しており、利用者カード(※)を作成すれば、貸出サービスを受けることができます。

※20歳以上の静岡県内在住または在勤の方が対象で、カード発行手数料がかかります。

AVコーナー

約7,400点の視聴覚資料(CDやDVD等)があり、視聴用の個人机(キャレルデスク)と、大型モニターを備えた閲覧席が設置されています。

メディアステーション

70台のパソコンが設置された学生専用エリアで、インターネットによる情報検索や、インストールされたソフトを利用した資料の作成などできます。



5 講堂

603名を収容できる講堂は、ブラウン系色で統一され、落ち着いた雰囲気を醸し出しています。大学の行事、イベントやセミナー、学生の発表の場として利用されています。



6 自由創造工房

自由な制作・創作活動を通して、本学と地域との広範な交流を実現するための多目的工房です。ものづくりの魅力を広く伝えるため、市民を対象とした公開工房も開催しています。



7 学生ラウンジ



8 学生食堂



9 購買



学生食堂と購買は静岡文化芸術大学生協が運営しています。

キャンパスガイド

工房・特殊機器紹介

クレイモデル室

フルスケールモデル用レイアウトマシンが導入されており、乗用車などの実物大モデルをクレイ(粘土)で制作することができます。◆目的/クレイモデル制作 ◆主な機器等/フルスケールモデル用レイアウトマシン



金属工房

身近にたくさんある金属。ちょっと視点を変えて道具や工具を上手く利用すると、意外といろいろな物を作り出すことができます。この工房では、デザインをする上で必要な金属の基本的な性質や加工方法を学び制作するための道具や工具が豊富に揃っています。◆目的/金属工芸(鋳造・溶接) ◆主な機器等/ガス溶解炉、高周波自動遠心鋳造機



CAMモデル室

デジタルデザインのためのモデリングやコンピュータによる造形を行います。CADやCGで作成したデザインデータをもとに、モデルを立体造形する装置やクレイモデルを計測し、三次元CADデータを作成する装置、大型のステレオスコープ(立体鏡)など、制作や実験のための本格的な装置も設置されています。◆目的/CAMモデル制作 ◆主な機器等/3D CAD、3Dプリンター



マルチメディア室

レコーディング機材を持つ防音カプセルを備えたマルチメディア制作室です。デジタルサウンドの生成や編集、音楽素材の制作、FLASH・ゲーム・Webコンテンツの制作などを行います。センサを活用したインタラクティブ(対話的)なメディアアート作品もここから多数、生まれています。◆目的/マルチメディアコンテンツの作成・編集 ◆主な機器等/サウンドスタジオ、コンテンツ作成システム、MacPC



グラフィックWS室

CGの制作と映像のデジタル合成、ノンリニア編集作業などを行います。グラフィック用ワークステーションと3DCGや実写ベースの映像制作のためのソフトウェアが備えられていて、主に演習で使用します。◆目的/3次元モデルデザイン演習 ◆主な機器等/CAD、CGシステム



プラスチック加工室

プラスチック加工の実習や、プラスチック・アクリルを用いたモデル制作を行います。大型のNCトリミング加工機も設置しており、専門的な制作作業が行えます。◆目的/プラスチック加工 ◆主な機器等/3次元加工機、バフ研磨盤



デッサン室

デッサンの上達を目指すための部屋です。ゆったりとしたスペースで基礎から上級レベルまで対応できるよう、様々なモチーフが用意されています。



その他の工房・特殊設備

- ◆製図室
- ◆電子制御機器製作室
- ◆暗室
- ◆生物機能実験室
- ◆平面工房
- ◆環境コントロール室
- ◆木彫工房
- ◆UDラボ
- ◆ドライモデル室
- ◆空間演出実験室
- ◆DFラボ(自由創造工房内)
- ◆構造実験室
- ◆総合組立アトリエ
- ◆染色工房
- ◆塗装乾燥室
- ◆CG工房
- ◆OA室
- ◆立体工房

撮影スタジオ

奥行きが約12m、天井にはファティフという照明機具が取り付けられていて電動で作動します。ほかにもフラッシュライトが光源のバルカーというライトも8台揃っています。背景は白のホリゾントですが、色バック紙や布を使うことによっていろいろと変えることができます。



木材加工室

木材を切断したり、切削したりして、本格的な木工造形物を制作するための多種多様な木材加工機械を設置しており、専門の指導員が常駐して指導にあたっています。◆目的／木材加工 ◆主な機器等／木工旋盤、パネルソー



金属加工室

金属を加工するための旋盤、フライス盤、マシニングセンターなど最新の機械設備が設置されていて、自分でデザインモデルを制作することができます。◆目的／金属加工 ◆主な機器等／NC旋盤、高速切断機、クレーン



ガラス工房

ホウケイ酸ガラスを素材として、バーナーを使いガラスの加工方法を学ぶ実習工房です。食器や家具の素材空間を仕切り、生活を快適に守り演出する材料としてのガラスの基本的な性質、美しさ、可能性の一端を、エキスパートが指導します。◆目的／ガラス加工、作品の制作。◆主な機器等／ガラス旋盤、除冷炉



人体機能実験室

使いやすい道具や心地よい環境づくりに必要な人間に関する種々のデータを得る実験室です。人間の動作、姿勢、筋肉の負担などを測定する機器、高さや角度を自由に変えられる階段可変装置、室温・湿度・照度を自由に設定できる小ブースなどがあり、様々な条件設定における道具の使いやすさ等を検討します。



陶芸工房

酸化・還元焼成が可能な大小2基の最新式マイコン制御の電気炉や電動ろくろ、真空土練機、たたら機などの設備が充実しています。



テキスタイル工房

移動機器やインテリアなど、様々なデザイン分野で使われる織物や布地の作り方、成り立ち、性質などを学びます。



CAMPUS LIFE

My Own SUAC, My Own STYLE

新しく始めたいこと、もっと深めたいこと、
自分の未来を輝かせてくれそうなこと。
本人がその気になれば、
「何でもやれる」「自由にやれる」のがSUACの校風。
やりたいことを見つけて、チャレンジする学生たちを
サポートし、応援する大学、それがSUACです。
先輩たちの実生活をリアルレポート!

クラブ・サークル

ゼミ関連の活動

自主的な活動

実践演習

アルバイト

やりたいことは
SUAC生のうちに
どんどんチャレンジしよう!



① 1年生のリアルライフ

CAMPUS LIFE

My Own SUAC, My Own STYLE

キャンパス内外で
興味があることがいっぱい。
「何でもやってみよう!」の精神で
自分らしく楽しんでます。

北海道から浜松へ。親元を離れる不安もありましたが、SUACは一人暮らしの学生も多く、友達もできて楽しく過ごせています。授業で関わった「やらまいかミュージックフェスティバル」では、地元の大人の方たちと共に運営に携われ、貴重な経験ができました。Twitterで学生記者もしているの、学内の面白い情報をリアルに発信していきたいと思っています。「授業」も「やりたいこと」も両方頑張れるのがSUAC。好きなこと、やりたいことが見つかる、そんな楽しいキャンパスへぜひどうぞ!

Weekly schedule

1年後期

● 齋藤さんの1週間の日程表【授業の予定表】

時限	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30					アートマネジメント概論
2 10:40~12:10	文化と芸術A	英語コミュニケーションIIA	統計学	映像メディア論	英語コミュニケーションIIB
3 13:00~14:30		★ 火曜日と金曜日の昼休み... Enjoy Arts Projectでサークル活動			★ 観光社会学
4 14:40~16:10	社会学概論				
5 16:20~17:50	地方行政論	法と社会		異文化と教育	哲学

★ 月曜の放課後は、碧風祭実行委員会の打ち合わせ

◎ 週1~2日、接客業のアルバイト

◎ 空き時間は、大学公式Twitter学生記者として感じたことを発信中



齋藤 綺音

SAITO Ayane

文化政策学部 芸術文化学科 1年
北海道旭川北高校出身

◆ 「やらまいかミュージックフェスティバル」に参加

地域連携実践演習という授業を通じて、浜松の市民がつくる音楽祭に参加しました。学外に出たので、地元の大人の方たちと一緒に実際のイベントの運営をお手伝いする良い経験ができました。



◆ 「碧風祭」で運営をサポート

碧風祭運営委員会で備品や会計を担当する総務局で活動しています。前日の準備や終了後の片付け、当日も受付や巡回など忙しいですが、来場者が楽しんでくれている様子が嬉しくて、とてもやりがいがある活動です。



◆ 週末は足を延ばして静岡めぐり

友達と一緒に島田市の文化政策についてのシンポジウムに参加しました。勉強になることも多かったし、大井川にかかる世界一長い木造の橋「蓬萊橋」など、初めての場所で様々なものを見るのも楽しかったです。



大学生活は 良くも悪くも「自由」 遊んでばかりはもったいない!

デザイン学科は6領域あるので「いろいろやれる」のがSUACの魅力。工房も自由に使えるし、3Dプリンターなどの機材も借りられるし、学生をサポートしてくれる環境は想像以上でした。碧風祭では2つのサークルでそれぞれの活動を体験し、自分たちで大きなイベントを動かすポテンシャルとエネルギーを持っていることを実感。平生、遊んでばかりいるのはもったいないと思いました。大学は高校と比べて良くも悪くも自由度が高いため時間をどう使うかがポイント。時間を浪費せずに楽しんでいきます!

Weekly schedule

1年後期

● 柵木さんの1週間の日程表【授業の予定表】

時限	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30		英語コミュニケーション II A		英語コミュニケーション II B	情報社会論
2 10:40~12:10				映像メディア論	表現技法II
3 13:00~14:30		静岡学		ユーラシア文明論	表現技法II
4 14:40~16:10	基礎演習C (グラフィック)	基礎演習E (インタラクション)	現代社会と教育		彩筆会(書道部) 18:00~21:00
5 16:20~17:50	基礎演習C (グラフィック)	基礎演習E (インタラクション)	モビリティ研究会COCOON 18:00~21:00		哲学

◎ 居酒屋でアルバイト(週2日くらい)



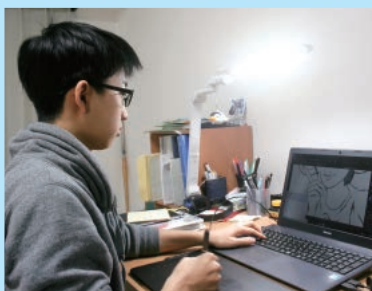
柵木 宗

MASEGI Takashi

デザイン学部 デザイン学科 1年
愛知県立刈谷高校出身

◆ 自宅にて オフ時間の過ごし方

自宅のノートパソコンとペンタブで絵を描くのが趣味の一つ。描いたイラストはSNSにあげることも。周りにもデジタルで描く友達が多いのでいろいろ聞けるし、絵の上手い人が多いので刺激になっています。



◆ 彩筆會(書道部)

小学生の時、少し習っていた書道を大学からきちんと始めました。碧風祭などのイベントで行う書道パフォーマンスは、緊張もするけど、友達や先輩方の存在が心強く、観客の感嘆の表情が心地良いです。



◆ 居酒屋でアルバイト

大学の近くの居酒屋でバイトを始めました。慣れないことも多いですが、先輩が優しく教えてくれます。仕事終わりのまかないが美味しい! 課題と両立するのが大変な時もあるけど頑張ってます!



③ 3年生のリアルライフ

CAMPUS LIFE

My Own SUAC, My Own STYLE

顔や名前を覚えられるほど 先生との距離が近いのも SUACの魅力!

「デザイン」と「文政」、それぞれの刺激がたくさん感じられる碧風祭で、今年も運営委員を務めました。「ゼミナール大会」にも出場し、1つのことをみんなで突き詰める有意義な経験ができました。自分の「知の力」や教養が広がることに日々、喜びを感じています。SUACはコンパクトな大学なので、先生との距離も近く、力を伸ばすには絶好の環境。高校の恩師に言われた「有名大学で後ろにいるより、小さな大学で前にいる方がいい」という『鶏口牛後』の精神でキャンパスライフを謳歌中です!

Weekly schedule

3年後期

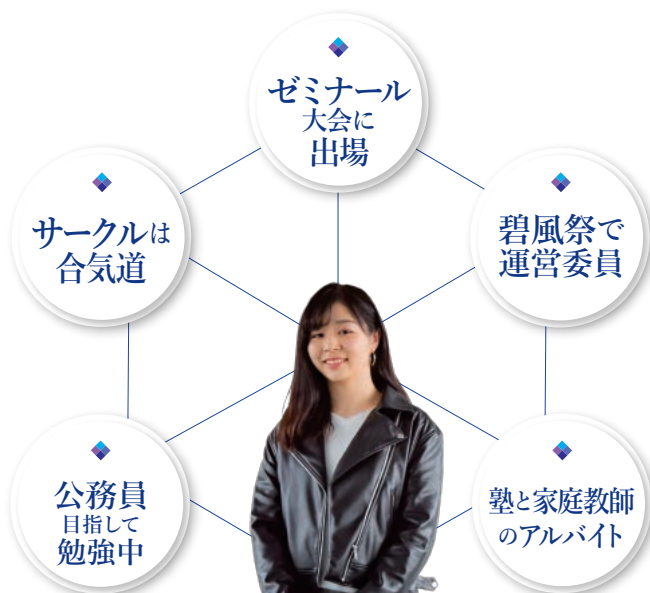
● 南さんの1週間の日程表 [授業の予定表]

時限	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30			観光論		
2 10:40~12:10	情報リテラシー 応用B			市民社会論	
3 13:00~14:30		自然地理学	ゼミ		地域産業論
4 14:40~16:10	NPO・NGO論		ゼミ		
5 16:20~17:50	碧風祭実行 委員会	公務員講座	合気道部		合気道部

◎ 公務員試験のテキストは常に持ち歩き、5分でもスキマがあればテキストを開いています

◎ 塾講師のアルバイト(月金)

◎ 家庭教師のアルバイト(火土、ただしテスト前は水金も)



南 摩莉花

MINAMI Marika

文化政策学科 文化政策学科 3年
静岡県立浜松北高校出身

◆ 沖縄旅行

2年の春休みには学科の友人と沖縄へ3泊4日の旅行に行きました。レンタカーで本島を南北に縦断し、琉球ガラスの体験やフルーツを楽しんだり、有名な観光地を巡ったりしました。



◆ 家庭教師

受験生を教えています。私も高校受験は苦労したので、逆境でも彼の一番の応援隊であろうと決めています。必死に頑張る姿を見ると、できることは全てしてあげたいと強く思います。



◆ ゼミナール大会

同学科の経営ゼミのチームに志願してメンバーに加えてもらい、全国の大学生が研究成果をプレゼンする大会に参加しました。「後発企業による地域経済牽引」について発表しました。



いろんなことにトライして
得られた気づきの数々。
刺激し合える仲間も最高!

先輩に誘われて活動しているうちに世界が広がり、建築系ワークショップで社会とのつながりができたり、有志による展示会で違う分野の人と知り合えたり、刺激の多い毎日です。映画制作チームでは1年次は出演、2年次は撮影監督を務め、3年次は碧風祭ディレクターとして2会場を設営する試みに挑戦。新たなことを始めることで得られた気づきは大きかったです。学業と両立するポイントは“やりたいことを絞る”こと。すべてが中途半端にならないよう、あと1年、楽しくチャレンジしていきたいです。

Weekly schedule

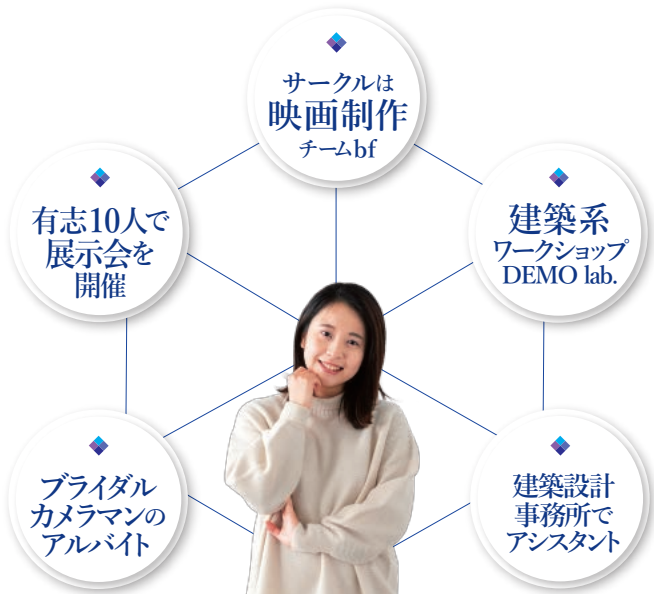
3年後期

● 加古さんの1週間の日程表 [授業の予定表]

時限	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1 9:00~10:30			生体機能論		構造力学Ⅱ
2 10:40~12:10			建築設計 総合演習Ⅰ		建築法規 構造計画Ⅱ
3 13:00~14:30	建築・空間史				
4 14:40~16:10		放課後は、映画制作チームbf			
5 16:20~17:50	デザイン史Ⅱ				

◎ ブライダルカメラマンのアルバイト (土日)

◎ 建築設計事務所のアルバイト (全体的日や空きコマ、土日)



加古梨紗

KAKO Risa

デザイン学部 デザイン学科 建築・環境領域 3年
愛知県立瑞陵高校出身

◆ 映画制作チームbf

1年次に出演したことがきっかけで、現場での緊張感やbfメンバーのいきいきとした表情に惹かれチームの一員に。映画制作のほかイベントの企画や空間構成、告知物や什器の制作など、様々な分野で挑戦できる場です。メンバーと共に、イベント等のスケジュール管理や企画進行を担当。社会に出て活かせる経験になっています。



◆ 建築系ワークショップDEMO lab.

建築家指導のもと、「まち」を歩き、撮影した素材をもとに映像作品をつくる」というワークショップと、マンション一室のリノベーションを通して実務を学ぶプロジェクトに参加。測量、解体、プランニング、施工のほか、SUAC生を対象にアンケート調査も実施。大人や学生との対話の中で課題や、新たな視点を得ることができました。



◆ 木の家設計グランプリ2019

先輩と組んで挑んだ「木の家設計グランプリ2019」で「ビルダー賞」をいただきました。「小さな家。少ない家。」というテーマのもと、住環境を取り巻く現代社会の問題、時代の流れを見つめ直す良い機会になりました。他大学の作品を見たり、審査員の建築家の方々と話したり、とても良い刺激になりました。



クラブ & サークル活動



好きなことを見つける、打ち込む。
 体育系も文化系も、SUACのサークルは
 自由でのびやか。
 仲間とともに貴重な時間を共有しよう。



クラブ&サークル 一覧

Sports

体育系

- 合気道部
- サッカー同好会
- バドミントン部
- ダンス部
- 弓道部
- 女子フットサル部
- 硬式テニス部
- ヨガ・サークル
- 卓球部
- バスケットボール部
- 陸上競技サークル
- ストリートダンス・サークル
- 軟式野球部
- バレーボール部
- アルティメット部
- よざこいサークル

Culture

文化系

- 書法倶楽部「彩筆會」
- ビジュアルデザインチーム「獣道」
- 国際ボランティア「SUAC Habitat For Humanity」
- 着物倶楽部
- Enjoy Arts Project
- 地域貢献部「CSN浜松」
- 茶道部
- 音響照明技術研究会
- ESS (English Speaking Society)
- BALLON ARTS
- ゴスペルサークル
- ものづくりサークル「MONO」
- 文芸かるたサークル
- 吹奏楽部「SUAC Wind Ensemble」
- りとるあーず(フェアトレードの普及活動)
- SUAC kitchen
- ガムランサークル
- SUAC Broadcast Club(放送研究同好会)
- 建築研究会「ken-ken」
- エレクトーンサークル Tutti
- 写真同好会「Tap」
- 天文サークル「Sirius」
- 漫画研究同好会
- 映画製作チームbf
- JAZZ研究会
- 水電球
- モビリティ研究会コクーン
- 軽音楽部
- 教職研究会「教職スクランブル」
- 陶芸部
- La-Voc
- 編集ブ。

へきふうさい
イベントカレンダー＋碧風祭



出会いと発見が交差するキャンパスには、
季節ごとのイベントや、今ここでしか
できない体験がいっぱい。
充実した4年間をはじめよう。

毎年11月に開催される「碧風祭」。企画・運営をすべて学生
が行う、本学ならではの一大イベント。市民や民間企業の方
ともつながるSUACパワーを体感しよう。



碧風祭の様子

前期

4月 April	● 入学式 ● 学生会新入生歓迎行事	● ガイダンス ● 前期授業開始
5月 May	● 学生会総会	
6月 June	● 防災訓練	
7月 July	● 学生会納涼祭 ● 前期試験期間	
8月 August	● 夏期休業 ● 前期集中講義I	● オープンキャンパス
9月 September	● 前期集中講義II ● 語学研修	

後期

10月 October	● 後期授業開始 ● 特別公開講座「新能」	
11月 November	● 碧風祭 ● 推薦入試	
12月 December	● 冬期休業 ● 後期集中講義I	
1月 January	● 後期集中講義II	
2月 February	● 後期試験期間 ● 卒業展 ● 後期集中講義III	● 大学院入試(文化政策・デザイン)
3月 March	● 卒業式 ● 語学研修	

在学生データ

全国各地から集まる学生。少人数教育と相まってきめ細かい指導を実践。

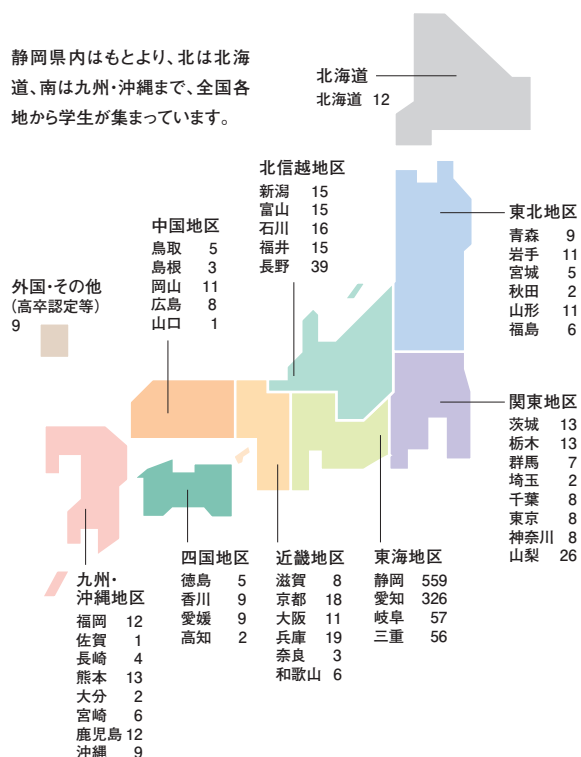
本学の学生は全国各地から集まっています。また、海外からの留学生の受け入れにも積極的に取り組んでいます。

指導にあたっては少人数制教育を基本に学生へのきめ細かい対応を実現。個々の能力アップに力を注いでいます。



都道府県別出身地（学部生）（2020年4月1日現在）

静岡県内はもとより、北は北海道、南は九州・沖縄まで、全国各地から学生が集まっています。



在籍者数（2020年4月1日現在）

学部	学科	1年生	2年生	3年生	4年生	全学
文化政策学部	国際文化	109	113	115	137	474
	文化政策	59	60	61	61	241
	芸術文化	60	61	53	62	236
	学部計	228	234	229	260	951
デザイン学部	生産造形				0	0
	メディア造形				1	1
	空間造形				0	0
	デザイン	120	118	114	121	473
学部計	120	118	114	122	474	
2学部計	348	352	343	382	1,425	
大学院	文化政策	6	6			12
	デザイン	14	14			28
	院計	20	20			40
総計		368	372	343	382	1,465

支援制度

学費・学生支援制度

各種制度により学生の向上心を受けとめ、様々な相談に応じることができる体制が整っています。

入学生に適用する学納金 (2020年度)

区分	県内の入学者	県外の入学者	摘要
入学金	141,000円	366,600円	入学時
授業料(年額)	535,800円		※2021年度の学納金については変更になる場合があります。

学費支援体制

授業料の減免制度

国の実施する「高等教育の修学支援新制度」に基づき、授業料を減免します。なお、本学は本制度の対象機関です。

授業料の分割納入制度

授業料を一括して納入することが困難な場合には、申請により分割して納入することができます。

奨学金

本学独自の奨学金である「スズキ奨学基金 奨学金」による修学支援のほか、日本学生支援機構(旧日本育英会)や地方公共団体や民間団体等が行う各種の奨学金制度を紹介しています。基準となる学力・経済状況や貸与金額・返還方法等はそれぞれ異なります。

スズキ奨学基金 奨学金

スズキ株式会社からの支援を得て、2011年6月に創設。本学の学生に対して、一層の向学心向上を奨励し、成績優秀な学生の修学環境を整備することを目的とした奨学金で、審査を経て、学業成績上位者に支給されます。

独立行政法人日本学生支援機構 (旧日本育英会)

「優れた学生であるが経済的に修学が困難」という学生に学資の貸与または給付を行う公的機関です。社会に役立つ人材を育成するとともに、学習の機会均等などを図ることを目的としています。

民間育英団体等

募集方法は大学が依頼されて「学内募集」するケースと、関係団体が「直接募集」するケースのいずれかです。募集がある場合は随時掲示によりお知らせします。

学生相談

夢や希望にあふれて大学に入学する一方、新たな生活に不安や戸惑いを感じることもあるかもしれません。本学では、学科・研究科ごとに学生委員(専任教員)を置いているほか、保健室や学生相談室・修学サポート室を設け、様々な相談に応じる体制を整えています。

オフィスアワー

(教員研究室での個別相談)

学生と教員との緊密なコミュニケーションを図るために、本学ではオフィスアワーを設けています。教室では十分に尋ねられなかった事項や専門分野の説明などを聞くことができます。

保健室

病気やけが等の応急処置や心身の健康に関する相談に応じます。保健室で対応できない場合は、学校医または専門の医療機関を紹介するので、お気軽にご相談ください。

学生相談室

心の不安、つまずき等様々な相談に、専門のカウンセラーが応じます。直接相談しにくい内容でも、メールにより相談を受けられるので安心です。

修学サポート室

コミュニケーションが苦手、グループワークがうまくできない、身体に障がいがあるなど大学で勉強する上で困っている学生を個別にサポートします。

CURRICULUM

カリキュラム一覧

文化政策学部

デザイン学部

Faculty of Cultural Policy and Management
Faculty of Design

C O N T E N T S

- 089 文化政策学部カリキュラム一覧
- 091 デザイン学部カリキュラム一覧
- 093 卒業要件単位数／全学科目一覧
- 095 全 学 科 目 概 要
- 099 文化政策学部科目概要
- 103 国際文化学科科目概要
- 109 文化政策学科科目概要
- 112 芸術文化学科科目概要
- 115 デザイン共通科目概要
- 118 デザイン専門科目概要

SUAC

公立大学法人 静岡文化芸術大学

文化政策学部

2021年度 カリキュラム一覧

人間的素養・基礎力の養成

全学科目

導入教育

- 文化芸術体験演習
- 学芸の基礎

教養

人文科学

- 文学
- 哲学
- 心理学
- 宗教学
- 歴史学
- 文化人類学
- 日本文化論
- 静岡学
- 文明と観光
- ユーラシア文明論

社会科学

- 法と社会
- 経済学基礎
- 現代の国際社会
- 現代社会と教育
- 社会学概論
- 社会調査論
- 情報社会論
- 人権論

自然科学

- 数学概論
- 統計学基礎
- 食と健康
- 科学技術論
- エコロジカルデザイン
- スポーツ科学

芸術・デザイン

- 音楽と社会
- 芸術と社会
- 色彩・形態論
- ユニバーサル/インクルーシブデザイン概論
- 映像メディア論
- 空間とデザイン
- デザイン史

必修外国語

英語

- 英語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- 英語コミュニケーションⅡA・ⅡB
- 英語コミュニケーションⅢA・ⅢB
- 英語コミュニケーションⅣA・ⅣB
- マルチメディア英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ

中国語

- 中国語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- 中国語コミュニケーションⅡA・ⅡB
- 中国語コミュニケーションⅢA・ⅢB
- 中国語コミュニケーションⅣA・ⅣB
- マルチメディア中国語
- ビジネス中国語Ⅰ・Ⅱ

日本語(留學生のみ)

- 日本語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- 日本語コミュニケーションⅡA・ⅡB

実践演習

- 地域連携演習A・B
- 自主課題演習A・B
- 企画立案演習A・B

スポーツ活動

- スポーツ活動A・B

総合

- 特別共同授業A・B・C

専門領域へのアプローチ

学部科目

文化・芸術

- 音楽文化論
- 演劇文化論
- 視覚芸術論
- 社会思想史
- 市民社会論
- 社会心理学
- 多文化共生論
- 異文化と教育

政策・マネジメント

- 文化政策概論
- 非営利セクターの経営
- 地方行政論
- 会計学
- 都市経営論
- アートマネジメント概論
- NPO・NGO論
- 憲法
- 文化政策と法
- 生涯学習と文化

情報・リテラシー

- 統計学
- 社会科学の方法
- フィールドワークの手法
- プレゼンテーション技法
- ディベート技法
- ファンリレーション技法
- 情報リテラシー基礎
- 情報リテラシー応用A・B
- 図書館概論

観光

- 観光学概論
- 観光社会学
- グローバル観光論
- 観光地理学
- 観光ビジネス論
- 日本伝統建築
- テキスタイル概論

選択外国語

フランス語

- フランス語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- フランス語コミュニケーションⅡA・ⅡB

ポルトガル語

- ポルトガル語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- ポルトガル語コミュニケーションⅡA・ⅡB

韓国語

- 韓国語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- 韓国語コミュニケーションⅡA・ⅡB

インドネシア語

- インドネシア語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- インドネシア語コミュニケーションⅡA・ⅡB

イタリア語

- イタリア語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- イタリア語コミュニケーションⅡA・ⅡB

ドイツ語

- ドイツ語コミュニケーションⅠA・ⅠB
- ドイツ語コミュニケーションⅡA・ⅡB

学科基礎

学科基礎

- 国際文化概論
- 国際文化基礎論
- 国際関係論
- グローバル・キャリア・デザイン概論
- 文章表現技法
- ナショナリズム論
- 比較文化論

国際文化入門

- 国際文化入門A・B・C・D

国際文化学科

専門外国語

- 英語表現法
- 英語上級 観光英語
- 英語上級 会議英語
- フランス語上級ⅠA・ⅠB
- フランス語上級ⅡA・ⅡB
- フランス語応用
- ポルトガル語上級ⅠA・ⅠB
- ポルトガル語上級ⅡA・ⅡB
- ポルトガル語応用
- 韓国語上級ⅠA・ⅠB
- 韓国語上級ⅡA・ⅡB
- 英語上級 通訳
- 英語上級 翻訳
- 中国語上級Ⅰ・Ⅱ

文化政策学科

学科必修

- リサーチ&プランニング基礎
- リサーチ&プランニング応用
- リサーチ&プランニング実習
- 社会学
- 経済学

芸術文化学科

学科基礎

- 芸術文化入門
- 芸術表現A・B
- 芸術文化基礎A・B・C・D
- 芸術文化特講

専門能力の確立

専門科目

卒業研究

演習(ゼミ)・卒業論文

文明観光学コース 演習(ゼミ)・卒業論文

演習(ゼミ)・卒業論文

演習(ゼミ)・卒業論文

日本・東アジア	<ul style="list-style-type: none"> ●日本文化史 ●日本文学史 ●現代日本語表現 ●日本文学A・B ●漢文学I・II 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本史学A・B ●日本語彙研究 ●日本語研究 ●日本文学作品研究 ●古文書の調査と読解 	<ul style="list-style-type: none"> ●美術史(日本・東洋)I ●東南アジアの文化と社会A・B ●中国の文化と社会 ●中国経済論 ●韓国社会文化論 	<ul style="list-style-type: none"> ●中国古典学 ●アジアビジネス論 ●東南アジアの歴史
地中海・西欧・北米	<ul style="list-style-type: none"> ●近現代の中東A・B ●イタリア文化史 ●フランス文化論 ●ルネサンス文化史 ●古代ギリシア・ローマ文化と社会 	<ul style="list-style-type: none"> ●中東現代史 ●英米文学史 ●西欧・北米文化論 ●英語文学概論A・B ●イギリス文化論 	<ul style="list-style-type: none"> ●西欧近現代史 ●英語学概論I・II ●西欧・北米の歴史 ●音楽史I ●EU論 	<ul style="list-style-type: none"> ●ドイツの思想と社会 ●美術史(西洋)I・II
多文化共生	<ul style="list-style-type: none"> ●多文化とエスニシティ ●イスラーム概論 ●日英語比較研究 ●文化交流論 ●国際労働力移動論 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本語音声学 ●日本語文法I・II ●日本語教授法I・II ●国際協力論 ●国際紛争論 	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な社会 ●フェアトレード論 ●企業と言語教育 ●日本語教育の実践と応用 ●Global Studies : Culture and Society A・B 	<ul style="list-style-type: none"> ●Global Studies : Global Issues
政策	<ul style="list-style-type: none"> ●政治学 ●法律学 ●行政学 ●行政法 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域計画論 ●地域情報サービス論 ●地域社会論 ●地方財政論 	<ul style="list-style-type: none"> ●創造都市論 ●経済政策論 ●環境政策論 ●地域福祉論 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域観光論
経営	<ul style="list-style-type: none"> ●経営学 ●経営戦略論 ●マーケティング論 ●地域ビジネス論 	<ul style="list-style-type: none"> ●経営科学 ●社会起業論 ●経営財務論 ●産業組織論 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本経済論 ●グローバルビジネス論 ●金融経済論 ●地域産業論 	<ul style="list-style-type: none"> ●産業遺産と産業史
情報	<ul style="list-style-type: none"> ●広報・広告論 ●マスコミュニケーション論 ●臨床社会心理学 ●メディア文化論 	<ul style="list-style-type: none"> ●組織心理学 ●情報システム論 ●社会統計分析 ●質的調査法 	<ul style="list-style-type: none"> ●学術情報論 ●人文地理学 ●地誌学 ●社会理論 	<ul style="list-style-type: none"> ●情報法学 ●公共デザイン戦略 ●自然地理学 ●外国語文献研究A・B
政策とマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ●芸術文化政策の理論 ●アートマネジメントA・B ●芸術文化政策の国際比較 	<ul style="list-style-type: none"> ●文化施設の管理と運営 ●文化財保護政策 ●地域社会と芸術文化 	<ul style="list-style-type: none"> ●現代社会と芸術文化 	
文化と芸術	<ul style="list-style-type: none"> ●文化と芸術A・B・C・D ●現代芸術論A・B・C・D ●芸術特論A・B・C・D 	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽史I・II ●演劇史I・II ●美術史(西洋)I・II 	<ul style="list-style-type: none"> ●美術史(日本・東洋)I・II ●鑑賞と批評I・II 	
芸術運営の実践	<ul style="list-style-type: none"> ●展示プロデュース論 ●保存と修復 	<ul style="list-style-type: none"> ●舞台運営論 ●劇場プロデュース論 		

デザイン学部

2021年度 カリキュラム一覧

人間的素養・基礎力の養成

全学科目

導入教育

- 文化芸術体験演習
- 学芸の基礎

教養

人文科学

- 文学
- 哲学
- 心理学
- 宗教学
- 歴史学
- 文化人類学
- 日本文化論
- 静岡学
- 文明と観光
- ユーラシア文明論

社会科学

- 法と社会
- 経済学基礎
- 現代の国際社会
- 現代社会と教育
- 社会学概論
- 社会調査論
- 情報社会論
- 人権論

自然科学

- 数学概論
- 統計学基礎
- 食と健康
- 科学技術論
- エコロジカルデザイン
- スポーツ科学

芸術・デザイン

- 音楽と社会
- 芸術と社会
- 色彩・形態論
- 映像メディア論
- 空間とデザイン
- デザイン史

必修外国語

英語

- 英語コミュニケーションⅠA
- 英語コミュニケーションⅠB
- 英語コミュニケーションⅡA
- 英語コミュニケーションⅡB
- 英語コミュニケーションⅢA
- 英語コミュニケーションⅢB
- 英語コミュニケーションⅣA
- 英語コミュニケーションⅣB
- マルチメディア英語Ⅰ
- マルチメディア英語Ⅱ
- マルチメディア英語Ⅲ
- ビジネス英語Ⅰ
- ビジネス英語Ⅱ

中国語

- 中国語コミュニケーションⅠA
- 中国語コミュニケーションⅠB
- 中国語コミュニケーションⅡA
- 中国語コミュニケーションⅡB
- 中国語コミュニケーションⅢA
- 中国語コミュニケーションⅢB
- 中国語コミュニケーションⅣA
- 中国語コミュニケーションⅣB
- マルチメディア中国語
- ビジネス中国語Ⅰ
- ビジネス中国語Ⅱ

日本語(留學生のみ)

- 日本語コミュニケーションⅠA
- 日本語コミュニケーションⅠB
- 日本語コミュニケーションⅡA
- 日本語コミュニケーションⅡB

実践演習

- 地域連携演習A・B
- 自主課題演習A・B
- 企画立案演習A・B

スポーツ活動

- スポーツ活動A・B

総合

- 特別共同授業A・B・C

専門領域へのアプローチ

共通科目

- デザイン概論
- デザインマネジメント
- デザイン美学
- デザイン思考
- くらしのデザイン
- 技術史
- 現代デザイン論
- 情報処理基礎
- 情報処理A
- 情報処理B
- 情報環境論
- 造形芸術論
- 色彩計画論
- デジタルプレゼンテーション
- Design English

- 建築図学・製図
- 図学・製図
- デザインCAD
- 建築CAD
- デザインドローイング技法
- フォトグラフィックス
- 表現技法Ⅰ
- 表現技法Ⅱ
- 表現技法Ⅲ
- 描画表現
- 立体造形Ⅰ
- 立体造形Ⅱ
- 空間演出計画Ⅰ
- 空間演出演習Ⅰ

- ユニバーサル/インクルーシブデザイン概論
- 生体機能論
- ユニバーサルデザインⅠ
- ユニバーサルデザインⅡ
- 生活環境論
- 健康・福祉のデザイン
- 人間工学

デザイン
基礎

デザイン
技法

デザイン
学科

ユニバーサル
デザイン

専門能力の確立

専門科目

<p>学科専門</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●基礎演習A ●基礎演習B ●基礎演習C ●基礎演習DI ●基礎演習DII ●基礎演習E ●基礎演習F ●アニメーション基礎 ●インターフェイスデザインI ●インターフェイスデザインII ●インダストリアルグラフィックス ●デジタルコンテンツ演習 ●インタラクティブデザイン ●インタラクティブプロダクト演習 ●インテリアデザイン論 ●エンターテイメントデザイン ●キネマテクス ●グラフィックデザイン演習A ●グラフィックデザイン演習B ●グラフィックデザイン演習C ●グラフィックデザイン概論 ●ゲーム・遊びのデザイン ●コミュニケーションプロダクツ ●サウンドデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ●スペースインタラクシオン演習 ●デザインコンセプト論 ●世界建築史 ●都市デザイン論 ●空間・住居論 ●ビジュアル表現基礎 ●フィッティングデザイン ●プロダクトデザインプロセス ●プロダクトデザイン演習I ●プロダクトデザイン演習IIa ●プロダクトデザイン演習IIb ●メディア産業論 ●メディア数理造形演習 ●モノ・コト論 ●ものづくりのシステム ●ランドスケープ計画 ●木のデザイン ●移動のデザイン ●映像デザイン演習I ●映像デザイン演習II ●映像技法演習 ●映像撮影技法 ●音楽情報科学 ●環境計画 	<ul style="list-style-type: none"> ●空間演出計画II ●空間演出演習II ●建築デザイン論 ●空間計画 ●建築材料 ●建築設計演習I ●建築法規 ●構造計画I ●構造計画II ●構造力学I ●構造力学II ●施工計画 ●商品戦略論 ●設備設計 ●地域計画論 ●日本伝統建築 ●テキスタイル概論 ●素材加工演習a ●素材加工演習b ●匠造形演習 ●伝統建築技術演習 ●木造建築演習
<p>領域専門</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●領域専門演習 ●総合演習I ●総合演習II 	<ul style="list-style-type: none"> ●建築設計演習II ●建築設計総合演習I ●建築設計総合演習II 	
<p>卒業研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業研究・制作 		

卒業要件単位数一覧表

2021年度 カリキュラム

文化政策学部		学科名	区分	卒業に必要な単位数	合計
Faculty of Cultural Policy and Management	国際文化学科	全学科目	34単位以上 なお、次の(1)～(4)の28単位を含む (1)【導入教育】区分から3単位 (2)【必修外国語】区分から英語または中国語で8単位 (3)【実践演習】区分から1単位 (4)【教養】区分から<人文科学><社会科学><自然科学><芸術・デザイン>の各分野で4単位 合計16単位	128単位以上	
					文化政策学科
	芸術文化学科	学部科目	32単位以上 なお(1)～(3)の18単位を含む (1)【文化・芸術領域】区分から6単位 (2)【政策・マネジメント領域】区分から6単位 (3)【情報・リテラシー領域】区分から6単位		
					国際文化学科
	文化政策学科	学科科目	62単位以上 なお、次の(1)～(2)の8単位を含む (1)必修科目4単位 (2)【卒業研究】区分から4単位		
	芸術文化学科		62単位以上 なお、次の(1)～(4)の56単位を含む (1)【学科基礎】区分から10単位 (3)【情報】区分から14単位 (2)【政策】及び【経営】区分から合わせて28単位 (4)【卒業研究】区分から4単位		
芸術文化学科	62単位以上 次の(1)～(5)の34単位を含む (3)【文化と芸術】区分から12単位 (1)【学科基礎】区分から10単位 (4)【芸術運営の実践】区分から2単位 (2)【政策とマネジメント】区分から8単位 (5)【卒業研究】区分から2単位				

デザイン学部		学科名	区分	卒業に必要な単位数	合計
Faculty of Design	デザイン学科	全学科目	34単位以上 なお、次の(1)～(4)の28単位を含む (1)【導入教育】区分から3単位 (2)【必修外国語】区分から英語または中国語で8単位 (3)【実践演習】区分から1単位 (4)【教養】区分から<人文科学><社会科学><自然科学><芸術・デザイン>の各分野で4単位 合計16単位	128単位以上	
					デザイン学科
	デザイン学科	共通科目	36単位以上 なお、次の(1)～(3)の16単位を含む (1)【デザイン基礎】区分から6単位 (2)【デザイン技法】区分から6単位 (3)【ユニバーサルデザイン】区分から4単位		
デザイン学科	専門科目	58単位以上 次の(1)～(3)の18単位を含む (1)【学科専門】区分から6単位 (2)【領域専門】区分から8単位 (3)【卒業研究】区分から4単位			

全学科目一覧表

2021年度 カリキュラム

学習領域		1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期	卒業要件
導入教育		●文化芸術体験演習 ●学芸の基礎								▶ 3単位
教養	人文科学	●文学 ●哲学 ●心理学 ●宗教学 ●歴史学 ●文化人類学 ●日本文化論 ●静岡学 ●文明と観光 ●ユーラシア文明論								▶ 4単位
	社会科学	●法と社会 ●経済学基礎 ●現代の国際社会 ●現代社会と教育 ●社会学概論 ●社会調査論 ●情報社会論 ●人権論								▶ 4単位
	自然科学	●数学概論 ●統計学基礎 ●食と健康 ●科学技術論 ●エコロジカルデザイン ●スポーツ科学								▶ 4単位
	芸術デザイン	●音楽と社会 ●芸術と社会 ●色彩・形態論 ●映像メディア論 ●空間とデザイン ●デザイン史 ●ユニバーサル/インクルーシブデザイン概論								▶ 4単位
必修外国語	英語	●英語コミュニケーションIA ●英語コミュニケーションIB ●英語コミュニケーションIIA ●英語コミュニケーションIIB ●英語コミュニケーションIIIA ●英語コミュニケーションIIIB ●英語コミュニケーションIVA ●英語コミュニケーションIVB ●マルチメディア英語I ●マルチメディア英語II ●マルチメディア英語III ●ビジネス英語I ●ビジネス英語II								▶ 1言語 8単位
	中国語	●中国語コミュニケーションIA ●中国語コミュニケーションIB ●中国語コミュニケーションIIA ●中国語コミュニケーションIIB ●中国語コミュニケーションIIIA ●中国語コミュニケーションIIIB ●中国語コミュニケーションIVA ●中国語コミュニケーションIVB ●マルチメディア中国語 ●ビジネス中国語I ●ビジネス中国語II								▶
	日本語(留学生)	●日本語コミュニケーションIA ●日本語コミュニケーションIB ●日本語コミュニケーションIIA ●日本語コミュニケーションIIB								▶ 4単位
実践演習		●地域連携演習A ●地域連携演習B ●自主課題演習A ●自主課題演習B ●企画立案演習A ●企画立案演習B								▶ 1単位
スポーツ活動		●スポーツ活動A ●スポーツ活動B								▶
総合		●特別共同授業A・B・C								▶

必修3単位を含め計34単位以上

全学科目概要

2021年度 カリキュラム

導入教育

●文化芸術体験演習

全ての学生は、入学後最初の必修科目としてこれを履修する。受講は基本的にクラスに分かれて行い、各種の本格的な芸術・文化の体験とゼミナール形式による講座の受講によって、知性ととも感性を磨き、本学での学び全体の基盤となる素養を身につける。講座では、学内外の各種の専門領域にわたる幅広い知見を学ぶとともに、これらを通じて、入学後の早い段階から自身のキャリア形成や社会的自立につながる意識を涵養することも目指す。

●学芸の基礎

全ての学生は、入学後最初の必修科目としてこれを履修する。受講はクラスに分かれて行い、大学で学ぶ意味を本学の理念を通じて理解するとともに、高等教育課程での学びの基礎や方法、基本的なリテラシーの素養を身につける。主な内容は、文献等の読み方、情報検索や資料収集、報告・討論、レポート・論文作成の基礎知識、口頭発表の技法や討論方法、高度情報社会への対処法など、大学で学ぶ上で、さらに社会で活躍する上で必要とされる基礎的な能力を養う。

教養

人文科学

●文学

日本の古典文学を主たる契機として、記紀神話、王朝物語、軍記文学、縁起などを学ぶ。特に全学科目としての位置付けを考慮して、文学の「広がり」と「奥行き」を重視した講義内容を目指す。文芸作品をそのまま読んで鑑賞するのではなく、民俗、祭祀、信仰、伝承といった事例との多視的な比較や、海外の文芸との比較を手がかりとして、文学の展開とその奥行きを深さを考える機会とする。

●哲学

人間が自然環境や社会をどのように認識し、受容あるいは対置などの思考や行動の原理としてきたかについて、帰納や演繹といった論理的な思考、分析的あるいは包括的・構造的な認識の方法、倫理や道徳の課題など、我々が人間である限り避けて通れない論理、認識、知識等にかかる問題を取り上げ、こうした問題を先人たちはどのように考えたかを解説し、我々自身が今日に生きて出会う様々な問題をどのように考えたらよいかを学ぶ。

●心理学

この講義では、「心のはたらきに関する科学」としての心理学が、人の心についてどのように考え、何を問題にし、それらについてどのような手法で研究しているのかについて講義する。人の心に関する多面的、客観的な視点を養うことがこの講義の目標となる。主に、人の情報処理（認知）、発達、性格、心理臨床などの基礎的なトピックにおける最新の知見について、社会的な事象と関連づけながら概観する。また、簡単な心理実験や質問紙調査の演習をあわせて実施する。

●宗教学

人類のあらゆる文化や歴史の広がりの中で、基本的な宗教の概念および定義やその意味、宗教形態に関する概要を概観し、それらを踏まえて宗教が持つ本来の役割とは何かを考察する。あわせて、日本人のものの見方や行動様式につ

いて、それがいつ、どのように成立し、また変容していったのかについて、具体的な事例を挙げながら考察する。特に日常生活に密着した年中行事や人生儀礼、地域社会と人々の関わりを考える。また、現代社会における宗教紛争やカルト、生命倫理問題などにも言及する。

●歴史学

歴史学について、その全般を学ぶ。歴史学の科学的手法を前提に、「史料」から歴史像がいかにつまみ出されるかを、具体例をもとに講義していく。歴史学の分野について、政治外交史・社会経済史・文化芸術史などがあることを紹介し、時代区分として、古代・中世・近代などがあり、空間的には、地域史・一国史・人類史など、様々な歴史叙述の形態が存在することを論じる。文化の多様性と人類の文化芸術活動の背景となった社会の歴史的なあり方に重点をおいて講義する。

●文化人類学

諸社会の社会構造、価値観、社会的行為など、文化の諸局面にみられる多様性を示すとともに、文化の差異の根底に横たわる普遍性についても論じる。世界にはいかに多様な「当たり前」があるかを認識し、自文化を絶対視せず異文化を理解するための基本的な視角が身につくように解説する。文化人類学の学説史上の主な展開についても概説し、同時代を生きる地球上の人々と意思疎通する時に求められる文化的背景の捉え方について考察する。

●日本文化論

人々の日々の生活から生み出された事象すべてを文化と捉え、日常生活に密着した年中行事や人生儀礼、あるいは衣食住の特徴、動植物との関わりなどを文化の事例として取り上げる。かつ、文化は時間的にも空間的にも社会的にも一様ではないという観点に立ち、日本人のものの見方や行動様式が、いつ、どのように成立し、また変容していったのかについて考察する。その際、東アジアをはじめとする諸外国との比較や文化移入のあり方をもとに、より日本文化の特徴を明らかにしていく。

●静岡学

本学が立地する静岡県、ならびにその近隣地域について、歴史、地理、文化、社会、政治、経済などの多面的なアプローチで学ぶ。特に、静岡県とその周辺地域の置かれた地理的条件、歴史的発展の経緯や、地域産業の特性、自治体のビジョンなどについて、各々の専門の講師による講義も交えながら、本学と地域との連携による学習や実践にもつながるような知見を身につける。

●文明と観光

訪日外国人観光客の関心は、その人の生活域やいわゆる文明圏によって異なる。例えば、東アジアから訪れる人の多くは、アジアの中でいち早く近代化した日本像を求めると言われる。他方、ヨーロッパからの人なら、情報化時代にもかかわらず、エキゾチックな世界を期待して訪れることも少なくない。この講義では、まず「文明」と「観光」の概念が多様であることを概観し、その上で現代の日本や地域に望ましい「文明」を考えつつ、「観光」を論じる。

●ユーラシア文明論

ユーラシア大陸で興亡した西アジア文明、南アジア文明、ヨーロッパ文明、東アジア文明といった諸

文明を、地域的・時間的に広く展望しながら、日本語で「文明」と言い表されている現象を理念的に捉え直す。特に、時間的に先行し、地域的にも中心の位置を占める西アジア文明に焦点を当て、古代オリエント文明を取り上げ、それがイスラーム文明やヨーロッパ文明に継承されていく過程を論じる。

教養

社会科学

●法と社会

この授業では、「法」について学ぶにあたって必要となる基礎的な知識や、法的思考力・法的判断力を習得することを目的とする。法とは何か、法の適用・解釈、法の分類についての概説を経て、犯罪と法、家族と法、財産と法、労働と法など、法が規律する社会のさまざまな場面ごとに、関連する法律制度をより具体的に検討することで、社会において法の果たしている機能を明らかにしていく。

●経済学基礎

現代社会で生きていくためには経済現象に関する深い理解が不可欠であり、その経済現象を正確に理解・分析するためには経済理論の知識がどうしても必要である。この授業では、全体として経済理論の前提となる経済に関する知識の習得に主眼を置く。具体的には、文化政策の理解に不可欠な市場メカニズムや市場の失敗を扱うミクロ経済学、景気・失業・物価・金融・為替レートなどを扱うマクロ経済学の基礎を講義し、経済理論や経済政策の学習への橋渡しを行う。

●現代の国際社会

「現代の国際社会」の特質を把握するためには、国際社会の歩みについて深く理解することが重要である。この授業では、21世紀の国際社会が直面する諸問題の歴史的理解を深めることを目的に、第二次世界大戦後の国際政治の歩みを概観する。この分野は、関連する一次資料の公開や発見とともに通説が見直され、議論の継続する分野でもある。入門的な知識の習得と同時に、最前線で行われる研究方法の一端に触れることも授業の目標とする。

●現代社会と教育

現代社会と教育の関係について、主に教育社会学の研究視角から、問題の所在を明らかにし、これからの社会における教育のあり方を考える。具体的には、「いじめ問題」「不登校問題」「ひきこもり問題」等の教育問題について、「子どもの社会化」という観点を中心にして、家庭教育・学校教育・社会教育等の教育環境の課題と可能性を明らかにする。各種映像資料の提示や受講生による報告・討議等を多く取り入れ、教育に関する受講生自身の考えを拡張させ深化させたいと考えている。

●社会学概論

社会を「人間がつくりだす人と人とのつながり（関係）」とするならば、この関係性を維持するためには「規範」がなくてはならない。社会学は、こうした規範が所与のものとしてあるのではなく、社会によってつくり出されたものであり、この規範が当たり前や常識として個人に刷り込まれていくと考えられる。つまり、社会学では、個人は社会によって決定されるという前提に立つのである。そこで、この授業では、こうした規範を問い直すことによって社会の成り立ちや仕組みを考え、社会学の基本的・基礎的な考え方を習得する。

豊かな様相を見せている状況を、芸術諸分野における最新の情報を交えつつ概観する。

●色彩・形態論

デザイン分野に応用される色彩と形態の基礎について、自然、絵画、人工物など多様なデザイン事例を取り上げ、様々なデザイン分野における色彩と形態の適用事例に接することで、その機能や役割を理解する。基本的な属性や視覚特性、意味作用に加え、色彩見本を使用し、色相、明度、彩度による色の伝達方法、配色手法、および色彩心理学などを学習する。さらに、近年対応が重視されるカラーユニバーサルデザインについても学ぶことで、実務における実践的な活用方法や構成手法などについて学ぶ。

●映像メディア論

TV、PC、タブレット、スマートフォン等を通して日々膨大な量の映像を消費する現代社会。多彩で刺激的な表現を競うように変貌を続ける映像メディアの可能性と問題点を、包括的に検証する。映像メディアの変遷とそれに同期して人間自身の内部で進行している変化に着目し、〈メディアは身体性の拡張である〉という視点から、近未来へ向けた人とメディアの関係性について考察する。視聴覚資料を効果的に使用し、学生自身が感じ、考えながら問題意識を深めてゆくための授業構成を目指す。

●空間とデザイン

「空間」とか「デザイン」とかいう言葉を用いる時、その言葉はどのようなことを意味しているのか、具体的な事例を提示しながら考えていく。そして、「空間をデザインする」ということは自然や人間社会に対してどのような役割を担っているのか、その楽しさや重要性を学ぶ。空間デザインを理解することによって、空間は生活の中の様々な時間を創造してくれることに気づき、その要因の歴史的背景や現代における表現手法を読み取る感覚を育てる。

●ユニバーサル/インクルーシブデザイン概論

全ての人が住みやすい社会をつくるには、一般には多数派とされている健康な成人だけでなく、子どもや高齢者、そして障害者を含めた多様な人の存在を意識しなければならない。どんなに異質であっても社会的な活動から排除されないようにすること、これは世界的な合意であり、また教育から就労、そしてレジャーなどの活動に至るまで、あらゆる場面で保障されなければならない人間としての権利である。それをできるだけ特殊解でなく一般解として実現すべく、製品から構築環境、そしてサービスなどのソフトな仕組みに至るまで、あらゆるもののあり方を考える。

●デザイン史

デザインの歴史を俯瞰することで、近代デザインの成立から現在に至るまでの主要な出来事や知識、社会における役割を学ぶ講義である。受講者は、科学技術、産業、政治経済、芸術など先端的または広範な人間の営みと文化が、様々な時代でどのようにデザインと結びつき、どのようなものが作られたか、それらにどのような意味があるのかを探究し、デザインの世界に私たちの生活から切り離せない幅広さと社会的意義があることを考察する。

穀類で作った醸造品を調味料とする和食が原点である。しかしながら、洋風化が進んだ現代の食生活の中では、肥満、高血圧、糖尿病、脳・心疾患、アレルギー、がんといった生活習慣病で苦しむ人が増えて、医療費の増加が国家財政を脅かす状況になりつつある。ここでは、食生活と生活習慣病の関係および予防策を学び、健康長寿を達成するための基本を身につけることを目的とする。

●科学技術論

現代社会のさまざまなシステムやモノには科学技術が不可欠であることを前提に、科学技術が広範かつ深遠な影響を人間社会に与えていることの認識を深めて、現実の科学技術を正しく理解する力を養うことを目的とする。今日に至る科学技術の発達経緯を概観する中で、現代の科学技術の特質・潮流を考察するとともに、科学技術と社会との関係の中で生ずる摩擦や諸問題など、科学技術を取り巻くさまざまな環境変化について検討する。

●エコロジカルデザイン

今の地球の現状を知り真実のエコとライフスタイルを見つめ直し、地球の未来のために各自が今できることを考え、エコロジカルな考え方やものの見方を自分の生活・設計に活かしていく手法を習得する。映画『不都合な真実』や『水の世紀』などの現在、まさに起こりうる地球環境問題、エコハウスやエコキャンパスなどのエコロジカルなデザイン手法、ピフォーアフターやスマートライフなどの現世代に内包された課題の解決、海底都市や空中都市などの近未来的デザインを通したノスタルジーなどについて、幅広く学ぶ。

●スポーツ科学

スポーツ科学の基礎的な知識である、医学や健康科学、解剖生理学といった幅広いインテリジェンスを習得し、運動をすることの人体のメカニズムと、運動をすることによる人体への影響とについて考察する。具体的には現代の高齢社会に求められているスポーツのあり方や、それぞれの年齢や体力、健康増進や生活習慣病予防などの目的に応じてトレーニングの方法を運動生理学、トレーニング科学の視点から解説する。

教養

芸術・デザイン

●音楽と社会

音楽は社会と密接に関わり、新たに生成され、変化していく。こうした音楽と社会のダイナミックな関わりを考察するために、19世紀後半から20世紀にみられた大衆社会の形成、市場経済の成長、マスメディアの発達という視点から、アメリカを中心に発展していったポピュラー音楽と日本のポピュラー音楽について概観することが、本講義の狙いである。なおこの講義では、ロック、ジャズ、ブルース、リズム&ブルース、ロック、フォークなどの多様なジャンルを取り上げる。

●芸術と社会

人間にとって芸術とは特別な意味を持つものである。この科目では、人間の行う表現行為がどのように芸術というものに形づくられていくのか、芸術が人間にとってどのような意味を持ち、またどのように展開するのかについて、芸術の多様なジャンルの中から具体的な事例を示しながら考察する。さらに、人間の表現が時代や場所の異なるところで様々な展開を遂げ、現在のように

●社会調査論

社会について科学的に情報を得る(知る)方法の基礎を学ぶ。まず社会調査の意義と主要な方法について学び、次に方法論について理解し、その後、質問紙法、面接法、観察法、内容分析などの具体的な方法とその特徴を学ぶ。方法の技能を学ぶだけでなく、調査目的と対象により最も適切な方法が選べるよう、調査の特性と限界についても解説する。最終的には、実際に使われている様々な社会調査の信頼性と長所・短所を評価し、かつ基本的な調査を自ら実施できるようにする。

●情報社会論

現代社会はIT化の進展に伴いそのメディア環境を大きく変容させ、それにより生じた高度情報化社会は私たちの日常生活や文化にも大きな影響を与えている。この授業では、こうした高度情報化がもたらした社会の諸現象に着目し、その特質や問題点を理解することを試みる。さらにその理解に基づき、情報化が進展していく社会における人々の行為やコミュニケーションのあるべき方向性を考察し、その社会において生活していくことの可能性や倫理を検討する。

●人権論

この授業では、現代社会において生じている、あるいは未解決のままに残されているさまざまな問題を、私たちの「人権」にかかわる問題として認識し、それらについて理解を深めることを目的とする。そもそも人権とは何かについての総論的な概説を経て、個々の問題・事例について、国内外の状況に目を向けながらより具体的に検討することで、現代社会において目指すべき人権保障のあり方を考察する。

教養

自然科学

●数学概論

本講義では、大学の授業で必要となる数学の基礎を学ぶことを目的とする。高等学校で学んだ内容を発展させて、数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的・論理的な見方や考え方の良さを再認識し、事象を数学的に考察し処理する能力を高めることを目標とする。同時に、様々な社会問題やデザインにおける課題を解決する際に要求される論理的思考力を身につけていく。

●統計学基礎

統計は自然科学ではもちろんのこと、社会科学でも基本となる知識である。さらに、社会制度が複雑化し、情報量が急速に増加している現代社会を生きる市民にとって、統計の知識は、企業の広告や宣伝、自治体や国の政策、そして調査研究などの正しさや信頼性を判断するために必須の教養ともいえる。そのために、統計の初心者を対象に、平均やばらつきの意味などから始めて、データの読み方や統計手法についての基礎的な知識を、テレビの視聴率や選挙の出口調査などの具体的な事例を用いながら、わかりやすく説明する。

●食と健康

我が国は世界トップレベルの長寿国である。この要因として医学の進歩や衛生状態の改善が挙げられるが、日々の食事内容も健康と寿命に密接に関係している。栄養バランスに優れた日本食は米を主食とし、魚介類と野菜を副食とし、大豆や

全学科目概要

2021年度 カリキュラム

必修外国語 英語

●英語コミュニケーションIA

高校までに習得した英語の語彙、文法、表現を基礎として、「聞く・話す」ための運用能力を高めることを主な目的とする。聞く面では、自然な速さの平易な英語を大量に聞き、その概要および特定の具体的な情報を聞き取れるようになることを目指す。また、話す面では、これまで学習してきた英語の基礎的な言語知識を使って、特に自分の経験や関心のある具体的なトピックについて積極的に話し、会話を続けることができるようになることを目指す。そのため、少人数での授業を行う。

●英語コミュニケーションIB

高校までに習得した英語の語彙、文法、表現を基礎として、「読み・書く」ためのさらなる知識と運用能力を高めることを目的とする。読解能力を高めるために、必要に応じて辞書を利用しながら比較的幅広い分野の英文を大量に読み、その概要と具体的な情報を読み取れるようになることを目指す。また、書く面では、既習の基礎的な英語を広く使ってまとまりのある文章が書けるようになることを目指す。そのため、少人数での授業を行う。

●英語コミュニケーションIIA

英語IAで身につけた「聞く・話す」ための運用能力をさらに伸ばすことを目的とする。自然な速さの英語で話される内容を聞き取り、同時に、その情報を自分自身の考えと照らし合わせながら内容を理解できるようになることを目指す。また、授業で扱うトピックに関して、英語で自分の考えをまとめ、その内容を話せるように繰り返し練習することで、英語による情報のやり取りが滞りなくできるようになることを目指す。

●英語コミュニケーションIIB

英語IBで身につけた「読み・書く」ための運用能力をさらに伸ばすことを目的とする。様々なトピックの英文を、文章の構成を意識しながら読み、複数の視点の相違点や共通点を考慮に入れながら、自分自身の解釈ができるようになることを目指す。また、新しく出会う英語の語彙や表現などに気をつけながら、今までに身につけた英語の知識をベースに辞書を適切に使いこなし、自分の考えをできる限り詳しく英語で書くことができるようになることを目指す。

●英語コミュニケーションIIA

英語を「聞く・話す」面の発展的な力を養うことを目的に、授業はすべて英語で行う。一般的な分野からニュースなど幅広いトピックについて言語的な調整がなされていなくても、話者の意図が理解できるようになることを目指す。また、現代の問題など一般的に関心の高いトピックであれば、自分自身が調べた情報の詳細を提供し、関連する自分の考えをできる限り正確かつ流暢に表現し、議論できるレベルを目指す。

●英語コミュニケーションIIB

英語を「読み・書く」面の発展的な力を養うことを目的とする。一般的な内容から、新聞記事やレポートなどの専門的な記事までの英文の概要を素早く読み取り、状況に応じて深く読む必要がある場合は読む速さや読み方を変えながら正確に読めるようになることを目指す。また、自分の専門分野であれば、情報の正確さ、感情の度合いなど、ある程度複雑な英語表現を身につける

と同時に、それらを用いて適切な英文を書くことができるようになることを目指す。

●英語コミュニケーションIVA

英語III Aで学んだ英語を「聞く・話す」面の流暢さと正確さをさらに高めることを目的に、主として英語によるディスカッションやディベートを通して学ぶ。一般的に関心の高い分野から複雑なトピックまでを扱い、英語を通して自ら情報を収集し、それらを一定の観点で展開し、明瞭な論理的な構成を持って英語で発表するとともに、話し相手の英語を正確に理解しながら、かなり詳しく議論し適切な結論に達することができるようになることを目指す。

●英語コミュニケーションIVB

英語III Bで学んだ英語の「読み・書く」力を専門的な分野を扱えるレベルまで高めることを目的とする。専門的な記事から文学作品や論文まで長く複雑な内容を、文体の違いを認識しながら深く理解し読めるようになることを目指す。そして、複雑な手紙、説明文、レポート、報告記事、批評、論文などを、論理的に明確な構造で、読み手に議論のポイントや重要な点がわかるように、明瞭かつ適切な文体で書けるようになることを目指す。

●マルチメディア英語I

LL教室で、疑似体験型の英会話トレーニングソフトを使い、スピーキング能力、リスニング能力、コミュニケーション能力の増強をはかる。正しい発音とイントネーション、流暢さ、会話によく使われる表現、言い回し等を身につける。内容的には、「海外渡航に使う英会話」を学ぶが、会話表現と同時に英米の文化や生活習慣も学ぶ。学期の最後の授業では、クラスメートとペアになって自由に英語のスキットをつくり、英会話を楽しむことでコミュニケーション能力を伸ばす。

●マルチメディア英語II

LL教室で、疑似体験型の英会話トレーニングソフトを使い、スピーキング能力、リスニング能力、コミュニケーション能力の増強をはかる。正しい発音とイントネーション、流ちょうさ、会話によく使われる表現、イディオムを身につける。内容的には、「日常生活に使う英会話(基礎編)」を学ぶが、会話表現と同時に英米の文化や生活習慣も学ぶ。学期の最後の授業では、クラスメートとペアになって自由に英語のスキットを作り、英会話を楽しむことでコミュニケーション能力を伸ばす。

●マルチメディア英語III

LL教室で、疑似体験型の英会話トレーニングソフトを使い、スピーキング能力、リスニング能力、コミュニケーション能力の増強をはかって、グローバル人材にふさわしい英会話能力を身につける。正しい発音とイントネーション、流暢さを身につけ、自発的な自由会話力を伸ばす。内容的には、「日常生活に使う英会話(応用編)」を学ぶ。学期の最後の授業では、クラスメートとペアになって自由に英語のスキットをつくり、大学生として内容のある英会話を楽しむ。

●ビジネス英語I

グローバルなビジネス社会で活用されているビジネス英語と文章作成方法の基礎を身につけ、国際的なビジネスの現場で通用する英語能力を身につける。具体的には、英文レターの形式、ワンレターワンサブジェクトの原則、句読点の慣用、レターの折りたたみ方など商用英文レターの基礎

知識を中心に学習する。次に、ビジネス社会でよく使われている英語ビジネス文章の例文の学習と分析、それらを活用して学生が自分で書いた文章の分析、間違った表現の訂正作業などを通じて実践的な英文レターの書き方を習得する。

●ビジネス英語II

ビジネス英語で実務レベルでさらに実践的な文章作成法を学ぶとともに、海外・国内で外国人と交流する際に必要なマナーを身につける。具体的には、いくつかの実務状況を設定して学生に英文レターを作成させ、それらを分析しながら効果的なレターの書き方、論旨の進め方を習得する。さらに、外国人と交流する際の常識的なマナー、文化や習慣の違いからくる注意点、儀礼(プロトコール)、およびそれらの場合の英語表現を、実践的な場で使えるような学習を目指す。

必修外国語 中国語

●中国語コミュニケーションIA

中国語の難点とされる発音を十分に練習し、単語の発音をベースに、ローマ字表記(ピンイン)を見て正確に発音できるようにする。漢詩や中国語の歌を適宜取り入れ、中国語の発音とリズムに慣れていく。また、日本語の常用漢字と異なる中国語の簡体字に習熟する。文法については、中国語の基本的構文パターンを習得を中心に、文法の仕組みを学び、簡単な文章を読み、基礎的な文を組み立てる能力を伸ばしていく。文法項目が単なる項目の羅列に終わらないよう、折に触れて復習を行い、体系的に把握できるようにする。

●中国語コミュニケーションIB

平易なテキストをもとに、基本文法、よく使う文型、日常生活で使用される頻度の高い中国語の言い回し(センテンス)を中心に学習する。さらに、CD・テープなどの聴取訓練、また教員と学生、学生相互の対話練習を繰り返すことで、基本文法の習得とともに、「聞く・話す」能力をバランスよく身につけ、暗唱テストを適宜取り入れることで運用能力を高める。基礎的な聞く・話す能力を活かし、挨拶から始まって、簡単な自己紹介と日常会話ができることを目標とする。

●中国語コミュニケーションIIA

中国語コミュニケーションIに引き続いて、文法に重点を置き、テキストに基づき、複合的な中国語文の構造について学んでいく。テキストに出ている中国語文を日本語に翻訳し、そして日本語から再び中国語に翻訳することを重ねて、文法の運用能力を高める。中国語の仕組みの全体を徐々に把握するとともに、平易な雑誌・新聞記事等の読解を試みる。基礎的な文法と雑誌、新聞記事の情報を基にした簡単な作文ができるよう練習を重ねていく。これらの学習を通じて、中国の社会や文化に対する理解も同時に深める。

●中国語コミュニケーションIIB

中国語コミュニケーションIに引き続いて、語彙力を高めつつ、より複雑な中国語の言い回し(センテンス)を習得する。テレビ・ビデオなどの視聴覚教材を適宜取り入れ、運用能力を高める。テキストの音読練習を十分行なったうえ、テキストと視聴覚教材の内容を踏まえてテーマを設定し、教員と学生、学生相互の対話練習を重ね、より実用的な会話能力・ヒアリング能力の育成を図る。これらの学習を通じて、中国の社会や文化に対する理解も同時に深める。

●中国語コミュニケーションⅢA

中国語コミュニケーションI、IIで身につけた文法の運用能力を高め、より高度な語彙と複雑な表現で構成される中国語の文章を解読する。文法の解説はテキストに基づいて行うが、文法の理解を深め、運用能力を高めるために、毎回の授業でテキスト以外の文法書から関連する文法の宿題を出す。また、中国の政治・経済・文化・社会に関する中国語の新聞・雑誌記事を適宜授業に取り入れ、辞書を引きながら新聞・雑誌を概ね理解できるレベルを目指す。

●中国語コミュニケーションⅢB

中国語コミュニケーションI、IIで中国語の正しい発音とリズムを習得した学生に対し、授業では、テープ・CDなどの視聴覚教材を積極的に利用し、ヒアリング能力のさらなる向上を図る。また、中国の政治・経済・文化・社会に関する中国語の新聞・雑誌記事の内容からテーマを決め、教員と学生、学生相互の対話練習を重ね、スピーキング能力の向上を図る。与えられたテーマで学生が自分から積極的に発話できるよう練習し、コミュニケーション能力の向上を目指す。

●中国語コミュニケーションⅣA

中国語コミュニケーションⅢAに引き続いて、高度かつ豊富な語彙と複雑な表現を身につけながら、さらに高度な中国語の文章を読解していく。語彙や表現を深め、高度な文法を確実にするため、中国語コミュニケーションⅢAと同様に、毎回の授業でテキスト以外の文法書から関連する文法の宿題を出す。中国語ニュースの内容を適宜授業に取り入れ、それを解読するとともに簡単なコメントや感想文を正確に書けるように目指す。単に、知識としての言葉ではなく、現代中国社会を理解するツールとしての中国語の習得に特に重点を置く。

●中国語コミュニケーションⅣB

中国語コミュニケーションⅢBに引き続いて、授業では視聴覚教材を積極的に利用し、中国語のニュースを適宜取り入れることでより高いレベルのヒアリング能力を育成する。また、中国の政治・経済に関するニュースの内容からテーマを設定し、教員と学生、学生相互の対話練習を重ねていき、特定のテーマをめぐって比較的論理的に会話できるようにする。単に、知識としての言葉ではなく、現代中国社会を理解するツールとしての中国語の習得に特に重点を置く。

●マルチメディア中国語

LL教室を活用し、各種視聴覚教材を取り入れながら、まず中国語の正しい発音を徹底する。それから語彙力、ヒアリング能力の向上を図りながら、日常生活の様々な場面に応じた会話表現を学び、自然な生活中国語を習得する。中国語での学生相互の対話練習を極力進める形で、感覚的に中国語を捉えられるようにすることを目標とする。また、関連する視聴覚教材から宿題を出し、学生が授業以外でも発音の練習、語彙力の強化、ヒアリングの訓練をするよう促す。

●ビジネス中国語I

日中ビジネス習慣の違いを理解しつつ、ビジネス場面で使用する中国語の語彙と言い回しを習得し、一般的なビジネス会話の基礎をしっかりと身につける。ビジネスシーンのある視聴覚教材を適宜取り入れることで、ヒアリング能力の向上を図りつつ、特定のビジネスシーンをテーマにし、

教員と学生、学生相互の対話練習を重ねていく。さらに、ビジネス文章を作成する基礎知識を学び、商用メールやレターの書き方を練習し、実用的なビジネス中国語を身につけるよう目指す。

●ビジネス中国語II

日中ビジネス習慣の違いへの理解を深めつつ、ビジネス場面で使用する中国語の語彙力をさらに高め、ビジネス関連の言い回しを正確に言えるようにする。商談の実例をテキストとして使用し、アポイントの取得から、コミッションの相談、事業提案などさまざまなテーマに応じてビジネス中国語を習得する。リアルな商談に基づく授業を通じて、中国ビジネスの現場を体験し、ビジネスで求められる高度なコミュニケーション能力の育成を目指す。

必修外国語

日本語(留学生のみ)

●日本語コミュニケーションIA

社会で役立つ日本語コミュニケーション能力を身につけることを目指す。人との距離や相手の立場に配慮した、円滑なコミュニケーションができるようにする。具体的には、リスニング、作文、ロールプレイなどを通して、社会に出て必要とされる、迅速でかつ正確な会話、そして、論理的なコミュニケーションスキルを身につけていく。また、日本人の常識、マナー、距離の取り方も勉強していくことで、異文化理解も行っていく。

●日本語コミュニケーションIB

日本語による高度な読解力を身につけることを目指す。学術的な書物や論文を読解するために必要な、語彙力の向上、要点把握、正確で詳細な内容把握のストラテジーやスキルの向上を目指していく。さらには、批判的かつ論理的な表現で発言するために必要なコミュニケーションスキルも身につける。また、日本文化を中心とした日本事情についても学んでいく。様々な日本事情を取り上げることで、日本人と日本社会を理解する契機とする。

●日本語コミュニケーションIIA

ビジネス場面に即した日本語コミュニケーション能力を身につけることを目指す。実践的なビジネス会話、ビジネス文書作成、ビジネス知識、ビジネスマナーなどビジネスライフにおけるコミュニケーションスキルとビジネスライフの基礎を総合的に学ぶ。特に、ビジネス場面に応じた敬語使用や語の選択について重点的に学習し、ビジネスに対応できる日本語表現力を身につけていく。ロールプレイを取り入れ実践的に学んでいく講義である。

●日本語コミュニケーションIIB

優れたレポート作成能力を身につけることを目指す。具体的には、論理的表現、客観的表現、根拠、引用方法、また、レポート構成などといった、より高度なライティングスキルを身につけていく。講義では、必要な文章表現技法を解説し、その後、受講生がその演習と反復練習を行い、ライティングスキルを高めていく。実際に多くのレポートを取りあげ、それらを読み、参考にすることでスキルアップを図っていく。

実践演習

●地域連携演習A・B

地域での実践的な活動を通して地域の特質や地域課題について理解するとともに、地域のネットワークの中に身を置いて現実社会と関わり

ながら学ぶ意義を理解する。外国人児童・生徒の学習支援、国際理解や芸術活動体験のワークショップ、地元自治体や商工団体との連携イベント等、地域連携型の特色あるメニューを複数用意するが、年間を通じての現場での活動や集中型のイベントなど、週1コマの授業形態にこだわらず柔軟に展開する形態を取る。

●自主課題演習A・B

多文化共生やユニバーサルデザイン、文化芸術等の広範な領域において、特定のテーマを定めて大学内外の組織や団体等と連携して行う実践的な活動を通して学ぶ。教員の特別研究費やイベント・シンポジウム開催費でのプロジェクトに組み込まれた学生の活動のみならず、学外でのデザインイベントや文化芸術イベント、海外でのNPO・NGO活動等のように、学生自身による自主的な企画・イベント等についても、一定の条件を満たすものについては単位認定の対象とする。

●企画立案演習A・B

政策策定やプロジェクトの企画、立案のプロセス、合意形成や情報発信の手法を学び、卒業後に社会で活躍するためのキャリア形成に資することも含めた実践的な知識とスキルを身につけるための演習である。受講生数人からなる小グループによる作業を基本とし、多文化共生、ユニバーサルデザイン、アートマネジメント、地域の課題解決などの領域を中心に、課題の抽出や設定から、実施の方法、成果の評価、プレゼンテーションなどについて、実社会でのワークショップやタスクフォースといったオン・ザ・ジョブ・トレーニング方式を応用した総合的な演習とする。

スポーツ活動

●スポーツ活動A

生涯にわたるスポーツを生活の中へ取り入れていくことができるよう、健康・体力問題に関する専門的な知識を習得し健康マネジメントを確立できることを目的とし身体活動の意義について実践を通して理解する。主にラケットを使用した種目、卓球、硬式テニス、バウンドテニスを通してコミュニケーションスキルを学び、自発的に人と関わろうとする機会を提供する。

●スポーツ活動B

スポーツや健康・体力に関する各人の興味と関心をより深く掘り下げることを目的とし対人交流ならびに円滑なチーム運営方法の学習に基づき集団スポーツの特性を理解する。主にバドミントン、バレーボール、ネットスポーツ、バスケットボール、フットサルを実施することでチームの成員が協力して行動するための、戦略、組織運営を習得する。

総合

●特別共同授業A・B・C

ふじのくに地域・大学コンソーシアムの「西部地区共同授業」、「短期集中単位互換授業」等の単位認定科目とする。「西部地区共同授業」は、静岡県西部地域の7大学協力のもと、各大学の教員によりオムニバス形式の共同授業を行う。「短期集中単位互換授業」は、静岡県内の地域資源等に関するテーマで短期集中授業(フィールドワークを含む)を行う。実施単位認定校から授与された単位を本授業の単位として認定する。

文化政策学部科目概要

2021年度 カリキュラム

文化・芸術領域

●音楽文化論

音楽を持たない文化は世界中に存在しない。しかしその文化ごとに、異なる宗教的、政治的、社会的背景のもとに音楽は誕生し、世代間継承され、また新たな文脈の中で新しい音楽が生まれている。本講義では音楽を文化現象として捉え、様々な時代、様々な国々の音楽を鑑賞しながら、その多様性や多彩さの意味を考える。そうした中で音楽が人間生活とどのような関わりをもっているかを、文化史的・社会的背景とともに考え、さらには現代における多様化した音楽(的)現象も考察する。

●演劇文化論

人間の営為の現れとしての文化や芸術の中でも、演劇をはじめとする舞台芸術は特に古い起源と長い歴史を持っていると言える。舞台芸術の尽きない魅力とその本質を解き明かすために、日本および世界各国において現在もなお上演され、人々に親しまれているさまざまな舞台芸術作品を取り上げ、演劇が置かれている社会的環境や演劇が社会において果たしている役割、さらにはそれらの現状と今後の展望を考察する。授業ではできるだけ多くの映像資料を使用し、作品に対する理解を深めるようにする。

●視覚芸術論

視覚芸術の意味と可能性を探るために、主として西洋における視覚芸術の発展を振り返り、「見ること」と「表象すること」の関わりを具体的な作品を例に挙げながら分析的に考察する。また、視覚表現を成立させている要素に焦点を当て、イメージの持つ機能や力についても考察する。視覚の持つ影響力の大きさが人間の思考と密接に関連しながら社会の中でどのような変化をもたらすのか、またそれぞれの時代にどのような影響を与えたのか、具体的事例に照らしつつ示す。

●社会思想史

様々な時代や地域における思想を、時代や地理的背景を踏まえ比較対照しながら論じる。多様な宗教や古代から中世に至る思想・哲学と社会、政治、文化・芸術との関係性を考察する。さらに、宗教革命、ルネサンス、市民革命、植民地主義、社会・資本主義などはもとより、近現代の多様な思想や日本を発祥とする思想についても論じる。単なる過去の思想史学ではなく、未来志向の視点や発想を得ることも目標とする。

●市民社会論

市民社会に関する多様な概念や史的展開を概観する。近年の世界各地における「市民革命」の実態や世界的な非政府組織の発展を踏まえて、グローバルな視点から市民社会と市民の権利について考える。さらに、発展する多様なボランティアや公共サービスの一翼を担う非営利組織(=NPO)の活動についても考察し、文化振興や新たな市民文化の担い手としての市民ネットワークのあり方を展望する。

●社会心理学

社会心理学は、社会の様々な場面で生じる人間関係や人間と社会の関わりにおける心理および行動に焦点を当て、その仕組みについて研究する領域である。この講義では、①他者認

識、自己認識、対人関係、説得、援助、集団・集合行動、心と文化といった社会心理学の基礎的トピックについて理解すること、②社会心理学の研究手法について理解すること、そしてこれらを通じて、③現実的な社会的行動について、心理学的な観点から分析する力を養うこと、を目標にする。

●多文化共生論

民族的・言語的多様性を擁する社会のあり方を考察する。日本とは異なる伝統的な移民国家や近年移民の増加が認められる国家の事例を概観したのち、日本社会における多文化共生のあり方を論じる。日本における外国人市民の増加の歴史的背景を確認した上で、1990年代から進展しつつある多文化共生の諸施策について、基礎自治体の取り組み事例等を紹介しながらその現状と課題を検討する。

●異文化と教育

比較教育学の理論や方法について理解を深めるとともに、諸外国の教育制度や教育内容などについて学ぶ。また、世界の学校の現状を知り、教育に関わる世界の人々の思いや願い、知恵などについて学習する。その上で明治以降の我が国の教育を見つめ、各国との相違点や類似点を踏まえ、我が国の教育が進むべき方向について考察する。さらに文化的背景や言語などの異なる子どもへの増加に伴う国内の教育事情や課題(外国出身児童・生徒の教育、民族教育など)について学ぶ。

政策・マネジメント領域

●文化政策概論

芸術文化振興や文化財保護、デザインやコンテンツ産業などの文化産業振興政策、国際文化交流、観光政策などをはじめ、広く市民生活に関わる広義の文化政策について、所管する各省庁や関連組織等の政策を中心に概観する。さらに、学校教育や社会教育の両者を含む教育制度と文化政策関係、医療・福祉と文化政策の関係、国と地方の関係等における制度的な問題も視野に入れながら、地方自治体における文化政策について、まちづくりの問題ともからめて学ぶ。

●非営利セクターの経営

これからの市民社会の担い手とされる民間非営利組織についての歴史、制度や理論的知識を身につける。「使命」の重要性やボランティア、ファンドレイジングの問題等、営利企業の経営との違いについてドラッカーをはじめとした近年の非営利経営の理論を踏まえつつ体系的に学ぶ。その上で、芸術文化やまちづくり等の分野における活動事例、マネジメント上の課題などについて概観し、あわせて、政府や営利企業等との役割分担や連携のあり方についても検討する。

●地方行政論

本科目では、地域レベルの行政活動や施策を理解する上で必要となる基礎的な制度・理論や地方行政の現状について、包括的かつ体系的に解説を行う。本科目で取り上げる内容としては、地方自治の理念・制度、地方行政の仕組み、国・地方の関係、地方自治体の機能・構造、自治体経営や行政改革等である。また地域が

抱える課題への対応や地域政策の実態についても、事例を取り上げて検討を行う。なお、「地方行政」という科目名であるが、民間主体(地域住民、NPO、市民団体、企業等)が地域の課題の解決に関わる実態も視野に入れる。

●会計学

資金調達、設備投資、商品の仕入れ・販売など、企業が行う様々な経営活動を、定量的な給付と貨幣の対流関係の写像として描き出すこと(測定)と、それを利害関係者に開示すること(伝達)ことの2つの会計行為として捉え、これらを科学的認識の対象とする会計学の基本的な概念を学ぶ。あわせて、企業の経営成績や財政状態に関する情報提供システムとしての会計の基本的原則や技法を中心に、幅広い会計の領域について体系的に学ぶ。

●都市経営論

都市の経営とは何かということについて、人口減少下に入った今日における経営資源の有効活用の視点、個々の都市政策の実現のプロセスを概観する。同時に、都市の経営を、広く、行政、市民、企業等からの協働する都市のマネジメントと捉え、成熟都市社会における展開方向について考察する。都市経営の範囲は、社会経済、社会資本、コミュニティ、観光、文化など多岐にわたり、これらに関する典型的な事例を取り上げて学習する。

●アートマネジメント概論

文化施設や実演芸術団体等、公益的な目的を達成するための非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの基礎を修得することを目的とする。非営利組織における「使命」の重要性を理解した上で、マーケティング、ファンドレイジング、財務・会計、人的資源管理論、組織論などアートマネジメントの諸領域における基礎的な理論について、国内外の美術館、劇場・音楽堂、オーケストラや劇団等における事例を交えながら概観する。

●NPO・NGO論

どのように、市民社会が政府および営利セクターに並んで、社会の動きを変えよう力を持つに至ったか、その歴史と変遷をヨーロッパ社会から学ぶとともに、その根底にある構造として個人主義とボランティアの影響を読み解いていく。こうした市民社会の成長に伴い、活動が組織化され大きな影響を生み出すに従い、それらを規制、管理、支援する様々な社会的制度がどのようにつくられてきたのか、特に日本のNPO法の変遷を見ながら、考えていくとともに、NPO・NGOが未来社会にどのような役割を持つようになるかを考察していく。

●憲法

この授業では、憲法についての基礎知識を習得することを目的とする。憲法の内容や、日本国憲法を支える基本原理、日本国憲法成立の歴史の経緯といった憲法の総論的な概説を経て、憲法によって保障された権利を対象とする基本的人権の分野と、憲法の基本原理を実現するための国家機関の仕組みを対象とする統治機構の分野について、裁判例の検討を交えながら学んでいく。

●文化政策と法

文化政策を取り巻く現行諸法の基本的理解を目的とする。文化政策の範囲を広義に捉えた上で、国および地方公共団体がしている現実の文化政策に注目し、関連する法や条例、国際条約について検討する。文化芸術振興基本法や、これを受けた地方公共団体の文化振興基本条例における文化政策の基本的な体系の理解とともに、博物館法や劇場法をはじめとする文化政策に関わる諸法や条例、知的財産権や都市計画、まちづくり等に関する法、文化関連の国際条約等について、諸外国の事例も交えて考察する。

●生涯学習と文化

生涯学習とは何かを明確にしながら、今日の急激に変化する社会の中での生涯学習の基本的課題を概説する。特に、生涯学習社会における子ども観・若者文化のあり方に関する検討を通じて、知の循環型社会としての生涯学習社会の構築に向けての課題を探究する。生涯学習社会における学校・家庭・地域の連携のあり方、メディア・リテラシーの問題、キャリア形成の課題、社会教育指導者の役割、学習支援と学習成果の評価と活用等の現代的課題を、映像資料等を活用し、具体的な事例を通じて学習する。

情報・リテラシー領域

●統計学

平均、分散、標準偏差、正規分布、母集団、標本誤差やカイニ乗検定等、統計を利用したり、社会調査を行ったりする際に必要となる統計学の基礎的な知識をもとに、表計算ソフト等を使って簡単な分析ができる能力を身につける。さらに、国勢調査、社会生活基本調査、経済センサス等、文化、社会、経済やそれに関わる政策の研究に必要な統計の特徴についての理解を深める。

●社会科学の方法

社会科学には経済学・社会学・政治学など様々な学問が含まれるが、それらには共通して、社会現象を科学的に見ようとする知的営為がある。ここでは、社会現象を科学的に分析する手続きを紹介し、概念や論理の構成、統計データ(数字)の使い方、専門書の読み方、テーマ選定や引用手続などの論文作法、図書館の利用方法などについて説明・指導する。また社会科学が歩んできた歴史や主な社会学者の社会科学に対する考え方を紹介しつつ、現在の社会科学が置かれた現状について理解を深める。

●フィールドワークの手法

実地調査を通じて質的(定性的)データを収集するフィールドワークの手法が、社会学や人文科学など広範な分野の学問において、盛んに導入されるようになった。フィールドワークの実施対象は多岐にわたっており、特定の対象を研究する場合も、テーマや目的など調査者の関心は多様である。こうしたフィールドワークの背景となる考え方や、参与観察・インタビューなど具体的な技法について理解を図る。調査手法を身につけるだけでなく、フィールドワークを行うとはどういうことかを考える。

●プレゼンテーション技法

伝えるべき情報を上手に表現し、相手が納得するような円滑なコミュニケーションを達成するためのプレゼンテーションの技法を学ぶ。具体的には、プレゼンテーションにかかるビジュアル表現を支える様々な技法と、それらを用いた口頭発表の方法などを実践的に展開する。

●ディベート技法

多様化し複雑化した現代社会で我々が生きていくためには、多面的な見方が必要とされる。他者とのコミュニケーションを通して、様々な角度から考える態度を常に身につけておく必要がある。問題意識を持ち、その問題に関連する情報を蒐集し、蒐集した情報を分析し、論理的に思考する力を養う必要がある。また、自分の考えを人に発信するために、説得力を持ち、論理的な発言ができなければならない。他方、相手の意見を傾聴する態度を備え、正しく理解した上で、論理的な批判力が持たなければならない。こうした一連の能力を実践的に養っていくのがディベート技法である。

●ファシリテーション技法

企業や学校、地域コミュニティなど、多様な人々が集まる場や機会において、集団による問題解決、アイデア創造など、グループとしての活動が円滑に行われるように、中立的な立場から支援を行うファシリテーションの手法や技術について学ぶ。場のデザインのスキル、対人関係のスキル、構造化のスキル、合意形成のスキルを身につけ、最終的にはワークショップ等の機会に自らがファシリテーターとしての役割を担うことができるようになることを目的とする。

●情報リテラシー基礎

現代の情報社会において必須であるとともに、大学で学ぶ上で必要となる情報の基礎能力を養う。講義項目は、コンピュータの基本原則および操作方法、電子メールの初期設定と利用・セキュリティ、インターネットの原理、WWW(ワールドワイドウェブ)・クラウドコンピューティングの仕組みと利用、ワードプロセッサを用いた文書作成と書式の設定管理、ファイルの操作と管理、メディアリテラシーの基礎、ソーシャルネットワークの活用と情報収集、情報発信などである。

●情報リテラシー応用A

コンピュータを実践的に活用できるようになることを目的として、表計算ソフトウェアおよびビジネス文書作成の能力を養う。講義項目は、コンピュータにおける数と文字の扱い、表計算ソフトウェアの基本的な操作方法、相対参照と絶対参照、シート上の書式設定、レポートを仕上げる手法、印刷書式設定、フォーム設定、計算処理、グラフ作成と野線、データベースの処理、論理演算と検索、アンケート集計などである。これらにより、データを処理・可視化してレポートとして仕上げる能力を学習する。

●情報リテラシー応用B

画像を含む文書作成能力を養うことを目的として、コンピュータを用いた画像および図形処理について学ぶ。講義項目は、コンピュータにおける画像・図形であるラスター図形およびベクトル図形の扱い、画像を扱う基礎となる画素数、解像度、色の表現などの知識、データの圧縮と情報量、ファイルの形式とその選択、さらにプレゼ

ンテーション・ソフトウェアにおける図形の扱いなどである。講義で基礎的な知識を学ぶだけでなく、PhotoshopおよびIllustratorを用いた実践的な処理についても学習する。

●図書館概論

社会的な記憶装置としての図書館は、情報通信技術の進歩に伴い、情報基盤の一つとして、一層の多様化が進展している。こうした背景のもとに、図書館の今日的意義や役割、図書館の歴史的發展経緯や種類、図書館に関する法的基盤と行政施策としての政策、各種図書館の制度と機能、図書館員の役割、著作権や知的自由、現代社会における図書館の新たな機能や課題について、解説する。同時に図書館を使いこなして情報収集できる基本的な技術を身につけさせることも目的とする。

観光領域

●観光学概論

日本において「観光」は注目を集める成長産業である。特に2013年以降、インバウンド観光客の増加は驚異的とも言える。本講義では、観光学の基礎を築くため、世界と日本における観光業の起こりから、マストツーリズムへの発展と直面した課題、そしてそこから発生したオルタナティブ・ツーリズムやサステイナブル・ツーリズムとその発展など、観光の歴史的潮流をマクロな視野から学ぶ。

●観光社会学

観光は21世紀以降の世界において、急激にニーズが高まってきた産業であると同時に看過できない社会現象である。また、世界経済を牽引する原動力の一つとして学問的にも今後さらに注目されるであろう。この講義では、観光が社会に及ぼす効果と影響を多角的に検討し、社会の持続可能性に貢献する観光のあり方を探る。

●グローバル観光論

世界の国際観光客数は、戦後間もない1950年時点と比較すると、今やその50倍近くに達するほど拡大し、世界的に大きな経済効果をもたらしている。本講義では、「国際観光」の概念を把握し、特に、今後日本経済の牽引役への成長期待も大きいインバウンド観光による地域創造について学習する。また、海外における知名度の高い観光地や観光資源について、その特徴も概観する。

●観光地理学

自然環境と経済・社会・文化等との関係を対象とする地理学の見地から、観光について論じる。特に、文化の懸け橋としての街道に注目し、観光資源としての魅力を探る。具体的事例として、古代から多くの人々が行き交った東海道、東西文明を結んだシルクロード、ドイツのロマンティック街道等を取り上げる。

●観光ビジネス論

観光をめぐる理論と観光の現場を結び知識として、この講義では観光業における実務的な内容について学ぶ。まず、背景として国や地方自治体の観光政策の概要を把握した上で、旅行代理店・運輸業・宿泊業・広告業等の企業における観光経営を取り上げる。観光業界の実態や観光業務の実務面についても知識を深める。

文化政策学部科目概要

2021年度 カリキュラム

●テキストスタイル概論

人類は太古の誕生間もない頃から自然界にある繊維をまとい、やがて自ら織り、染めてきた。衣服としてだけでなく居住環境にも応用することで、生活を豊かに、快適に、美しいものにしてきた。そのような人と繊維の関係に関する歴史、文化、技術、産業の変遷を通してテキストスタイルに対する理解を深めるとともに、新たなテキストスタイルの可能性について学ぶ。

●日本伝統建築

日本の伝統建築は、古代、中世、近世、近代とその時代の歴史や文化を背景に様式を確立し、継承してきた。その建築様式と技術の歴史、さらに建築を構成する木材や石材、漆、鉄、紙等の材料や、建築を造り上げてきた鑿、鉋、鋸等の道具について幅広く学ぶ。また文化財政策の歴史と現状、伝統建築の保存・修理・活用に関しても理解を深め、静岡県文化遺産ともいえる伝統建築のあり方も考える。

選択外国語 フランス語

●フランス語コミュニケーションIA

文法に重点を置いてフランス語の基礎を学ぶ。アルファベから始まって動詞の活用や名詞と形容詞の性数の区別など、フランス語の基本構造を理解する。問題演習を中心に文法をマスターしながら、簡単な文章を読み、自分で文を組み立てられるようにする。綴りを正確に音読して発音にも注意し、動詞活用や名詞等の性数の違いを中心に辞書の使い方も学ぶ。同時に、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に触れ、フランス語を学ぶことと現在の世界とのつながりを意識するようにする。

●フランス語コミュニケーションIB

平易なテキストをもとに、日常生活で使用される頻度の高いフランス語の言い回しを中心に学習し、CD、DVDを用いた聞き取りと発話練習を繰り返して基本的な「聞く・話す」能力を習得する。挨拶から始まって、自己紹介、好き嫌いを言う、ものや人物について述べるなど簡単な自己表現と意思疎通ができることを目標にする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に対する理解も深めて、フランス語学習を発端に現代世界を見ていく機会をつくる。

●フランス語コミュニケーションIIA

IAに引き続いて、文法に重点を置いてフランス語の基礎をより深化させる。問題演習を中心にフランス語の基本構造を身につけ、簡単な文章を読み、自分で文を組み立てられるようにすると同時に、基本的な語彙や表現をさらに身につけていく。複合過去形や半過去、人称代名詞、関係代名詞など複雑な文章構造に慣れ、綴りの正確な読みをさらに徹底して発音に慣れ、自然な速さでの音読ができるようになる。辞書の使い方もマスターする。

●フランス語コミュニケーションIB

IBに引き続いて、日常生活で使用される頻度の高いフランス語の言い回しを中心に学習し、CD、DVDを用いた聞き取りと発話練習を繰り返してより高度な「聞く・話す」能力を習得する。買い物、レストランでの注文、道をたずねる、自分の生活について語るなど実際のコミュニケーションに役立つ表現を身につける。フランス語の

音やリズムに慣れ、自分から積極的に発話できるようにする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に対する理解もさらに深めていく。

選択外国語 ポルトガル語

●ポルトガル語コミュニケーションIA

本授業では、日常会話を中心にポルトガル語の文法と文章の基礎を学ぶ。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるように指導する。さらに正しい発音と読解力、作文の方法をマスターするよう地道に指導していく。学外活動では、ブラジル人学校、多文化共生イベントなどでの文化交流を行う。

●ポルトガル語コミュニケーションIB

浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれている。なお、ブラジル人コミュニティ内では、ポルトガル語による新聞やテレビチャンネルも普及している。その中で、学生がそれらのメディアに触れられるように、本授業では、ポルトガル語コミュニケーションIAに続いて基礎的な文法の学習し、読む力、そして簡単な文章の作成を試みる。ブラジル社会と文化への関心と理解を深め、学習の動機づけを強めるため、ビデオ鑑賞も授業で行う。

●ポルトガル語コミュニケーションIIA

本授業では、ポルトガル語コミュニケーションIA・IBを継続し、日常会話を中心にポルトガル語の文法や文章の基礎を学ぶ。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるように指導する。さらに正しい発音と会話力を育成するため、地道に指導していく。クラスをグループ分けして、それぞれのグループで作成したスキットなど発表させる。

●ポルトガル語コミュニケーションIB

浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれている。なお、ブラジル人コミュニティ内では、ポルトガル語による新聞やテレビチャンネルも普及している。その中で、学生がそれらのメディアに触れられるように、本授業では、ポルトガル語コミュニケーションIA・IB・IIAで学習した文法や文章表現などの基礎をもとに、読解力、作文作成の方法をマスターできるように指導する。ここでは日記の作成や演劇などの自作も試みる。

選択外国語 韓国語

●韓国語コミュニケーションIA

韓国語の「聞く・話す」ということに重点を置き、韓国語の基礎を身につけることを目指す。ハングル文字の仕組みや発音の仕方から入り、韓国語の構造や原理を理解した上で、慣用的な挨拶をはじめ、基本的な語彙や日常会話を学習する。また、日本と韓国の面白い習慣の違いや日常生活のちょっとした違いなども取り組んで、日本人が間違いやすい点に留意しながら、面白く・楽しく正確な発音練習と聞く訓練を繰り返して韓国語の聞く・話す能力を習得する。

●韓国語コミュニケーションIB

韓国語の「読む・書く」ということに重点を置き、韓国語の基礎を身につけることを目指す。ハングル文字の仕組みや発音訓練を重ねるとともに、聞き取り・書き取りを中心に、基本的な単語・語彙や文法について学習する。また、日本と韓国の面白い習慣の違いや日常生活のちょっとした違いなども取り組んで、日本人が間違いやすい点に留意しながら、新聞や雑誌などの記事を用いた読解や書き取り練習を繰り返して、韓国語の読む・書く能力を習得する。

●韓国語コミュニケーションIIA

韓国語コミュニケーションIAに引き続き、韓国語の「聞く・話す」ということに重点を置きながら、韓国語の基礎を身につけることを目指す。韓国語の基本的な構造や原理を理解した上で、特に日本人が間違いやすい点などに留意しながら、慣用的な挨拶をはじめ基本的な文法を学習する。また、その際に視聴覚教材などを活用しながら、韓国語の聞く・話すという能力のスキルアップをはかるとともに、韓国の社会と文化の理解にも努める。

●韓国語コミュニケーションIB

韓国語コミュニケーションIBに引き続き、韓国語の「読む・書く」ということに重点を置きながら、韓国語の基礎を身につけることを目指す。聞き取りや書き取りを中心にしながら、ハングル文字の仕組みや発音訓練を重ね、基本的な単語・語彙や文法を学習するとともに、辞書を引きながら新聞や雑誌などの記事を用いた読解や書き取り練習を繰り返して、韓国語の読む・書く能力のスキルアップをはかるとともに、韓国の社会と文化の理解にも努める。

選択外国語 インドネシア語

●インドネシア語コミュニケーションIA

インドネシア語基本文法の理解および初歩的な文章表現の習得を第一の目標とする。日本語や英語と比較しながら、その全体的特徴を認識した上で語順、人称代名詞、指示代名詞、疑問詞、数字、時刻/時間、年月日/曜日、語根動詞/Ber動詞、接辞Me-、形容詞/副詞、前置詞、助動詞、辞書の使い方などを学習する。授業では、指定テキストとともに配付プリントの練習問題に取り組むことにより、語彙を増やし会話をする際の文法的基礎を築く。

●インドネシア語コミュニケーションIB

日常会話に不可欠な語彙や表現を知るとともに、やや複雑な表現技法を用いた会話習得を目指す。発話練習を繰り返しながら、数字、時間、年月日他の文法授業で学んだ事柄を会話で活かせるように練習する。また会話教材に沿った挨拶や自己紹介、他者への指示や依頼の仕方などの表現を使えるようになる。最終的には受講者が指定共通トピックについて小作文を準備、発表、質疑という授業を行う。なおヒアリング力を強化するために、DVD/CD教材を利用する。

●インドネシア語コミュニケーションIIA

インドネシア語IAでの学習を踏まえた上で、さらに高度な文法事項の習得を目指す。具体的にはより複雑な各種接辞(Me-kan/Me-i/Memper-, An/Pe-, Per-an/Pe-an, Ter-, Ke-an, -Nya/Se/Se-nya)に加え、受動態や

関係代名詞などテキストに沿って解説する。その後はテキストを離れ、昔話他簡単な読み物の講読を通じ、文法の定着と読解力の強化を図る。読み物の内容を正確に理解するため、並行的に映画、ドラマ、ドキュメンタリーのような関連DVD映像を鑑賞する。

●インドネシア語コミュニケーションIB

基本的にインドネシア語IBの授業内容を拡大発展させる方向で継続する。配付プリントに基づく日常会話の練習に加え、いくつかのトピックについて小作文を準備し発表、受講者間の質疑という形での対話型授業を一層充実させていくことにより、会話能力のさらなる強化を図る。IB授業の時と比較すると、作文量、用いる慣用表現の範囲、質疑の際の質問の種類および回数、発表時間などが増すことになる。

選択外国語 イタリア語

●イタリア語コミュニケーションIA

イタリア語の基本文法を重点的に学ぶ。単語力をつけ、名詞の性数変化・現在形の動詞活用をマスターすることに主眼を置く。生活の各場面に応じた基本フレーズを暗記し、グループワークの中で反復練習することによって文の構造を理解し自分で作文できるようにする。発話を録音し自分の耳で聞いて自発的な学習を習慣づける。イタリアの社会や歴史、生活文化の事象も学びながら、「自分のこと」について表現できることを目標とする。

●イタリア語コミュニケーションIB

IAに引き続き、未習の文法項目を学びイタリア語の基礎力をつける。ネイティブの発音を参考にしてミニ会話を自主録音し、音声課題として提出する。さらに、CD、DVDを用いた実践練習を繰り返して発話する力を定着させ、「好き・嫌い」の言い方、依頼表現、欲求や許可を求める表現をマスターする。近過去までを習得し自分の経験をイタリア語で述べる。辞書を使って文化コラムを訳読し、文の構造を理解しながら「読む」力をつけていく。

●イタリア語コミュニケーションIIA

IA、IBを基礎に中級レベルのイタリア文法を学ぶ。過去時制の概念を整理し、自分で使えるように実用フレーズを暗記して作文力をつけていく。買い物や食事、現地での学生生活のために教養として必須の知識を獲得しつつ、各場面で役立つ表現を身につける。CD、DVDを多用してドラマ・映画を題材に聴き取り練習を繰り返しながら、ミニ会話を自主録音し音声課題を提出する。語彙力の強化と目的語・命令法・比較表現が使えることを目標とする。

●イタリア語コミュニケーションIIB

IIAに引き続いて中級レベルの語彙力・読解力の定着を図る。条件法、接続法を用いた新聞記事・雑誌のコラム等の訳読も行う。映画教材の字幕を分析し、社会事情への理解を深めながら生のイタリア語が理解できるようにDVD教材を使ったグループワークを行う。芸術作品、文化遺産のキャプションを題材にして、遠過去、関係代名詞、専門用語を用いた高度な文体の読解にも取り組む。実用イタリア語検定3級レベルの問題演習を随時取り入れる。

選択外国語 ドイツ語

●ドイツ語コミュニケーションIA

文法に重点を置いてドイツ語の基礎を学ぶ。アルファベット表記、単語の発音の仕方から始めて動詞の活用や、名詞と形容詞の性数の区別と格変化、ドイツ語の構文パターンから、ドイツ語文法の基本構造を理解する。動詞活用や名詞等の性数格の違いを中心に辞書の使い方も学ぶ。問題演習を中心に文法をマスターしながら、簡単な文章を読み、自分で文を組み立てられるようにする。発音にも注意し、綴りを正確に音読してドイツ語に慣れる。

●ドイツ語コミュニケーションIB

平易なテキストをもとに、日常生活で使用される頻度の高いドイツ語の言い回しを中心に学習し、さらにCD、DVDを用いた聞き取りと発話訓練を繰り返すことで、基本的な「聞く・話す」能力を習得する。場面ごとの挨拶から始めて、自己紹介、ものや人物について述べるなど、簡単な自己表現と意思疎通ができる程度の会話能力を身につけることを目標とする。これらの学習とあわせて、ドイツおよびドイツ語圏の社会や文化に対する理解も深めていく。

●ドイツ語コミュニケーションIIA

IIAに引き続いて文法に重点を置いてドイツ語の基礎をより深化させる。時制や特徴的な動詞の活用、複合的な文の構造について学び、ドイツ語の複雑な仕組みをより正確に把握するとともに、基本的語彙や表現をさらに身につけて、辞書の使い方もマスターしていく。簡単な文章、例えば平易な雑誌・新聞記事などを読み、それらの情報をもとにして手紙・作文の学習・訓練を行う。これらの学習を通じて、ドイツ語圏の社会や文化に対する理解も深める。

●ドイツ語コミュニケーションIIB

IBに引き続いて、日常生活で使用される頻度の高いドイツ語の言い回しを中心に学習し、CD、DVDなどを用いた聞き取りと発話訓練を繰り返してより高度な「聞く・話す」能力を獲得する。一定のテーマに基づいた学生相互の対話練習も行い、旅行や買い物、学生間の交流などの場面を想定して、積極的に発話できるような会話能力・ヒアリング力の育成を図る。これらの学習を通じて、ドイツ語圏の社会や文化に対する理解をさらに深めていく。

国際文化学科科目概要

2021年度 カリキュラム

学科基礎

●国際文化概論

国際文化を広く学ぶために、国際文化が一定の安定性を有しながらも、変わりつつある構造物であることを知り、それを関係的、構造的、過程的に捉える視点を育むことを科目の主要な目的とする。また、この科目の学びを通して、その後の学科での学習への関心と意欲を高めていく。そのために、国際文化学科の教員の研究成果や多様な事例を用い、具体的な事象から国際文化の全体像を考察して、国際文化を理解する上で必要になる多様な視点を学ぶ。

●文章表現技法

人文社会科学分野における文章作法の基礎的訓練を行う。例文に取り上げる人文・社会科学者の文章を通じて、伝統的な文章構成の重要性と、日常語とは異なった学術的文章作法について理解を深め、実際の文章作成によって各人の表現能力を高めることを狙う。以上の学術的な文章作成のための技法習得を授業目標の中核に置き、そのための階梯としてのレポート作成、語彙力の強化、さらにはエッセイや実用的文章の読み書きの技法を総合的に学習することにより、目的に応じた文章表現能力育成も視野に収めて授業を行う。

●国際文化基礎論

全学科科目「学芸の基礎」の後を受け、国際文化理解に必要なリテラシー能力の一層の充実を図る。授業で設定された課題に関する資料や文献を様々な方法で調べ、それらの文献の分析を進めた上で、課題に対して多様な視点で分析、批判したレポートをまとめ、発表する。またレポート作成に関しては、明確な論点を持つだけでなく、参考文献、引用といった基本的な論文技法についても学ぶ。こうした過程を通じて、国際文化学科で学ぶための基礎力となるリテラシー能力を高める。

●ナショナリズム論

近代以降の世界の姿を知る上で、nation(民族/国民)への理解は欠かせない。本科目では手始めに簡単な理論的導入を施した上で、多民族状況と格闘するべく多文化共生的な政策を推し進めながら結局はいくつもの国民国家に分裂する形で崩壊するに至った複数の多民族国家を事例として取り上げ、行政上の枠組の変遷や言語空間の変容が民族および民族問題の形成に及ぼした影響を論じることを通じて、nationを固定的な所与のものとする見方を再考する。

●国際関係論

「国際関係論」とは、国際社会やそこで生起する様々な現象を対象とする学問である。この授業では、学問の成り立ちや性格を紹介した上で、今まで積み重ねられてきた理論と学説の系譜を概観し、主要な視座と基礎的な概念を習得する。さらに、以上の学問的なツールが国際問題の分析や歴史的理解にどのように適用されるかについて、いくつかの事例を通じて検証し、国際関係への学問的な理解と考察を深めることを授業の目標とする。

●比較文化論

文化とは何か、文化の違いをどのように捉え、どのように比較するのか、といった文化の見方について検討する。まず文化に優劣はないという文化相対主義的な基本認識に立ち、時代・地

域・集団ごとに異なるものとして文化を捉え、各々の文化の独自性と固有の価値観を考察する。その上で、複数の文化が接触し合い相互に影響する、または異文化を鏡として自らの文化を形成する過程に注目し、文化が相互に容受する可能性をも考察する。

●グローバル・キャリア・デザイン概論

国際的な舞台で展開される仕事にどのようなものがあり、どういった人材を求めているかを学び、学生が自分の可能性とそのために必要な準備を進めるための学びの場とする。特に機械工業、サービス業、非営利団体、流通業などの国際的な業務を展開している業界の情報提供、求められる人材の具体的なケースを研究するとともに、必要に応じて現場で活躍する専門家を講師として招き、具体的な学びを行う。これらを包括的に学ぶことにより、グローバル人材としてのキャリア・デザインを設計するための学びの場とする。

学科基礎

国際文化入門

●国際文化入門A

英語を理解するためには、単語や文法の知識だけでなく、その背景文化についての知識が欠かせない。この授業では、英語の成り立ちや、イギリス、アメリカなど英語が話されている地域、また、キリスト教やギリシャ・ローマ神話、ケルト、ゲルマン神話、伝説など、英語や英語文化を学ぶ上で基礎になる背景知識について講義する。学生自身が英語や英語文化に興味・関心を持ち、2年生以上の学科科目においてそれを深めていくための入り口となるように位置づける。

●国際文化入門B

東アジアにおける日本・中国・韓国の3カ国は古来よりさまざまな側面において、相互に強い影響を与えていた。日本・東アジアの文化と社会について、基礎的な知識を習得し、生活と文化の様々な側面に理解を深める。それに加えて、日本と韓国、日本と中国、中国と韓国といった、東アジアにおける異文化交流のあり方についても考える。以上の基礎的な理解を踏まえ、2年次以降の当該地域の学科科目と、3年次以降の演習(ゼミ)を受講するための予備知識を習得する。

●国際文化入門C

地中海地域の文化について基礎的な知識を提供し、生活と文化の諸相を概観する。具体的には南ヨーロッパと北アフリカの地中海西域の主要都市の都市空間とその生活文化を題材に、古代から継承された地中海世界の特徴を考え、この地が育んだヒューマンスケールの合理性と共同体の力学とも呼ぶべきものを考察する。異なる文化圏を一つの世界として横断的に捉え、異文化間に通じた統一性を認識したい。さらには歴史、文学、美術、映画などの理解を深め、2年次以降の学科科目、3年次以降の演習受講のための予備知識を習得する。

●国際文化入門D

国際社会において異文化間の接触により生起する諸事象や、多文化状況下にある諸地域の社会の特質について、基礎知識を習得し、その歴史的背景を概観する。国際社会に関する考察における文化をめぐる観点や、社会・文化の多様性とその変動について認識を深めつつ、「日本・東アジア」「地中海・西欧・北米」「多文

化共生」の各区分をはじめとする2年次以降の学科科目、3年次以降の国際文化演習(ゼミ)を受講するための予備知識を習得する。

学科基礎

専門外国語

●英語表現法

英語による効果的な文章作成、論文作成、口頭発表ができるような英語表現技法の基礎力を養うことを目的とする。英語でわかりやすく表現するにはどうすればよいのか、英語らしい表現、論理的な文章構成、パラグラフの効果的な使い方など、英文を書く上での基礎を身につける。また、多くの英文を書く課題を通じて、自分の言いたいことを自然な英語で表現できるよう訓練し、話す・書くといった産出面での正確さと流暢さの両方の能力を伸ばす。

●英語上級 観光英語

国内や海外で活躍できる、旅行者を案内するツアーコンダクターやツアーガイド、その他観光業に必要な英語の基礎から実践的な力までを習得する。日本人が気軽に海外に出かけるようになった昨今、さらに国や県としても観光に力を入れ始めている。そのような時代にあって、旅行中や、観光業において遭遇するであろう様々な場面における対処法や、観光必須用語、および必要な表現を効果的に習得していく。卒業後の進路を見据えた、英語を使う仕事につながるキャリアパス(carrier path)科目である。

●英語上級 会議英語

会議や集会、国際会議などで議長、司会者、進行係(Master of Ceremonies)として会議をリードできるような英語の理解力と発信力、リーダーシップ力を養う。はじめの言葉、参加者の紹介、聴衆への語りかけ、議題の説明、会議の進行、発言者の意見の要約に加え、時にはジョークを飛ばしたりして、場を和ませる。このようなMCに必要な英語表現力を身につけるために、授業の中で実践演習を行う。さらには、文書での説明や質疑応答を通して、相手と交渉できる語学力をも養う。

●英語上級 通訳

将来通訳のプロとして、あるいはコミュニティのボランティア通訳として、または国際化社会における多言語企業で働く者として、必要な技能を養成するキャリアパス(carrier path)科目である。通訳養成に使われる訓練法、つまり耳から入ってくるセンテンスのリピートと訳、シャドーイング、サイトトランスレーション、パラグラフごとの要約と訳など、英語から日本語、日本語から英語へとすばやく転換する力を養う。また、日本に暮らす外国人の数が増加していることから、言葉の橋渡しをするコミュニティ通訳者として、司法、医療、学校、行政の通訳業務についても学ぶ。

●英語上級 翻訳

将来の翻訳者を育成するための入門的キャリアパス(carrier path)科目である。翻訳は現場での経験がものをいう仕事であるが、大学の授業で翻訳の理論と方法を学び、実務翻訳演習をすることで、翻訳の難しさと重要性を学ぶ。翻訳とは辞書と英文法の知識さえあれば誰にもできるという単純な作業ではないのである。内容としては、翻訳の理論を最初に学び、次に実際に解説文、評論文、論文、小説、絵本、マンガ、字幕、歌詞、マニュアル、カタログ、ビジネスレター、契約書、広告文の翻訳演習を行う。

●中国語上級I

総合的な中国語力の強化を目的とし、これまで学んだ中国語の完成を目指す。3年次生を対象に、書く、話す能力を中心に、上級レベルの言語表現法を学ぶ。実践的な手紙文、挨拶文、通信文、報告書などの形式と、それに合った表現・語彙を身につけ、ともに作文能力も養っていく。また、翻訳練習を通して、日本語と中国語の表現方法の違いをより深く理解する。さらに、中国語使用の実際に即した専門書・参考書の使い方を身につけ、中国語の応用能力を高める。

●中国語上級II

総合的な中国語力の強化を目的とし、これまで学んだ中国語の完成を目指す。3年次生を対象に、話す、聞く能力を中心に、上級レベルのコミュニケーション能力を養う。日常的な会話、討論、スピーチなどの場面に応じて、それに合った表現・語彙を身につけ、実践的な語学力の育成を目的とする。また、通訳練習を通して、口語表現を含めた日本語と中国語の表現方法の違いをより深く理解し、異文化間コミュニケーションの実践的知識、さらに語用論的知識を身につける。

●フランス語上級IA

フランス語の基礎を習得した者を対象に、口語コミュニケーションとしてのフランス語に慣れ、その運用能力を確実にすることを目標にする。授業はCDやDVDを使って、正確に聞き取る、自分で言ってみる、新たなシチュエーションに対処するといった練習を行い、「聞く、話す」に力点を置いた口語コミュニケーション能力を養う。正確に発音して自然なフランス語を発信できるようにする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に対する理解も深めて、フランス語学習から現代世界を見ていく視点を養う。

●フランス語上級IB

フランス語コミュニケーションで学ぶフランス語の基礎を習得した者を対象に、文法をさらに確実にしつつ、語彙や表現を深めながらより高度なフランス語の「読む、書く」能力を習得していく。新聞・雑誌やインターネットのWebサイトなど、日常生活の周辺にあるさまざまなフランス語に触れて、普段使われるフランス語が理解でき、自ら発信できるようにする。また、今日のフランスとフランス語圏の社会や文化事情の理解にも努める。

●フランス語上級IIA

IAに引き続いて、口語コミュニケーションとしてのフランス語に慣れ、その運用能力を確実にすることを目標にする。授業はCDやDVDを使って、正確に聞き取る、自分で言ってみる、新たなシチュエーションに対処するといった練習を行い、「聞く、話す」に力点を置いた口語コミュニケーション能力を養う。正確に発音して自然なフランス語を発信できるようにする。また、フランスおよびフランス語圏の社会や文化に対する理解も深めて、フランス語学習から現代世界を見ていく視点を養う。

●フランス語上級IIB

IBに引き続いて、文法をさらに確実にしつつ、語彙や表現を深めながらより高度なフランス語の「読む、書く」能力を習得していく。新聞・雑誌やインターネットのWebサイトなど、日常生活の周辺にあるさまざまなフランス語に触れて、普段使われるフランス語が理解でき、自ら発信できるようにする。また、今日のフランスとフランス語圏

の社会や文化事情の理解にも努め、フランス語学習を通して自分を取り巻く現代社会の多様性を認識していく。

●フランス語応用

これまで学んだフランス語の完成を目指し、読む・書く・話す・聞く能力を総合的に養う。授業は演習形式で、テキスト講読と口頭練習を中心に、より高度で正確なコミュニケーション能力をつけることを目標にする。文学作品講読や、フランス語検定、DELTA・DALFの世界標準資格試験の問題演習、フランス語でのプレゼンテーションを行う。言語の学習に伴って、その背景となるフランスおよびフランス語圏の文化と社会への理解も深め、英語(中国語)に加え、複数言語を学習することの意義と世界の多様性を認識していく。

●ポルトガル語上級IA

ポルトガル語コミュニケーションIA・IB・IIA・IIBで学んだポルトガル語の基礎をもとに、日常会話の練習を中心に、聞き取りの練習も積み重ねる。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるように指導する。授業の合間には視聴覚資料などを使ってブラジルの歴史・社会・文化・習慣について紹介する。

●ポルトガル語上級IB

ポルトガル語コミュニケーションIA・IB・IIA・IIBで学んだポルトガル語の基礎をもとに読解と作文を中心に授業を進める。さらに実用的な文章作成の練習を積み重ねる。ブラジル人コミュニティ内では、ポルトガル語による新聞やテレビチャンネルも普及していることから、学生がそれらのメディアに触れられるように指導する。授業の合間には視聴覚資料などを使ってブラジルの歴史・社会・文化・習慣について紹介する。また、日記の作成や演劇などの自作も試みる。

●ポルトガル語上級IIA

ポルトガル語上級IA、IBで学んだポルトガル語の基礎をもとに、引き続き日常会話の練習を中心に授業を進める。浜松市にはポルトガル語を母語とするブラジル人が多く在住しており、あらゆる場面でポルトガル語を使う機会に恵まれていることから、学んだポルトガル語を実践できるように指導する。また、ポルトガル語の文法・語彙をレベルアップさせ、さらに会話能力育成を中心に授業を進める。同時に視聴覚資料などを使ってブラジルの文化や社会について理解を深める。

●ポルトガル語上級IIB

ポルトガル語上級IA、IBで学んだ文法・語彙をレベルアップさせ、さらに読解力と実用的な文章の作成を中心に授業を進める。ブラジル人コミュニティ内では、ポルトガル語による新聞やテレビチャンネルも普及していることから、学生がそれらのメディアに触れられるように指導し続ける。同時に視聴覚資料などを使ってブラジルの文化や社会について理解を深め、在浜松市のブラジル人学校やブラジル人コミュニティとの交流を図る。

●ポルトガル語応用

ブラジル・ポルトガル語の基本的知識を活かしながら、新聞や雑誌の記事を読む。また、ポルト

ガル語でTVニュース番組を見て、それぞれの内容についてポルトガル語で討論をする。なお、浜松市にブラジル人コミュニティがある背景には、ブラジルにある日本国外の最大の日系コミュニティの存在がある。これらの歴史的背景を学生に紹介しながら、ポルトガル語の資料を読んで歴史を学ぶよう指導する。

●韓国語上級IA

韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「聞く・話す」能力の向上を目指す。慣用的挨拶や基本的な会話表現の練習を通じて、基本的な単語や語彙と文法を学習しながら、また視聴覚教材を援用して聞く訓練を重ねる。日常会話を題材にして学生同士の対話訓練も実施して、徹底したトレーニングを繰り返し、正確な発音を身につけ、韓国語の聞く・話す力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国の社会と文化についても理解を深める。

●韓国語上級IB

韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「読む・書く」能力の向上を目指す。慣用的表現や対義語・類義語の微妙な使い分け、韓国語と日本語の表現の微妙な違いなどに留意しながら、より高度な文法や構文・作文の学習を通して、韓国語の体系的な理解を図る。また辞書を引きながら、新聞や雑誌の記事や論文などを読む訓練を重ね、韓国語の読む・書く力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国の社会と文化についても理解を深める。

●韓国語上級IIA

韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「聞く・話す」能力の向上を目指す。韓国語上級IAに引き続き、慣用的挨拶や基本的な会話表現を通して、単語や語彙と文法を学習しながら、また視聴覚教材を援用して聞く訓練を重ねる。日常会話を題材にして学生同士の対話訓練も実施して、徹底したトレーニングを繰り返し、正確な発音を身につけ、韓国語の聞く・話す力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国の社会と文化についても理解を深める。

●韓国語上級IIB

韓国語の基礎を習得した者を対象に、韓国語の「読む・書く」能力の向上を目指す。韓国語上級IBに引き続き、慣用的表現や対義語・類義語の微妙な使い分け、韓国語と日本語の表現の違いなどに留意しながら、より高度な文法や構文・作文の学習を通して、韓国語の体系的な理解を図る。また辞書を引きながら、新聞や雑誌の記事や論文などを読む訓練を重ね、韓国語の読む・書く力を養う。また単に韓国語を学習するだけでなく、韓国の社会と文化についても理解を深める。

専門科目

日本・東アジア

●日本文化史

日本列島上の島々の社会や文化の特徴について、東アジアをはじめとする諸国家・諸民族との交流の歴史を軸にしつつ考察する。例えば、北海道、沖縄諸島、対馬、小笠原諸島などを取り上げ、それぞれに固有な歴史・文化が、いかなる地理的・社会的背景によって生まれたのかを明らかにする。そのことにより、日本が決して単一の社会ではないことを深く理解するとともに、日本文化の多様性を考える。対象とする時期は、古代から現代まで幅広く設定する。

国際文化学科科目概要

2021年度 カリキュラム

●日本文学史

日本の神話・伝説・昔話といった口承文芸(伝承文学)を主軸のテーマとして、そこから展開・派生するかたちで上代から近現代までの日本文学の体系的な歴史を学ぶ。通史的・編年的な文学史ではない。日本文学というジャンルと作品に深く関わって、文学作品とその成立と展開を支えてきた社会、歴史、民俗、風土、信仰、国際性などについての理解を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学の「広がり」について考える機会としてほしい。

●現代日本語表現

現代日本語表現を、意識的かつ分析的に観察する視点を涵養する。実際のコミュニケーション、フィクション、住生活や食生活といった生活場面、時には、社会変化などから、それらの中で見られる日本語表現を取り上げていく。日本語表現の特質とはどんなものか、その特質がある場面でどのような効果を持ち得るのか等に注目し講義をする。また、取り上げた現代日本語表現が、どのような変化を経て、あるいは、どのような歴史的背景を持ち存在しているのか等の通時的な視点も取り入れていく。

●日本文学A

日本の古典文学作品を対象として、古典文学を理解するために必要な基礎知識を習得する。古典文学は、それが成立した社会、歴史、民俗、風土、信仰、思想などさまざまな視点を踏まえて読み解かれるべきである。作品に込められた作者の、あるいは伝承者たちのメッセージを正確に読み解くことで、古典文学の中に受け継がれた日本文化の深層への理解を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学の「深み」について考える機会としてほしい。

●日本文学B

日本の近代文学および現代文学を対象として、それらを理解するために必要な知識の習得を目指す。明治以降の文芸は西洋の思想的影響に晒されて浪漫主義や自然主義といった思潮を展開させた。この講義では、特に自然主義の思潮を近代文芸における基軸の一つとして捉え、その展開と葛藤、相克といった視点から個々の作家、作品を検証していく。近代日本における文芸の流行とその社会的な背景を学ぶことで、一つには高い教養を身につけ、あるいは「近代」とは何だったのかまでを思考する機会としてほしい。

●漢文学I

「論語」「孫子」「韓非子」等のように、日本の思想や文化に大きな影響を与えた古代中国の思想書をテキストとして、漢文の基本的な読解・訓読の知識と技術を習得する。また、漢文訓読の知識や技術だけではなく、それぞれのテキストやエピソードの作者、歴史、社会、文化、思想、そして日本文化への影響(享受)についても学び、高次の知識・教養を養う。高等学校の国語科教員として「漢文」の授業ができるに足るスキルの習得を目指す。

●漢文学II

李白、杜甫、白居易といった日本の文学に大きな影響を与えた漢詩をテキストとして、漢文の基本的な読解・訓読の知識と技術を習得する。また、漢文訓読の知識や技術だけではなく、それぞれの作者と詩にまつわるエピソード、社会、文化、思想、そして日本文学への影響(享受)に

ついて学び、漢詩の世界観をめぐる高次の知識と教養を養う。「漢文学I」に引き続き、高等学校の国語科教員として「漢文」の授業ができるに足るスキルの習得を目指す。

●日本史学A

日本の中世から近世を対象として、その社会のあり様と人々の存在形態について考察する。特に身分制社会の成立過程と、その中での人々の社会的役割や生活・思想についてみていく。武士・公家・百姓・町人・被差別民というような社会集団からだけでなく、女性や子ども・老人といった年齢や性別、あるいは身分を超えたネットワークのあり様など、多様な視点から分析を試みる。そのことにより、今日の日本社会のあり様についても考える力を養う。

●日本史学B

前近代から近現代に至る日本の歴史について具体的史料に基づいて講義する。この授業では、日本列島を超えた国際的な視野で世界史の中の日本史を捉える。また、こうした世界史の中で、静岡県域あるいは三遠南信(三河、遠江、南信濃)、東海地域というこの地に、どのような影響がみられたのかを、地域に根ざした歴史から理解させていくものである。世界と地域という二つの視点を重視しながら、人物史、政治史のみならず、社会経済や文化の推移についても、論じていく。

●日本語語彙研究

日本語の語彙の性質について、日本語学的な観点から体系的な語彙論のもとに学んでいく。語彙というのは語の集まりである。本講義で学んでいくのは語(個別的な語)ではなく、語の集合である語彙である。具体的には、語彙には、どのような特徴があり、どのような構成をしているのだろうか、また、日本語を学ぼうとする外国人に、日本語を教えるためには、どのくらいの語彙の知識が必要であるか、などである。これらを学ぶことで、日本語の語彙に対する客観的・分析的な視点を養ってほしい。

●日本語研究

日本語を総体的かつ客観的な視点で分析する方法について学ぶ。用例の収集、データベース作成、そして、作成したデータベースの分析を行う。また、日本語研究や日本語教育で、データベースを通して分析した結果の利用法についても考えていく。高度情報化社会では、コーパスを使った辞書をはじめとし、データ化された資料やデータベース化された資料が多く存在し、今後ますます増え続けていく。本講義で学んだスキルによって、より実証的に、より客観的に情報を操作できるようになり、高度情報化社会で生き抜く力を身につけてほしい。

●日本文学作品研究

特定の文学作品の原典を精読する。作品の本文だけでなく、その成立をめぐる歴史的・社会的背景、文化的・思想的環境、語本(テキスト)の異同・分類、研究史、最新の研究課題、研究方法などを学ぶ。日本文学の本格的な研究成果に触れることにより、課題・論点の見出し方とそれを解決する方法(資料の読み方、調査の手法など)の習得を目指す。受講生には、この講義を通して日本文学について、高いレベルでの教養を習得する機会としてほしい。

●古文書の調査と読解

日本の歴史や文化を研究するための一番の基礎は、対象となる時代に記された古文書を読むことである。しかもそれは活字史料ではなく、原史料であることが望ましい。そこで古文書の読解力を養うことを目的とし、実践的な授業を行う。その際、まずは現代の公文書をはじめ、記録遺産としての資料の価値を知ること、資料全般の収集・整理・保存・活用の意義と課題を学ぶことから始める。その上で、江戸時代のくずし字を中心に古文書の読解を進める。

●美術史(日本・東洋)I

古代から中世に至る日本美術の主要な作品をスライド等で見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・朝鮮半島の美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何か検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。

●東南アジアの文化と社会A

東南アジア島嶼部を舞台に、外文明との関わり、人の移動と文化の変容、植民地支配の影響、一つの国家としてまとまってゆく過程、独立国家の民族政策・文化政策、言語と教育といった大きな枠組みを念頭に置きながら、文化の重層性や動態について理解を深め、今日の東南アジアを正しく認識するための視座を身につける。その上で、インドネシアにおける地域文化を動態的文化の事例として取り上げ、具体例に基づいて理解を深める。

●東南アジアの文化と社会B

近代以前の東南アジア史に関して基礎的な知識を習得した後、近現代の東南アジアにおけるネーションやエスニシティをめぐる諸事例について理解を深める。東南アジア各地の事例を見ながら、この地域の人々の自己認識がどのように変化してきたか、政治や文化における統合や多様性について考察する。また、東南アジア出身者やその子孫が東南アジア以外の地域で定住している事例を取り上げ、そうした人々のアイデンティティについて考察する。

●中国の文化と社会

本講義では、「文化」と「社会」からアプローチすることで、多角的な視点から重層的に中国を理解することを目指す。中国に関する様々な最新情報に触れながら、格差と人的移動、政治の民主化と共生社会の実現など、毎回異なるテーマに時間的縦軸と空間的横軸を併用して取り組み、多様な中国の現実を捉える方法を学ぶとともに、具体的なデータや映像を用いて中国の文化と社会を理解する技術や理論を習得する。講義では、多民族多文化社会と国際化社会を生きるための様々な現実的社会的問題に目を向けさせることを可能な限り心がける。

●中国経済論

改革開放政策実施後における中国の経済政策と経済情勢の変化をたどる。計画経済から市場経済への移行に焦点を当て、それに関わるマクロ経済の諸テーマに基づき中国経済の現状を捉え、「経済」というキーワードを通して中国理解を深める。市場経済の基本的な仕組みを理

解すること、「中国脅威論」と「中国崩壊論」といった正反対の論調が並行する中国経済のマクロ的背景を理解すること、そして経済成長の意義について考えることを目的とする。

●韓国社会文化論

古来より日本と韓国(朝鮮半島)の関係は深く、韓国の文化と社会を知ることにより、自文化の新たな面(価値や魅力など)に気づくことができる。そのため、韓国の文化と社会を知ることが、何よりも自分自身(日本)について学ぶことであり、世界を知ることにつながる。韓国の社会的・文化的特質に迫るために、様々な観点から韓国の伝統文化と生活文化を体系的に捉え、韓国社会の基層構造について学び考察する。そして、韓国社会の文化的特質について理解を深める。

●中国古典学

中国古典の教養が東アジアの思想文化の基盤にあり、これに対する教養なくしては東アジア文化の理解はありえない。本講義は、儒学(経学)、歴史、諸子百家(思想)、文学(詩文集)の分類に従い、それぞれに関する人物と書物を紹介しつつ、その特色について考えていく。中国古典を体系的に概説し、その中から教訓を得、教養の幅を広げるとともに、その背景となっている社会の民族文化的基盤をも視野に入れて考察する。中国古典を通して、ものの見方、感じ方、考え方を広くしていくことを目指す。

●アジアビジネス論

NIES、ASEAN、移行経済国とインド亜大陸という区分に基づき、アジア諸国の経済発展の軌跡を回顧し、今や世界の経済成長のエンジンとまで称されるアジア経済の全体像を把握する。また、日本などの先進国とアジア新興国の多国籍企業のあり方を通して、アジアで形成された生産ネットワークの実態と拡大するアジア市場の趨勢を明確にする。グローバル化が急速に進む中、日本は今後アジア諸国とどのように経済連携を図っていくかについて考えることを目的とする。

●東南アジアの歴史

東南アジアの歴史について考察し、この地域の社会の特質を理解する。主として18世紀末までの時代を対象とし、東南アジア大陸部諸地域の社会の形成およびそれらの諸地域間の関係や、東南アジアと近隣諸地域(東アジア・南アジアなど)との関係、さらにはヨーロッパとの関係の歴史について理解を深める。その理解に基づいた考察を通じて、19世紀以降の東南アジア史および現在の東南アジア各地の社会に関する理解を深めるための基礎を築く。

専門科目

地中海・西欧・北米

●近現代の中東A

世界有数の産油国であるのみならず、中東唯一の大国にしてそれ自体が一つの中東世界をなす国イラン。カージャー朝からパフラヴィー朝を経てイスラム共和国に至るまでのその歴史を、イスラム以前にさかのぼる古代ペルシア以来の文化的変容を踏まえつつ、近代化の過程における世俗主義モデルと十二イマーム派イスラムの政治理論の相剋、多民族国家における国民統合の探求、民主主義体制の模索、英露および米ソの狭間で独立維持などの問題を踏まえて概観する。

●近現代の中東B

13世紀末から第一次世界大戦期まで東地中海地域に覇を唱えた巨大な多民族・多宗教国家オスマン帝国の解体過程を、ムスリムの政治指導者がイスラーム法に基づく統治を行なう「イスラームの家」が一群の国民国家に分裂していく過程と捉えて振り返り、今日この地域で多発している紛争の淵源をこうした国家理念の相剋に求める。この科目はいわゆる「トルコ史」を主たる叙述の対象とするが、必要に応じてバルカン半島やアラブ地域の状況にも言及する。

●イタリア文化史

国家統一に至るまでのイタリア文化、次いで国家統一後からファシズム期までの文化、さらに戦後から現代に至る文化の歴史的發展について概説し、それぞれの特徴を考察する。特に、文学、オペラ、美術、映画などの分野に着目し、イタリア文化が持つ「多様性」と「創造性」の根源を時代の推移に即して探っていく。併せて、現代における都市と生活のあり方や衣食住に関わる生活文化も視野に入れ、イタリアの文化と社会について幅広い観点から理解する力を身につける。

●フランス文化論

論理性、批評性、社交性、個性尊重という側面に焦点を当て、フランスの文化と社会の成立を歴史的に概観し、その特質について考える。主に扱うテーマとして教会建築(中世)、フランス語の成立、教育制度、19世紀パリ改造、戦後の経済成長と移民政策、女性の社会進出など。同時にリアルタイムで話題になっている時事トピックにも言及しながら、近年フランスが直面する社会の変容とその課題も考察する。美食やモードといった表層的イメージから一歩踏み込んで、ヨーロッパ、そして世界の中のフランス文化の独自性を理解する。

●ルネサンス文化史

西欧近代文明の源となったルネサンスの文化を幅広い視点から考察し、その芸術的・文化的遺産に対する知識を深めるとともに、それらの根底にある思想と精神を明らかにする。まず、美術、建築、音楽、文学の領域について、文化的社会的背景とともに特徴を概説し、さらに、祝祭、衣装、食事など生活文化に対する理解も深める。「人文主義」「芸術家」「個人」をキーワードに、ヨーロッパ文化におけるイタリア文化の位置と、現代まで続くその影響について論じていく。

●古代ギリシア・ローマ文化と社会

古代ギリシア・ローマの文化は、数世紀にわたって古代地中海世界の中心的な位置を占め、その後成立した「ヨーロッパ」の社会や経済、文化にも大きな影響を与えた。本講義では、文献等の資料を用いて古代ギリシア・ローマの社会、文化、そして経済活動を概観する。たとえば、都市ローマに対する食糧供給とそれが社会に与えた影響などについて論じながら、現代における社会や経済、文化に関する諸問題を考える手がかりを探求する。

●中東現代史

主としてオスマン帝国解体後の時代に比重を置いて、世俗主義的ナショナリズムを建国の理念とする共和制の非産油国トルコと真正のイスラーム国家を標榜する君主制の産油国サウジアラビアという対照的な性格の両国およびそれらの中間的存在ともいべきエジプトのスナ

派ムスリムの3つの国の歴史を比較検討する。中東地域では、20世紀中葉までに反帝国主義を掲げ「上からの近代化」を図る多分に強権的な民族主義政権が相次いで成立した。これら政権の行き詰まりはオルタナティブとしてのイスラーム主義の復興をもたらすことになった。

●英米文学史

大学生が身につけるべき教養として、代表的なイギリス文学およびアメリカ文学の作家と作品について取り上げる。作家の伝記的事項、および作品の内容、あらすじ、登場人物、文体、テーマや特徴について学ぶ。講義形式ではあるが、原典の一部を味読する。作品そのものに加えて、作品の背景となる時代性や社会問題、とりわけ「文化」について大きく取り上げる。英米大学の講義ビデオ(英語)や、映像作品などの視聴覚教材も随時使いながら講義していく。

●西欧・北米文化論

「西欧・北米」として括られる地域は、近代市民社会を胎動し発展させ、近代文明における先進性を自認していただけでなく、他地域からも近代化の目標と見なされていた。だが西欧・北米において近代文明は、それまでの社会や文化を変える市民革命や産業革命などを経ながら発展し、またポストモダン思想のような近代への疑念や否定的な見方にもさらされてきた。そうした過程を視野に入れながら、西欧・北米に固有の文化について考察する。

●英語文学概論A

英文学史において歴史的に評価の高い重要な作品を概観しつつ、それぞれの作品の時代的背景、作品の表現技法、その背後にある思想、その時代の文化、プロット、作品内部に内在するテーマなどの特徴について考察し、論じる。特に作品が生まれたそれぞれの時代や社会の中で「文学」がどう定義され、存在してきたかを具体的事例とともに考察し、文学作品とその作品が生まれた時代との相互関係を深く理解できるように授業を進めていく。

●英語文学概論B

アメリカの時代背景を重視しつつ、とりわけアメリカ文化・社会地域問題・移民・異文化等の重要な学問的トピックとも関連させながら、第二次世界大戦後の主要なアメリカ文学作品(映像作品を含む)を読み解いていく。原作、映像作品、文献資料を調べて、グループでプレゼンテーションをして、クラス貢献をする学生参加型の授業である。口頭発表をするとともに、クラス全員で質問やコメント、補足や各自の意見を提出して、作品に対する印象や感想を交換する。

●イギリス文化論

イギリスは正式にはグレートブリテンおよび北アイルランド連合王国と呼ばれるように、イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランドの各地域がそれぞれ独自の文化を持っている。また、現在は表面的にはキリスト教文化であるが、その深層を見ると、古くからのケルトやゲルマンなど異教の文化の影響を無視することができない。この授業では、そうした各地域や古くからの伝統に目を配りつつ、現代文化に生きる伝承文化について講義する。

国際文化学科科目概要

2021年度 カリキュラム

●西欧近現代史

ルネサンス以降の西ヨーロッパの歴史について、日常生活に直結する物質的な条件や経済状況と、それをとりまく経済思想・世界観から検討し、近代文明を成立させた西ヨーロッパの特殊性について考察する。その際に歴史学研究としては、研究対象となる時代に書かれた文献を原文または翻訳で読み、それを手がかりに過去についての情報を獲得し、もう一方では既存の研究成果を参照しながら、それが書かれた時代背景を再構築する方法を試みる。

●英語学概論I

英語の音声、形態、統語、意味、語用、英語の歴史の変遷の側面を扱う英語学について、言語事象例を見ながら理解を深めていく。具体的には、英語の意味解釈・産出はどのように行われるのか、英語はどのように使われるのか、英語のメカニズムを考えながらひもといっていく。それらを通して、英語という個別言語だけではなく人間言語そのものを理解する。また、同時に、言語の様々な側面が第一言語としておよび第二言語としてどのように習得されるのかも概観する。

●英語学概論II

英語学に関する知識を一層深化させ、ことばの仕組みを考える上での科学的アプローチの方法を学び、英語という言語をさらに深く理解する。具体的には、複数の分野の言語に関する先行研究を通して、できる限りそれぞれに即した考え方、および研究手法を身につけてもらう。それらをもとに、第一言語として英語を習得する場合と、第二言語として英語を習得する場合の類似点と相違点を明確にし、英語およびその習得のメカニズムを探る。それらの結果から、英語学に対して何が提案できるのかも考察する。

●西欧・北米の歴史

近代市民社会を胚胎し発展させた西欧・北米の歴史について、法制・政治体制と、それをとりまく文化・思想・価値観に重点を置きながら検討する。その際に歴史学文献としては、研究対象となる時代に書かれた文献を原文または翻訳で読み、それを手がかりに過去についての情報を獲得し、もう一方では既存の研究成果を参照しながら、研究者が自らの視点や問題関心から出発して過去を再構築する方法に学び、歴史についての見方を養う。

●音楽史I

主としてヨーロッパの音楽史を扱う。古代ギリシアやローマの音楽理論から始め、グレゴリオ聖歌から初期ポリフォニーの時代、ルネサンス期を概観したのち、バロックからハイドン、モーツァルトの時代、ベートーヴェンからシェーンベルクの時代までを中心に扱い、それぞれの時代様式(響きや構造の特徴)を把握するだけでなく、作曲家の個人様式を代表するような作品を聴きながら、その特性について学習する。また西洋世界における各時代が音楽に何を求め、それが具体的にどのような場で演奏されたのかについても講義する。

●EU論

1992年のマーストリヒト条約締結を経て成立したヨーロッパ連合(EU)は、共通の外交・安全保障政策や社会政策を進め、さらに通貨統合によって、新たなヨーロッパを建設し、世界情勢を変えようとしている。これは国民国家、国民経済という17世紀以来の西欧秩序に根底的変更をもたらす一方、EU加盟国の拡大をめぐる、新たな矛盾、域内紛

争を起こしかねない。本講義は、EUの発展がもたらす様々な経済的、政治的問題を考察する。

●ドイツの思想と社会

ドイツ語が主に用いられ、ドイツ人が支配的である地域としての「ドイツ」においては、国民国家形成という点では独自の歴史を経ながら、西ヨーロッパを代表する哲学・思想、また芸術や文学が現れてきた。本講義では、そうした意味での「ドイツ」および、近代以降のドイツとオーストリアの社会と思想について講義する。特に、なぜワイマル体制がもろくも崩壊して、ナチスを生み出したかを、近代ドイツ思想史の中から考察する。

●美術史(西洋I)

先史時代から近世ヨーロッパの美術の歴史を学ぶ。また美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。前半は西洋美術の基礎ともいえる古代ギリシア・ローマ時代からキリスト教美術の誕生と発展を経て、ルネサンスに至る軌跡を、後半ではバロック、ロココという近世近代におけるヨーロッパの文化交流を、さまざまな作品を紹介しながらとり、それらの作品に固有の様式的特性を見極め、さらに様式分類や図像分析といった美術史研究の基礎的な方法論も探求する。

●美術史(西洋II)

美術史(西洋I)で学んだ知識を基礎として、フランス革命以降の近代ヨーロッパから20世紀前半の美術の歴史を学ぶ。また、美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。ルネサンス時代に起こった社会の大きな変化に伴う芸術上の大変革からバロック、ロココ時代を経て、19世紀近代、さらには20世紀に至るまでの社会の変遷と美術史の流れを、各時代、地域、作家等による様式の違いや影響関係を確認しながら歴史を俯瞰する。

専門科目

多文化共生

●多文化とエスニシティ

浜松市では、学校や地域社会で日本人と共に様々な国籍の外国人が共生している。この多文化の現状を踏まえ、外国人と日本人の「当事者の視点」からの問題提起を受け、互いの理解を図る。また、浜松市在住の外国籍者の中で最も多いブラジル人(日系ブラジル人)の歴史的背景に焦点を当て、国際移動に伴う社会的適応とエスニシティの形成過程について、諸外国の事例を紹介しながら学ぶ。さらに、外国人第二世代の教育と受け入れ社会への適応の実態とその問題点について考察する。

●イスラーム概論

今や全世界の4分の1近くの人々に信仰されるに至った世界宗教イスラームは、その居住地域をも日増しに拡大している。グローバル化の進展により、もはやムスリム(イスラーム教徒)と没交渉ではいられなくなった。ここでは、日々の暮らしから国際関係に至るまで人間の行為が関わるすべての領域において信徒たちを律する規範となっているシャリーア(イスラーム法)への理解を深めることを中心に、この宗教独自の世界観・思考様式について初歩から順に学ぶ。また、宗派の違いをはじめとする、この宗教内部の思想的多様性を概観する。

●日英語比較研究

日本語と英語を比較することを通して、音韻論、意味論、統語論、認知言語学、語用論、談話分

析、英語史などの視点から、その相違点と類似点を考察する。具体的には、これまでの研究を概観しながら、相違点と類似点の具体的事例に基づき、言語の個別性と普遍性への理解を深め、できる限りそれぞれに即した言語事象の発見を目指してもらう。また、同時に、日本語および英語を外国語として習得する際のそれぞれの問題点とその対処法についても考察する。

●文化交流論

日本列島における他地域との文化交流について主に歴史的視点から講義する。近代の国民国家の国境線や枠組みができる以前の列島における文化の練り上げられ方を、形質人類学、文化人類学、考古学、言語学、歴史学、古文書学など諸科学の成果から、論じていく。本授業は国内の文化交流にも目を向ける。のちに「日本人」と呼ばれる列島人の中、つまり近代国民国家日本の中にも、さまざまな文化が内在し、国内で交流合っていることについても理解を深める。

●国際労働力移動論

国際労働力移動は、国際化する労働市場と多文化化する社会を理解するために重要な視点となる。本講義では、国際移動に関連する概念、移動の背景、歴史などを踏まえ、日本を含む諸外国の事例や動向を紹介する。国際労働力移動が受け入れ国と送り出し国にどのような影響を与え、相互にどのように関連し合うかを考えるきっかけになることを目標とする。さらに、国際移動から形成される多文化社会の中で生きる人々の生活状況と挑戦を考察する。

●日本語音声学

音声・音韻について基本的な知識を体系的に学んでいく。日本語の音とは、どのような特徴があり、どのようなシステムに基づいているのか。また、日本語の音韻は歴史的にどのように変化してきたのか。日本語の音声・音韻全体を概観する。また、非母国語話者に対して指導することを念頭に置き、日本語の母語話者の発音に近づけるためには、どのような点に気をつけていくのか、また、学習者の発音をどのように修正するのかを考える。この視点を通して、日本語音声を客観的に観察していく。

●日本語文法I

日本語文法を新たな視点から捉え直すことが狙いである。日本語を外国語の一つとして捉え、日本語を内省する力を身につけながら、日本語文法の仕組みと体系を学んでいく。また、日本語の母語話者だけでなく、非母国語話者に対しても、日本語の規則を説明する力を養っていく。非母国語話者の立場に立ち、想像力を働かせることで、どんな状況にも対応できるような実践的な文法指導力を獲得することが可能となる。教科書に載っていることをそのまま暗記するのではなく、自ら考えたり、グループディスカッションを行ったりして、体験的に学んでいく。

●日本語文法II

本講義は「日本語文法I」の応用編である。理論的・体系的な文法論を展開することで、現代日本語文法の体系的なあり方を掌握する。これによって、現代日本語の文法システムを理論的・体系的に捉える視点を身につけ、現代日本語を文法的に分析できる力へとつなげていく。また、「日本語文法I」同様、実践的な文法指導力の獲得を目指す。特に、定住外国人の多い地区で、多文化共生社会実現に寄与するために

必要な日本語教育を意識し、学習の目的や学習者の年齢など、学習者のニーズに合わせた文法指導力を身につけていく。

●日本語教授法I

日本語教育は、日本語の授業を通じて、日本と日本文化を発信し、多文化共生社会の実現に寄与する。日本人や日本社会に対する理解者を増やすことにもつながる。これらを実現するためには、どうすればよいのか、そして、どのような工夫が必要かを考えていく。本講義では、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能の習得、教材検討、コースデザイン、カリキュラム、学習リソースなど、実践的な事柄を取り上げながら、日本語教授法について検討していく。

●日本語教授法II

定住外国人の多い地区で、多文化共生社会の実現に寄与するために必要な日本語教育について考える。特に、多文化共生社会の実現のために必要な教室活動の方法を、具体的に学んでいく。模擬授業を行うことを中心に据え、教材分析、教案作成などの授業準備から授業を行うまでに必要な手順、準備、理論等を学んでいく。学習環境、学習の目的、学習者の年齢、学習形態など「日本語教授法I」で学んだことを、より実践的に学び、日本語を教える技術を身につけていくことが目的である。

●国際協力論

第二次世界大戦後から始まった国際協力の前提となった国際社会の状況をよく理解し、国際協力がどのようにスタートし、各国がそれに参加するようになったかを学ぶ。また、多様な国際協力のプレーヤー、様々な概念や方針の変遷、各機関のリーダーシップの特質を学び、その中で国際協力の将来の方向性を考察していく。特に、国際政治の影響を受けやすい国際協力の一部の構造を理解し、これらをいかに修正し、より社会正義の上に成り立つ、グローバル社会における相互扶助システムとしての国際協力の将来のあり方を構築するかを考察していく。

●国際紛争論

戦争はなぜ起こるのか、人類の歴史においてこれほど反復的に発生する現象には、何らかの一般的な構造因が内在するのではないか。このような問題意識から、戦争の構造や力学については様々な研究が重ねられてきた。この授業では、戦争原因に関する理論を概観し、あわせて、第二次世界大戦後の国際紛争の歴史をたどり、理論と実証の相互作用を通じて、国際紛争の理論と歴史について理解と考察を深めることを授業の目標とする。

●持続可能な社会

2015年にSDG(Sustainable Development Goals)の17の目標が国連で可決されたから、「社会の持続可能性」には、環境にとどまらず、貧困問題の是正、健全な経済発展、平等で公正な社会、生産者と消費者の関係づくり、まちづくりといった多様な価値観が組み込まれるようになった。こうした価値観が生まれた歴史的背景と変遷を学ぶとともに、持続可能な社会を地域社会や自らの生活から見直し、持続可能なグローバル社会をつくるためにどのように行動・判断していくべきかを学ぶ。

●フェアトレード論

世界でフェアトレード運動の生まれた歴史的背景とその発展経過を知るとともに、日本のフェアトレ

ード運動の展開と特徴を学ぶ。またフェアトレードラベル制度の確立によって、どのように企業がフェアトレードに参入しようとしているかなど、具体的な事例や実践者の活動を通して実践的な学びを提供する。この授業を通して、グローバル社会を意識した包括的な倫理的消費行動の意義を理解し、それに基づいた判断のしかた、行動方針、および具体的な行動について学ぶ。

●企業と言語教育

日本語教育を「企業との関わり」という観点から捉える。労働時間と家庭で過ごす時間が一日の大半を占める学習者に対して、どのように、そして、どのような方法で消費的日本人語教育を行っていかればよいのかを考える。企業の要望、学習者の要望、学習者の環境、学習者の心理的な負担、子どもの日本語教育の問題点などを知り、それを理解することで、企業および学習者の立場に立った上で、より実践的で効果的な日本語教育方法を考案する視点を養う。

●日本語教育の実践と応用

日本語教員養成課程に必要な科目を修得した上で受講することとなる同課程の総括的な講義である。日本語教育の実習を通して、日本語を教えるということの意義、教授方法、そして、その効果について再度捉え直す。多文化共生社会の中では、日本語学習者の特徴が多様化しつつある。異なる国の出身者たち、異なる言語を母語に持つ人々、さらに、年齢的にも幅広く多様な人々が日本語を学んでいる。このような多種多様な学習者を相手にどのような教室活動や学習活動ができるのかについても考えていく。

●Global Studies:Culture and Society A

地球上に存在する多くの国々の基盤となっている社会と文化がどのように成立し、複数の社会や文化が相互関係の中でどういった影響を与えながら変遷してきたのかを具体的な事例を通して学ぶ。その途上で発生してきた歴史認識の変化や生活空間変化等をその運動と運動した現象として派生してきたものとして学んでいく。授業は英語ネイティブスピーカーによる英語のみを使った授業とし、英語で専門的な授業を聞く能力を養うだけでなく、英語で質問、議論することを通して、英語授業に慣れ親しむ場とする。

●Global Studies:Culture and Society B

地球上に存在する多様な文化の中で、特に音楽、演劇、美術、空間造形など、芸術分野の活動がどのような変化を続け、各地の文化と社会にどういった影響を与えてきたかを具体的な事例を通して学び、芸術活動が社会と文化に与える内在的な力とその可能性を知る場とする。授業は英語ネイティブスピーカーによる英語のみを使った授業とし、英語で専門的な授業を聞く能力を養うだけでなく、英語で質問、議論することを通して、英語授業に慣れ親しむ場とする。

●Global Studies:Global Issues

今日の地球社会が直面する諸問題、いわゆる地球規模問題群(global issues)について、英語で講義し、討論を行う科目である。それぞれの問題の概要と地球社会の取り組みについて英語文献を読み解き、自らの考えを英語で表現し、討論する能力の涵養を授業の目的とする。取り上げる問題群としては、地球規模の経済格差、紛争、地球環境問題、人の移動、技術革新、地球市民意識の台頭などが事例として挙げられる。学生が英語圏の大学に留学した際、学部の講

義を受ける訓練としての機能も担うものとする。

卒業研究

●国際文化演習I

研究内容に関心ある担当教員のもとに学生が集まり、担当教員の指導のもと文献の調査、自分の研究の発表、学生の研究内容に関する議論を通じて担当教員の研究領域の基本的な知識や価値観を学ぶ。また、担当教員が必要と考えるその他の諸活動を通じて、卒業論文を作成するために必要なリテラシー能力や資料探索能力の向上、関心領域の学びを適切に深める場とする。これらの研究活動を通して、これまで学んだ多くの科目の多様な価値の統合化と深化を的確に図る。

●国際文化演習II

研究内容に関心ある担当教員のもとに学生が集まり、担当教員の指導のもと文献の調査、研究の発表、研究内容に関する議論を通じて担当教員の研究領域の基本的な知識や価値観をさらに深めるとともに、学生が関心のある研究領域を特定し、その研究をさらに深めるための指導を行う。また、担当教員が必要と考えるその他の諸活動を通じて、卒業論文を作成するために必要なリテラシー能力や資料探索能力の向上、関心領域の学びを深める場とする。これらの研究活動を通して、これまで学んだ多くの科目の多様な価値の統合化と深化を的確に図る。

●国際文化演習III

学生が関心のある研究領域を特定し、その領域にまたがる包括的な学びを深めるための指導を行う。具体的には、その研究領域に関する研究発表、参考文献や研究資料の特定、多様な見解が存在する場合の分析方法、独自の研究領域の設計、必要な調査方法や分析方法を学び、学生独自の研究が円滑に進むよう。また、担当教員が必要と考えるその他の諸活動を通じて、卒業論文を作成するために必要なリテラシー能力や資料探索能力の向上、関心領域の学びを深める場とする。

●国際文化演習IV

学生が関心のある研究領域を特定し、その領域にまたがる包括的な学びを深めることで、卒業論文研究に資する学習指導を行う。具体的には、その研究領域に関する研究発表、参考文献や研究資料の特定、先行研究の分析、多様な見解が存在する場合の分析方法、必要な調査方法や分析方法を学び、独自性の高い研究のあり方など、学生独自の研究が円滑に進むように指導する。また、参考文献や引用、図や表の使い方といった論文作成時の注意点などについても引き続き指導を行う。

●卒業論文

これまで科目から学んだ多様な事実と価値観、国際文化基礎論や国際文化演習から学んだリテラシー能力や専門的研究の成果を包括的、統合的に集約させ、卒業論文に反映させる指導を行う。具体的には、先行研究の分析、学生の関心を持つ研究領域の特定、研究に必要な文献・資料の特定と探索、必要な調査・フィールドワークの技術と実行するための計画づくり、論文の理論的な構成方法、参考文献や引用などの表記方法など、論文作成に必要な事項を担当教員が指導する。

文化政策学科科目概要

2021年度 カリキュラム

学科基礎

学科必修

●リサーチ&プランニング基礎

本科目は、基本的なリサーチ(調査・研究)とプランニング(企画・計画立案)を実践するための理論・手法・スキルを体系的に習得するリサーチ&プランニング(R&P)科目の「基礎編」であり、最終的にはR&Pの成果を具体的なプレゼンテーションにつなげることを目指す。本科目では、基本的な統計資料の利用方法(見方、使い方)やデータ分析の基礎(記述統計の方法、図表の作り方等)を解説するほか、テーマ探索の方法論も紹介する。

●リサーチ&プランニング応用

本科目は、基本的なリサーチ(調査・研究)とプランニング(企画・計画立案)を実践するための理論・手法・スキルを体系的に習得するリサーチ&プランニング(R&P)科目の「応用編」であり、最終的にはR&Pの成果を具体的なプレゼンテーションにつなげることを目指す。本科目では、実際に自分で資料やデータを収集し、分析しうる形まで整理していく社会調査手法の具体的な方法と手順(調査設計、サンプリング、調査票の設計、実査、集計等)を体系的かつ詳細に解説する。

●リサーチ&プランニング実習

本科目は、基本的なリサーチ(調査・研究)とプランニング(企画・計画立案)を実践するための理論・手法・スキルを体系的に習得するリサーチ&プランニング(R&P)科目の「実習編」であり、最終的にはR&Pの成果を具体的なプレゼンテーションにつなげることを目指す。本科目では、調査の企画から報告書(提案書、行動計画書等)の作成に至るR&Pの全過程を体験的に実践する。また、斬新な発想を得たり共同作業のスキルを向上させたりするためにテーマ発想法(ブレイン・ストーミング)やグループ・ワークの方法を体験する。

●社会学

社会学の広範囲な領域を、ミクロ・マクロ、構造・プロセス、主観・客観などの異なる視点から解説する。また、社会学が、ジェンダー、世代、地域などの社会構造や、多様化、格差化、グローバル化などの社会変動について、どのように調査し研究するかを、具体的な事例をもとに解説し、他の社会科学と比較対照しながら、学問としての特色や基礎的な概念を学ぶ。さらに、文化政策学科の1年次前期の必修科目として、文化と、政策、経営、情報の各区分領域との関係をどのように捉えるかについても、整理しつつ説明し、学科の教育体系を俯瞰的に理解する。

●経済学

この授業では経済学的なものの見方や考え方を会得するための頭の体操を行う。ミクロの観点では、需要・供給の関係や合理的行動の理論に基づき、身の回りで起きている現象を主に消費者の立場から考察する。マクロの観点では、GDP統計のデータに基づく所得形成についての考察や、財政・金融政策の仕組みについての考察を行う。物事の仕組みを「考える」ことに重点を置き、経済現象を理解するのに必要なミクロ経済学・マクロ経済学のコンセプトやロジックを解説する。

専門科目

政策

●政治学

政治学は、権力、国家、リーダーシップといった

政治現象の本質にかかわる「基礎理論」、政党、利益集団といった政治活動の主体ならびに選挙、議会など政治の動態を分析する「政治過程論」、そして、あるべき政治の姿を考究する「政治思想」などの分野に分かれる。本講義では、「基礎理論」を中心に、「国際政治」分野も視野に収めつつ、政治学の理論と学説を概観し、政治の本質を理解し、分析するための基礎的な概念の習得を目標とする。

●法律学

この授業では、法律学的主要分野の基礎知識を習得し、さまざまな法の論点について論理的で説得力のある思考・判断を実践することを目的とする。法律学を学ぶにあたって必要となる概念や制度についての概説を経て、民法・刑事法・刑事法といった法律学的主要な各分野の基本的な理論を、社会における具体的な問題に照らすとともに、裁判例の検討を交えながら学んでいく。

●行政学

官僚制や行政機関をめぐる概念や理論の歴史的経緯を踏まえた上で、現代日本の行政における制度・仕組み、役割・機能、特徴・課題の現状と変容を理論面と実証面から体系的に整理する。内容は標準的な行政学のテキストに準ずるが、国と地方の関係や地方行政の実態を詳しく取り上げるほか、通常のテキストではカバーされにくい最新のトピックを積極的に取り上げていく。

●行政法

この授業では、行政法の基本的な仕組みやその背景にある考え方、主要な争点など、行政法についての基礎知識を習得することを目的とする。行政法の基本原理の概説に続いて、行政活動の多様な行為形式や、行政活動に不服を有する私人の権利利益の救済制度について、憲法をはじめとする諸法律との関連性を踏まえつつ、具体的な裁判例を素材としながら学んでいく。

●地域計画論

日本の国土・地域・都市の行政施策としての「計画」の系譜をたどり、環境、自然、歴史・文化などの今日的課題に対応した計画論の方向性についても概説する。計画の圏域とジャンルは多種多様であり、様々な計画の考え方を理解する。特に、都市規模や農山村など地理的な立地条件の違いや、歴史的経緯などを踏まえた計画を概説し、そこで果たしてきた計画の意味合い、主体のあり方、可能性と解決すべき事項などについて、具体的な事例を取り上げながら考える。

●地域情報サービス論

図書館サービスの基本(概要と構造、歴史など)を踏まえ現在行われている各種サービス(課題解決型サービス、障害者・高齢者・多文化サービスなど)について事例に則して解説する。さらに、著作権や公共貸与権、コミュニケーションの基本などについても解説する。その上で、公共図書館が地域に果たす役割や今後の可能性について考える。

●地域社会論

今日の地域社会は、人口の減少高齢化、経済のグローバル化、地方分権化、公共部門の財政悪化等の影響を受け、対応や変貌を余儀なくされている。本科目では、こうした社会的趨勢を踏まえた上で、地域社会(都市、農村、中山間地、限界集落、特定のコミュニティ等)に焦点を

当て、地域社会の現状に関して生活・文化面を中心に理解を深めるとともに、地域社会が抱える固有の問題について、その成立背景を含めて考察し、その問題に対する行政・住民の対応の実態や解決のあり方を検討する。

●地方財政論

経済の長期低迷、産業のグローバル化、人口の減少高齢化等が進む中で地域社会が抱える課題は多様化・複雑化している。こうした中で、地方自治体の果たすべき役割はますます重要になっている。自治体はその役割を果たし、地域の福祉と発展を実現するためには、健全な財政を基盤として、必要とされる施策や活動を実施することが必要である。そこで本科目では、自治体の財政面に焦点を当てて、その制度・仕組みと現状を体系的に学習することを主眼とする。

●創造都市論

創造都市論について、代表的な提唱者の著書などを参考にその誕生から今日までの系譜をたどるとともに、それ以前からあった文化・芸術との連携による都市・地域発展の思想や方法論にさかのぼって歴史的視点からも考察する。また、都市の文化的資源の産業面への活用に着目して、都市や地域の経済発展や市民生活の豊かさのあり方について考察する。創造都市の取り組みの背景や内容は国内外諸都市において様々である点について、事例を通じて学習する。

●経済政策論

経済政策論は、ある目的を達成するために、いかなる手段が有効であるかを理論に照らして判断することを目的としている。この授業では、経済学の考え方をもち、市場メカニズムの有効性、市場の失敗に対する政府の市場介入の必要性について考察する。さらに、経済政策を支える様々な理論を踏まえつつ、個人の効用最大化行動が経済政策の効果に及ぼす影響や、それに伴う政府の失敗などにまで視野を広げ、経済政策の意義および効果を客観的に考える力を養う。

●環境政策論

現在地球規模に広がりがつめる環境問題の克服には産業技術、生活様式、国土構造さらには社会経済システムの根本的な転換が必要とされることを踏まえ、環境汚染・廃棄物処理など、直面する問題に対して有効であり、かつ上記の変革も推進しうるような環境政策のあり方を考察する。さらに、都市や地域の生活環境の観点(アメニティや安全性など)から、都市環境施策のあり方についても検討する。

●地域福祉論

福祉には児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉等の領域があるが、いずれも地域社会や地域住民との関係性が強く、福祉施策・サービスの実施主体も、自治体や社会福祉協議会等の地域の主体が中心になっている。本科目では、地域社会とその住民が直面する現状を踏まえた上で、地域福祉の理論・制度や行政施策の推移、さらには、地域福祉に関わる機関・団体、人材、ボランティア・NPO等の活動の実態を概観する。その上で、地域福祉が抱える課題や解決のあり方を検討する。

●地域観光論

観光は地域の社会・経済・日常生活等と密接に関連している。今日観光には、地域活性化の手段として、あるいは新しいビジネスチャンスとして大きな期待が寄せられている。一方で、観光が直面する条件にも変化が生じている。本科目では、現代の地域社会において重要度を高めている地域観光の現状について理解を深めることを目指す。具体的には、地域観光が様々な主体(国・自治体、観光関連事業者、住民、観光者等)によって支えられていることを踏まえ、多面的な視点で地域観光を検討する。

専門科目

経営

●経営学

「経営」区分における導入科目としての位置づけから、企業経営に関する基本的な概念を総合的に講義する。企業経営の要諦は、ヒト、モノ、カネ、情報という経営資源を活用し、社会にとって価値ある製品やサービスを提供することにある。その過程で企業は、戦略形成の問題、経営資源の管理問題、市場適応問題、社会貢献の問題など多くの課題に直面するが、それらに関する主要理論の生成・展開について基本的な理解を得ることが目的である。

●経営戦略論

経営戦略論は、経営学的主要領域の一つで、経営活動に中長期的な基本枠組みと方向性を与え、企業の業績や存続を大きく左右するものである。経営戦略は、一般に事業領域の選択や事業ごとの経営資源配分といった全社を対象とする企業戦略と個々の事業レベルでいかに競争優位を構築するかという事業戦略に大別することができる。本講義では、これら経営戦略に関する基本的理論や実践例を学び、戦略面から企業経営を分析する力を養成する。

●マーケティング論

経営環境が大きく変化する中で、企業が市場創造や市場適応を図る上での基本的な手段としてマーケティングは重要である。この講義では、マーケティングの目的、基本体系等についての理解を得ることを目的とする。具体的には、マーケティング・コンセプト、市場標的の設定や製品政策、価格政策、プロモーション政策、流通チャネル政策などの統合的管理等がテーマとなる。また、マーケティング領域の広がりという観点から、新たなマーケティング動向についても議論する。

●地域ビジネス論

中小企業は、その経営規模のために、大企業とは異なる独自の経営課題と経営機会を持っている。具体的には、大企業に比べて資金調達に不利となる一方で、機敏性・専門性を発揮して新たな市場機会が獲得できること等が指摘されている。この講義では、このような中小企業独自の経営課題と経営機会について、様々な観点から理解を深めることを目的とする。さらに、新分野進出や新製品開発などの点で存在感を示す中小企業の事例を紹介し、将来の展望などについても論じる。

●経営科学

企業の経営管理に分析・実験・設計などの一連の工学的・科学的手法を用いるのが経営工学である。経営工学の対象は多岐にわたるが、本科目では、効率的な生産システムを実現するためのQC(品質管理)・IE(生産工学)・OR(オペ

レーションズリサーチ)等を中心としながらも、情報システム、ロジスティクス(物流)、人間工学、経営科学など、経営工学と関係する幅広い領域を視野に入れ、経営工学の基礎的な理論と企業経営の現場における応用の実態を概観する。

●社会起業論

近年、社会起業家(ソーシャル・アントレプレナー)やソーシャル・ビジネスが次々に登場し、社会の変革において一定の役割を果たすようになっている。本科目ではこの現象に注目し、社会起業の歴史的経緯や現状等を整理するほか、NPO等の市民活動との関係についても考察する。さらに、国内外の具体的事例を数多く取り上げ、それぞれの意義や課題を検討した上で、社会起業の実践方法のあり方について受講者と議論を行う。

●経営財務論

企業経営における資金管理や投資に関する意思決定を行うためには、財務管理(企業を主体とした資金活動の管理)の基本的知識が必要となる。この講義では、過去の財務管理活動の結果である財務諸表の分析やキャッシュフロー管理の基本を理解した上で、長期事業計画の策定という観点から、資金の時間価値、企業価値、資本コスト、リスク等に関する基本的概念や分析手法について学び、財務的な視点から企業を視る力、財務的な意思決定を行う力を養成する。

●産業組織論

この授業では、産業のパフォーマンスを供給サイドから明らかにすることを目的として、具体的な市場構造とそこにおける企業行動についての分析を行う。ナッシュ均衡や後方帰納などのゲーム理論の考え方をを用いて均衡状態を導出し、そこでの企業間による競争のメカニズムや相互依存関係、さらには競争回避策としての結託行動の可能性について考察する。それらをもとに市場成果を評価し、市場メカニズムをより有効に機能させるための取引ルールや競争促進政策のあり方を検討する。

●日本経済論

日本経済は戦後、発展を遂げたものの、現在様々な問題を抱えている。この現状を理解する上でも戦後経済史の理解は不可欠である。この講義では、主として第二次世界大戦後の日本経済の歩みについて概観し、バブル崩壊後の日本経済の課題を、歴史の文脈において位置づけて理解する。特に日本の経済発展パターンについて、先進国や途上国との比較なども念頭に理解を深め、「日本の経営」などの日本特有の経済制度の生成・発展・変容のプロセスから、その意義と限界について講義を行う。

●グローバルビジネス論

科学技術の発展等により経済のグローバル化が急速に進んでいる。もはや経済のグローバル化を無視して企業経営の実践は困難になっている。また経済のグローバル化は国や地域の経済に対しても大きな影響を与えるようになっている。本科目では、主に企業経営の観点から、グローバル・ビジネスの現状と企業戦略のあり方(海外市場への参入、戦略的提携、生産管理、人的資源管理、マーケティング戦略等)について多面的に考察する。さらに、経済のグローバル化が地域経済に与える影響と地場産業や中小企業の対応のあり方についても検討する。

●金融経済論

規制緩和、バブル崩壊、情報技術の発達、新しい金融商品・手法の開発等によって日本の金融経済は大きく変貌している。またグローバル化の進展によって、国内外の金融市場は分ちがたく結びついている。このように激しく変貌・複雑化する金融市場についての正確な知識と理解がますます重要になっている。そこで本科目では、金融の理論的・制度的な基礎を学んだ上で、日本の金融市場の現状とそこで活動する金融機関の種類や役割について理解を深めることを主眼とする。

●地域産業論

地域産業は、雇用の場の提供や域外からの所得獲得など、地域経済に対して大きく貢献している。また歴史・伝統に根づいた地場産業は、地域の生活・文化の重要な構成要素となっている。一方で、グローバル化や人口減少等の社会変化により、困難を抱える地域産業も少なくない。本科目では、地域社会において重要な役割を果たす地域産業に焦点を当て、その成立・発展の経緯、地域の生活・文化との関係、販売・流通・消費等の最新の動向、直面する課題等を多角的に検討し、地域産業と地域の関係について理解を深める。

●産業遺産と産業史

この講義の主な対象は産業遺産・近代化遺産であり、その調査・研究・保存・利活用の実態について講義する。まず、産業遺産の重要性を理解するためには、それらが保存されてきた背景としていかなる産業史の実態があったのか、講義する。また、産業遺産の保存と関連して、日本・世界の文化財政策の流れの中にそれを位置づけ、それらの利活用に関しては、都市計画や再開発、まちづくり、産業観光などの流れから捉えることを講義の目的の一つとする。

専門科目

情報

●広報・広告論

産業のグローバル化や社会の高度情報化の進展により、企業や行政における広報・広告の位置づけは大きく変容しつつある。この授業では、現代社会における広報と広告のそれぞれの役割と機能、そしてその両者の関係性について考察する。さらにその考察をもとに広報・広告の送り手としての役割を担える能力と方法を身につけるとともに、広報・広告の受け手として消費社会に対応できるリテラシー能力を高める。それにより広報・広告を活用するとともに、より深く理解できる人物を育成する。

●マスコミュニケーション論

マスコミュニケーションは、ローカルな時間と空間に限定されていた人々の情報伝達や相互作用のあり方を量的および質的に拡大することで、近代社会に大きな影響を与えてきた。この授業ではこうしたマスコミュニケーションの成立過程を歴史的、社会的、技術的な条件から考察し、マスコミュニケーションが担う役割や機能の理解を深めることを目的とする。またインターネットの成立が既存のマスコミュニケーションに与える影響や、その相互作用についても検討する。

文化政策学科科目概要

2021年度 カリキュラム

●臨床社会心理学

この講義は、現代社会におけるさまざまな問題に心理学の視点からアプローチし、人間が幸せを感じながら生活するためには何が必要なのかについて考えていく。現代社会が抱えている心理学的な問題には、たとえば、人の成長・発達および心身の健康へのサポート、福祉サービス、家族やコミュニティの問題、犯罪や事故、抗争などがある。これらの諸問題に関する具体的な事象を取り上げ、それらに対する社会心理学の原理や知見の応用を図る。

●メディア文化論

この授業では、メディアが人々や社会に与える影響や、メディアが生み出す文化について考察する。現在、ITや映像を活用した多様なメディア実践が出現し、私たちの日常世界に浸透している。こうした現在の状況を俯瞰しつつ、その環境を理解するために、新聞や書籍等の印刷メディア、あるいは映画やテレビといった既存の映像メディア等、従来からのメディアが担ってきた役割や意味を考察する。その上で、多様化する現代メディア社会における人々の情報選択やコミュニケーションの実践についての理解を深める。

●組織心理学

この講義では、組織の中で働くときの人間の行動の特徴や心理について理解することを目標にしている。たとえば、人間の働く意欲を強化し、組織の効率性や生産性を向上させるためには何をどのようにすればよいのか、働く人の心身の健康にはどのような問題が存在するのか、などの心理学的な問題について講義する。代表的な理論や研究事例の紹介に加えて、現在の職場で起こっている問題にも触れながら講義を進行する。また、本講義では、消費者の心理や行動の特性についても扱う。

●情報システム論

インターネットの普及とWeb2.0を経て、クラウドコンピューティングが普及してきたことにより、情報システムのあり方も大きく変化した。現代の情報システムの仕組みと、これらが形成された発展の歴史について学ぶ。また、クラウドコンピューティングを用いることによって、パーソナルコンピュータだけでなく、最も身近な情報機器であるスマートフォンやタブレットを組み合わせて活用することによる、情報の検索、フィルタリング、収集・整理・発信の手法について実践的に学ぶ。

●社会統計分析

現代社会では、社会の実状や人の行動・意識に関する社会調査が数多く行われ、それらのデータや分析結果がさまざまなメディアを通して提示されている。この講義では、このようなデータや分析結果を読みとるために必要となる統計学の基礎的な知識について理解することを目指す。さらに、表計算ソフトを使った実習を通じて、データの基礎集計、2変数間の関連分析、そして重回帰分析を中心とした多変量解析の一部について実践的に学んでいく。

●質的調査法

昨今、社会科学の有効な調査法として「質的調査法」が注目されている。そこで、授業では、この調査法をめぐる状況を解説した上で、インタビュー調査や参与観察など「質的データ」の収集方法に必要な技法を説明する。次に、「グラウンデッド・セオリー」や「KJ法」ならびに「言説分析」など他の分析手法を解説することを通して、「質

的データ」分析法の多様性を理解する。さらに、ゼミ論文や卒業論文作成のための調査を念頭に置き、被調査者との関係など「倫理的な問題」についての理解も深める。

●学術情報論

図書館情報資源のうち学術情報に限定し、学術コミュニケーション、情報利用者と情報探索、計量情報学の基本、学術情報流通のための取り組みについて解説する。さらに大学図書館と日本の学術情報流通基盤の現状と課題についても解説する。同時に、大学図書館などを活用して、学術情報を効率的に収集するための知識と技術を身につけさせることも目的とする。

●人文地理学

地域にみられる人文現象を地域的視点から明らかにするのが人文地理学である。この科目では、主として地理学説史・人口地理学・都市地理学・集落地理学的な観点から地域を明らかにすることを目的としている。なお、人文地理学的な地域分析法についても扱う。

●地誌学

地誌学とは地理学の2大分野の一つであり、自然地理学、人文地理学などの系統地理学と相対し、地理学を総合的に究明することを目的とする学問である。地誌学においては、地球上の諸地域の自然・社会・文化などの特性を研究・記述することを重視する。本科目では、日本のほかに海外の特定地域を対象に選び、それぞれの地域的性格や地域的問題を総合的に検討する。

●社会理論

社会科学の基礎的な概念と理論を習得することにより、身近な日常世界から日本社会、国際関係、歴史的变化などの大小様々な事象の背景にある「しくみ」をより総合的に把握する能力を伸ばす。社会学の古典や近現代の理論を中心に、それぞれの類似点・相違点など相互の関係を明らかにしながら解説する。様々な理論を社会における身近な問題や事例を理解する際に、知的な道具として積極的に活用できるようにすることを目標とする。

●情報法学

この授業では、まず「情報」の意味について考える。次に、知る権利と情報公開制度、プライバシーの保護、名誉毀損、いせつ規制など、情報の流通過程における個人の権利について詳しく述べる。さらに、コンピュータとインターネットで結ばれた情報化社会に特有な犯罪、セキュリティの確保、情報倫理なども検討する。

●公共デザイン戦略

公的組織（政府・自治体とその関連組織やNPO等）や民間企業は、社会的課題の解決や組織目的の達成のために、広く公共社会（とその構成要素である団体・個人）を対象として施策や活動を実施している。公的組織や民間企業がこうした施策・活動を企画立案し、実施することを本科目では「公共デザイン」と呼ぶことにする。本科目では、公共デザインのさまざまな態様に応じて、それらを有効に実施するための戦略のあり方を論じることを中心的課題に据え、そのために必要な理論や方法論、さらには公共デザイン戦略の具体的な実践方法を解説する。

●自然地理学

自然地理学は、気候・地形・水文・植生・土壌等の観点から、地域の自然環境を総合的に探究する学問である。本科目では、地理学や気候学を中心にして、地形的形成や地域的な環境特性を体系的に整理する。さらに、自然環境と人間社会の関わりにも目を向け、地球規模では地球温暖化や酸性雨、地域規模では自然災害などさまざまな自然環境の人間生活への影響や、逆に人間生活が気候をはじめとする自然環境に与える影響について考察する。

●外国語文献研究

英文をはじめとして外国語の文献を読むことは、大学における学習や研究において不可欠な行為である。しかもグローバル化やインターネットの普及により、外国語のリテラシー（特に読むこと）の重要性はますます高まっている。本科目では、複数の担当教員の中から自分の関心がある専門分野の教員を選び、その教員のもとで外国語文献（書籍、論文、その他の文書）を講読し、外国語文献の読解能力を向上させるとともに、関心領域について知見や理解を深め、自身の学習・研究に役立てることを目指す。

卒業研究

●文化政策演習I

2年次までに身につけた教養・知識・技能等を基礎として、指導教員による綿密な指導のもとで、専門性を高めるとともに、調査・研究や企画立案の手法を習得する。また自らの関心領域やテーマを具体的に定めていく。なお文化政策演習Iと文化政策演習IIは、原則として、同一の指導教員のもとで連続的に受講する。

●文化政策演習II

文化政策演習Iの成果を引き継ぎ、原則として同一の指導教員による指導のもとで、専門性や調査・研究・企画立案の技能をさらに高める。また関心領域における調査・研究や企画立案を実施するほか、卒業論文・プロジェクトのテーマ探索等にも取り組む。

●文化政策演習III

文化政策演習I・IIの成果を踏まえ、指導教員による綿密な指導のもとで、自らが取り組むテーマを選定し、そのテーマに関する専門性をさらに高めた上で、学術的な研究や課題解決型の企画立案プロジェクトを進めていく。なお文化政策演習IIIと文化政策演習IVは、原則として、同一の指導教員のもとで連続的に受講する。

●文化政策演習IV

文化政策演習IIIの成果を引き継ぎ、原則として同一の指導教員による指導のもとで、学術的な研究や課題解決型の企画立案プロジェクトをさらに進めていく。

●卒業論文・プロジェクト

大学における学習・研究の総仕上げとして、自らが設定したテーマに関する調査・研究活動を行い、その成果を卒業論文またはプロジェクトとして具体化する。卒業論文とは、学術的な論考をまとめたもので、新たな知識・知見を生産するものである。一方、プロジェクトとは、学術的な調査・研究活動の成果を社会に対して具体的な提案や行動として還元するものであり、知識・知見を社会に応用するものである。卒業論文やプロジェクトが具体的などのような条件を満たすべきかは別途定める。

芸術文化学科科目概要

2021年度 カリキュラム

学科基礎

●芸術文化入門

芸術文化学科の学生として必要な学びの基本を示すための科目である。文化、芸術を専攻研究する学生として、また将来の事業企画者・支援者・政策立案者として、文化、芸術に能動的にかかわっていく上での基盤となる理解と責任感を醸成することを狙いとする。学科専任教員複数名によるオムニバス形式で講義を行い、文化、芸術に多様なジャンルがあることを確認するだけでなく、それらを大学での学びの中で扱う方法も多様であることを認識する。

●芸術表現A・B

実際に第一線で活躍する芸術家のもので、その訓練や制作の場に立ち会い、芸術従事者の姿勢、心構えに触れるとともに芸術の深さとそれに携わることの厳しさを体感することが狙い。将来事業企画者、支援者、政策立案者として文化、芸術にかかわる者になることを想定し、そのような者として不可欠な、高度に専門的な芸術表現の現場を体験することによって、芸術の本質について考える。芸術表現Bとあわせ複数の領域を用意し、うち1枠を必修とする。

●芸術文化基礎A～D

ゼミに所属する前の学科学生を対象とし、大学生としての読み・書く能力を前提として、学科専任教員にそれぞれ所属し、文化、芸術に関するさまざまな専門領域での研究手法の基礎を学ぶ。専門領域での基礎的文献を読み解き、検討することによって専門領域についての知識を得るとともに、それを整理し、まとめるなどの作業をすることによって、読み書く能力をさらに高め、考察力と分析力を養うことを目指す。基礎AB、CDあわせて10クラス程度を設定し、うち2クラスの受講を義務づける。

●芸術文化特講

一つのテーマを設定し、多様な専門性を持つ学科専任教員が、各自の専門領域に関連する様々な視点から当該テーマをめぐって行うオムニバス方式の連続講義とする。学科で一定の学習を積み重ねた上で、ゼミ選択を控えた学生を対象とする。受講者は、同一テーマへの多角的なアプローチの可能性を体得すると同時に、それらの異なったアプローチが互いにつながりを持つということを理解することが狙いである。学生は、この授業で示される多様な専門領域から、自分が関心のある領域への理解を深め、次の段階に進む助けとする。

専門科目

政策とマネジメント

●芸術文化政策の理論

法学、政治学、経済学、社会学等、社会科学の主要な領域の中から1つあるいは複数の分野を取り上げ、それぞれの学問分野における芸術文化政策についての研究の系譜を概観するとともに、それぞれの理論体系の特徴を学ぶ。さらに、これらの理論を実際に我が国および諸外国において行われている国や地方公共団体の芸術文化政策の事例にあてはめて分析を行う。これらを通じて、現実の芸術文化政策を理論的に分析するための基礎を身につける。

●アートマネジメントA

公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論として、非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につける。特に、公演、展覧会、教育プログラムをはじめとしたアウトプットを鑑賞者等に届けるためのマーケティングや、非営利組織が持続的に活動を続けるために不可欠な資源を獲得するためのファンドレイジングなどを中心に学ぶ。

●アートマネジメントB

公共性を持つ非営利芸術組織のマネジメントであるアートマネジメントの各論として、非営利芸術組織の特徴、および日本のそれらが持つ課題を踏まえて、課題解決のために必要となる、より専門的な領域についての理論的、実践的な知識を身につける。特に、非営利組織が営利組織とは異なり、資金等を中心とした金銭的インセンティブが働きにくい組織であるという特徴を踏まえた上で、組織や組織間関係、人的資源管理、戦略計画などを中心に学ぶ。

●芸術文化政策の国際比較

芸術支援に関わる政策分野を中心に、日米あるいは日欧等の文化政策について時代背景等の歴史的視点を踏まえて比較検討することにより、政策目的の変遷や、政策手段の多様なあり方についての理解を深める。特に、政策分析に不可欠な、市場と政府、そして非営利経済の関係についての視点を養うとともに、各種の補助金制度、租税優遇措置、顕彰制度や官民協働等、具体的な政策手段の特徴や、法や計画策定等の意義や境界等について検討する。

●文化施設の管理と運営

劇場・音楽堂等をはじめとした文化施設が、市民や地域社会に対して果たすべき使命についての認識を深めるとともに、こうした施設の管理と運営のあり方について実践的に学ぶ。特に自治体が設立した公立施設においては、2003年に導入された指定管理者制度の特徴や課題等について、事例研究を取り入れながら検討を行うとともに、2012年に制定された劇場・音楽堂等の活性化に関する法律の意義や特徴を踏まえつつ、今後の我が国における文化施設運営のあり方についての考察を深める。

●文化財保護政策

我が国の文化財保護の法的・制度的な枠組みについて基礎的な知識を身につけた上で、有形および無形の文化財保護に関する様々な事例研究を通して政策の背景や課題について分析する。特に1950年に制定された文化財保護法の意義や特徴と、その実施体制が我が国の文化財保護政策および文化政策の他領域に与えた影響などについての理解を深める。さらに、近年の注目すべき動きとして、文化財と地域社会・まちづくりとの関連について検討する。

●地域社会と芸術文化

まちづくり、観光振興、産業振興、住民間コミュニケーション促進、地域アイデンティティの形成など、芸術文化は地域社会の発展と密接な関わりを持っている。我が国あるいは諸外国における具体的な事例を参照しつつ、地域社会にお

ける芸術文化の役割について幅広く学ぶ。これらを通じ、地域社会における文化施設や実演芸術団体等のアートマネジメントのあり方や、地方公共団体等における芸術文化政策のあり方を考えるための視野を広げる。

●現代社会と芸術文化

医療や福祉、更生や教育の手段としての活用や、様々なマイノリティに関する社会包摂の手段として注目されるなど、芸術文化は現代社会における様々な問題と密接に関わるようになってきている。情報化、少子高齢化、国際化をはじめとした現代社会における様々な環境変化と芸術文化の関係について、国内外の様々な事例を通じて多面的な視点から学ぶことにより、現代社会におけるアートマネジメントや文化政策のあり方を考えるための視野を広げる。

専門科目

文化と芸術

●文化と芸術A～D

この科目群では、文化、芸術の多様な展開について、それぞれの領域において提示される諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることについて考える。文化、芸術についての学問的理解の上で欠かせない学問領域について、歴史的展開や最新の状況を鑑みつつこの科目群で取り扱うこととする。それぞれのジャンルによってA～Dで展開する。美術、音楽、演劇等のジャンルとともに、社会や時代の要請に応じたジャンルも扱う。

●現代芸術論A～D

文化・芸術を考える上で無視することができない、とりわけ現代に特徴的な事柄、現象を取り上げ、その性質や課題について考察することを狙いとする。また、このような現代的課題に対する対処法とはどのようなものかについて考える。これらの現代文化、現代芸術諸領域の研究手法についても最新の情報を交えながら概観する。それぞれのジャンルによってA～Dで展開する。美術、音楽、演劇等のジャンルとともに、社会や時代の要請に応じたジャンルも扱う。

●芸術特論A～D

文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などについてテーマ別に取り上げる。それぞれのテーマに即したより深い考察を際する。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。それぞれのジャンル、テーマによってA～Dで展開する。美術、音楽、演劇等のジャンルとともに、社会や時代の要請に応じたジャンルも扱う。

芸術文化学科科目概要

2021年度 カリキュラム

●音楽史I

主としてヨーロッパの音楽史を扱う。古代ギリシャやローマの音楽理論からはじめ、グレゴリオ聖歌から初期ポリフォニーの時代、ルネサンス期を概観したのち、バロックからハイデン、モーツァルトの時代、ベートーヴェンからシューベルトの時代までを中心に扱い、それぞれの時代様式(響きや構造の特徴)を把握するだけでなく、作曲家の個人様式を代表するような作品を聴きながら、その特性について学習する。また西洋世界における各時代が音楽に何を求め、それが具体的にどのような場で演奏されたのかについても講義する。

●音楽史II

主として日本・東洋の音楽史を扱う。中国大陸との交流によって伝えられた雅楽や聲明に始まり、中世の能楽、平家(平曲)など、近世邦楽の浄瑠璃、長唄、地歌、箏曲を経て(歌舞伎・文楽等の劇音楽にも言及)、明治以降の西洋音楽導入に伴う新日本音楽や現代邦楽の成立に至るまでを概観する。また、それぞれのジャンルの理論や用いられる楽器について、記譜法や伝承の問題、それぞれの音楽・芸能が成立した社会的背景にも触れ、その特徴を深く理解する。また日本と深く関わる東洋(アジア)の音楽史についても概観する。

●演劇史I

主としてヨーロッパ演劇の歴史を学ぶ。まず、西洋の演劇が本格的に開花した古代ギリシャ・ローマ時代から中世・ルネサンス、さらにはシェイクスピア、モリエールが活躍した黄金時代、そして18世紀啓蒙主義時代に至る演劇の流れを、具体的な作品を見ながら概観する。次いで、欧米を中心に、19世紀から現代に至る演劇の基本的な潮流をたどる。ロマン主義の演劇、近代のリアリズム演劇、そして20世紀の前衛演劇から最先端の演劇までの展開を、映像資料を用いた作品鑑賞を通して理解する。

●演劇史II

主として日本の芸能と演劇の歴史を学ぶ。芸能という言葉の原義を探りつつ、伎楽、舞楽、田楽、猿楽など日本の初期の芸能の諸相を概観した後、観阿弥・世阿弥が大成した能について基本的な知識を習得する。特に世阿弥の芸術論について演技論的あるいは身体論的な視点から考察し、それが現代の西洋前衛演劇に与えた影響を明らかにする。また、能とともに成立した狂言や江戸時代に大きく発展した歌舞伎・人形浄瑠璃などの伝統芸能、明治維新後に誕生し日本の現代演劇へと通じる新派・新劇についても基礎的な知識を身につける。

●美術史(西洋)I

先史時代から近世ヨーロッパの美術の歴史を学ぶ。また美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。前半は西洋美術の基礎ともいえる古代ギリシア・ローマ時代からキリスト教美術の誕生と発展を経て、ルネサンスに至る軌跡を、後半ではバロック、ロココという近世近代におけるヨーロッパ圏の文化交流を、さまざまな作品を紹介しながら、それらの作品に固有の様式的特性を見極め、さらに様式分類や図像分析といった美術史研究の基礎的な方法論も探求する。

●美術史(西洋)II

美術史(西洋)Iで学んだ知識を基礎として、フランス革命以降の近代ヨーロッパから20世紀前半の美術の歴史を学ぶ。また、美術作品が誕生した社会背景もあわせて考える。ルネサンス時代に起こった社会の大きな変化に伴う芸術上の大変革からバロック、ロココ時代を経て、19世紀近代、さらには20世紀に至るまでの社会の変遷と美術史の流れを、各時代、地域、作家等による様式の違いや影響関係を確認しながら歴史を俯瞰する。

●美術史(日本・東洋)I

古代から中世に至る日本美術の主要な作品をスライド等で見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・朝鮮半島の美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何か検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。

●美術史(日本・東洋)II

Iに引き続き、中世から近世に至る日本美術の主要な作品をスライド等で見ながら、それぞれの時代にどのようなものが制作されていたのか、またそれぞれの様式的特徴はいかなるものか明らかにする。その時中国・ヨーロッパの美術から日本が何を受け取り、そこからどのようなものを作り出したのかといった視点から、日本美術の特色とは何か検討する。また、そのような作品が制作された社会背景、思想的背景などにも考えを及ぼす。これらによって日本美術史の基本的な研究方法に触れるようにしたい。

●鑑賞と批評I

美術について学ぶには、まず実際の作品を多く見て、それをじっくり観察し、作品について熟考することが不可欠である。本授業では実際に展覧会等で作品を観察することで、さまざまな美術作品の美術史的な見方、分析方法を身につける。加えて、それを効果的に記述し、伝える力を、レポートを作成することにより習得する。美術のジャンルを限定するのではなく、多くの作品に触れることで、幅広く作品を見る力を身につけるとともに、美術史の全般的な知識を広げ、展覧会の傾向や特徴を体験し知ることを目指す。

●鑑賞と批評II

鑑賞と批評Iと同様に、実際に展覧会等で作品を観察することで、美術作品の美術史的な見方、分析方法を身につける。加えて、それを効果的に記述し、伝える力をレポートを作成することにより習得する。Iで習得した方法論をさらに展開させることを目指す。作品について正確に記述できる力を獲得するだけでなく、文献等で得た情報と作品を照応させたり、他の作品と比較することによって、より立体的に美術作品を捉える能力を得ることを目指す。

専門科目

芸術運営の実践

●展示プロデュース論

美術館・博物館のみならず様々な展覧会における管理・運営上の問題点を踏まえながら、展

示物そのものの視点から鑑賞者にとって望ましい展示とはいかなるものかについて考える。コレクション等の常設展、特別な企画展等の様々な展覧会における展示の特性について、あるいは展示空間の問題について、様々な実例を見ながら考える。さらに、近年重要になってきている新しいメディアとの関連性やそれらを使用したより効果的な展示についても考える。

●保存と修復

文化財についての基礎知識の学習と、文化財の保存環境や保存方法について多角的に学ぶ。また、対象とする文化財の修復に欠かせない漆工、表装、彩色等の基本的技術について学ぶと同時に日本の伝統技法についての知識も深める。また、歴史的建造物の修復の実態なども紹介する。近年特に重要になっている保存や修復の根本的問題についても、これらに関する概念と社会との関係について考察することによってより望ましい保存のかたちを考える。

●舞台運営論

舞台上演の企画立案や文化施設の運営に携わるには、劇場や舞台空間について十分に理解しておく必要がある。そのための基礎的な知識を習得するとともに、実際に劇場という機構を体験的に学習し、作品を舞台上で上演する上で必要となる美術、衣裳、照明、音響といった基礎的な技術を総合的に学ぶ。さらに、近年増加しつつある野外劇場や円形劇場など、従来の劇場とは異なるさまざまな演劇空間で用いられる特殊な技術についても一定の知識を得ることで、今日行われている多様な形態の舞台上演について理解を深める。

●劇場プロデュース論

音楽や演劇、バレエ、ダンス、オペラ、ミュージカルなど、パフォーミングアーツの領域は多岐にわたるが、そのアートマネジメントの根幹をなすホールプロデュースの役割について考察する。特定の文化施設において、どの時期にどのような公演を行うかを決定する企画立案、その前提となる事前の市場調査、ホール運営の経済的条件と地域の観客・聴衆のニーズとの調整など、舞台公演を実施するにはさまざまな課題を解決しなければならぬ。これらの諸問題について、できるだけ具体的な事例に即しながら考察を進めてゆく。

卒業研究

●芸術文化演習IA

学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返し行う。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。

●芸術文化演習IB

学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返し行う。また、同一のゼミに所

属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。

●芸術文化演習IIA

学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返し行う。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。

●芸術文化演習IIB

学生は教員ごとに設定するゼミに所属し、各担当教員の提示する専門的テーマによる研究を演習形式で行う。学生はそれぞれに関心のある専門領域を扱うゼミにおいて、文献講読、発表、報告を繰り返し行う。また、同一のゼミに所属する学生同士で議論を重ねることによって、各自の研鑽の助けとする。これまでの学びの中で養った能力を各自のテーマにおいて十分に活用しつつ、ゼミで所定のテーマにおける研究の検討を重ねながら、各自の卒業研究テーマを探っていく。

●芸術文化演習III

各ゼミ担当教員の指導のもと、卒業論文執筆と関連させながら、学生各自が設定した個別のテーマに従って、それぞれの研究を進める。ここでは、演習Iにおいて養われた文章を書く力と、同じゼミに所属する学生との発表と議論によって培われた構想力、分析力をさらに確かなものにするために、研究と議論を重ねる。また、これらの発表や報告によって、お互いのテーマについて検討を重ねたものを各自の論文執筆に結びつけることを目指す。

●芸術文化演習IV

各ゼミ担当教員の指導のもと、卒業論文執筆と関連させながら、学生各自が設定した個別のテーマに従って、それぞれの研究を進める。ここでは、演習Iにおいて養われた文章を書く力と、同じゼミに所属する学生との発表と議論によって培われた構想力、分析力をさらに確かなものにするために、研究と議論を重ねる。また、これらの発表や報告によって、お互いのテーマについて検討を重ねたものを各自の論文執筆に結びつけることを目指す。

●卒業論文

各ゼミの担当教員(指導教員)の指導に基づいて、卒業論文を作成する。卒業論文では、これまでに演習によって獲得した様々な知識、情報の活用方法、それらを自らの思考と照らし合わせながらその思考をさらに新たなものとして構築する方法などを駆使し、自らの考えを論理的な文章へとまとめていく。文献資料を収集し、それらを読解、分析し、これに基づいて理論を立てる作業を担当教員の指導とともに繰り返しつつ、論文の完成を目指す。

デザイン共通科目概要

2021年度 カリキュラム

デザイン基礎

●デザイン概論

デザインを初めて学ぶにあたって、本講義では近・現代のデザイン思想や様々なデザイン領域における試行の歴史的な変遷を通して、デザイン行為の基本となる発想や考え方を体系的に学修する。多様化する生活様式・ものづくり・情報伝達・住環境・社会システムを踏まえ、各領域(デザインフィロソフィー、プロダクト、ビジュアル・サウンド、建築・環境、インタラクション)のデザイナーとしての職能やそのあり方、活動分野、今後の展開を考える。

●デザインマネジメント

現代社会におけるデザインの果たす役割について、消費者の動向や企業の活動実態を事例として取り上げ、デザインマネジメントの視点から製品の企画、開発、設計、デザイン、生産から販売活動に至るまでのトータルなプロセスとデザイン組織の管理、意思決定、および評価の構造を学習する。それにより、拡大するデザイン活動とその対象領域を把握し、ビジネスにおける新たな価値創造を実現するための、戦略的なデザインマネジメントの重要性について理解し、考察する力を身につける。

●デザイン美学

デザインの歴史を、デザインに関わる諸概念から俯瞰することで、事象に対する視点や考え方、造形の仕組みの読み方を学ぶ講義である。受講者は、様々な時代、様々な立場の考え方がどのようにデザインと造形に結びつき、どのようなものが作られたか、それらにどのような意味が込められたのかを探究し、デザインの世界と私たちの人間や社会に対する認識との関係について考察する。

●デザイン思考

デザインの現場をはじめとして、技術開発、企業経営、ブランディング、フィールドリサーチなどの現場で有効にはたらくデザイン思考の事例を概観し、ブレインストーミング、ワークショップ、エスノグラフィなどの方法論を取り上げて体験学習する。さらに、発想や開発に関わる、視覚化・協同・自己表現・身体化、企業経営やブランディングに関わる、領域横断・総合化・構造化・共感、フィールドリサーチに関わる、観察・参与・感情移入・仮説推論などのデザイン思考の手法を論ずる。

●くらしのデザイン

人々の様々な暮らしの中から創造されるデザインについて、住まう・使うなどの生活行動を中心に、ヒトとモノの関係性、モノとモノの関係性がデザインの大切な要素であることを学ぶ。また、街並みや公共空間、住宅や製品などのデザイン事例から、生活者の不満・不足・願望の抽出を行うことで改善点を求め改良がなされたこと。そして、それらが新たなアイデアやデザインへ導かれたことを学ぶ。さらに、暮らしの中に内在する諸問題点・課題点の発見と抽出を行い、デザインの要素・要件を導き出す生活起点発想のデザインを学ぶ。

●技術史

有史以来、道具や技術の発明を支えられた私たちの生活文化の革新史は、ものづくりの文化

史ともいえる。ものづくりにおいて、人々が何を考えてきたのか、またつくられたものや思考から現代の私たちの暮らしにつながるものは何かについて考える。本授業では、技術の進歩によって何がもたらされたのか、単なる技術的な発展にとどまらず、多角的に考えることを通じて、現在のものづくりやデザインへの接続点、私たちが取り組むべき問題を見出していく。

●現代デザイン論

業界の先端で活躍する複数の講師によって展開される講義である。毎週系統立てて設定されたテーマに基づき、その専門の講師が担当する。多様化するデザイン業界の状況を知り、個性あふれる講師陣の実体験や持論を理解することで、デザインの世界の幅の広さや深さ、学生本人の将来像を考えるきっかけにするための知識を深める。デザイン学部の各領域の関係性や分野の関連、デザイナーの役割、職業や職種についての知識、プロフェッショナルとしてのポリシー、デザイン実務の内容など学生にとって知られざる現実を知る。

●情報処理基礎

情報社会におけるデザイン業務に必要なとされる、情報リテラシー(情報の収集、分析、問題解決、発信するための能力)を習得し、デザインにおける課題解決やプレゼンテーションに応用できる能力の修得を目的とする。コンピュータによる文章作成、データ処理、および図形処理スキルを身につけるとともに、コンピュータのハード・ソフト、ネットワーク等の基礎的な概念もあわせて学習することで、デザインの専門教育や卒業研究・制作など大学で学ぶ上で必要な知識と技術を身につける。

●情報処理A

現代のデザイナーにとっては、外観や形状だけでなく、内部構造や機能そのものまでがデザインの対象となる。多様な機器において、機能を実現するための核となるのは「情報処理」である。本科目では、この「情報処理」を理解し、「情報処理」の知識やセンスを活かし、現代に求められるデザインを実践できる能力を育成するための情報リテラシー教育を行う。情報処理の歴史、情報処理技術が活用される最新の現場の状況、アルゴリズムの基礎等について学習する。

●情報処理B

プラットフォームとしてのコンピュータ/インターネットの理解、「HTMLソースを読む/書ける」基礎的理解、JavaScript等の活用、スタイルシート(CSS)による統一されたデザイン作成、サウンドやマルチメディア・コンテンツの活用手法など、ウェブデザイナーとして高度なコンテンツを実現するための情報処理的な背景を理解していく。あわせてセキュリティ・プライバシー・知的財産権について基礎から最新状況までを理解する。

●情報環境論

情報技術と社会、情報技術と暮らし、および情報技術と産業の関わりについて、電子メディアや情報処理、通信ネットワークなどの変化動向を概括しながら、情報化社会における社会環境や生活環境について、具体的な技術開発、標準化、およびマーケティング事例を含めて学習

する。それらを、情報社会全体として捉え、デザインの役割とあわせて考えていくことで、新しい情報化社会において、生活文化・産業に寄与できる基本的な考え方を身につける。

●造形芸術論

造形芸術のあり方を認識するために造形作品および作家等を具体例として紹介することで、その歴史や活動内容また現代における評価や影響等を考察し、それらの造形表現に伴う技術および技法・様式や素材等にも焦点を当て理解を深める。またそれら造形作品および作家等に関係もしくは影響のある作品や人物、さらに古代から現代に至る美術や文化等も考察することにより造形芸術への理解を深め、現代社会における造形芸術のあり方を学ぶことを目的とする。

●色彩計画論

配色がもたらす効果や実際のデザイン現場での色彩の利用法等、より実践的な理解を促すことを目的とする。色彩知覚の仕組みや色の三属性、マンセル表色系といった基本事項の理解をベースとして、各色相系がもたらす心理的効果や配色のテクニック等、実際の制作に反映できる内容を修得する。加えて、印刷媒体、パッケージ、プロダクト、インテリア、都市環境等、各領域での色の使い方の代表事例を紹介しより身近なツールとしての「色」を意識できるようにする。

●デジタルプレゼンテーション

コンピュータを活用したデスクトップパブリッシングを中心に、ビジュアルデータ(文字および文章、記号と図形、表、イラスト、写真、映像や音等)を解りやすく、正確に、無駄なく伝える手法を学ぶ演習。媒体別の表現方法の違いを意識しながら、同時に口頭でのプレゼンテーション能力も高めることを目的としている。講義、演習、プレゼンテーション実践を相互に組み合わせながら、プレゼンテーションツールを習得、特徴を把握していく中で、最適な手段、戦略を模索していく。最終的には、プレゼンテーションデータと合わせて、ポートフォリオ等を制作する。

●Design English

グローバル市場に対応するデザイン開発に必要な英語コミュニケーション、特に辞書や学習書だけでは習得の難しいデザイン表現のための英語を学ぶ。デザイン検討やプレゼンテーションに使われる英語を中心に、色・形・機能などのカテゴリーごとに学習し、各カテゴリーに関するディスカッション能力を身につけ、デザインの目的や手法についてプレゼンテーションを行う。

デザイン技法

●建築図学・製図

建築設計製図に必要な図学的把握と適切な表現のための製図技術を習得する。図面の表現と意味を理解することにより、正確な図面表現力を身につけデザインを伝達する技術を獲得するとともに、図面を正確に読み理解する、図面の読解力も身につける。図学では、図形の正確な描き方、立体の平面的表現方法について論理的に学び、製図では建築製図の諸規則等を学び、具体的事例の図面の作図等を通じて、建築設計製図表現技法を習得する。

●図学・製図

図学では、基本的な図形要素としての直線と角・多角形・円と円弧・うずまき線・輪転線などの平面図形と立体の展開図とその応用を学び、立体のイメージ表現のための透視投影法（一点透視図法・二点透視図法）を学習し、透視図を作図する。製図では、三面図による立体の表現、製図の記号、寸法の記入および規則について学び、演習絵は製品の三面図を作図する。

●デザインCAD

3次元形状のモデリング手法（フィーチャベースモデリングやブーリアン演算）を理解し、CADによる造形技法（モデリングプロセス）、レンダリング（マテリアル、カメラ、照明）やアニメーションによる表現技法（コンピュータグラフィックス）、および3Dプリンターによる造形技法について学ぶ。演習では、介護福祉機器、プロダクト製品、3次元キャラクター、インテリア、建築模型など幅広いデザイン領域に展開できる基礎的なデジタルスキルを習得する。さらに、3次元CADデータの管理、運用、活用についても学ぶ。

●建築CAD

建築設計デザインの表現手段としての、CAD（コンピュータ製図）について、基本的な知識と技術を習得することを目的とする。建築CADソフトを使用しての実践的な演習を通じて、CADソフトについて、図面作成手法・作図法を学習し、基本的知識と表現技術、プレゼンテーションワーク技術を身につける。最終的にはCADソフトを使用した作図、プレゼンテーション資料作成によって効果的な設計表現が自由自在に可能となることを目指している。

●デザインドローイング技法

空間デザインの作品表現に関わる基本的な知識と技術を学ぶ。設計課題やデザインコンペの作品制作に関わるプレゼンテーションについて、事例研究と実践的試行を通じて修得する。コンセプト表現や図面ドローイング、スケッチ、模型表現等基礎的な技法を修得するとともにその表現の可能性を理解し、説得力のあるコミュニケーションを実現する、作品表現に適した豊かな表現力を身につけることを目標とする。

●フォトグラフィックス

デザインのためのフォトグラフィック技法の理解を目的とした基礎的演習である。授業作品等具体物の撮影やポートフォリオ、プレゼンテーションパネルに使用する写真等、デザインプロセスのための写真撮影を中心に撮影技法を習得する。デジタルカメラ、フィルムカメラで撮影したデータを、デザインに使用するための写真加工ソフトで加工・調整し、グラフィック編集に適した加工を体験する。これらのテクニックを習得するために作品制作を行う。

●表現技法I

すべてのデザインの基礎となる、造形表現に不可欠な観察力と描写力を身につけるための実習を行う。これにより、日常生活で触れる対象に対しての、ものの見方を変えるための「気づき」を得る。具体的に目にするモノを、手描きで正確に表現できるようになるために、自然なパースを理解するための観察描写を繰り返して行う。基礎的な図面からの描き起こしスケッチ等も

体験し、頭に思い浮かべた造形を、正確に紙に描けるようになることを学ぶ。

●表現技法II

造形の三要素（形・色・質感）を用いて「かたち」を視覚化する平面構成に取り組み、グラフィックデザインの基礎概念を学ぶとともに、デザインの基本となる色彩、タイポグラフィ、エディトリアルなど様々な課題制作を通じて、2次元の世界で表現法であるモノや空間の見方、捉え方を習得する。それにより、文字や色彩などの要素からなる内容が、様々なメディアに定着され、見られ読まれることによって成立するグラフィックデザイン分野の役割を理解する。

●表現技法III

デザイン検討やプレゼンテーションにおいて必要なデジタルツールを用いた立体の2次元表現を学ぶ。コンピュータ上で行うデジタルスケッチをはじめとし、手描きスケッチ・写真・CGレンダリング等の加工技術を学び、デザイン開発ステージやプレゼンテーションの目的に合わせた様々な表現技法を習得する。

●描画表現

現代のデザインに関わる領域は多岐にわたるが、基本には常に造形表現というものがある。デザイナーが心地よいフォルム、美しい形を作り提案することが大きな責務である。そのもとは美しく的確な描写と、造形表現力が欠かせない。観察したことのないものを表現することはできないし、その造形を考察することもできない。そのために観察から描画へ、描画から表現、表現から造形へと磨きをかけるステップを実践する。

●立体造形I

デザイン・建築などあらゆる分野で必要とされる、基本的な立体造形力を身につけるため、立体構成の基礎を学ぶ授業。立体造形感覚を養うため、表現方法や扱い方が異なるいくつかの素材を用いて、カービングやモデリングなどその素材に合ったアプローチの仕方を模索しながら立体作品を制作する。実際の制作を通し、平面表現とは異なる立体としての形の緊張感とバランス感覚、視点の移動による立体の見え方の変化、素材による特性、表現の多様性や展開力の重要性などを学ぶ。

●立体造形II

木材や金属、プラスチックなどの実材を用い、デザインに必要な素材の持つ特性を理解することを主眼に立体的な課題創作を行う。実際にデザインの世界で形ある実在の製品を制作するにはマテリアル（素材）の選択がとても重要な問題である。自ら実材を使い素材の特性を活かしたデザインを考え、自ら工夫して物制作する作業を行い、そのプロセスを通して、その特性、加工法、組み立て法などを理解し、今後のデザインワークの知識、経験として基礎力を習得する。

●空間演出計画I

身の回りの基本的な空間把握に大きな影響を及ぼす視覚、聴覚のテクノロジーを理解していく。様々な目的に合わせて、空間を演出しようとする時には、色彩・照明・音響が重要な要素となるが、かたちや姿のない空間の要素を計画していくことは方法論や独特の指標、計画の知識がなければ解けない場面がある。これらについて

の特性を学び、空間演出の基本的な知識を習得する。さらに、具体的な空間演出事例を知り、空間演出の考え方と手法の基礎を学ぶ。

●空間演出演習I

空間演出計画Iで学んだ基本的な知識・考え方・手法に基づいて身近な空間を題材に実践していく。色・光・音をテーマにして、実際に空間演出を目的とした作品を制作し、作品発表を行う。発表では空間演出独特の表現技法を学ぶ。実際に計画を行うことで論理的であった要素の感覚を体験し、今後のさまざまなプロジェクトで空間演出を検討していく意識を身につける。色・光・音の各テーマごとに専門の教員が指導にあたる。

ユニバーサルデザイン

●ユニバーサル／インクルーシブデザイン概論

すべての人が住みやすい社会をつくるには、一般には多数派とされている健康な成人だけでなく、子どもや高齢者、そして障害者を含めた多様な人の存在を意識しなければならない。どんなに異質であっても社会的な活動から排除されないようにすること、これは世界的な合意であり、また教育から就労、そしてレジャーなどの活動に至るまで、あらゆる場面で保障されなければならない人間としての権利である。それをできるだけ特殊解でなく一般解として実現すべく、製品から構築環境、そしてサービスなどのソフトな仕組みに至るまで、あらゆるもののあり方を考える。

●生体機能論

できるだけ多くの人にとってより良いモノや空間をデザインするためには人間の差異や変化について幅広い知識を持ち、人間の持つ種々の特性について理解を深める必要がある。この授業では人間工学や人類学の観点から人間の形態的特徴、感覚・知覚の特性、それらの環境に応じた変化、加齢による変化、各地域における差異等の既存データや知見をもとに、様々なデザイン活動において必要とされる見識を深め、ユニバーサルデザインへつながる考え方を養う。

●ユニバーサルデザインI

能力や年齢・文化・性別などの違いを超えての人に適合させることが可能な製品・サービス・環境を目指すユニバーサルデザインの理念を実現するために必要な考え方、どのようなことについて配慮をすればよいのかを学び、具体的に進めるためのプロセス・手法を実践的に習得する。演習においては日常生活における人・もの・空間などの事例を捉えて、様々な特性を持つ人の視点に立って調査・検証を行い、問題を発見し、課題解決に向けた考察、提案を行う。

●ユニバーサルデザインII

異なる特性を持つユーザーを想像や表面的に理解するのではなく、デザインの対象者としてチームメンバーに迎えるユーザー参加型演習を行う。行動を共にして生活の一部を観察する中から、対象者の行動や身体の特性の理解、気持ちの共有、課題や潜在的なニーズの発見から、解決策となるデザインを考え提案を行う。演習を通じて、全てのデザインの基本となるユーザー観察・分析の手法、人間中心デザインのプロセス、ユニバーサルデザインの解決手法について体得する。

デザイン共通科目概要

2021年度 カリキュラム

●生活環境論

人の知覚・機能は一樣ではない。様々な要因によって機能・特性が異なる場合が多々あり、生活に支障が生じた状態が「障がい」と呼ばれる。人の多様な特性や障がいについての解説と、当事者ゲスト講師からのお話などを通して、異なる特性を持つ人の生活環境における様々な状況やバリアの課題を探り、日頃当たり前だと思っていたことが当たり前でないこと、デザインに何ができるか、などについて考察する。講義を通じて「相手の立場に立って理解し配慮する」というデザインの基本スタンスを習得する。

●健康・福祉のデザイン

超高齢社会にあって人は今まで以上に健康・福祉に向かい合って生きていくことになり、健康・福祉を支える機器の重要度が増している。また環境の変化や人々の生活の変化などから新たなニーズが生まれ、技術進化とともに様々な機器が開発されている。講義では健康や福祉に関する代表的な製品や新しく開発された製品を例に取り上げて、社会的背景、開発プロセス、製品の特徴、使用状況の実際を理解する中から、社会と人と製品とのデザインの関係を考察し、プロダクトデザイン開発に必要な要件について学ぶ。

●人間工学

人間にとってよりよいモノや空間をデザインする際に必要となる人間工学の概念や手法について学ぶ。人間工学に関する研究の歴史的背景や現代の企業における応用例などを通し、使用者を中心に据えた製品や空間について企画・検討する力を養う。また、人間工学分野で活用されている各種の測定手法や設計時に使用される既存データに関して、生物学的側面および心理学的側面から概説した上で、その具体的な取得の手順についても解説する。

デザイン専門科目概要

2021年度 カリキュラム

専門科目

学科専門

●基礎演習A

デザイナーに必要な幅広い知識と総合的な判断力、豊かな人間性と創造性を養うためデザインの基礎を学ぶ演習である。ここでは、「産業としてのデザイン」「生活におけるデザイン」「人間の特性とデザイン」「コンピュータによる造形デザイン」「デザインの歴史の変遷」「情報のデザイン」などデザインを論理的に捉えるため、初めに、我々の生活に内在する諸問題を明らかにし、その解決方法を導き出す考え方を学ぶ。次に、製品・器具・道具などについてその操作などから内在する諸問題を導き解決方法を明らかにする考え方を習得する。

●基礎演習B

プロダクトデザインの目的、デザイン方針の立て方、スケッチ描画やモデル制作の基礎的な手法、およびプレゼンテーションまで、一連のデザイン作業の概要を体験する。主に人間が使う道具を教材として、体に触れる部分はどのような形状が機能的で、美しく、使いやすく、そして心地よいのかを考察し、それらを実現するために必要な考え方や、どのようなことについて配慮をすればよいのかを学び、プロダクトデザインの要点を習得する。

●基礎演習C

「ビジュアル・サウンド」領域を学ぶための基礎として、まず「グラフィック」と「サウンド」に関する専門科目への展開を紹介した後に、主として「映像」関連の専門科目を学んでいくための基礎を演習によって学ぶ。具体的には、3次元CGの基礎概念とCGアニメーション制作のワークフローについて、モデリングと動きの設定、ライティングや質感設定を経て最終的にレンダリングによって動画ファイルに仕上げるまでの工程を学ぶ。加えて作品の演出法やカメラワーク等、映像表現全般に共通する基礎的なテクニックについても学習する。

●基礎演習DI(1年後期のみ)

建築・環境設計実技のスタートとなる最も重要な演習の一つである。都市の中心部にある具体的な公園敷地において、機能が限定されている小規模な公共施設物、複数の機能が含まれている中規模公共施設物、そして多様な機能を有する私的単体施設物という3つの課題に対する設計行為と各自がデザインした作品の発表を経験し、計画理念の重要性とプレゼンテーション(相手にわかる発表行為)としての製図の役割を知り、空間デザインの厳しさと楽しさを学んでいく。

●基礎演習DII(2年前期のみ)

基礎演習DIでの学習を展開し、建築・環境に関する基礎的な空間構成の手法と、それらの表現方法を修得することを目的とする。建築・環境の空間構成に関する基礎的な演習課題についての検討・計画・設計と、それらの作品としてのとりまとめ、プレゼンテーション等を通じて、建築・環境に関する設計の基礎知識、基礎技術を修得するとともに、設計意図を模型、図面等により表現するための基礎技術を習得する。

●基礎演習E

人間の行動を的確に捉え、意味づけることで、製品やシステムと有機的に結びつけること

を目的とするインタラクティブデザインについて、ユーザー(ヒト)に働きかけるデザイン対象(モノ)としての「デジタルエレメント」をテーマに、自らの手で制作する基礎的な電子工作を含む演習を通してその概念を学習する。それにより、ハード(外観デザイン)とソフト(インターフェースデザイン)の関係性に配慮した人間中心設計の基本的な思想を理解する。

●基礎演習F

日本の伝統建築や伝統工芸に関する知識と技術の概要を学習し、匠領域の学びに向けた基礎的な演習を行う。伝統技能の初歩的体験を通して、日本の風土に合った素材や技法、デザイン、さらに「ものづくり」と向き合う姿勢について学ぶ。日本の伝統の上に、新しい空間やデザインを創出し、各産業分野と協働して展開するための素養を身につけることを目標とする。

●アニメーション基礎

〈ものに生命を吹き込む魔法〉としてのアニメーションの基礎を学ぶ。手描きアニメーションにおけるキャラクターの動きがどのように設計され映像のシーケンスとしてどのように実現されるかを、作画を通して体験することによりCGやFlashなど様々な映像手法へと応用可能な(動きのデザイン)の基本原則を習得する。描いた原画を中割りして動きをつけてゆく基本的な作画工程の実習に加え、ストップモーションやピクシレーション等手描き以外のアニメーション技法についても体験的に実習する。

●インターフェイスデザインI

日常生活で用いられる家電製品や通信機器、公共機器の情報化や高機能化が急速に進んでおり、それらの操作方法も大きく変化している。ユーザーがわかりやすく、使いやすい製品機器を提供することがデザイナーにとって重要な課題の一つとなっている。本講義では、具体的な事例を取り上げながら、使いやすいユーザーインターフェイスの実現に必要な要素技術の理解と、それらを活用したデザイン手法の基礎を修得してもらう。

●インターフェイスデザインII

本講義では、生活機器と生活環境におけるインターフェイスのデザイン手法の応用力を身につけることを目指す。各種機器や環境でのユーザーインターフェイスをよりわかりやすく使いやすくするために、ユーザーの行動分析からアイデア発想を行い、ペーパープロトタイプに至るまで一連のデザインプロセスを理解してもらう。そしてその結果に基づいて、魅力的で親しみやすさの感じられるインターフェイスデザインを提案してもらう。

●インダストリアルグラフィックス

都市空間の中のサインや看板などに書かれている文字標識やマークデザインの扱い方、工業製品であるパッケージ、バイク、電車、スポーツ関連機器などの色、文字、模様などのグラフィックデザインを紹介・解説した上で、それらの社会的背景や文化、時代などを比較・考察する。それにより、プロダクトデザインや建築から都市空間までの、広い人間の生活環境に及ぶグラフィック領域と諸分野と密接に関わりについて理解し考察する力を身につける。

●デジタルコンテンツ演習

インタラクティブな表現を学び、アニメーションやゲーム、Webサイトデザイン構築のための技術の理解を深める演習である。アニメーション技術、ゲーム制作技術、インタラクティブな表現を実現するスクリプト制御等を習得することで、さらに高度なインタラクティブの実現を目指し、インスタレーション制作のためのコンセプトワーク、アイデア具現化のプロセスも並行して理解・考察していく。

●インタラクティブデザイン

新しい製品・サービスの開発や、新しいエクスペリエンスを生み出す上で、重要な要素となるインタラクティブなデザインをデザインする能力の育成を目標とする。インタラクティブなデザインを構成する諸要素を体験的に学習して基礎的な知識を得るとともに、インタラクティブなデザインを効果的に用いるアート形態の一つである「メディアアート」について学習することで応用力を身につける。インタラクティブデザインの要素を含む、新しいプロダクト、新しい空間演出、新しい広告宣伝形態等を手がけることのできる人材を育成する。

●インタラクティブプロダクト演習

本科目は、基礎演習の延長線上に位置する科目として、電気回路、プログラミング、メカトロニクス、デジタルファブリケーション、ユーザーインターフェース等に関する基本的な知識を学習する。また、これらの学習した知識を活用して、インタラクティブな要素を持つ具体的な工作やサービス等について、学生が自ら、企画、設計、製作、評価、ドキュメンテーション等の作業を行うことで、インタラクティブなシステムを構築する能力を体系的に身につける。

●インテリアデザイン論

私たちの生活の周囲をかたちづくる空間としての環境や「住まいの道具」を対象として、その意味・役割を知り、素材や製法などのデザインの基本作法を考えていく。インテリア計画に必要な法的知識や人間工学を学び、最新事例からトレンドを研究したり、実例をもとにさまざまなトレンドや設計の勘どころを理解していく。ここでは必然として生じた歴史と流行を系統立てて身につけ、常に時代に影響されてきた空間デザインの姿を知る。

●エンターテインメントデザイン

五感を刺激するエンターテインメントシステムを題材に、未来のコミュニケーションメディアのあり方を考察する講義と演習で構成する。メディア・アート、映像産業・ゲーム業界、そして広告の現場で展開する、ゲーム、Web、映像、マンガなどのエンターテインメントシステムの最新事例を題材に、自分で実現するためのフローチャート、シナリオ、コンテ等を制作し、実践していく。実現するためのツールの開拓も含めて、その表現技術の可能性を探り、自由でオリジナルな発想でアイデア・コンセプトを考察する。

デザイン専門科目概要

2021年度 カリキュラム

●キネマテクス

動きを伴う玩具やゲームマシン、ロボットなど物理的な動きが必要となるプロダクトデザインやインタラクティブデザインでの表現手法として、メカニズムの基礎を修得することを目的とする。教材とテキストを併用した体験学習を通じて、リンク機構やカム、歯車などさまざまなメカニカルな動きの特徴と動力伝達の仕組みを理解することにより、デザイン対象物を自由自在に運動表現できる知識の修得と思考力を養う。

●グラフィックデザイン演習A

授業の前半では、グラフィックデザインの基礎についての理解の深化を目的に、デジタル媒体に向けたコンピュータを活用した表現方法について、形と色を用いたイメージを視覚伝達方法を学ぶ。授業の後半では、ショップで扱うブランドのトータルイメージの表現・演出をテーマとして、人々の印象に残る店づくりを、基本と実用の両面から、市場調査を含め視覚伝達を基盤とするパッケージデザイン、CI・VIデザイン等トータルデザインのプランニングや課題制作による応用的手法を学ぶ。

●グラフィックデザイン演習B

グラフィックデザインについて、漠然と表現するのではなく、「何のために」「誰に」「何を」伝えるかというデザイン本来の目的性を踏まえた学習を第一義とする。「ビジュアル・セルフプロモーション」をテーマに、自分を知らない第三者に自分を伝えるグラフィックツールづくりを課題とする。文字、レイアウト等の基礎的演習後、「自分」を表すシンボルマークとそれを展開したステーションリー類と自己紹介のためのリーフレットを制作する。手書きでのイメージ展開過程を重視し、客観性を持った表現力と考察力を修得する。

●グラフィックデザイン演習C

ブックデザインを通して、調べる→考える→つくる→伝える、というデザインのプロセスを体感するとともに、企画とアイデア出し、編集、イラストレーションづくり、文字組みとレイアウト、印刷、製本など、グラフィックデザインに必要な基礎力を身につける。優れたブックデザインから色・かたち・コンテキスト・構造・物語・ユーモアなどを学び、自ら編集およびデザインを行うことで、さまざまな局面に応用できる構成力を養う。

●グラフィックデザイン概論

グラフィックデザインの歴史的な背景や構成要素である造形や概念を踏まえ、具体的な事例を通してCI・VI・パッケージ・エディトリアルなど各専門領域の果たすべき役割や最近のデザイン動向について概説し、紹介する。学生自身がそれらをヒートにして、グラフィックデザインによって視覚化された数多くの情報を理解できるようになることで、多様なメディアに向けた様々なデザイン活動への取り組みに応用できる力を身につける。

●ゲーム・遊びのデザイン

人類は、長い歴史の中で多くの「ゲーム」、「遊び」を発明し、改良してきた。それらは素朴な子どもの遊びから、高度な技能や知恵を駆使する洗練された娯楽や、国家間で競われるスポーツまで多種多様である。特に現代においては、携帯端末を含むコンピュータやネットワークによって実現される新しいタイプのゲームが定着し、大きなビジネスを形成している。これらの多様なゲームについて、ルール、デザイン、歴史、社会への

影響等について学習するとともに、ゲームに関連する数理的な要素にも触れることにより、ゲーム自体をデザインする能力のみならず、ゲーム性や遊びの要素を様々なプロダクトやサービスを魅力的にするために活かすことのできるデザイン能力を身につける。

●コミュニケーションプロダクト

IT化により急速に進んだテクノロジーをどのようにして人間生活の充実に役立てるのか、そのニーズ開発が重要である。すでに技術は消費者のニーズを超えている部分も多く、現在の延長線方向の技術開発では魅力的な製品を生み出すことが難しい。デザイナーには、人間の願望を見直し、隠れている要求を発見する力が求められている。人とモノのコミュニケーション、人と人のモノを通してのコミュニケーションを考えることにより洞察を深める。

●サウンドデザイン

人間の「聴覚」について学び、マルチメディアの重要な要素であるサウンドメディアの理解と活用を目指す。具体的には、(1)音響学と「聴覚」とデジタルオーディオの基礎的理解、(2)サウンド・プログラミング環境を活用したサウンドの編集/操作、(3)サウンド・プログラミング環境を活用したアニメーションの自動生成、(4)音楽編集/制作ソフトの効果的な活用、(5)音楽演奏情報MIDIやインターネットや映像メディアとの結びつき、などを学ぶ。

●スペースインタラクティブ演習

パブリックデザイン、商業環境デザイン、情報デザイン、パブリックアートなどにおけるインタラクティブの事例から、公共と個人、ICTと空間、場所とメディア、都市と芸術などの相互作用を考察し、フィールドワークによって地域の課題を発見した上で、複数のデザイン領域(空間、メディア、プロダクト、エクスペリエンスなど)が融合した解決案をデザイン提案する。中間でのクリティックを含めて提案に対する講評を十分に行い、提案と評価の相互作用も活性化させる。

●デザインコンセプト論

デザイン作業の中でコンセプトの立案は特に重要である。デザインの目的・意味を確認し、独りよがりではなく、人々に貢献するコンセプトをどうやって生み出すのか、その考え方を学ぶ。また、発想・アイデア展開については感覚的に行われる場合が多い。この授業ではアイデア展開について、科学的な側面からの考察に基づいた様々な手法を体験学習する。思いつきを待つのではなく、意図的に要求に応えるコンセプトを生み出す手法を学ぶ。

●フィッティングデザイン

使用者が個々に持つ身体的特性や心理的特性に道具や空間のデザインをより適合させるため、多数の使用者を想定するのではなく個人の使用を想定するというフィッティングデザインの概念や実現するための手法について学ぶ。既存製品を例にフィッティングデザインとユニバーサルデザインの概念の違いおよび共通する部分について理解を深め、さらに個々の特性・状況を捉えるための人体寸法、姿勢・動作、心理反応、生理反応等のデータ取得方法について習得した上で、それらのデータをデザインに活かすための対応手法について学ぶ。

●プロダクトデザインプロセス

デザインを製品として具体化していく上で必要となる要素を学習する。「家電」「通信機器」「生活設備」「自動車」等、様々なプロダクトデザイン分野を想定し各々の特徴ある業務プロセスや表現技術、専門知識、必要とされる技能などを中心に製品デザイン現場の実際を学ぶとともに、関連する国内外の市場情報や文化情報、技術情報等の紹介も行う。将来の進路選択も視野に入れて、デザイン業務の現場における実際の作業内容や作業環境への理解を深める。

●プロダクトデザイン演習I

ドライバーなどの家電機器を題材に、製品デザインの入門的な演習を行う。市場調査、機能・構造の理解、コンセプト立案、アイデア展開、モデル製作・検証、プレゼンテーションに至る製品デザイン開発のプロセスを体験し、プロダクトデザイン開発に必要な知識とスキルを習得する。

●プロダクトデザイン演習IIa

製品のデザイン開発を進める上での基本的な情報収集、分析、整理に加え、具体的な検討内容や方法、プロセスについて、課題演習を通じて体験的に学ぶことを目指す。特に、設定したユーザーの心理や行動、ライフスタイル、価値観などへの理解をもとに発想し、ふさわしい仮説を立てて演習する。何が求められているかに応える側面と、気がつかなかったけれど欲しかったと思えるような新しい価値を発見し、提案できるような柔軟な発想とその具現化を目指す。

●プロダクトデザイン演習IIb

製品デザインの基本的な方法を学ぶ。具体的には既存プロダクトの体験、コンセプト立案、アイデア展開、スケッチによる形のバリエーション展開、レンダリングなどのプロセスを通し、新たなデザイン価値の創造と提示を目的とする。グループワークによるコンセプト立案や、CG・CADを利用しながら、課題演習を基本とした体験的な学習を行う。

●ビジュアル表現基礎

表現を通してビジュアル・コミュニケーションについて学び、グラフィックデザインに必要な基礎的素養を身につける。キャラクターデザイン、構図、色彩、カラー・ジュ、モニター・ジュ等のイラストレーション表現と、タイポグラフィ、紙面構成、ブランディング等のグラフィック表現に関する知識・技法を、短いスパンの課題を通して修得する。本科目で身につけた基礎力を、後期に開講されるグラフィックデザイン演習A・B・Cでの学びへと発展させる。

●メディア産業論

様々な産業において、メディア技術の進展によってどのような変化が起きたのか、ということについて学ぶ。そして、それぞれの産業における具体的なデザイン上の課題を題材にして、メディアを活用したソリューションの提案を行う。学習の題材として取り上げる業界は、楽器等を扱うプロダクト業界、紙媒体やWeb媒体を扱うグラフィックデザイン業界、空間のデザインを扱う展示業界、様々なメディアを駆使して広告、広報、商品企画を行う広告代理店等である。なお、本科目は文化政策学部の研究分野との接点を持つことから、授業の運営において文化政策学部との連携も行う。

●メディア数造形演習

「サウンドデザイン」で学んだサウンド/音楽のプログラミングを発展させて、聴覚と視覚の両方をアルゴリズムによって生成するデザイン手法(数造形)を学ぶ。具体的なテーマとして、(1)サウンド・プログラミング環境によるリアルタイム・マルチメディア生成、(2)物理法則/フラクタル/カオスなどを活用した数理的な「美」のデザイン、(3)自然界の物理量や人間の身体動作に対してインタラクティブに反応するシステムのデザイン手法、(4)ビジュアル・プログラミング環境によるグラフィック生成とネットワーク連携、などを学ぶ。

●モノ・コト論

豊かで快適な暮らしのためのデザインとは、いわゆる製品に代表される「モノ」のみならず、それらを通して得られる経験や物語といった「コト」が重要な位置を占めている。そんなモノ・コトについて考え、新しい価値を提案していく上で必要な考え方や技術、手法についての基礎を学ぶ。人とモノとそれを取り巻く生活環境との関係を基本に、人々の生活に潤いを与えるデザイン提案のための基礎的能力の獲得・向上をモノ・コトの両面からはかる。

●ものづくりのシステム

社会生活に欠かさない「もの」の意味、価値を「ものづくり」という視点で、プロセスや取り組みなど多角的に考察し学習する。客観的にどんな流れになっているのか?という仕組みを知ることと同時に、どんな意思を込めてものづくりをするのか?そしてその意図をプロセスの中でどのように一貫通費させてメッセージを劣化させずに使い手に届けることができるのかを考える。取り上げるテーマは地場産業、伝統工芸、少量生産、大量生産、特注物等。

●ランドスケープ計画

20世紀後半に入り地球規模での環境を考えなくてはならないことがようやく周知されてきた。21世紀は、ユニバーサルで多様性を持つ循環型の世界のあり方が問われている。このような視点に立って、自然と文化両面における指標である景観(ランドスケープ)の価値を正しく理解し、ランドスケープの基本的な考え方とランドスケープデザインの計画に関する方法論を古代から中世、近代、現代に至るまで通時的、地中海地域からヨーロッパ、アフリカ、インド、中国、日本に至るまで共時的に学んでいく。

●木のデザイン

日本人は昔から木の家に住み、木を用いた家具や道具などの木工芸品に囲まれて生活してきた。木には様々な種類があり、色、香り、表情、性質などが異なっているが、先人たちは木の特性を活かして木工芸品を作ってきた。木を使い続けてきた生活環境と素材の特徴を理解し、今日まで受け継がれてきた木工芸の技術を学ぶことで、木の持つ魅力を引き出す、新しいデザインについて考える。

●移動のデザイン

今日におけるパーソナルトランスポートの代表となっている自動車を中心に移動機器についてのデザインを学ぶ。具体的な進め方としては、現在の社会で使われている既存プロダクトへの理解を深めながら、それらの背景にある意義や課題を共有し、分析と立案のプロセスを

通して新たな問題解決や価値を個々に提案させるとともに、移動機器特有の機能、構造、レイアウト等に触れながら、造形やデザイン表現の技法に関する学習を行う。

●映像デザイン演習I

制作手法や使用ツールの違いで2D系と3D系に大別されるCGアニメーションについて、それぞれの特徴を活かした制作技法を学ぶことで専門的な映像制作への理解を深める。(2D系)としては、レイヤーワークによるアニメーションやモーショングラフィックス、モーショントイポグラフィの制作手法、(3D系)としては、骨格構造(スケルトン)を用いたキャラクターアニメーションの制作手法を学ぶ。最終課題として(2D/3D)いずれかの手法を選択しオリジナルのショートムービーを制作する。

●映像デザイン演習II

〈映像デザイン演習I〉での理解と経験を踏まえ、さらに高度で実践的な映像制作技法を学ぶ。実写素材とCGの合成手法やフォトリアルなレンダリング手法、映像の編集・加工技術などを学びながら、課題制作を通してアイデアの立案から演出、編集までの一連の映像制作の流れを習得する。映像分野への進路選択を視野に入れた実践的なトレーニングに重点を置きつつ、既存の技術にとらわれない斬新な映像表現を開拓できる構成力の開発を目指す。

●映像技法演習

ビジュアルコミュニケーションという視点から、制作者の意図したメッセージを観客に確実に伝達するための映像制作上のルールについて講義と演習を通して学習する。具体的には、広告表現において中心的な役割を担うCMを例に、業界で活躍する一流演出家を招いた講義によってプランニングから収録、編集に至るCMの制作過程とその要点について理解を深める。演習作業としてはシナリオとストーリーボード(絵コンテ)の制作法について学び、自作のオリジナルシナリオに基づいた作品制作を行う。

●映像撮影技法

実写撮影の基本となるビデオカメラと照明機材の扱いを学習する。スタジオ撮影、オープン撮影それぞれにおけるカメラのフレーミング(構図)やレンズ(画角)の選択、移動撮影が生み出す効果、あるいは照明による演出効果の違い等について実習を通して検証する。さらに映像編集のセオリーと多彩な視覚効果を生み出すための合成手法を体系的に学ぶことで、断片としての撮影素材から一つの作品が成立するまでのプロセスについて包括的理解を深める。

●音楽情報科学

「メディア数造形演習」で学んだマルチメディア・プログラミングを発展させて、「ビジュアル・サウンド」領域での作品制作につながる、センサ群とヒューマンインターフェイスを活用したインスタレーション/パフォーマンスなどのメディア・アートへの展開を目指す。あわせて、(1)聴覚/視覚の融合とマルチメディア錯覚、(2)メディア心理学実験と認知科学、(3)音楽情報科学の世界先端の研究、(4)作曲/編曲のための音楽理論・コード理論についても紹介する。

●環境計画

地球環境問題、エネルギー資源の枯渇という地

球規模の課題から、持続可能な社会形成、快適な室内環境形成という身近な課題まで幅広く取り扱い、建築環境の側面から建築・デザインの知識・技術を学ぶ。光・色・熱・空気・水・太陽・風・音などの人間生活を取り巻く自然環境と建築環境とを融合させた設計・デザイン手法、パッシブデザイン・再生可能エネルギー・燃料電池などの省エネ・創エネ・蓄エネの観点から環境に配慮した設計・デザイン手法を習得する。

●空間・住居論

住まうことは…古代より現代に至る空間概念の系譜をたどりながら、住まうことと、空間のあり方について考察してゆく。このような視点に立ち空間について学習・考察することによって、これから切り開くべき新たな空間の可能性を模索する。住居は建築家にとって入門であり、終生の課題とも言われる。住まうことの本質を問い、現在のあり方を問い、そしてこれからの時代は何を求めているのかを学習してゆく。

●空間計画

建築の計画・設計に必要な基礎的知識について、次の3点を主な内容として学ぶ。まず気候や地形などが、そこに成立する都市や建築におよぼす影響や、計画上注意すべき点を確認する。次に計画と設計のプロセスについて、空間の形態と機能、寸法と規模の関係といった観点を含めて学ぶ。そして、空間形成の要素の設計について、人間の知覚と行動の特性も交えて、具体的事例を通して紹介する。

●空間演出計画II

空間演出計画Iで学んだ、初源的な空間構成要素である色・光・音の空間演出計画をもとにして、住宅やパブリックスペース、商環境、店舗内空間のディスプレイを考えていく。また作庭・緑について基本的な知識を習得する。日々進化を遂げる空間演出の先端を具体的な事例をもとに解説し、その考え方と手法を学ぶ。インタラクティブな演出や映像、水、匂い、グリーンなど五感で感じる空間のあらゆる演出を学び、演習に活かせる知識を習得していく。

●空間演出演習II

空間演出計画IIで学んだ知識・考え方・手法に基づいて、空間演出のデザイン演習をする。高度な演出技術を検討し、美しさのメカニズムや演出効果にこだわって新しい空間表現や他分野に通じる先端的空間表現とエクスペリエンスな演出に挑戦していく。コンセプトを表現するための演出を追求し、日進月歩の技法を研究していくこと、提案時には伝えることが困難な演出をいかに表現するかというプレゼンテーションについても議論していく。

●建築デザイン論

建築デザインの実現にかかわる様々な要素、技術およびそれらの背景となる思想について学び、建築デザインの理解や設計に活かすことを目的とする。近代から現代を中心とした具体的な建築物の事例を周辺環境とのかかわりや構造形式、機能との関係など、多様な視点からの分析によって学習することを通じて建築デザインへの理解を深めるとともに、建築を設計する際に考えるべき課題とそれらを具体的に空間に反映する方法・手法について学ぶ。

デザイン専門科目概要

2021年度 カリキュラム

●世界建築史

私たち人類が日常生活を送ってきた都市・集落には様々な形式を持つ建築が存在してきた。ランドスケープ・都市・集落・広場・公園・街路・建築・インテリアなど大小の規模を持つ空間を対象に、古代から現代に至る世界の多彩な空間造形の歴史を俯瞰する講義である。受講者はある建築形式がいつどのようにして生まれ、使われてきたか、また各時代の背景となる社会的、地域的条件との関係などを探究し、現代社会における意義を考察する。

●建築設計演習I

基礎演習DIIでの体験を展開して、より多様な用途の建築の設計に取り組む。演習は前半と後半から構成されており、前半は個人で進める課題として、設定した複数の用途の中から一つを決定して、単体の建築物を設計し、後半ではそれらをまとめてグループで一つの複合用途の建物として再構成してデザインを行う点に特色がある。建築の用途として、不特定多数の人が訪れる施設を設定することによって、それらに必要な諸室の配置についても学ぶ。

●建築法規

建築基準法および関連法規について、必要な基礎的知識を学習するとともに、建築士として備えるべき社会的役割と責任を理解することを目的とする。将来一級建築士取得を目指す、建築設計や監理の建築活動に携わる者にとって必要な知識である建築基準法ならびにその関連法規等を身につけるとともに、我が国の建築行政と建築関連法規の体系とその背景を把握することにより、建築士として備えるべき社会的責任を理解し、実社会で活躍する人材を育成する。

●構造計画I

空間設計の基礎知識として、構造物の構成法や骨組みの特性を理解し、デザインの表現手法としての構造計画を学ぶ。木構造・鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造やハイブリッド構造等の構造種別の骨組み構成を視覚的に捉え、デザインと構造計画が密接に関係していることを理解する。また、教材として多くの著名な建築物を構造的視点で見ることによって、デザインと構造の関係性を理解し、時には実際の現場を訪問・観察することでさらに理解を深める。

●構造計画II

先端的な建築物の実例を通して、デザインと構造計画の関係性がいかに重要か理解を深める。ロングスパン構造・超高層・免震構造・制振構造といった先端的な技術の仕組みを理解し、設備計画と合わせたエンジニアリングの重要性を学ぶ。また、近未来の地震・津波による大規模災害に備えるため、地震のメカニズムを知り、先端技術の有効性を学ぶ。さらに、全体とディテールの安全性を考えたデザインをすることが、デザイナーとしての責務であることを学ぶ。

●構造力学I

建築物や工作物・道具などの設計に必要な、デザインのための構造力学の基礎を学ぶ。なかでも建築デザインにとって、力の流れを直観的に感じ取る構造的なセンスは欠かすことができない。集中荷重や等分布荷重等の簡単な荷重に対する片持ち梁・単純梁・トラスなどの基本的な静定構造物の応力を算定し、安定・不安定や形

体・サイズ、あるいは力の釣り合いなどの直観力を養う。また、形態と力学的要素の関係を、多くの実際の構造物を見ることで理解する。

●構造力学II

建築構造物の大部分は、力の釣り合いのみで応力を求めることができない不静定構造物である。構造力学Iで学んだ静定構造物は直観で力の流れを捉えることができるが、複雑な形態を持つ実際の建築物を力学的に直観で捉えることは難しい。まず、外力に対するフレームの力の流れを実感するために、外力によって構造物がどのように変形するか視覚的に理解する。そして、たわみ角法や固定法の原理を学び、手計算によって応力を求めることで不静定構造物の力の流れに対する感覚を養う。

●建築材料

建築を構成する、木材・石・煉瓦・コンクリート・鉄・アルミニウム・ガラス等のさまざまな建築材料の基本的な性質を学ぶ。建築空間を適切に構成するためには、各種素材の特徴を知りその性質を活かす必要がある。そのためには、材料の物理的特性を理解しなければならない。「鉄筋コンクリート構造」等、素材の長所の組み合わせによって特徴ある空間が構成されることを知り、さらに素材の視覚的な特徴、肌ざわりなどの特性とその効果的な利用方法について学ぶ。

●施工計画

設計図に表現された建築物が、どのような手順で施工されていくか、工程図・準備工事・仮設工事・土工事・基礎工事・躯体工事・仕上げ工事等基礎的な知識を習得する。施工プロセスにおける施工計画の重要性や施工管理の方法、施工技術の概要を学ぶ。代表的な工事種別である「鉄筋コンクリート工事」および「鉄骨工事」の品質管理・工程管理・安全管理等の概要や施工技術、さらに建物保全と長寿命化、環境配慮、引き渡しとアフターケアについても横断的に学修する。

●商品戦略論

消費社会の変遷や現在の諸特性について理解を深めるとともに、生産から流通、小売りに至る商品流通の基本的な仕組みなどを概観する。デザインオリエンテッドな新商品企画、商品リサーチや市場分析の基本的な手法や企業のブランド戦略、デザインマーケティング、セールスプロモーションの実際を、大手企業や中小企業、生活用品や業務機器等のケーススタディなどを通じて学んでいく。国内産業を中心に扱うが、欧米市場やアジア諸国への展開も視野に入れていく。

●設備設計

低炭素な社会づくりとサステナブル建築の実現に向けた省資源・省エネルギー化を図る最先端の技術・システムを理解し、建築・デザインの立場から快適な環境を創造するための建築設備の知識・技術・設計手法を学ぶ。建築における意匠・構造・設備との関わりから建築設備の役割と責任を学び、給排水衛生設備・空調換気設備・電気設備における基礎知識や設計・デザイン手法、ならびに建築設備における実務や建物の運用管理まで幅広い知識と技術を習得する。

●素材加工演習a・b

日本の伝統工芸・伝統建築に使用されてきた素材あるいは現代的な素材を知り、それらの特性に合わせて技法を応用し、作品を制作することで、素材に応じた造形を学ぶ。鍛金、鋳金、彫金、陶芸、ガラス、プラスチック、木工芸、染織の8技法の中から選択して体験することで、その素材や技法の魅力を発見することを目標とする。

●地域計画論

行政施策としての「計画」の概念を論じるとともに、様々なジャンル別の地域計画の考え方を理解する。特に、都市や農山村など地理的な立地条件の違いや、歴史的経緯などを踏まえた地域計画を概説し、そこで果たしてきた「計画」の意味、主体、可能性と限界などについて、具体的な事例を取り上げながら考える。また、戦後日本の国土・地域・都市の計画の系譜をたどり、その延長線上で、環境、自然、歴史・文化などの今日の課題に対応した地域計画論の方向性についても言及する。

●都市デザイン論

都市・地域とその環境について、具体的な事例を通じて学び、デザイン手法を身につけることにより、良好な都市・地域環境、生活環境の創造に活かすことを目的とする。都市や地域、生活環境をその構成や成立背景等様々な視点から理解し、また、それらの成り立ちの原理や手法を学習する。これらの学習を通じて、都市・地域の景観や生活環境づくりに際し、考えるべき課題を見極め、それらを計画に反映する方法を考察していく。

●日本伝統建築

日本の伝統建築は、古代、中世、近世、近代とその時代の歴史や文化を背景に様式を確立し、継承してきた。その建築様式と技術の歴史、さらに建築を構成する木材や石材、漆、鉄、紙等の材料や、建築を造り上げてきた鑿、鉋、鉋等の道具について幅広く学ぶ。また文化財政策の歴史と現状、伝統建築の保存・修理・活用に関しても理解を深め、静岡県文化遺産ともいえる伝統建築のあり方も考える。

●テキスタイル概論

人類は太古の誕生間もない頃から自然界にある繊維をまとい、やがて自ら織り、染めてきた。衣服としてだけでなく居住環境にも応用することで、生活を豊かに、快適に、美しいものにしてきた。そのような人と繊維の関係に関する歴史、文化、技術、産業の変遷を通してテキスタイルに対する理解を深めるとともに、新たなテキスタイルの可能性について学ぶ。

●匠造形演習

素材加工演習の体験をもとに、鍛金、彫金・装飾金物、陶芸、木工芸(漆)、染織の5技法から自分に合った1技法を選択して、作品の制作に取り組む。専門的な技法や道具の扱い方を学ぶことで造形能力をさらに高め、素材を活かした新たな造形の可能性についても考える。

●伝統建築技術演習

日本伝統建築を学ぶには、近世・近代まで継承されてきた建築の基礎を理解することが基本である。伝統建築の実測調査と図面作成の演習によって、構法や意匠について学ぶ。さらに伝統建

築に関わる匠(技能者)の技の実演と体験から、受け継がれてきた技能・技術に関する理解を深化させ、新しい創作においても、文化財保存においても、匠と協働するための素養を身につける。

●木造建築演習

日本の風土から生まれた木造建築の空間・意匠等の様々な特徴を理解し、木造建築の構法と大工技術について学ぶ。また、文化財建造物・木造住宅の耐震化については大きな課題であり、木造建築の構造や耐震化についても理解を深める。最終的に木造建築の設計課題を通して木造建築の構法と特徴を理解し、森林国日本における建築のあり方について考える。

専門科目

領域専門

●領域専門演習(領域1、2、3、5、6)*

本演習では学生が所属する領域に関係する基礎的なデザイン知識や方法の深化を目的とする。所属領域におけるテーマや課題を選び、各担当教員の指導のもとでテーマに即した調査検討や課題制作等を通じて、既習の知識・方法について展開・応用する手法を学ぶ。これまでに履修した講義や演習の成果を応用する第一歩であるとともに、「総合演習I」につながる自発的な研究および制作のための予行演習の位置づけである。

●総合演習I(領域1、2、3、5、6)*

本演習では、3年前期までに修得したデザインに関する知識・技術・経験に基づき、個人の創意と工夫により、各領域に関係するテーマや課題を企画・立案し、担当指導教員の指導のもとで、演習形式として研究・制作する。これまでに履修した講義や演習の成果の応用篇であるとともに、「総合演習II」および「卒業研究・制作」へつながる前段階の自発的な研究および制作演習である。より高度で専門的な能力を、各学生が個別に修得するプロセスと位置づける。

●総合演習II(領域1、2、3、5、6)*

本演習では、3年後期までに修得した知識・技術・経験に基づき、個人の創意と工夫により、各領域に関係するテーマや課題を企画・立案し、担当指導教員の指導のもとで、「総合演習I」の経験を踏まえてさらに高度な演習形式として研究・制作する。これまでに履修した講義や演習の成果の具体的な応用篇であるとともに、「卒業研究・制作」へつながる前段階として、テーマの企画・立案、日程管理、予備の実験および試作などを行う自発的な研究および制作演習である。高度で専門的な能力を修得する学習プロセスの最終的な段階と位置づける。

●建築設計演習II(領域4)*

1年・2年・3年を通して学んできた空間である都市、建築、インテリア、地域環境、景観を対象として、担当教員が設定する複数のテーマから課題を選択し、設計を行うことによって、これ以降の総合演習で取り組む各自の専門的な課題の探求の導入的な位置づけを持つ。この演習では、よりテーマに沿った分析と思考が求められるが、完成作品については担当教員全員が講評を行うことにより、各分野とは異なる分野からの視点も学ぶ。

●建築設計総合演習I(領域4)*

総合演習Iは、領域の全教員がそれぞれ設定した課題からテーマを選択することによって、設計演習IIで取り組んだ専門領域の課題について、より多様で深い内容からの考察を行う内容となっており、この考察を通じて、課題への幅広い対応力を身につける。課題の選択について、設計演習II、総合演習I、総合演習IIでの専門領域の統一は求められないが、思考の過程や作品の中で、各自が社会的問題や人間性への考察を行うことが重要なポイントとなる。

●建築設計総合演習II(領域4)*

建築・環境デザインは社会的な行為であり、デザインそのものが社会的、経済的な文脈から孤立して成立することはありえない。ここでは、これまで大学の講義や演習で学んできたそれらの一般的な諸相をベースとしながら、各自の問題意識や今日的な問題をテーマとして設定し、関連する分野の教員の指導のもと、それらの問題と、建築・環境のあり方の関係をまとめたレポートを作成する。4年間の集大成となる卒業研究・制作の前段階に位置づけられる演習である。

専門科目

卒業研究

●卒業研究・制作

4年間の総合的な学習効果を自分の選んだテーマで作品または論文とする。1)卒業研究・制作テーマ設定、2)既存の関連研究・デザイン情報の収集、3)研究・制作方法の決定と資料の収集、4)研究・制作、5)研究・制作の結果得られた成果に対する考察の手順で研究を遂行する。演習IIで捉えた問題意識や創造的思考をもとにテーマを企画立案し、期間内に遂行することで、学年末に最終作品または卒業論文の形にまとめるとともに発表を行う。

* 領域1/デザインフィロソフィー領域 領域2/プロダクト領域 領域3/ビジュアル・サウンド領域
領域4/建築・環境領域 領域5/インタラクション領域 領域6/匠領域

入試情報

●：実施

2021年度入学者選抜 概要

学部	学科	一般選抜		学校推薦型選抜		特別選抜
		前期日程	後期日程	公募制	英語重点型 公募制	社会人 帰国生徒 外国人留学生
文化政策学部	国際文化学科	●	●	●	●	●
	文化政策学科	●	●	●	—	●
	芸術文化学科	●	●	●	—	●
デザイン学部	デザイン学科	●	●	●	—	●

※入試日程、試験科目の詳細は、2021年度入学者選抜要項、学生募集要項等で確認してください。

「一般選抜(前期日程・後期日程)」は、独立行政法人大学入試センターが2021年1月に実施する「入学共通テスト」を受験する必要があります。

「外国人留学生入試」は、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」を受験する必要があります。

2020年度入学者選抜 実施結果〈一般選抜〉

学部	学科	区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文化政策学部	国際文化学科	前期	65	201	185	86
		後期	10	211	64	10
	文化政策学科	前期	40	156	146	53
		後期	5	151	65	6
	芸術文化学科	前期	36	105	101	44
		後期	5	92	40	5
デザイン学部	デザイン学科	前期	75 I 数学 30 II 実技 45	312 I 数学 179 II 実技 133	296 I 数学 171 II 実技 125	87 I 数学 36 II 実技 51
		後期	10	193	92	10

2020年度入学者選抜 実施結果〈特別選抜:推薦入試(公募制)〉

学部	学科・区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
文化政策学部	国際文化学科	18	47	47	18
	国際文化学科(英語重点型)	7	26	26	8
	文化政策学科	10	31	31	10
	芸術文化学科	14	43	43	14
デザイン学部	デザイン学科	25	94	94	27

Webへのご案内

QRコードをスマホ・携帯電話で読み込むと
Webサイトをご覧いただけます。



公式サイトでSUACの最新情報をチェック。—— <https://www.suac.ac.jp/>

各学部の学びや学生生活をはじめ、入学試験や最新イベント情報、オープンキャンパスなど受験生に役立つ情報を満載しています。本誌とあわせてぜひご覧ください。



SUACオフィシャル・ムービーが公式サイトから見られます。

本学でのキャンパスライフを伝えるムービーをYouTubeで公開しています。オリジナル曲に合わせて編集したダイジェスト版映像、デザイン学部の学生が制作した「あるデザイン学部生の一日」、大学の建物や大学周辺の様子をドローンで撮影した「空撮動画」も好評配信中。ぜひご覧ください。



オリジナル楽曲によるダイジェスト版

「あるデザイン学部生の一日」



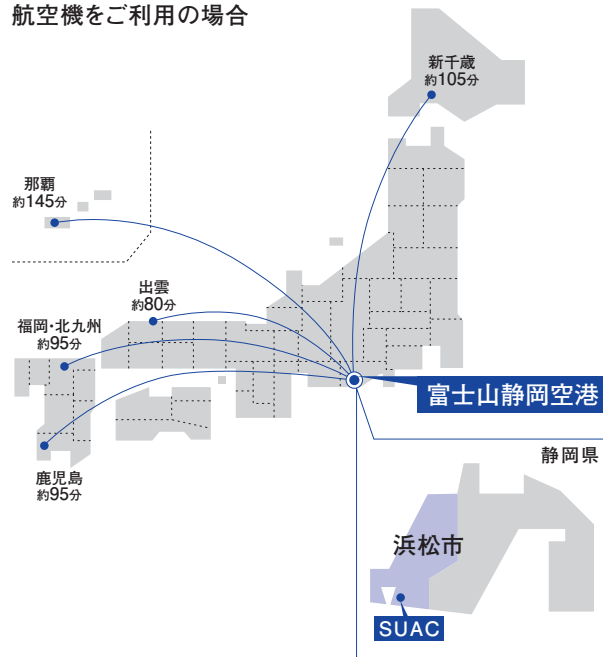
本編映像はチャプターごとにご覧いただけます。



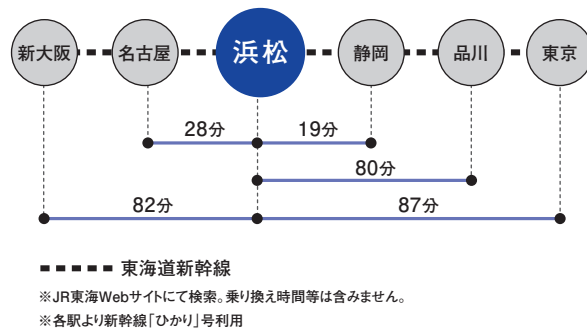
ドローンで撮影した「空撮動画」

アクセス

航空機をご利用の場合



新幹線をご利用の場合



- JR浜松駅より徒歩15分
- 遠州鉄道「遠州病院駅」下車、徒歩8分

浜松駅からバスをご利用の場合

遠鉄バス (約10分間隔で運行しています)

浜松駅北口バスターミナル10番のりば → バス停「文化芸術大学」下車

※浜松駅北口バスターミナル10番のりばから出ているバスは、「文化芸術大学」バス停を通りません。ただし、系統番号2番、70番を除きます。

※本学へお越しの際は、公共の交通機関をご利用ください。



出 会 う
感 じ る
創 造 す る

公立大学法人
静岡文化芸術大学

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE

Faculty of Cultural Policy and Management / Faculty of Design

<https://www.suac.ac.jp/>